

第150図 第218号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化・ローム中ブロック少量

遺物 炉の南東部から南西部にかけて遺物が集中的に出土している。床面出土の遺物はなく、すべて覆土中からの出土である。4, 11, 16, 19は炉の南東部から、1は南東壁寄り、5は南壁寄り、3は炉の南東部と南西壁寄りの2か所から、2, 14, 15は南西壁寄りから出土している。他に20の土器片鉢, 21の石鏝も覆土中から出土している。

第218号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第148図	鉢形土器	A(39.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面及び口縁部外面横ナテ。肩部に隆縁で楕円の区画文を描き、区画内には単葉縄文L Rが施文されている。胴部は区画文の連続部から2本沈滞区画の磨消帯を垂下させ、磨消帯間には同縄文が施文されている。縄文及び沈縁とも器面への食い込みは浅く、作りも粗雑である。	砂粒・長石・スコリア におい褐色	P145 30% 南東部覆土 (加前利EⅢ)
1	縄文土器	B(26.4)			
2	鉢形土器	A(30.2)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は外彎して直線的に立ち上がる。僅かに波状を描く口縁で、内・外面とも丁寧な横ナテで調整されている。肩部には、沈縁、隆縁で楕円形及び半円形の区画文を描き、区画内には単葉縄文L Rが横位回転で施文され、胴部には縦位回転の縄文が施文されている。	砂粒・雲母 褐色	P146 10% 南西部覆土 (加前利EⅢ)
	2	縄文土器			
3	深鉢形土器	A(33.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。口縁部は内彎する。腹位回転の単葉縄文L Rを施文とし、口縁部には棒状施文用具による刺突文が2段に施文されている。胴部には沈滞区画の磨消帯及び総行沈縁が垂下されている。	砂粒 褐色	P147 5% 南部覆土 (加前利EⅢ)
	3	縄文土器			
4	鉢形土器	A(33.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。内・外面磨きが施されている。口縁部下に浅い沈縁が施されている。土器焼成後、口縁部に孔が施されるが貫通はしていない。	砂粒・パリス 褐色	P149 5% 南東部覆土
	4	縄文土器			
第149図	深鉢形土器	B(13.8)	底部から胴下半部にかけての破片。平底で、胴部は外彎して立ち上がる。内面及び外面に輪模痕が見られる。内面磨付帯、外面は無文である。	砂粒・雲母 褐色	P148 10% 南部覆土 (加前利E)
5	縄文土器	C(7.4)			

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大径	最大幅	最大厚				
第150図20	土器片鉢	5.2	5.8	1.8	54.2	100	表面に隆帯 糸縄	DF39 覆土

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第150図21	石 鏝	2.9	1.6	0.6	2.1	硬質頁岩	Q78 凹形無蓋蓋 覆土

第149～150図 6～19は縄文土器片の拓影図である。6～13は口縁部片で、8、10、11は波状口縁、9には口縁部に無文帯が見られ、いずれも沈線と隆線、あるいは沈線のみで口縁部に楕円形や曲線的な区画文を施し、区画内は縄文が施文されている。10、11、13、14は胴部に沈線区画の磨消帯が直線的に垂下し、磨消帯間には縄文が施文されている。15、16、19は胴部片で、同様に縄文地文の上に沈線区画の磨消帯が垂下している。17は胴上部から口縁部にかけての破片で、口縁部との境の沈線以下胴部には捺糸文が施文されている。18は胴部片で、縦方向の条線文が施されている。

所見 本跡は、壁の立ち上がり部分が部分的にしかとらえられなかったため、土層の立ち上がり及び床質から規模及び平面形を推定した。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第231号住居跡（第151図）

位置 調査区の東部、C17f3区。

重複関係 本跡は、南側部分が第1097号土坑と、中央部西側部分から北側部分で第1096号、1112号土坑と重複している。第1096号、1112号土坑より本跡の方が新しいが、第1097号土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径7.57m、短径5.01mの楕円形である。

長径方向 N-44°-E

壁 壁高15～35cmで、東側はほぼ垂直に、南側から西側にかけては外傾して立ち上がる。北側部分の立ち上がりはとらえられなかった。

床 北側の床がやや高く、南側に向かいやや傾斜している。中央部を中心として僅かに踏み固められた面が見られる。

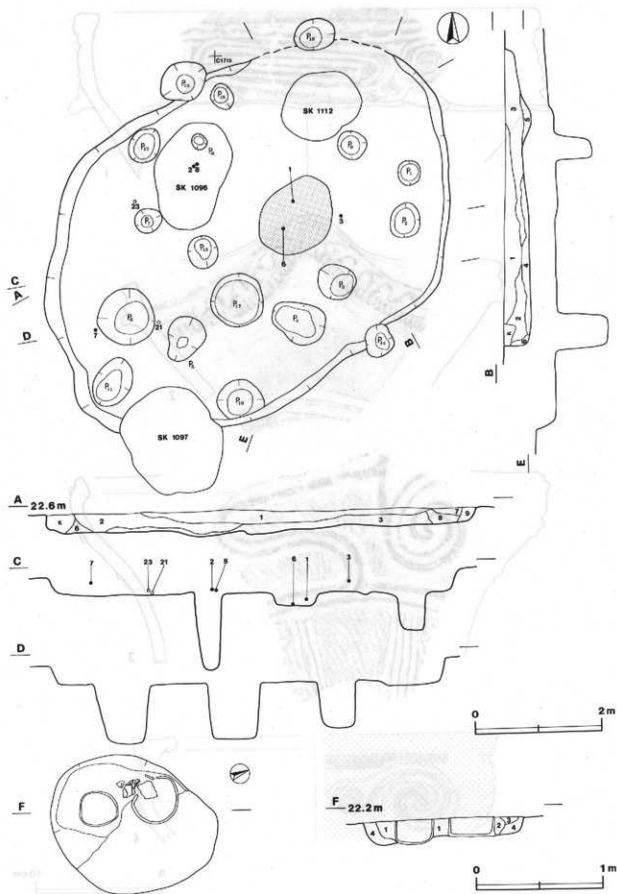
ピット 18か所。P₁～P₉は炉を囲むように位置している。それぞれの規模は、径39～90cm、深さ59～97cmとばらつきが見られ、形態も円形あるいは楕円形のピットで規格性はないが、位置関係からこれらのピットは支柱穴あるいは補助柱穴の可能性もある。また、P₁₀～P₁₂、P₁₆も同様の可能性が考えられるが、性格を明言することは困難である。P₁₅、P₁₈は後世の掘り込みと思われる。また、中央部のP₁₃、P₁₇は性格不明である。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。長径135cm、短径110cmの楕円形で、やや西側に土器を2か所設置した土器埋設炉である。炉の覆土に焼土はあまり含まれていないが、炉床は火熱を受け、赤く焼けて硬化している。

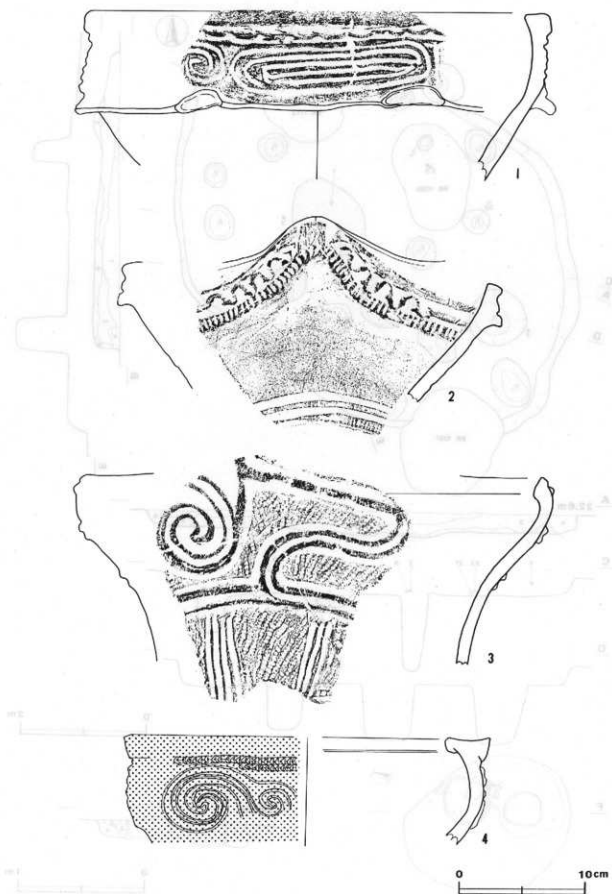
炉土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

覆土 9層からなる。北西壁際の土層7～9は人為堆積であるが、他は2～6の褐色土が堆積した後、1の暗褐色土が覆った自然堆積である。

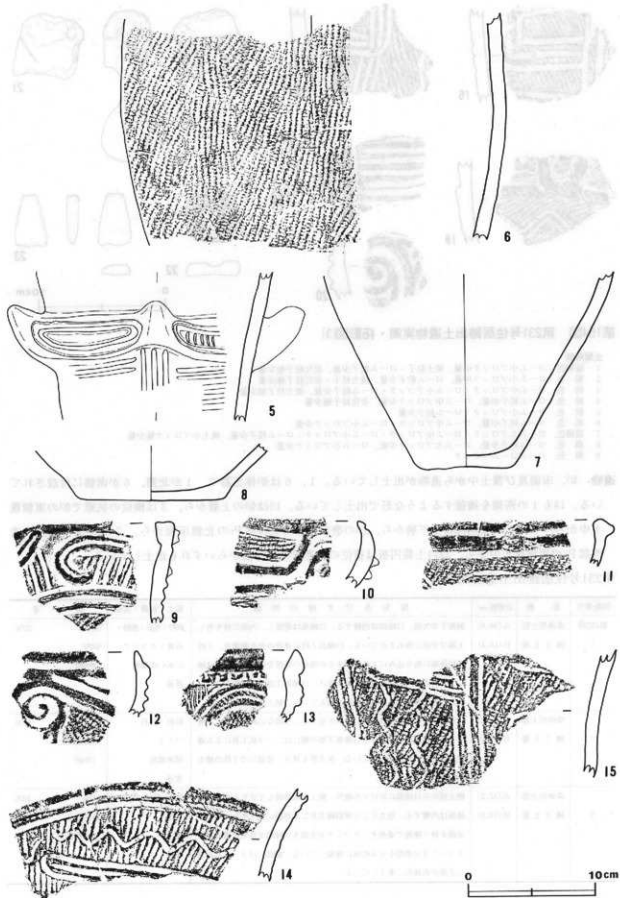


第151图 第231号住居跡実測图

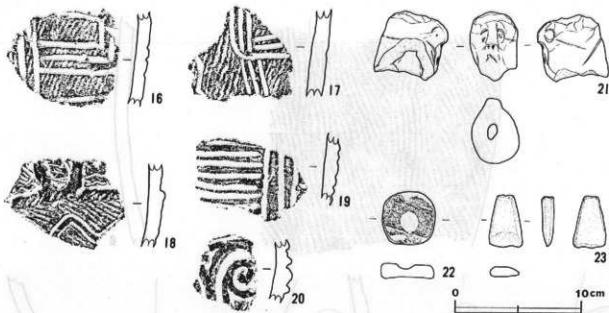


第152図 第231号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)

図1 第231号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第153图 第231号住居跡出土遺物実測・拓影图(2)



第154図 第231号住居跡出土遺物実測・拓影図(3)

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ハードロームブロック

遺物 炉、床面及び覆土中から遺物が出土している。1, 6は炉体土器で、1が北側、6が南側に付設されている。14も1の西側を補強するような形で出土している。15は炉の上層から、3は横位の状態で炉の東側覆土中から、2, 8は北西部覆土下層から、23の磨製石斧は北西部P₇の北側床面から、7は正位の状態で南西部P₈の西側覆土中から、22の土製円板は横位の状態で東側床面からいずれも出土している。

第231号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	深鉢形土器	A(38.0)	胴部下平欠損。口縁部は内彎する。口縁部は肥厚し、内面に稜を有し、上縁は平削りに作出されている。口縁部上段に連続の交互斜突文、下段の縦曲面に彫り込みによる凹みを6か所持つ突起帯を巡らせ、間に沈線による渦巻文、長方形の枠状文を設け、口縁部文帯が構成されている。長方形の枠内には横走沈線を加えている。胴上部は無文である。	砂粒・長石・雲母・石英・スコリア	P152 20%
	縄文土器	B(13.4)		石美・スコリア 印内 にぶい赤褐色 普通	(中鉢)
2	深鉢形土器	A(30.2)	口縁部片。口縁部は外傾し、波状を呈する。平坦な口縁部上端と、隆帯上に連続斜文を巡らせた口縁部下部の間に、へら状工具による連続交互斜突文が加えられている。無文帯を挟み、胴部には2段の横走沈線が巡らされている。	砂粒・長石・バミス	P153 10%
	縄文土器	B(14.2)		明赤褐色 普通	北西部覆土 (中鉢)
3	深鉢形土器	A(37.2)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上部は外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。地文として単節縄文瓦しが器面に施文されている。沈線を伴う連続渦巻文、クラク文を描き口縁部文帯帯を構成し、クラク文は胴部を巡る縦線に接続している。胴部には3-4本の集合沈線が直線的に垂下している。	砂粒・長石・石英・雲母	P154 10%
	縄文土器	B(14.9)		赤褐色 普通	東部覆土 (加賀川E 1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 4	鉢形土器 縄文土器	A(29.2)	口縁部片。口縁部は内彎している。幅広い口縁部上端及び口縁部内・外面は扁平に作出され、磨きが施されている。口縁部直下に「く」状の連続刺突文を2段に巡らせ、以下隆線で連続する渦巻文が描かれている。口縁部から胴部外面は赤彩されている。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P155 5% 覆土 (加曾利E I)
		B(8.6)			
第153図 5	深鉢形土器 縄文土器	B(9.1)	胴上部片。口縁部と胴部との交換部に角状の突起を4単位有すると思われ、突起間には2重の隆線で扁平な長楕円の刺状文が描かれている。区画内は無文か、あるいは縦刺状の短沈線が施されている。以下、胴部には突起下から3本沈線を直線的に垂下させ、隙間には横走沈線が有段にも描かれている。	砂粒・赤褐色 普通	P157 10% 南東部覆土 (加曾利E I)
		B(15.5)			
6	深鉢形土器 縄文土器	B(18.0)	胴部片。やや膨らみを持つ胴部で、単脚縄文L Rが縦位面状で施文されている。	砂粒・長石・石英 スコリア 褐色 普通	P156 20% 伊内 (加曾利E I)
		B(15.5)			
7	深鉢形土器 縄文土器	B(15.5)	底部から胴下部にかけての破片。底部は明り跡しにより上底気味で、胴部は外傾して開く。無文である。	砂粒・雲母・長石・ スコリア 褐色 普通	P158 25% 南西部覆土 (加曾利E)
		C 7.8			
8	鉢形土器 縄文土器	B(4.5)	底部片。平底で、やや大形の底部。胴部は外傾して開く。胴下部外面及び内面は磨きが施されている。	砂粒・長石・雲母・ 石英 黒褐色 普通	P159 10% 北西部覆土 (加曾利E)
		C 11.7			

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第154図21	顔面土製品	5.5	5.2	3.8	(94.7)	?	人間の顔面を模した中空の上製品。土偶あるいは把手の可能性が考えられるが、首以下が欠損しているため詳細は不明である。鼻は鷲導で、口は「へ」の字状に表現されている。	040 P a1 顔面 砂粒・長石 白い褐色 (中期か)
22	土製円板	4.2	4.3	1.2	27.6	100	無文 表面に未貫通孔	041 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第154図23	磨製石斧	4.1	2.6	1.0	(14.3)	砂 岩	080 定角式 刀部一部欠損 北西部床面

第153～154図9～20は縄文土器片の拓影図である。中期加曾利E I式の土器が主体であるが、中幹式、加曾利E II式の手法が見られるものもある。9～13は口縁部片で、9は口縁部上端が平坦で、中央に沈線に沿った隆線で曲線の文様を表現し、隙間に縦の短沈線が施されている。頸部に巡る2段の隆線以下には縄文が見られる。10は口縁部が内彎し、隆線で区画文を施し、区画内及び胴部に縄文が施文されている。11は口唇部上端と外面に沈線、以下縄文施文で、縄文を切る沈線が見られる。12は隆線で渦巻文、区画文を描き、区画内に縄文を施文し、口唇部外面に沈線が見られる。13は口縁部無文帯の下に交互刺突文、以下は沈線を間に加飾した隆線で曲線の区画文を施し、区画内及び隆帯上に縄文、区画外は縦の沈線が施されている。14は伊体土器で、胴上部の破片、撚糸文地文で上位に2本の横走沈線、以下に波状沈線、斜行沈線と施文されている。上部の沈線の上は欠損しているが、破損部は丁寧に擦り切れ二次加工の痕跡が見られる。15～19は胴部片で、15は単脚縄文R Lを地文にし、垂下する波状沈線と直線的に垂下あるいは斜行する3本の平行沈線が施文されている。16、17も地文の縄文を切る3本平行沈線がクランク状に施されている。大木8b式の影響が見られる。18は横に巡る隆線に上部からの隆線が接続し、隙間に浅い沈線を施文、隆線及び下部に縄文が施文され、下部には半截竹管による波状沈線が縄文地文の上に描かれている。19は3本の平行沈線を垂下させて縦区切りし、間に横沈線を充填させている。20は口縁部の破片と思われ、隆線による渦巻文が見られる。

所見 本跡からは、縄文時代中期加曾利E I式期を中心として前後の時期の遺物も出土している。時期は、炉体土器及び主体となる遺物から縄文時代中期加曾利E I式期の初頭と思われる。

第232号住居跡 (第155図)

位置 調査区の東部, C17h1区。

重複関係 本跡の中央部東側部分は第1044号, 1067号土坑に, 西側部分は第237号, 239号住居跡に掘り込まれている。また, 本跡の中央部南側部分で第1046号, 1045号土坑と, 北西側部分で第1153号土坑と重複しているが, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 壁の立ち上がりは部分的にしかとえられなかったが, 長径[7.62]m, 短径[5.90]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-8°-E]

壁 東側から南側にかけて部分的に残っており, 壁高8~10cmで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦である。僅かに踏み固められた面が見られる。

ピット 22か所。P₁~P₉は長径34~73cm, 短径25~61cmの円形あるいは楕円形で, 深さ36~98cm。規模にはらつきはあるが, 壁際に沿って巡る壁柱穴と思われる。また, P_{1a}(径42cmの円形で, 深さ49cm), P₁₄(長径45cm, 短径36cmの楕円形で, 深さ65cm)は位置的に壁際に寄り過ぎているが, 柱穴の可能性も考えられる。炉の中央にあるP₂₁は, 土層より判断して, 本跡より古いピットである。他は性格不明である。

炉 やや北寄りに付設されている。長径100cm, 短径85cmの卵形で, 南側に土器を埋め込んだ土器埋設炉である。炉床はそれほど赤くはないが, 僅かに硬化している。

炉土層解説

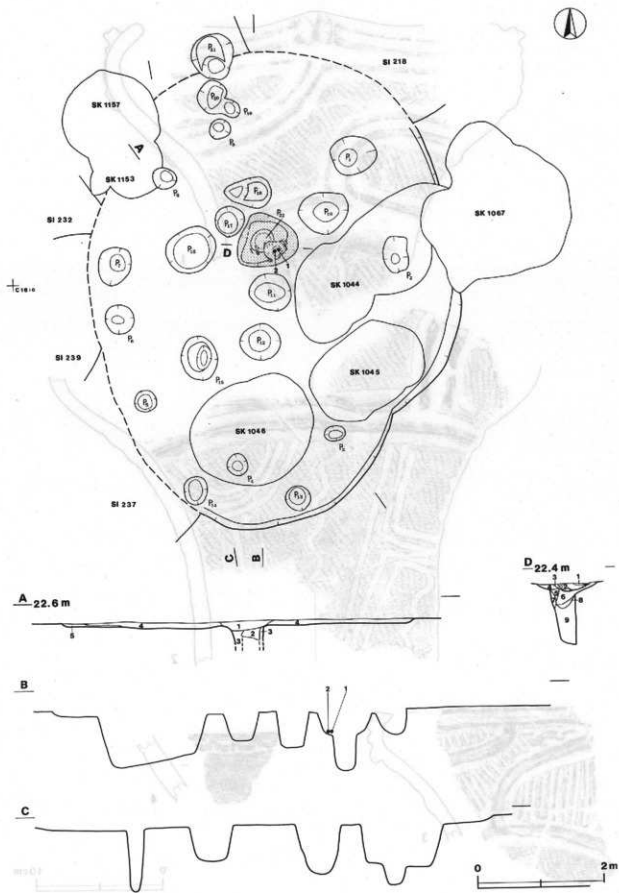
- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土 本跡の上部は削平され, 覆土の厚さは10cmほどしかなかった。土層1~3はP₁₂の土層で, 後世からの掘り込みである。本跡は4・5の2層からなっており, 覆土が薄いため断定はできないが, 5が堆積した後, 4が流れ込んだ自然堆積と思われる。

土層解説

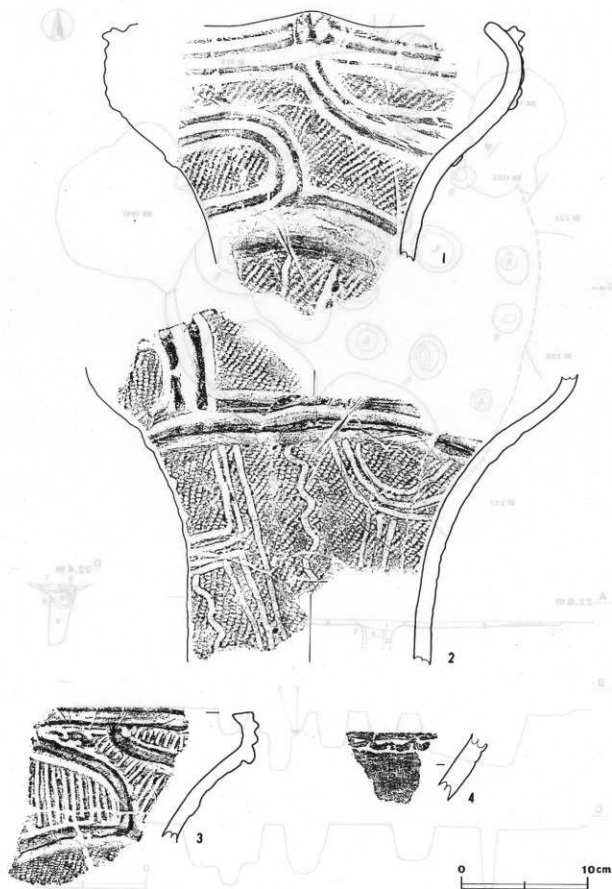
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極少量

遺物 炉, 床面及び覆土中から遺物が出土している。1, 2は炉体土器で, 胴部から口縁部の破片を重ねるようになして使用している。3は南東壁際床面からの出土である。



第155图 第232号住居跡実測图

图例54 - 縄文时代土器の分布图



第156图 第232号住居跡出土遺物実測・拓影図

国文学研究資料館蔵 複製本

第232号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 1	深鉢形土器	A (32.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部で外傾した後、内彎して口縁部に至る。内面は磨きが施されている。口唇部外面に、中央に沈線が走る隆帯を巡らせており、隆帯には縦の押捺を加えた突起が加えられている。隆帯下と胴部に隆線を高らせ、上下の隆線はクラク状の2本の隆線で接続し、口縁部文様帯が構成されている。磨り消しの無文帯を挟み、胴部には垂下する沈線が描かれている。地文として、縦位回転の単線縄文R Lが施文されている。	砂粒・灰石・石英 に多い橙色 普通	PI60 炉内 (加曾利E I)
	縄文土器	B (14.1)			
2	深鉢形土器	B (23.2)	胴上部から口縁部下半にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、胴部で外傾した後、内彎気味に口縁部に至る。単線縄文R Lが縦位回転で施文され、地文としている。胴部に偏平で幅広の2本の隆線が走り、口縁部文様帯と胴部文様帯が分離されている。胴部文様帯には沈線に伴う縦の2本隆線が描かれ、胴部の隆線と接続している。胴部には、蛇行して垂下する厚沈線、3本1組で重線的に垂下したり折れ曲がる、あるいは弧を描く沈線が描かれそれぞれ接続している。	砂粒・炭母・灰石・ スコリア 暗赤褐色 普通	PI61 炉内 (加曾利E I)
	縄文土器	B (23.2)			

第156図3, 4は縄文土器片の拓影図である。3は胴上部から口縁部にかけての破片で、頸部に巡る隆帯で口縁部文様帯と胴部文様帯を分離している。口縁部文様帯は、口縁部と頸部の隆線が曲線の隆線で結ばれ、隆線に沿った沈線、隙間にも直線的な沈線が施され、口唇部下には連続刺突の「コ」字状文も部分的に見られる。胴部には縄文が施文されている。4も交互刺突文が施されているが、無文である。

所見 本跡の西側から北側にかけての規模と平面形は、柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期である。

第233号住居跡 (第157図)

位置 調査区の東部、C17f区。

重複関係 本跡は、南側部分を第218号住居跡に、北東側部分を第1134号土坑に掘り込まれている。南西側部分は第1146号土坑を掘り込んでいる。また、中央部で第1083号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

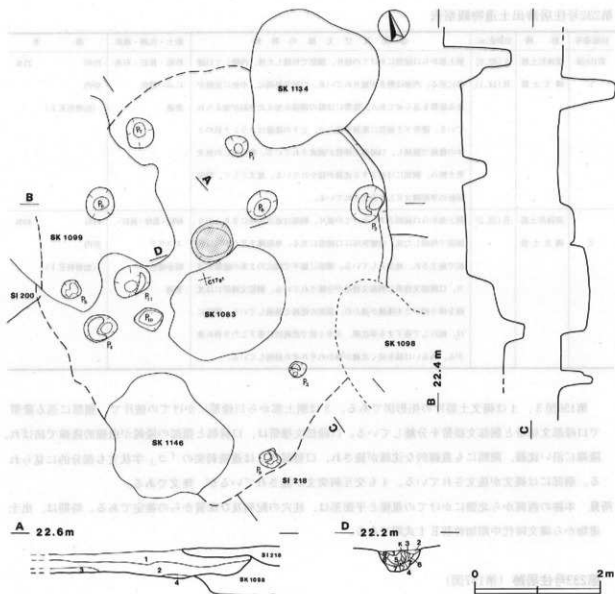
規模と平面形 重複が激しく、明確な壁の立ち上がりはとらえられなかったが、長径(6.00)m、短径(5.50)mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-43'-E]

壁 東壁が部分的に残っており、壁高37cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。踏み固められた面は見られない。

ビット 11か所。P₁は長径39cm、短径29cmの卵形で、深さ48cm、P₂は長径60cm、短径49cmの楕円形で、深さ88cmの二段掘り込みのビット、P₃は径29cmほどの不整形円で、深さ56cmの二段掘り込みのビット、P₄は長径54cm、短径43cmの卵形で、深さ49cmの二段掘り込みのビット、P₅は長径31cm、短径29cmの不整形円で、深さ47cm、P₆は長径51cm、短径45cmの楕円形で、深さ96cm、P₇は長径48cm、短径42cmの楕円形で、深さ89cm。これらは、規模や形態にばらつきが見られるが、壁際に沿って巡る柱穴の可能性が考えられる。しかし、東



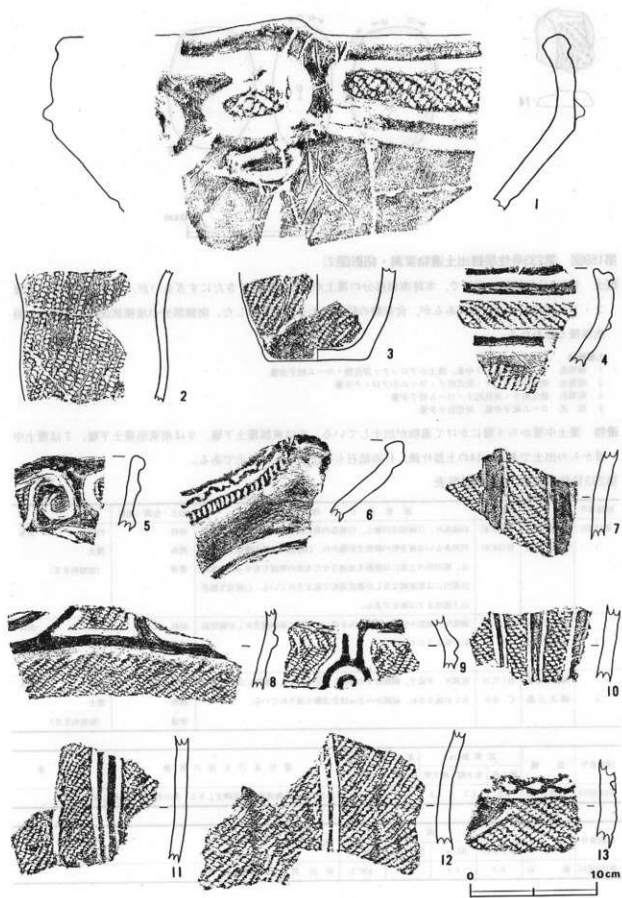
第157図 第233号住居跡実測図

側でピットが確認されていないため、断定は難しい。P₅ (長径53cm, 短径42cmの楕円形で、深さ42cm), P₁₀ (長径49cm, 短径36cmの楕円形で、深さ48cm) は、炉を挟んで相対して位置する。P₅は長径36cm, 短径30cmの不定形で、深さ28cmと浅いが、位置的に見るとP₁~P₇と同性格の可能性も考えられる。P₁₁は性格不明である。

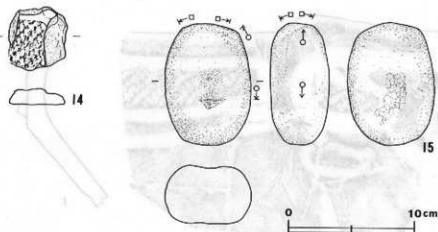
炉 はほぼ中央に付設されていると思われる。径66cmの円形で、床を34cmほどボール状に掘りくぼめた地床炉で、比較的中層に焼土を多く含む。炉床は硬化しているが赤くはない。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック極少量
- 2 暗赤褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック極少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック極少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック極少量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物極少量



第158图 第233号住居跡出土遺物実測・拓影图(1)



第159図 第233号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

覆土 第218号住居跡の床下で、本跡南側部分の覆土が僅かに確認できたにすぎないが、4層からなる。土層2・3は同質の一連の層であるが、含有物の粒子の大ききで分層した。南側部分の堆積状況から見ると、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。8は東部覆土下層、9は南東部覆土下層、7は覆土中層からの出土である。14の土器片鏢、15の敲石も覆土中からの出土である。

第233号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第158図 1	深鉢形土器	A (10.8)	口縁部片。口縁部は内彎し、口唇部内面に稜を持つ。沈線、陰線で楕円形あるいは長方形の枠状文が描かれ、口縁部文様帯が構成されている。楕円形の上部には陰線を発達させた舌状の突起を有する。枠状の区画内には半趾縄文R Lが縦位回転で施されている。口縁部文様帯以下頸部までは無文である。	砂粒 褐色 普通	F162 覆土 (加資料E II)
	縄文土器	B (14.0)			
2	深鉢形土器	B (10.5)	胴部片。胴部中央にやや膨らみを持つ。外面に半趾縄文R Lが縦位回転で施されている。	砂粒・長石 褐色 普通	F163 覆土 (加資料E II)
	縄文土器	B (10.5)			
3	深鉢形土器	B (7.3)	底部片。平底で、胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には半趾縄文R Lが施され、底端から2cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 褐色 普通	F164 覆土 (加資料E II)
	縄文土器	C 8.0			

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第159図14	土器片鏢	5.0	4.7	1.3	34.1	100	表面上部に狭い磨削帯 靑銅縄文L R L 部分的に文様剥離	3042 覆土

図版番号	器種	計測値			重量(g)	石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第159図15	敲石	9.7	6.9	4.6	436.5	安山岩	081 磨石兼用 覆土

第158図4～13は縄文土器片の拓影図である。4～6は口縁部片で、4は上下の隆縁で口縁部文様帯を区画し、区画内及び胴部に単節縄文R.Lを施文し、口唇部上端に沈線が施されている。5は僅かに波状を呈し、沈線、隆縁で渦巻文、区画文を描いている。6も波状口縁の波頂部で、口唇部上端沈線内に交互刺突文、外面には連続の刻みが施され外面無文、頸部に沈線が巡る。8は胴部から口縁部にかけての破片で、単節縄文R.Lを地文にし、隆縁で区画文が施されている。7、9～13は胴部片で、9は沈線を沿わせた直線の隆縁が円形文で接続し、地文は単節縄文R.Lが羽状構成で施文されている。7、10、11は縄文地文の上に沈線区画の磨消帯が垂下しており、7はやや幅広、11は3本沈線で単沈線も見られる。12も縄文地文の上に平行沈線が垂下しているが、沈線間に磨り消しは施されていない。13は沈線の間の交互連続刺突による鎖状の文様が見られる。これらの土器は中期加曾利EⅡ式に比定されるものが多いが、7には加曾利EⅢ式、12には加曾利EⅠ式の手法が見られ、6、13は中時式～加曾利EⅠ式初期の範疇であると思われる。

所見 本跡の規模及び平面形は、土層、床質及び柱穴の配列からの推定である。縄文時代中期加曾利EⅡ式期を中心に前後の時期の遺物も出土しているが、主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅡ式期が本跡の時期と思われる。

第234号住居跡（第160図）

位置 調査区の北東部、C17s区。

重複関係 本跡は、中央部北側が第1135号土坑に、東側部分が第1149号土坑に、南側部分が第1119号、1140号土坑に掘り込まれている。また、東側部分が第1142号、1148号土坑と重複しているが、本跡の方が新しい。規模と平面形 北側部分が確認できなかったが、長径(6.24)m、短径(5.50)mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-83°-E]

壁 南側から西側にかけて立ち上がりが確認されている。壁高14～30cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦であるが、南西側から北東側にかけて僅かに傾斜している。やや踏み固められている。

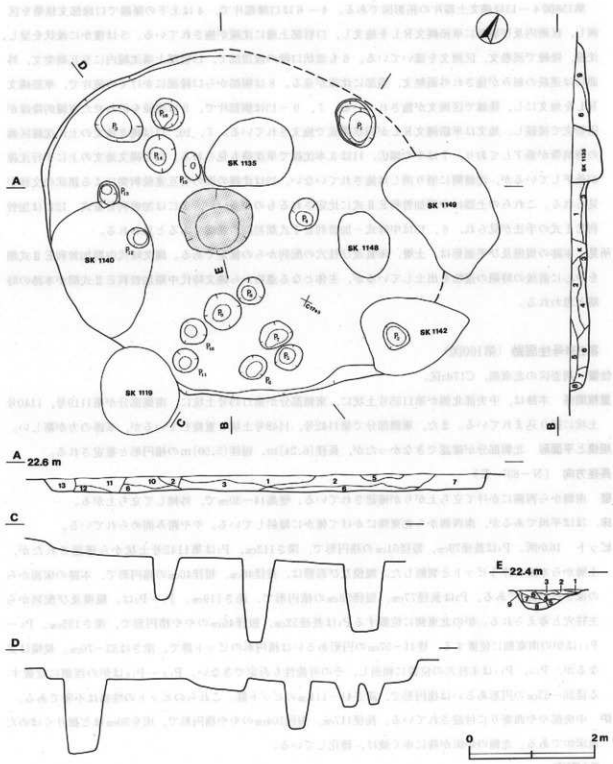
ピット 16か所。P₁は長径79cm、短径61cmの楕円形で、深さ112cm、P₂は第1142号土坑から確認されたが、土層から本跡に伴うピットと判断した。規模及び形態は、長径46cm、短径40cmの楕円形で、本跡の床面からの深さは115cmである。P₃は長径77cm、短径58cmの楕円形で、深さ119cm。P₁～P₂は、規模及び配列から主柱穴と考えられる。炉の北東側に位置するP₄は長径52cm、短径46cmのやや楕円形で、深さ135cm。P₅～P₁₁は炉の南東側に位置する、径41～57cmの円形あるいは楕円形のピット群で、深さは33～70cm。規模は異なるが、P₁₀、P₁₁は主柱穴の位置に相当し、その可能性も否定できない。P₁₂～P₁₆は炉の西側に位置する径26～63cmの円形あるいは楕円形で、深さ41～111cmのピット群。これらのピットの性格は不明である。

炉 中央部やや西寄りに付設されている。長径117cm、短径104cmのやや楕円形で、床を30cmほど掘りくぼめた地床炉である。北側の炉床が特に赤く焼け、硬化している。

炉土層解説

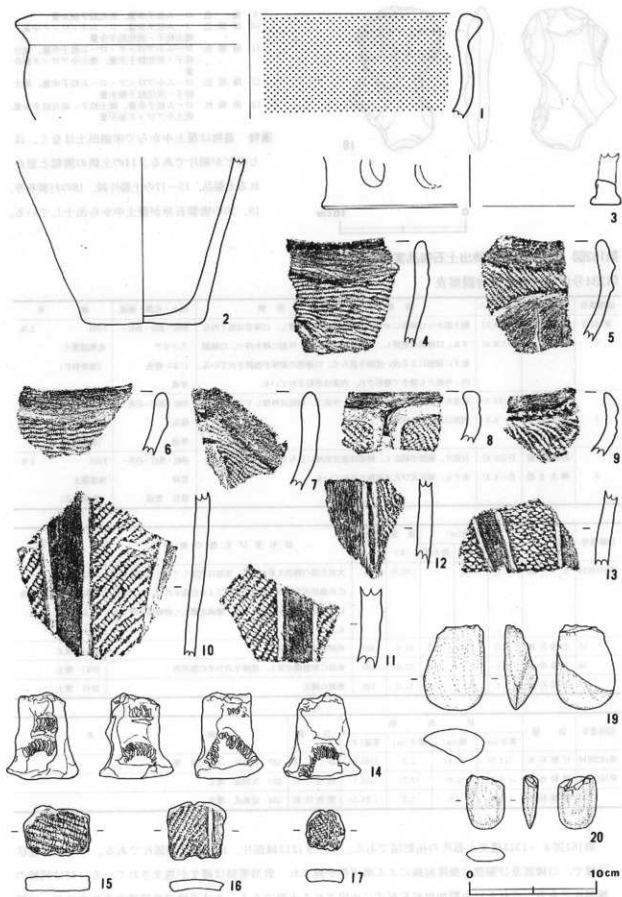
- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子極少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子極少量

覆土 13層からなる。覆土はローム小ブロック、ローム粒子を含む暗褐色土が主体となり、不自然で複雑に分層される人為堆積である。土層3は炉上層の覆土である。

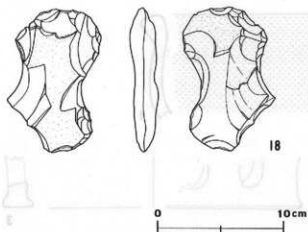


第160図 第234号住居跡実測図

- 土層解説
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック中量、焼土中ブロック極少量
 - 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量
 - 5 高褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
 - 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック極少量
 - 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量



第161图 第234号住居跡出土遺物実測・拓影图(1)



- 9 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 13 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量

遺物 遺物は覆土中からで床面出土はなく、ほとんどが細片である。14の土偶の脚部と思われる土製品、15~17の土器片鏝、18の打製石斧、19、20の磨製石斧が覆土中から出土している。

第162図 第234号住居跡出土土製品実測図(2)

第234号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	浅鉢形土器	A(34.5)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外反する。口縁部は肥厚し、上端は扁平で、内・外面に稜を持つ。口縁部直下に指痕による浅い沈線が巡らせ、口縁部の肥厚が強調されている。内・外面とも磨きで整形され、内面は赤彩されている。	砂粒・炭粒・長石・スコリア	F165 5%
	縄文土器	B(8.4)		赤褐色	北東部覆土 (加曽利E)
2	浅鉢形土器	B(13.3)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英・赤褐色	F166 15%
	縄文土器	C 9.0		普通	覆土 (加曽利E)
3	器台形土器	D(23.6)	底部片。裾部が幅広く、脚部は直立気味に立ち上がり、数単位の孔を有する。裾部及び孔は磨取りされている。	砂粒・長石・石英・赤褐色	F167 5%
	縄文土器	E(4.1)		普通	南部覆土 (加曽利E)

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第161図14	土 偶	(6.8)	(5.6)	-	(161.5)	15	丸形土偶の脚部と思われる。底部は突出しており、周囲を環状の連続八形文が下向きの弧状で4単位描かれている。単位にも同様の文様が見られるが、厚感が著しく詳細は不明である。	DP43 覆土 砂粒・長石・石英・赤褐色 普通 (中期)
15	土器片鏝	5.3	4.0	1.3	31.8	100	表面に単節縄文L	DP44 覆土
16	土器片鏝	4.6	4.5	0.8	23.0	100	表面に単節縄文R L 沈線に沿った磨消帯	DP45 覆土
17	土器片鏝	3.1	3.2	0.9	11.0	100	表面に縄文	DP46 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第162図18	打製石斧	(11.5)	(7.4)	2.2	(169.9)	砂 岩	082 分銅形 一部欠属 覆土
第161図19	磨製石斧	(6.7)	(4.9)	(2.7)	(163.7)	緑泥片岩	083 欠損品 覆土
20	磨製石斧	(4.3)	3.0	1.2	(24.5)	黒色片岩	084 定角式 覆土

第161図4~13は縄文土器片の拓影図である。4~9は口縁部片、10~13は胴部片である。4~7は波状口縁で、口縁部及び胴部に微隆起線による磨消帯が描かれ、磨消帯間は縄文が施文されている。12は同類の胴部片である。これらは中期加曽利E IV式に比定される土器である。8は平縁で単節縄文を地文にし、口縁部から微隆起線が胴部に垂下し、微隆起線の両側は磨り消されている。9は波状口縁で、口縁部無文帯の下

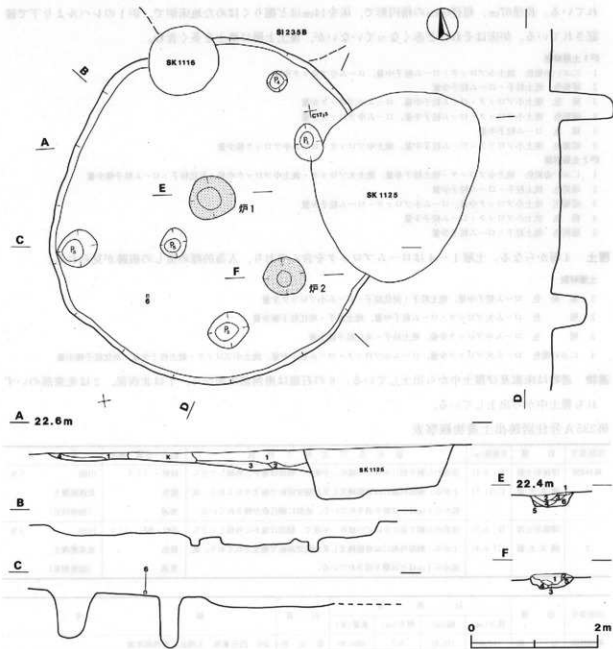
端に刺突文が連続されている。2点とも中期加曾利EⅢ～Ⅳ式期の範疇と思われる。10、11、13は地文の単節縄文の上に幅広の沈線区画の磨消帯が直線的に垂下している。

所見 本跡は、北側の壁の立ち上がりが確認できなかったため、北側部分は残存している壁及び床質からの推定である。覆土中から中期加曾利EⅢ～Ⅳ式期までの遺物が出土しているが、時期は主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期と思われる。

第235A号住居跡 (第163図)

位置 調査区の東部、C17j区。

重複関係 本跡は、北側部分が第1116号土坑に、東側部分が第1125号土坑に掘り込まれている。北側部分で第235B号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



第163図 第235A号住居跡実測図

規模と平面形 長径5.40m、短径5.15mの円形をしている。

壁 北側と東側の壁が部分的に土坑によって掘り込まれているが、壁高8~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 起伏があり、東側部分が西側部分より10~15cm低くなっている。南東側部分に踏み固められた痕跡が見られる。

ピット 5か所。P₁は長径61cm、短径42cmの楕円形で、深さ83cm、P₂は長径65cm、短径57cmの楕円形で、深さ51cm、P₃は長径66cm、短径57cmの楕円形で、深さ71cm。これらのピットは、規模及び配列から支柱穴と思われる。P₄は長径34cmの円形、深さ22cmで、補助柱穴と思われる。P₅は炉1の南西に近接しており、長径47cm、短径36cmの楕円形、深さ60cmで、性格は不明である。

炉 2か所。炉1は、ほぼ中央に付設されている。長径74cm、短径67cmのやや楕円形をしており、床を20cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱で赤く焼け、硬くなっている。炉2は南東壁寄りに付設されている。長径67cm、短径60cmの楕円形で、床を14cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉1のレベルより下で確認されている。炉床はそれほど赤くならないが、覆土上層に焼土を多く含む。

炉1土層解説

- 1 ぶい赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量、焼土中ブロック・ローム中ブロック極少量

炉2土層解説

- 1 ぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土大ブロック・焼土中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

覆土 4層からなる。土層1~4はロームブロックを含んでおり、人為的埋め戻しの痕跡が見られる。

土層解説

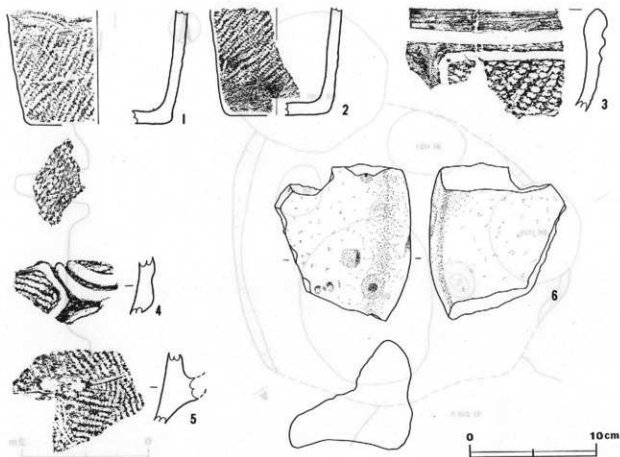
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 ぶい褐色 ローム大ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子極少量

遺物 遺物は床面及び覆土中から出土している。6の石皿は南西部床面から、1は北西部、2は北東部のいずれも覆土中から出土している。

第235A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第164図	浅鉢形土器	B(9.1)	底面から側下部にかけての破片。平底で、胴部は僅かに外傾して立ち上がる。胴部外面には草摺縄文L Rが縦位回転で施文されており、底部から1cmほどは磨り消されている。底部に副代痕が残されている。	砂粒・パミス	P168 5% 北西部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	C(11.7)		褐色 普通	
2	深鉢形土器	B(8.7)	底面から側下部にかけての破片。平底で、胴部は僅かに外傾して立ち上がる。胴部外面には草摺縄文L Rが縦位回転で施文されており、底部から1cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・パミス	P169 5% 北東部覆土 (加曾利E)
	縄文土器	C(8.4)		褐色 普通	

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(kg)		
第164図6	石皿	(12.6)	(10.8)	8.7	(691.9)	安山岩	OS 四石巻州 欠損品 南西棟断面



第164図 第235A号住居跡出土遺物実測・拓影図

第164図3～5は縄文土器片の拓影図である。3は口縁部片で、口縁部下に横走沈線、以下に沈線区画を施し、区画内は複節縄文R L Rが施文されている。4は単節縄文R Lが地文で、指頭により沈線に沿わせた隆起線で文様が描かれている。5は橋状把手を有する胴部片で、単節縄文が施文されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第235B号住居跡 (第165図)

位置 調査区の東部、C171a区。

重複関係 本跡は、中央部で第1122号土坑と、北側部分で第1121号、1151号及び1152号土坑と、南側部分で第235A号住居跡と、西側部分で第1126号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径5.34m、短径(4.75)mの楕円形と推定される。

長径方向 N-48°-E

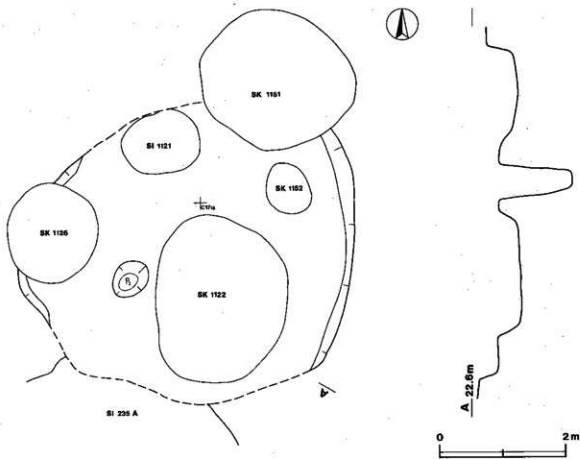
壁 東壁と西壁が残存している。壁高30cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦である。特に踏み固められた面は見られない。

ピット 中央部西寄りに1か所。長径64cm、短径54cmの楕円形で、深さは120cmである。

遺物 本跡から遺物は出土していない。

所見 本跡は第235A号住居跡の掘り込みの段階で確認された。遺物は出土しておらず、時期を含め炉や覆土の堆積状況等詳細は不明である。



第165図 第235B号住居跡実測図

第236号住居跡 (第166図)

位置 調査区の中央部やや南東寄り、D16a7区。

重複関係 本跡は、東側部分を第1065号土坑に掘り込まれている。また、北側部分で第951号土坑と重複しているが、本跡の方が新しい。

規模と平面形 上部削平のため、壁の立ち上がりを確認できなかったが、長径(5.84)m、短径(4.42)mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-72'-W]

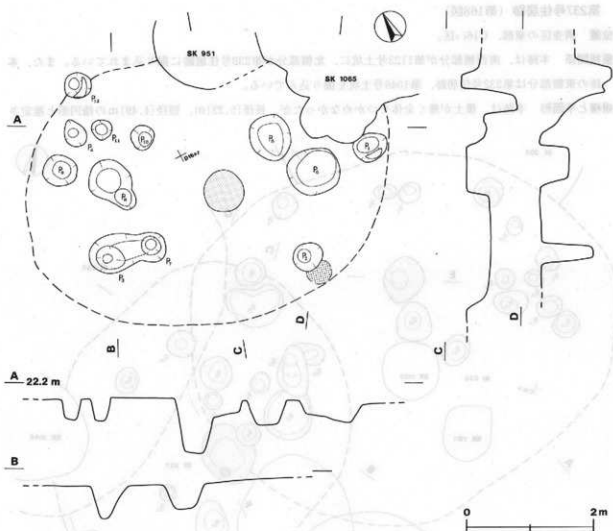
床 平坦である。踏み固められた面は見られない。

ピット 12か所。P₁は長径55cm、短径45cmの楕円形で、深さ26cm、P₂は長径49cm、短径45cmの卵形で、深さ84cm、P₃は長径46cm、短径35cmの楕円形で、深さ55cm、P₄は長径45cm、短径34cmの卵形で、深さ35cm。これらは、規模にばらつきはあるが、配列から主柱穴と思われる。他は性格不明である。

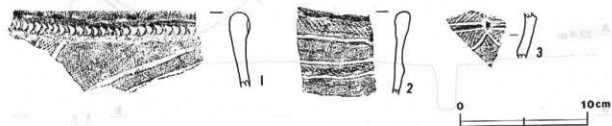
炉 中央部やや南東寄りに付設されている。径64cmほどの円形で、覆土はなく、硬化した炉床のみ確認された。南東隅に、径40cmほどの円形の焼土の広がりが見られるが、炉ではない。

遺物 出土遺物は極少量で、ほとんどが細片である。

第167図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は粗製土器の口縁部片で、口縁部肥厚面に粘土紐を貼り付けて爪形の刻文帯を施し、以下に斜行平行文を沈線で施文、部分的に縄文が施されている。2も口縁部片で、沈線区画の縄文帯が口縁部以下2段見られ、縄文帯間は磨り消されている。3は胴部片で、沈線区画の



第166図 第236号住居跡実測図



第167図 第236号住居跡出土遺物実測・拓影図

微隆起線上に小突起が付けられ、胴部下位に施された上向き弧状の沈線が突起で連結している。突起の上部及び下部の沈線区画内は縄文が施文されている。

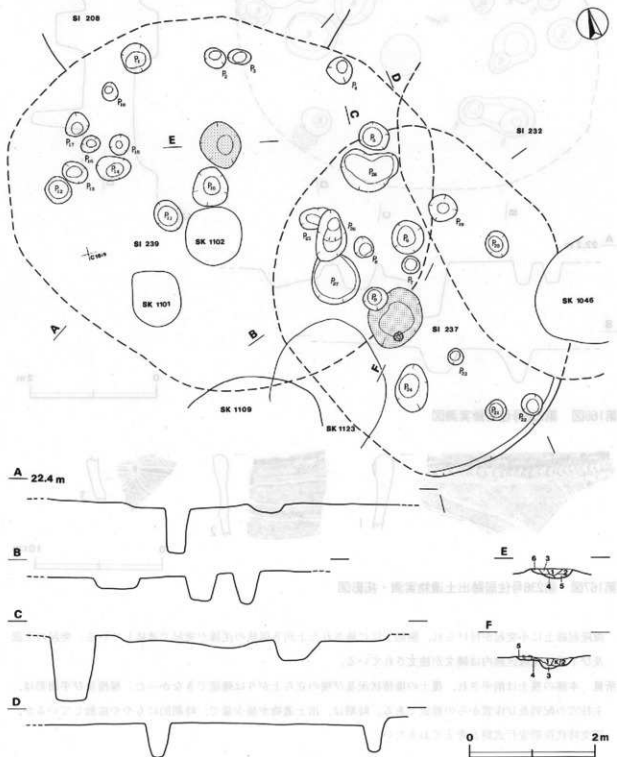
所見 本跡の覆土は削平され、覆土の堆積状況及び壁の立ち上がりは確認できなかった。規模及び平面形は、主柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物が極少量で、时期的にもやや拡散しているが、縄文時代後期安行式期と考えておきたい。

第237号住居跡 (第168図)

位置 調査区の東部, C16i a区。

重複関係 本跡は, 南西側部分が第1123号土坑に, 北側部分が第239号住居跡に掘り込まれている。また, 本跡の東側部分は第232号住居跡, 第1046号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 本跡は, 覆土が薄く全体をつかめなかったが, 長径[5.22]m, 短径[4.49]mの楕円形と推定さ



第168図 第237・239号住居跡実測図

れる。

長径方向 (N-35-W)

壁 南壁が一部残存しており、壁高10cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。特に踏み固められた面は見られない。

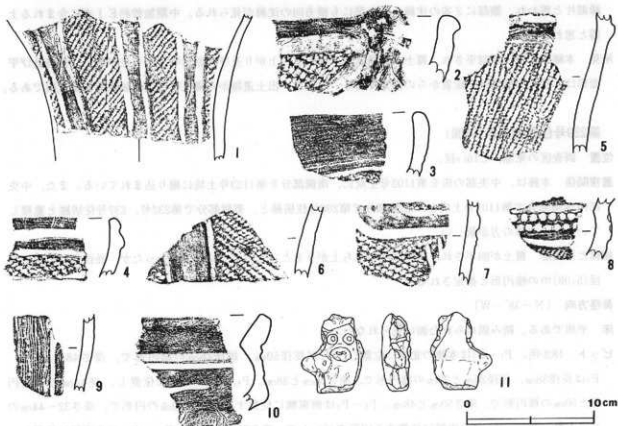
ビット 10か所。P₁₀は径45cmほどの円形で、深さ55cm、P₂₀は長径42cm、短径35cmの楕円形で、深さ48cm、P₂₁は径35cmの円形で、深さ30cm、P₂₄は長径78cm、短径53cmの卵形で、深さ36cm、P₂₅は長径(46)cm、短径33cmの楕円形で、深さ32cm。これらは、規模にばらつきが見られるものの配列から支柱穴の可能性が考えられる。しかし、位置的に見ると、P₂₁ではなくP₂₂(径35cmの円形で、深さ45cm)が、同様にP₂₅ではなくP₂₆(長径67cm、短径48cmの楕円形で、深さ50cm)が支柱穴とも考えられる。P₂₃、P₂₇、P₂₉は性格不明である。なお、平面図中、P₅~P₉は第239号住居跡のビットと思われる。

炉 中央部や西寄りに付設されていると思われる。長径96cm、短径79cmの不整楕円形で、床を16cmほど掘りくぼめ、炉の南側に土器を付設した土器埋設炉である。炉の北側は第239号住居跡のP₁によって掘り抜かれている。炉土層1に焼土を比較的多く含むが、他の層は焼土が少なく、炉床もそれほど焼けてない。

炉土層解説

- 1 明赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物 出土遺物は1以外は細片が多く、器形の判別できるものは少ない。1は炉体土器である。11の土偶は流れ込みである。



第169図 第237号住居跡出土遺物実測・拓影図

第237号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第169図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(11.6)	胴部片。胴部中位までは直立気味に立ち上がり、上部は緩やかな曲線を描き外傾する。縦位回転の単節縄文L Rを地文とし、沈線区画の磨消帯が直線的に垂下している。	砂粒・長石・ スコリア ぶい・橙色 普通	P170 25% 炉内 (加曾利EⅡ)

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	残存率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
第169図11	土 甕	(6.2)	(4.9)	(1.3)	(52.3)	40	下半身及び胴部左側欠損。平板状で、目、口及び乳房は粘土貼り付けで突起状を呈している。耳にも加飾されたと思われるが、欠損しているため不明である。	DP47 覆土 砂粒・長石 橙色 普通 (晩期)

第169図2～10は縄文土器片の拓影図である。2～4は口縁部片で、2は沈線による区画文が施され、区画内は縄文施文、区画の接点部の口縁部には小突起を有し、小突起から区画に沿って隆線が垂下している。3は口縁部無文帯下に横走沈線、以下胴部は縄文が施されている。4は沈線に沿った隆線で区画文を描き、区画内に複節縄文L R Lが施文されている。5は胴部から頸部にかけての破片と思われる。隆線以下に単節縄文R Lが施文されている。6は単節縄文L Rが地文で、幅の広い沈線区画の磨消帯が垂下している。7も胴部から頸部にかけての破片と思われる、上部に沈線の区画文、胴部に複節縄文L R Lと垂下する沈線が見られる。8は沈線区画内に棒状工具による円形刺突文が2段巡らされ、以下に単節縄文R Lが施文されている。9は胴部片で、櫛歯状工具による縦方向の条線文を地文とし、沈線区画の磨消帯が垂下している。これらの土器は、中期加曾利EⅡ式に近いものも見られるが、加曾利EⅢ式の範疇と思われる。10は浅鉢形土器の口縁部片と思われる、頸部に2本の沈線、胴上部にも横方向の沈線が見られる。中期加曾利EⅠ式に含まれる土器と思われる。

所見 本跡は、覆土が削平され、覆土の堆積状況、壁の立ち上がり及び平面形等不明な点が多い。規模及び平面形は、柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第239号住居跡 (第168図)

位置 調査区の東部、C1619区。

重複関係 本跡は、中央部の床を第1102号土坑に、南側部分を第1123号土坑に掘り込まれている。また、中央部南西側部分で第1101号土坑と、北側部分で第208号住居跡と、東側部分で第232号、237号住居跡と重複しているが、本跡の方が新しい。

規模と平面形 覆土が削平され、明確な壁の立ち上がりをとらえることはできなかったが、長径(5.73)m、短径(5.08)mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-38°-W]

床 平坦である。踏み固められた面は見られない。

ピット 18か所。P₁～P₃は本跡の北側に位置し、P₁が長径50cm、短径46cmの楕円形で、深さ48cm。P₂、P₃は長径38cm、短径26cmと30cmの楕円形で、深さ36cmと38cm。P₄、P₅は東側に位置し、径44cmの不整形と50cmの楕円形で、深さ50cmと48cm。P₆～P₉は南東側に位置する径30～50cmの円形で、深さ32～44cmのピット群。P₁₀、P₁₁は中央部に位置する円形のピットで、深さ72cmと76cm。P₁₂～P₁₈は北西側に位置し、長径32～55cmの円形あるいは楕円形で、深さ25～85cmのピット群。これらのピットの内、P₁、P₄、P₅、

P₆, P₇が壁の内側を巡る、深さが42~50cmの主柱穴と仮定すると、位置的にP₆, P₇のいずれかも主柱穴になる。また、北西側でもP₁₃, P₁₇も深さが46cmと36cmで、主柱穴の可能性が考えられる。しかし、南西側でピットが確認されず、各ピットの覆土の色も大差無く、判断は難しい。

炉 中央部や北寄りに付設されていると思われる。長径77cm、短径75cmの不整形円で、床を16cmほど掘りくぼめた地床炉である。覆土は焼土を多量含み、炉床は赤く焼け、硬くなっている。

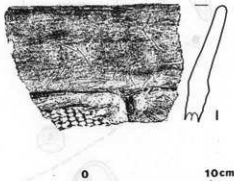
炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量、焼土中ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量、焼土中ブロック極少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・ローム中ブロック中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子極少量

遺物 少量の土器片が出土しているが、細片がほとんどである。

第170図1は縄文土器口縁部片の拓影図である。口縁部幅広の無文帯で、胴部との境に微隆起線が走り、胴部に垂下する微隆起線が接続する。地文は単節縄文LRである。

所見 本跡は、上部が削平されているため、覆土の堆積状況や壁の立ち上がりがとらえられず、炉を中心とした床質及びピット群の配列から規模及び平面形を推定した。時期は出土遺物が少量のため断定はできないが、縄文時代中期加曽利EⅢ~Ⅳ時期の範疇と思われる。



第170図 第239号住居跡出土遺物実測・拓影図

第238号住居跡 (第171図)

位置 調査区の北東部、C17c₂区。

重複関係 本跡は、西側部分の床が第1128号土坑に掘り抜かれている。

規模と平面形 壁の立ち上がりがとらえられなかったが、長径[5.73]m、短径[5.08]mの楕円形と推定される。

長径方向 [N-55°-W]

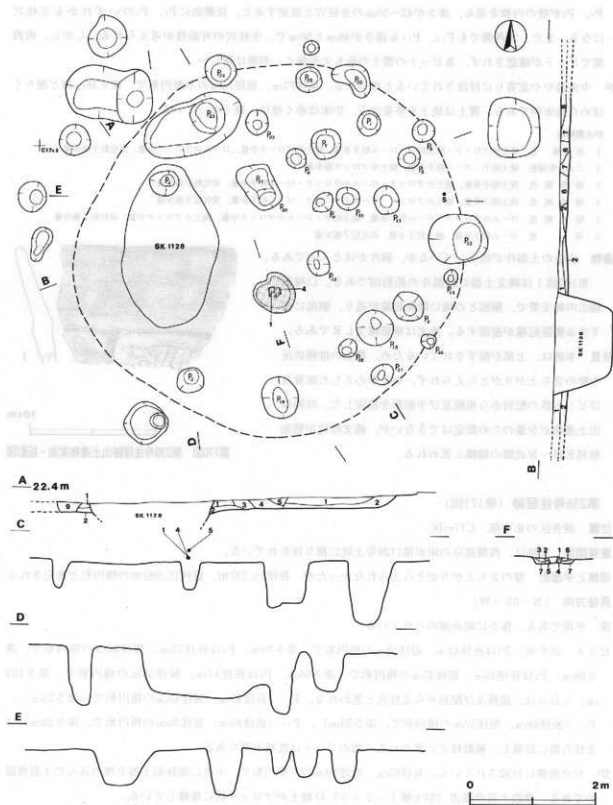
床 平坦である。僅かに踏み固められている。

ピット 26か所。P₁は長径44cm、短径38cmの楕円形で、深さ70cm、P₂は長径52cm、短径45cmの楕円形で、深さ98cm、P₃は長径45cm、短径40cmの楕円形で、深さ96cm、P₄は長径47cm、短径38cmの楕円形で、深さ103cm。これらは、規模及び配列から主柱穴と思われる。P₁₁(長径45cm、短径40cmの楕円形で、深さ53cm)、P₁₃(長径68cm、短径57cmの楕円形で、深さ53cm)、P₂₂(長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さ33cm)は主柱穴間に位置し、補助柱穴と思われる。他のピットは性格不明である。

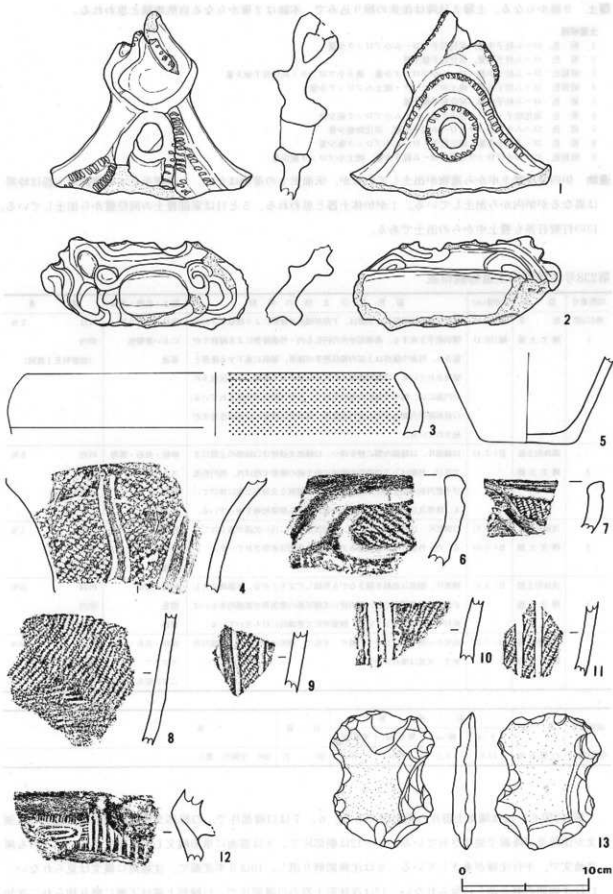
炉 やや南側に付設されている。長径65cm、短径59cmの不整形円で、中央に深鉢形土器を埋め込んだ土器埋設炉である。埋設土器の周辺(炉土層1・2・5)は焼土がブロック状に堆積している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量、焼土中ブロック中量、炭化粒子極少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子極少量



第171图 第238号住居跡実測図



第172图 第238号住居跡出土遺物実測・拓影図

覆土 9層からなる。土層3以降は後世の掘り込みで、本跡は2層からなる自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 6 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量

遺物 炉内及び覆土中から遺物が出土しているが、床面出土の遺物はない。1の把手と4の深鉢形土器は時期は異なるが炉内から出土している。1が伊体土器と思われる。5と11は東部覆土の同位置から出土している。13の打製石斧も覆土中からの出土である。

第238号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	把手 縄文土器	長さ(14.8) 幅(16.1)	波状口縁の成頂部片。頂部は、下部が幅広で隆帯により縁取りされた環状把手を有する。波頂部中央の円孔も内・外面隆帯による縁取りが施され、外面の隆帯は上部の環状把手の隆帯、側部に垂下する隆帯と接続されている。口唇部隆帯と円孔から垂下する隆帯により区画された内部には、偏平で幅広い連続爪形文、山形沈線文が加施されている。口唇部隆帯内面及び円孔部内面隆帯、環状把手隆帯には連続爪形文が施されている。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	F171 5% 炉内 (加曾利EⅠ直線)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(7.4)	口縁部片。口縁部内側に縁を持つ。口縁部文様帯は口縁部の上部にまで及び、外面は上下の隆帯が塊状に粘土粒の隆帯で結ばれ、楕円形及び不整円形の枠を描き、更に曲線的で不規則な文様が上部に伸びている。隆帯及び文様は内・外面とも指張による微隆起線を作っている。	砂粒・長石・雲母 スコリア 褐色 普通	F172 5% 覆土 (大木8a)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(29.8) B(5.0)	口縁部片。口縁部は内湾する。口縁部外面下に浅い沈線が施されている。内・外面とも丁寧な磨きが施され、内面は赤彩されている。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	F173 5% 覆土 (加曾利E)
4	深鉢形土器 縄文土器	B(9.1)	胴部片。胴部は曲線を描きながら外傾して立ち上がる。早期縄文LRが縦位回転で施文され、幅の狭い沈線区間の磨消帯が室約的あるいは蛇行しながら垂下している。胴部中で意図的に打ち欠いている。	砂粒・雲母 褐色 普通	F174 10% 炉内 (加曾利EⅡ)
5	深鉢形土器 縄文土器	B(7.2) C 7.5	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾する。胴部外面無文。这部は磨耗が著しい。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	F175 10% 東部覆土 (加曾利E)

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第172図13	打製石斧	10.9	8.2	1.9	155.6	砂岩	086 分銅形 覆土

第172図6～12は縄文土器片の拓影図である。6、7は口縁部片で、口縁部文様帯に内部縄文施文の区画文が沈線及び隆線で施文されている。8～12は胴部片で、8は器面に単節縄文LRが施文され、9～11も縄文施文で、平行沈線が垂下している。9は沈線間磨り消し、10は3本沈線で、沈線間に縄文は見られない。11は沈線間の磨り消しは見られない。12は浅鉢形土器の口縁部片で、口縁部上端は丁寧に磨り切られ二次加工をしていると思われ、以下は楕円形や直線及び条線状の文様を太さの異なる沈線で描いている。外面に突

起を有するが、破損しているため形状は不明である。12は膳板式の影響を受けた中期加曾利EⅠ式初期のものと思われ、1と同様に他の出土土器より古手である。

所見 覆土と壁の判断が困難で立ち上がりがとらえられず、規模及び平面形は支柱穴の配列及び床質からの推定である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅡ式期である。

表2 前田村遺跡D区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	長辺(幅)方向	平面形	面積(m ²) (長×幅)	壁高 (m)	断面	主柱径	ピット	礎石	出土遺物	調査 年 (調査機関名(年))		
95	C15c ₁	[N-67°-W]	[南 円 形]	16.55×5.32	7-14	平壁	8	3	1	自然 縄文土器	58-292→本跡→58-293-297, 雄略土器		
96	C15a ₁		[南 円 形]	16.44×4.70	10-26	平壁	3	2	1	自然 縄文土器	58-292-299→本跡→51-97, 51-205不明		
97	C15a ₂					平壁		2	1	自然 縄文土器	51-95, 58-293→本跡		
98	C15a ₃	[N-47°-E]	[南 円 形]	7.32×6.93		平壁		2	1	縄文土器, 土製円筒, 打製石斧, 磨製石斧, 磨石, 骨角器(鹿角)	58-628→本跡→61-182, 58-297-297-710-829		
99	C15a ₄	[N-51°-E]	[南 円 形]	5.97×5.90	8-10	平壁	4		1	縄文土器, 土製円筒, 凸鏡, 磨石	51-117→本跡→51-183, 58-630-633 雄略土器		
100	C15a ₅	[N-65°-E]	[南 円 形]	6.29×5.52	8-12	平壁	1		1	縄文土器, 石鏡, 凸石	58-294→本跡→51-183, 58-921-929 土製輪鏡5ヶ		
101	C15a ₆	[N-44°-W]	[南 円 形]	6.68×5.92		平壁	5	1	2	1	縄文土器, 土製, 石鏡, 磨石, 鉄斧	58-290-767→本跡→51-187, 58-298-771-780- 829 782-786-791-792-806	
102	C15a ₇		[円 形]	16.54×6.37		平壁	6	1	2	1	縄文土器, 異形土製品, 磨石, 骨角器(角材), 磨石, 人骨	本跡→58-772→775-1085, 51-230A不明 縄土炭(2ヶ所)	
102	C15a ₈	[N-72°-W]	[南 円 形]	5.17×4.30		平壁 (4)			1		縄文土器, 磨製石斧, 鉄斧	本跡→51-185-189, 58-754-755-857, 58-802不明	
104	D15a ₁		[円 形]	7.68×7.40	5-7	平壁	4	2	1		縄文土器	58-284-288→本跡	
105	D15a ₂	[N-82°-W]	[南 円 形]	16.30×5.04	8-12	平壁	7	4	1	自然	縄文土器, 打製石斧, 磨製石斧	本跡→51-191-194, 58-742-820-840-846	
106A	C16a ₁			(4.11)×(1.77)	33-35	平壁				自然	縄文土器, 瓦板, 土製円筒, 磨石, 鉄斧	本跡→51-206-207, 51-208B-204不明	
106B	C16a ₂	[N-26°-E]	[南 円 形]	7.43×3.72	8-16	やや 凸壁	4	3	0	1	人瓦	縄文土器, 土製円筒, 石鏡, 磨石	51-106A-111, 58-880-882-893→本跡→ 51-204-206-207-211
107	C16a ₃	[N-45°-E]	[南 円 形]	16.33×4.52		平壁	4	2	2	1	人瓦	縄文土器, 土製, 土製円筒, 石鏡, 打製石斧, 磨製石斧, 磨石, 鉄斧	本跡→51-212, 58-858, 58-885不明
108	C16a ₄		[円 形]	7.80×7.26	10-15	平壁	5	8	1	自然	縄文土器, 土製, 瓦板, 土製円筒, 石鏡, 磨石, 磨石, 埴子, 鉄斧	本跡→51-110-232-234, 58-843-844-871 51-100不明, 縄土炭(1ヶ所)	
109	C16a ₅	[N-58°-W]	[南 円 形]	13.70×3.95	20-30	平壁	2		1	人瓦	縄文土器, 土製, 土製円筒, 磨石	本跡→51-202, 58-837-845-883, 51-108-110不明, 縄土炭(3ヶ所)	
110	C16a ₆	[N-47°-W]	[南 円 形]	7.32×6.90		やや 凸壁			1	1	人瓦	縄文土器, 土製, 鉄斧	51-109→本跡→51-186-202-204, 58-837-853 870-871-873-883, 51-109不明
111	C16a ₇			面積66.40	34-44	平壁					人瓦	縄文土器, 瓦板, 瓦筒, 磨石, 鉄斧	本跡→51-204, 58-875-933, 51-108B-110-111不明
115	C15a ₉	[N-25°-E]	[南 円 形]	6.37×5.62	27-45	平壁	4	3	1	1	人瓦	縄文土器, 磨製石斧, 磨石, 磨石, 鉄斧	本跡→51-193-194-194-238A-239B, 58-786- 827-828-828
116A	C16a ₈					平壁						縄文土器	51-118B→本跡→51-187, 58-782-874
116B	C15a ₁₀					柱状 平壁			1			縄文土器, 磨製石斧, 磨石	本跡→51-116A-180-187, 58-827-841-842- 851-852-864-888-944
117	C15a ₁₁	[N-56°-W]	[南 円 形]	16.54×6.72	16	凸壁			5	1	自然	縄文土器, 土製, 瓦板, 土製円筒, 土製円筒, 石鏡, 磨石, 鉄斧	58-750-838-1093→本跡→51-99-180-236A- 236B, 58-1080-1080-1094-1095
127	C16a ₉	[N-44°-E]	[南 円 形]	6.28×5.53	12-17	平壁	5	1	8	2	自然	縄文土器, 磨製石斧, 石	58-920-924→本跡→58-923, 土製円筒→本
168	C15a ₁₂	[N-50°-W]	[南 円 形]	5.16×3.48	8-12	平壁			2		自然	縄文土器	58-724→727-758-759→本跡, 51-196不明
169	C15a ₁₃	[N-52°-W]	[南 円 形]	7.50×6.40	7	平壁	5	8	1	1	自然	縄文土器, 石	58-724→本跡→51-717-723, 土製円筒→本
170	C15a ₁₄		[円 形]	(4.66×4.66)	4-13	平壁	4				自然	縄文土器	本跡→51-171-173
171	C15a ₁₅	[N-35°-E]	[南 円 形]	3.97×3.14	17-22	平壁			3		人瓦	縄文土器	51-170→本跡→51-173
172	C15a ₁₆		[不完全円形]	(4.83×4.40)	10	平壁	3		1	自然	縄文土器, 鉄斧	本跡→51-175, 58-736A-820-821-853 縄土炭(1ヶ所)	

自然跡 番号	位置 経緯(緯)方向	平面形	縦 横(m) (前後×横)	壁 高 (m)	構造	主柱穴	ピット	切	埋土	出土遺物	備 考 ※遺物関係(前→后)	
173	C15e ₁	[N-80°-E]	楕円形	5.08×4.40	4	柱礎 平礎	3	3	1	自然	51-170-171, 51-170-平礎	
174	C15b ₁				4	平礎		2		縄文土器	51-170-平礎→51-186, 51-197-813-829不明	
175	C15b ₂	[N-77°-W]	楕円形	4.75×4.00	10	平礎	2	2	1	人為	縄文土器、漆器、軟骨	
176	C15b ₃			東西幅4.75	4~6	平礎	[2]	2		自然	縄文土器、磨石、軟骨	
178	C15j ₁	[内 部]	円形	6.38×4.40		平礎	6	4	1	自然	縄文土器	
179	C15b ₄	[内 部]	円形	7.85×7.32	17~23	平礎	4	7	2	人為	縄文土器、土器、土製刀剣、石製 軟骨、貝	
180	C15e ₂			南北幅3.30	24	平礎		1		人為	縄文土器	
181	C15b ₅	[N-13°-E]	楕円形	6.00×4.43	4~6	平礎	4	5	1	自然	縄文土器、磨石、石、軟骨	
182	C15c ₁	[N-7°-E]	楕円形	5.21×4.40	10	平礎	6	1	2	1	自然	縄文土器、土製刀剣、軟骨
183	C15d ₁	[N-40°-W]	扇形	6.88×4.50	4~20	平礎	6	2	1	人為	縄文土器、軟骨	
185	C15b ₆			横(5.50)	16	平礎		2	1	人為	縄文土器	
186	C16g ₂	[内 部]	円形	6.00×(5.50)	16	平礎	4	1	2	1	自然	縄文土器、磨石、軟骨
187	C15f ₁	[N-30°-E]	楕円形	5.44×4.42	13	平礎	3	3		自然	縄文土器、軟骨	
188	C15i ₁	[内 部]	円形	4.90×3.90	10~20	平礎		3	1	自然	縄文土器	
189	C15f ₂	[N-13°-E]	楕円形	7.30×5.92	4~24	平礎	7	2	1	自然	縄文土器、軟骨	
190	C15b ₇	[N-13°-E]	不整形台形	3.72×3.43	10~15	平礎		9		人為	縄文土器、土製刀剣、軟骨、人骨	
191	C15b ₈		円形	3.05×3.43	42	凸凹	[1]	1		人為	縄文土器、軟骨	
192	C15e ₃	[N-13°-E]	楕円形	5.08×(4.35)	8~22	柱礎 平礎	3	5		自然	縄文土器	
193	C15d ₂	[N-11°-E]	楕円形	4.90×4.41	10~15	柱礎 平礎	3	7		自然	縄文土器	
194	C15b ₉				12	凸凹		3		縄文土器		
195	C15b ₁₀	[内 部]	円形	5.22×(5.07)	8~22	平礎	5	2	1	縄文土器		
196	C15e ₄	[不整形円形]		4.10×3.90		平礎	[4]	1	1	縄文土器		
197	C15f ₃	[N-80°-E]	楕円形	7.80×6.20		平礎	1	2	3	1		
199	C16f ₁	[N-6°-E]	楕円形	6.80×6.06	7~15	平礎	5	9	1	自然	縄文土器、磨製石斧、石錐、磨石	
200	C16f ₂	[N-15°-E]	楕円形	7.52×(5.84)	14~20	平礎	4	1	0	1	人為	縄文土器、石
201	C16b ₁					平礎		5		縄文土器		
202	C16i ₁	[N-3°-W]	楕円形	8.60×7.00	5~8	平礎	8	4	1	1	人為	縄文土器、石、軟骨
203	C16d ₁		円形	7.42×7.30	20~25	平礎	7	5	1	1	人為	縄文土器、磨製石斧
204	C16e ₁	[N-31°-W]	楕円形	7.08×6.40	10	柱礎 平礎	5	1	1	1	人為	縄文土器、耳飾り、石槍、石錐、 磨石、軟骨
205	C16c ₁	[N-7°-W]	扇形	7.54×6.00	20~24	平礎	6	1	1	1	自然	縄文土器、土製刀剣、軟骨
206	C16f ₃	[N-12°-E]	楕円形	6.95×6.32		平礎	3	1	2	1	縄文土器、軟骨	

台洞号	位置	方位(磁)方向	平面形	底 面 (m) (长×宽)	深 高 (m)	形制	层数	柱+斗	阶	出土 遗 物	备 注
207	C161	N-70°-W	椭圆形	7.30×6.40		抹灰 平座	7	2 4	1	人为	陶文土器、石器、磨石、石、铁骨 S1-1084-1088-204, S1-757-760-801-1082- 本洞, S1-208不明, 石筒(1个) 高)
208	C162	N-44°-W	不规则形	4.83×4.52	28-41	抹灰 平座	4	8	1	自然	陶文土器 S1-239, S1-1062-1147-本洞-S1-210 S1-1082, 磨石
210	C163	N-65°-E	椭圆形	6.40×3.28	3-8	抹灰 平座				人为	陶文土器 S1-208, S1-043-本洞-S1-1061, 磨石土器 以及自然物
211	C162		圆形	5.05×4.80		平座	4	8	1		陶文土器、磨石 S1-1063-111-本洞-S1-832-837 S1-850不明
212	C164	N-44°-W	椭圆形	5.24×5.64	10	平座	4	1 2	1		陶文土器、打穀石等 S1-107, S1-928-950-本洞-S1-1071-1076
213	C165	N-14°-W	椭圆形	5.64×4.78	25-40	平座	3	7	1	自然	陶文土器、磨石、磨穀石等、石 器、磨石、石、铁骨 土器片石筒(1个)
215	C166	N-0°	椭圆形	6.50×3.83	10	平座	4	1	1	人为	陶文土器 S1-1050-1077-1075-1136-本洞-S1-1117
216	C163	N-77°-W	不规则形	4.08×3.48	13-18	抹灰	4	2		人为	陶文土器 S1-1075-1074-本洞-S1-1080
217	C166	N-36°-W	不规则形	6.66×3.70	8			5	[1]		陶文土器、土器片等 S1-819-1068-1066-本洞-S1-219, S1-1064- 1065, 磨石土器, 消失等物
218	C173	N-2°-E	椭圆形	5.41×4.70	12-20	中心 凸座		5	3	自然	陶文土器、土器片等、心器、铁骨 本洞-S1-232-233, S1-1088-1124-1146
219	C166		不规则形	4.30		平座		8	3		S1-217-本洞, S1-1059-1063不明
220	C130	N-23°-E	椭圆形	7.52×5.00		平座	6	8	1		陶文土器、心器 S1-196-2303, S1-905-1084-1085-本洞
228	C136		不规则形	5.40×5.06		平座		1 2			陶文土器 S1-117, S1-1084-1086-1088-1089-本洞-S1- 1089-2304, 磨石(1个)
231	C171	N-44°-E	椭圆形	7.57×5.01	15-20	中心 凸座 抹灰	9	8	1	自然	陶文土器、磨石土器、土器片等 磨石等 土器碎片等
232	C176	N-8°-E	椭圆形	7.02×5.90	8-10	抹灰 平座	9	1 3	1	自然	陶文土器 S1-237-239, S1-1064, 1071-本洞-S1-1065- 1066-1153, 土器碎片等
233	C171	N-45°-E	椭圆形	6.00×5.50	27	抹灰 平座	7	4	3	自然	陶文土器、土器片等、磨石 S1-218, S1-1134-本洞-S1-1145 S1-1083不明
234	C176	N-82°-E	椭圆形	6.24×5.50	14-20	抹灰 平座	8	1 3	1	人为	陶文土器、土器片等、打穀 石等、磨石等 S1-1139-1135-1140-1141-本洞-S1-1142- 1148
235	C172		圆形	5.40×5.15	8-20	凸座	3	2	2	人为	陶文土器、石器 S1-1116-1125-本洞, S1-2358不明
238	C171	N-48°-E	椭圆形	5.34×4.75	50	抹灰 平座		1			S1-2354, S1-1121-1122-1126-1151-1152不明
236	C160	N-77°-W	椭圆形	5.54×4.43		平座	4	8	1		陶文土器 S1-1065-本洞-S1-951, 磨石(1个)
237	C164	N-35°-W	椭圆形	5.22×4.49	10	平座	5	5	1		陶文土器、土器 S1-219, S1-1123-本洞-S1-232, S1-1048- 土器碎片等
239	C176	N-55°-W	椭圆形	5.73×5.08		平座	4	2 2		自然	陶文土器、打穀石等 S1-1128-本洞, 土器碎片等
239	C181	N-38°-W	椭圆形	5.73×4.80			7	1 1	1		陶文土器 S1-1102-1103-本洞-S1-208-232-237, S1-1101

(2) 地下式墳

第1号地下式墳 [SK-715] (第173図)

位置 調査区の北西部, C15b2区。

主軸方向 N-84°-E

竪坑 上面は、長径2.2m, 短径2.1mの不整形円で、深さは1.15~1.42m, 深さ0.5mほどに段差が見られる。

底面は、長軸1.27m, 短軸0.82mの隅丸長方形で、主室に向かって傾斜している。

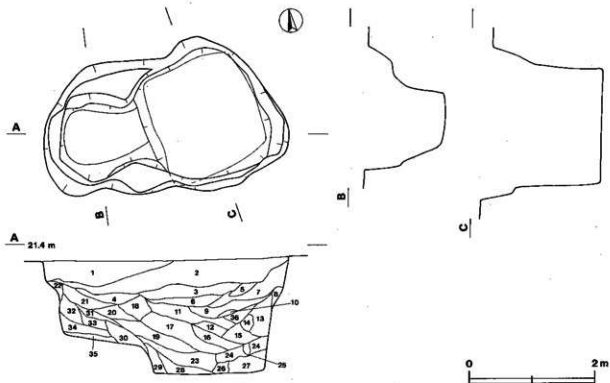
主室 底面は、長軸1.79m, 短軸1.66mの長方形で、平坦である。確認面から底面までの深さは、1.81mである。

壁 竪坑はやや外傾し、主室はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 36層からなる。土層1, 2は自然堆積, 土層10, 17, 26は天井部の崩落である。他はロームブロックを多量に含み、竪坑から人為的に埋め戻したものとと思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 換土粒子・炭化物極少量
- 2 黒色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化物少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック, ローム小ブロック少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量, 締まり極めて強い
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 締まり強い
- 11 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 12 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 14 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, 締まり極めて強い
- 15 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 16 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 締まり極めて強い



第173図 第1号地下式墳 (SK-715) 実測図

- 17 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘性・締まり強い
- 18 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量
- 19 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 20 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 21 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 22 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 23 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 24 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量、締まり極めて強い
- 25 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量
- 26 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子多量、締まり極めて強い
- 27 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 28 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
- 29 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 30 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 31 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 32 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 33 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 34 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 35 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 36 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

遺物 覆土上層から混入と思われる縄文土器片が少量出土している。

所見 時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から中世のものと思われる。

(3) 井戸

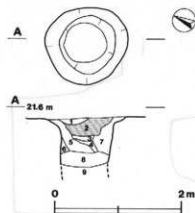
第1号井戸 [SK-339] (第174図)

位置 調査区の南部、D15f区。

規模と形状 掘り方は、上面が径1.15～1.30mの円形で、確認面から20cmほどまでの僅かな間は傾斜を持つが、そこから下は円筒形である。深さ3.0mまで調査したが、底面は確認できなかった。

覆土 9層までの確認に止まったが、上層から下層まで粘土ブロックを含み、人為堆積の様相を示している。

土層2は粘土の充填層で、埋め戻した後粘土で蓋をしたものと思われる。



土層解説

- 1 暗褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量、硬化している
- 2 黄褐色 粘土充填、炭化物少量
- 3 暗褐色 砂粒多量、粘土中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム大ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 粘土中ブロック・小ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム土多量、粘土小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量、粘土中ブロック・粘土小ブロック厚状に中量、ローム大ブロック少量

第174図 第1号井戸実測図

遺物 覆土上層から混入と思われる縄文土器片が極少量出土している。

所見 時期を判断する遺物が出土していないため、時期は不明である。

(4) 土坑

D区で調査された土坑は330基である。ほとんどの土坑が縄文時代中期以降で、遺跡の中央部を囲むように分布している。

ここでは次の観点から①～④に分類して記載した。

- ① 人骨が出土した墓塚及びそれに規模、長軸等類似するもの。
- ② 埋設土器が出土しているもの。
- ③ 袋状土坑、著しく深さのある円筒状土坑及び円形もしくは楕円形で、小ピットを持つ等形状に特徴のあるもの、完形に近い土器や獣骨が出土している等出土遺物に特徴のあるもの。
- ④ その他の土坑

①、②については遺構及び遺物の実測図とともに文章で記述し、③は遺構と遺物の実測図の掲載と、特に遺構についての説明を必要とするもの及び遺物の観察表、拓影図の解説について「第〇土坑」として記述した。

④については遺物の実測図、拓影図及び遺物観察表、拓影図の解説にとどめる。

なお、一覧表で、「土坑の分類」については以下を基準とした。

[平面形]

- A 円形系統
- B 楕円形系統
- C 方形(長方形、隅丸、不整合む)系統
- D 不定形

[壁面]

- I 緩斜
- II 外傾
- III はほぼ垂直
- IV 内傾及び袋状

[規模]

- a 長径100cm未満
- b 長径100cm以上、200cm未満
- c 長径200cm以上

[深さ]

- 1 50cm未満
- 2 50cm以上、100cm未満
- 3 100cm以上、150cm未満
- 4 150cm以上

小ピットを持つものについては、一覧表「P」の欄に数を記入した。

時期については、土坑内の出土遺物で特に時期が集中して量的に多いもの及び底面出土の遺物から推定したが、多時期にわたり、しかも遺物の偏りがない場合は「～」で記載した。出土遺物が少なく、推定困難なものについては空欄とした。

重複関係については備考欄に記載した。

① 墓塚

調査区の中央部で確認され、明確に墓塚と判断できるのは2基であった。他に人骨片が出土している土坑及び規模や形状、長軸方向が類似している土坑7基も含めたが、墓塚としての根拠には欠けている。また、胎児骨が出土している土坑1基も加えた。

第761号土坑(第185図)

位置 調査区の西部、C15ha区。

重複関係 本跡の西部は第763号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-23°-E

規模と平面形 長径1.36m, 短径(1.04)mの楕円形である。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 北部にピット状の掘り込みがあり, 凸凹である。

覆土 5層からなる。下層は自然堆積, 上層は骨片, 土器片を多量に含む混土貝層である

遺物 本跡の中央部, 覆土上層から中層にかけての混土貝層から縄文土器片が多量に出土している。土器片に
洗じり, 鹿の基節骨, 猪の中節骨等の獣骨, タニシ, ヤマトシジミ等の貝類が出土している。また, これら
の獣骨片, 貝の他, 人の大腿骨, 中節骨等の人骨片も出土している。

第218図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片, 2, 3は胴部片で, いずれも微隆起線区面
の磨消帯が見られ, 区画外は縄文が施文されている。中期加曾利EⅣ式に比定される土器である。

所見 本跡からは, 多量の縄文土器片, 獣骨片, 貝に洗じり, 人骨片も出土している。人骨は覆土中層以上の
混土貝層から他の遺物と一緒に出土しており, 埋葬の痕跡は見られない。時期は, 出土遺物から縄文時代中
期加曾利EⅣ式期である。

第767号土坑 (第175図)

位置 調査区のやや西北部, C15gs区。

重複関係 本跡の東部は第766号土坑を掘り込んでいる。

長径方向 N-15°-W

規模と平面形 東側部分が重複のため明確に把握できなかったが, 長径0.82m, 短径 [0.54] mのやや楕円形
である。

壁面 僅かに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 覆土中から縄文時代晩期安行Ⅲb式に比定される土器片と一緒に, 胎児骨1個体(付章参照)が出土し
ている。

第176図1は鉢形土器口縁部片の拓影図である。口縁部は肥厚し, 上端に刻みを施した突起を有する。胴
部には緩やかな弧状をあるいは入り組み状の沈線を描き, 部分的に縄文が施文されている。

所見 本跡は, 出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲb式期のもので, 胎児を埋葬した墓塚と思われる。

第785号土坑 (第175図)

位置 調査区のやや西北部, C15hs区。

長径方向 N-75°-E

規模と平面形 長径0.83m, 短径0.57mの不整楕円形をしている。

壁面 僅かに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなる。土層4, 5の後, 焼土小ブロックを含む土層1～3を人為的に埋め戻したと思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

遺物 覆土中から縄文時代中期の土器片が極少量出土している。土器片に混じり、人の頭蓋骨片が1点出土している。

所見 人骨片は覆土中からの出土であり量的にも少量だが、墓墳としての可能性も考えられる。時期は、細かい特定は困難だが、出土遺物から縄文時代中期と考えておきたい。

第786号土坑（第187図）

位置 調査区やや西北部、C15g区。

長径方向 N-56°-W

規模と平面形 長径1.81m、短径1.59mの楕円形をしている。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 覆土中層から1や2、3の他、多量の縄文土器片や4、5の土製円板、鹿角の破片、猪の臼歯片等が出土している。また、土器片、獣骨片に混じり、人の臼歯も出土している。

第176図2、3は縄文土器片の拓影図である。2点とも中期加曾利EⅠ式に比定される土器である。2は縄文地文で、口縁部及び口縁部文様帯を区画する沈線が施され、区画内に渦巻文が施文されている。3も口縁部片で、隆線で口縁部文様帯の区画文及び渦巻文を描き、区画内には縄文が施文されている。

所見 土器片及び獣骨片は一括投棄と思われる。人骨もこれらの遺物と一緒に出土しており、埋葬の痕跡は見られない。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式期の範疇と思われる。

第837号土坑（第175図）

位置 調査区の中央部、C16h区。

重複関係 本跡の上部は第202号住居跡に、北部は第853号土坑に掘り込まれている。

長軸方向 [N-31°-W]

規模と平面形 北側部分が第853号土坑と重複しているため平面形は不明だが、長軸の残存部分(1.27)m、短軸1.22m、南東側の形状から隅丸方形と推定される。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなり、土層1がロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、小骨片少量含む
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 覆土から縄文土器の細片が極少量出土している。また、底面の北部から臼歯及び中央や南側より人骨が出土している。中央部の骨は風化が著しく、詳細は不明である。

所見 本跡は、出土遺物及び重複関係からの推定となるが、縄文時代中期加曾利EⅡ式期の墓墳と思われる。

第841号土坑 (第175図)

位置 調査区の中央部、C16g1区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に、北西部は第827号土坑に掘り込まれている。

長径方向 [N-41°-W]

規模と平面形 北西側部分が僅かに掘り込まれて部分的に不明であるが、長径 (1.97) m、短径1.24mの楕円形である。

壁面 やや外傾して立ち上がる。

底面 ロームブロックで、凸凹である。

覆土 5層からなり、部分的にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、小骨片極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 覆土中から縄文土器の細片が極少量出土している。底面の北西部から人の頭骨が、ほぼ中央部から大腿骨と下腿骨が並んで出土しており、屈葬と思われる (付章参照)。

所見 重複関係から、第187号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので、本跡はそれ以前の墓塚である。

第842号土坑 (第175図)

位置 調査区の中央部、C16g1区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に、北西部は第858号土坑に掘り込まれている。

長軸方向 N-36°-W

規模と平面形 北西側部分が掘り込まれているが、長軸は残存部分で (1.46) m、短軸1.05m、南東側の形状から平面形は隅丸長方形と推定される。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなる。部分的にロームブロックを含み、人為堆積と思われる。

土層解説

- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 覆土から縄文土器の細片が少量と骨片が出土している。

所見 本跡は、墓塚と断定する明確な根拠には欠けるが、長軸方向、規模が第837、841号土坑と類似している。時期は、判断する遺物が出土していないので重複関係からの推定となるが、第186号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので、それ以前と考えられる。

第858号土坑 (第175図)

位置 調査区の中央部, C16e区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に掘り込まれている。南東側部分は第842号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-22°-W

規模と平面形 西側部分の壁面の立ち上がりが明確でないが、長軸1.85m、短軸(0.98)mの隅丸長方形と推定される。

壁面 僅かに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。南東部の凹みは、本跡を掘り込んでいる新しいピットである。

覆土 4層からなる。いずれも同質の一連の層であり、一気に埋め戻した人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 覆土から縄文土器の細片が極少量出土している。

所見 長軸方向、規模及び形状は第837、841号土坑と類似しているが、墓塚としての根拠は欠けている。時期を判断する遺物が出土していないので重複関係からの推定となるが、第186号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので、それ以前と思われる。

第884号土坑 (第175図)

位置 調査区の中央部, C15g区。

重複関係 本跡の上部は第186号住居跡に、南東部は第827号土坑に掘り込まれている。また、本跡内のピットは本跡よりも新しい。北側部分で第889号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

長軸方向 N-22°-W

規模と平面形 北西側部分の立ち上がりがはっきりしないが、長軸(1.95)m、短軸1.14mのやや隅丸長方形をしている。

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 僅かに起伏がある。

遺物 覆土から縄文土器の細片が極少量出土している。

所見 墓塚としての根拠には欠けるが、長軸方向、規模及び形状が第837、841号土坑と類似している。時期は遺物から判断できないが、重複関係からの推定で、第186号住居跡が縄文時代中期加曾利EⅢ式期のものなので、それ以前と思われる。

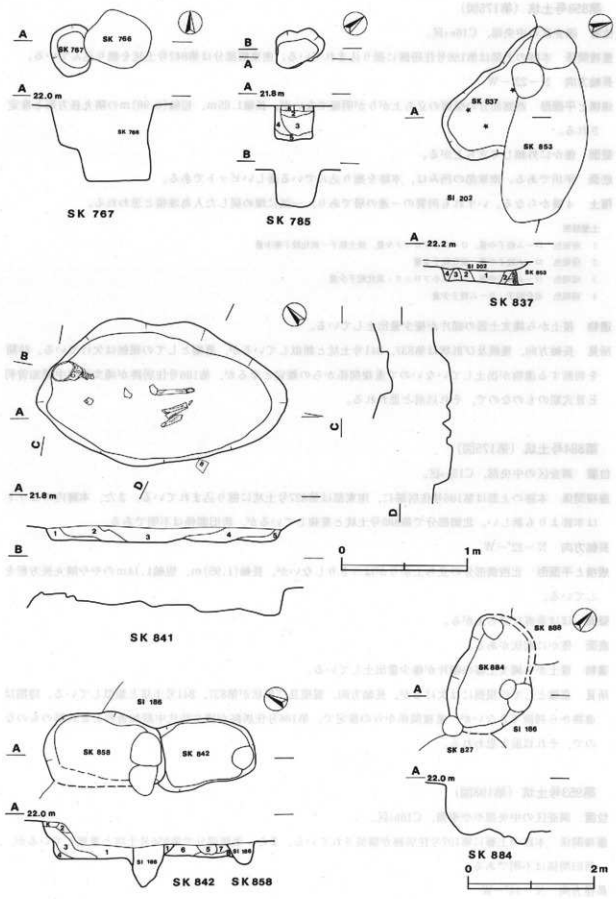
第953号土坑 (第198図)

位置 調査区の中央部やや東側, C16hs区。

重複関係 本跡の上層に第107号住居跡が構築されている。また、東側部分で第956号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

長径方向 N-14°-W

規模と平面形 東側部分が重複のため不明であるが、長径1.80m、短径(1.15)mの楕円形と推定される。



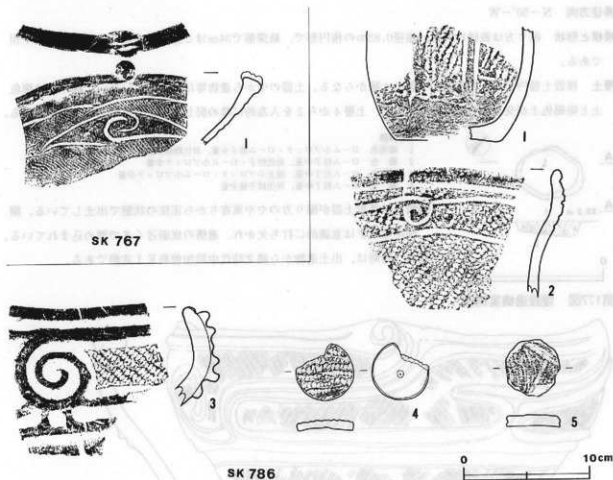
第175図 墓墳 (SK 767, 785, 837, 841, 842, 858, 884) 実測図

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 覆土中から中期加曾利E式期の縄文土器片が極少量出土している。土器片に混じり、人の頭蓋骨片も出土している。

所見 覆土中から人骨片が出土しており、墓塚の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利E式期の範疇と思われる。



第176図 墓塚出土遺物実測・拓影図

第786号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第176図	深鉢形土器	B(9.1)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は内傾しながら立ち上がる。胴部地文として単距縄文R Lを縦位回転で施文し、幅の狭い沈瀬間帯消帯が垂下されている。底部から3cmほどは、文様が磨り消されている。	砂粒・パミス	P226 5%
1	縄文土器	C(8.5)		灰褐色	覆土 (加曾利EⅡ)

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第176図4	土製円板	(4.5)	4.5	0.9	(18.3)	70	表面に単距縄文R L 裏面に未貫通孔 一部欠損	BP53 覆土
5	土製円板	4.4	4.4	1.0	22.0	100	表面に縄文及び磨消帯	BP54 覆土

② 埋設遺構

埋設遺構は調査区の東部で1基検出されている。

第1148号土坑 (第177図)

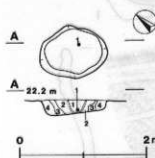
位置 調査区の東部, C17d区。

重複関係 本跡は, 第234号住居跡の床下から確認され, 本跡の方が古い。

長径方向 N-50°-W

規模と形状 掘り方は長径1.07m, 短径0.82mの楕円形で, 最深部で34cmほど掘り込まれている。底面は平坦である。

覆土 埋設土器内1層, 掘り方が3層の4層からなる。土器の中から遺物等は出土していない。掘り方は褐色土と暗褐色土が交互に土器を囲んでおり, 土層4から2を人為的に埋め戻した後土器を埋設したと思われる。



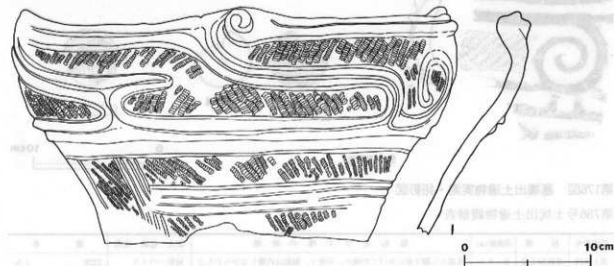
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極少量

遺物 深鉢形土器が掘り方のやや東寄りから正位の状態出土している。胴部中位以下は意識的に打ち欠かれ, 遺構の底面近くまで埋め込まれている。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代中期加曾利E I式期である。

第177図 埋設遺構実測図



第178図 埋設遺構出土遺物実測図

第1148号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第178図 I	深鉢形土器 縄文土器	A 33.4 B (18.4)	胴上部から口縁部にかけての腹片。胴上部は外傾して立ち上がり, 口縁部は内彎する。口縁部は僅かに波状を呈し, 波頂部には渦巻文が施文されている。胴部に広がる狭い無文帯で, 口縁部と胴部の文様帯が分離されている。口縁部文様帯は沈線を含む隆線を上下に高らせ, 区画内に沈線と隆線で渦巻文, クラック文を抜き, 縦間に単純縄文Rしを施文されている。胴部文様帯は胴部下に広がる浅い沈線以下に展開され, 地文の縄文の上に3-4本の平行沈線が直線的に縦横に描かれている。	砂粒・雲母・石英・長石 に白い吸色 普通	P958 埋設土器 (加曾利E I)

③ 形状及び出土遺物に特徴のある土坑

ここでは、平面形や断面形等形状に特徴の見られる土坑と完形に近い土器や獣骨等出土遺物に特徴のある土坑170基について、遺構実測図、遺物がある場合には遺物の実測図、拓影図を載せ、さらに解説を必要とするものについては文章で記述する。

第253号土坑（第179図）

本跡から遺物は出土していない。断面形が袋状をしていることから、縄文時代中期の土坑の可能性が考えられる。

第257号土坑（第179図）

覆土中から縄文土器が出土している。第211図1～4もすべて覆土中層からの出土である。

第211図2～4は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、隆線に沿う角押文が施文されている。3、4は胴部片で、隆線に沿って数本単位の平行沈線が胴部に施文され、4は隆線に沿って結節沈線文が2列施されている。いずれも地文はなく、中期阿玉台Ⅱ～Ⅲ式にかけての土器である。

第291号土坑（第179図）

深さ197cmの円筒状の土坑で、覆土中から多量の縄文土器、骨片及び貝が出土している。特に中層以下の8層、10層からはヤマトシジミの他にイシガイ、タニシ類、マツカサガイ等の貝がブロック状に出土しており、さらに上下の層からも出土している。貝粉に交じって猪、鹿等の獣骨片及び魚骨も出土している（付章参照）。土器は、4の白付鉢が底面から出土しており、他の土器も覆土中層以下から貝や獣骨に交じって出土している。本跡が本来の機能を終了して廃絶された後、廃棄遺物の投棄場所的性格を持ちながら埋没していったものと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲa～Ⅲb式期前後である。

第212図6～16は縄文土器片の拓影図である。6、7は波状口縁部片で、波頂部に刻みを加飾した角状突起を有し、下に縦長貼瘤、胴上部に三叉文が彫刻されている。8は口唇部上端に横長突起、口縁部に縄文帯、胴上部には下向き弧線の区画内に縄文が施文されている。9は口唇部突起の内面に三叉文、胴上部にも玉抱き三叉文的文様が施文されている。10は僅かに波状を呈する口縁部片で、波頂部と波頂部下に突起を有し、胴部には入り組み文及び三叉文が施されている。11も口縁部片で、口唇部に小突起、頸部に凸凹の隆帯が付けられ、間に曲線的文様が沈線で施文されている。12は波状口縁部片で、波頂部に小突起を有し、口縁部には上向き弧線の区画内に縄文を施文し、頸部の沈線以下にも縄文が施文されている。13は口縁部以下2段の縄文帯の下に横長突起が貼り付けられている。これらは晩期安行Ⅲa～Ⅲb式に比定される土器である。14は粗製土器の口縁部片で、口唇部に巡る刻文帯に縦の刻文帯が接続しており、口唇部下に施文された斜行条線を縦の沈線が切っている。15も粗製土器の胴部片で、頸部に刻文帯が見られる。後期安行Ⅱ式～晩期安行Ⅲa式の範疇と思われる。16は内傾する胴上部片で、外面は研磨、赤彩され、2段の隆起帯刻文が施されている。後期末前後の時期と思われる。

第294号土坑（第180図）

深さ193cmの円筒状の土坑である。覆土中から縄文土器の細片が出土しているが、ほとんど上層からの出土である。第212図1～3は覆土上層から出土している。覆土中層以下の出土遺物は極少量である。出土遺物は中

期から晩期の土器が混在しており、時期は特定困難だが、縄文時代後期後葉から晩期前葉前後と考えておきたい。

第212図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部片で、口唇部に突起が付され、口縁部は沈線区画の縄文帯で、以下磨唐帯を挟んで弧状沈線区画の縄文帯が見られる。3は口唇部突起片で、内・外面に刺突状の刻みが施されている。

第324号土坑（第179図）

本跡は断面が円筒状の土坑であるが、遺物が出土していないため時期及び性格は不明である。

第325号土坑（第179図）

規模に比較して覆土層から下層にかけて一括放棄と思われる多量の土器が出土している。第213図4は底面から、6の注口土器の破片は覆土下層から横位の状態で出土している。14の石鏝も覆土中から出土している。また、猪や他の獣骨片も覆土中から出土している（付章参照）。本跡の底面は踏み締められ、ピット状の掘り込みが5か所程度に見られる。そのうち3本は同様の規模で、ほぼ等間隔に位置している。遺構の性格は不明だが、時期は出土遺物から縄文時代後期安行式期と思われる。

第214図7～11は縄文土器片の拓影図である。すべて口縁部片で、7は口縁部と頸部に刻文帯が施され、器面に斜行条線が施されている。8は口縁部に2段の刻文帯が見られ、以下に縄文が充填され、9はやや下向き弧状の条線を浅い沈線が切っている。10、11は口縁部以下3段の縄文帯が見られ、要所に貼瘤が付されている。10は波状口縁である。

第496号土坑（第180図）

深さ190cmの円筒状の土坑で、覆土中層の土層5から埋葬したと思われる犬の頭骨が出土している（付章参照）。他に中期加曾利EⅣ式～後期堀之内式までの土器の細片が極少量出土している。本跡の時期特定は遺物が少量のため困難であるが、縄文時代後期前葉と考えておきたい。

第503号土坑（第180図）

覆土中から縄文土器の破片が出土している。袋状土坑で、遺構の形態及び出土遺物から、時期は縄文時代中期中葉と思われる。

第214図3は縄文土器口縁部片の拓影図である。波状口縁で、爪形文を施した隆帯の区画文の内部に半截竹管による平行沈線、刺突文が施されている。中期勝坂Ⅱ～Ⅲ式の土器と思われる。

第504号土坑（第180図）

覆土中層から土器の細片が極少量出土している。遺物による時期判断は困難であるが、重複関係から縄文時代中期加曾利EⅢ式期以降が本跡の時期と思われる。

第716号土坑（第180図）

覆土中層以下から少量の土器片が出土している。第215図1は南壁際の底面から出土している。僅かに袋状を呈する土坑で、時期は出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期末～加曾利EⅠ式期初頭である。

第215図2は縄文土器片の拓影図である。頸部の破片と思われ、地文の縄文が磨り消され、上下に隆線が施されている。

第717号土坑 (第181図)

覆土中から土器片及び獣の小骨片が極少量出土している。第215図1は西部覆土下層から出土した胴部片である。縄文地文の上に、隆線による区画を施し、区画内にベン先文と波状沈線が施されている。中期層坂式の影響が見られる。遺構形態は楕円形で、西壁際に深さ117cmのビットが掘り込まれている。時期は、縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期前後と思われる。

第721号土坑 (第181図)

第215図1は覆土中から出土した縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、上端に凹孔を有する突起を口唇部に有し、外面は縄文が施文されている。縄文時代後期壱之内1式に比定される土器である。

第722号土坑 (第181図)

袋状土坑で、縄文土器の細片が覆土中から極少量出土している。時期は、遺構の形態から縄文時代中期と思われる。

第723号土坑 (第181図)

袋状土坑で、覆土中層から縄文土器の細片が出土している。第215図1は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で縄文地文、内部に沈線を沿わせた隆帯による区画内に小波状の沈線が施されている。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期である。

第728号土坑 (第182図)

袋状土坑で、底面に小ビットを持つ。覆土中層から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式～加曾利EⅠ式の土器片が出土しており、時期もこの範疇と思われる。

第729号土坑 (第182図)

底面壁際に小ビットを2か所持つ。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式の土器片が出土しており、時期もこの前後と思われる。

第732号土坑 (第181図)

袋状土坑で、底面は中央部に小ビットを持つ。底面及び覆土中から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期前後の土器が出土しており、時期も該すると思われる。第216図1は中央部やや南西側の底面から出土している。

第216図2は中期阿玉台Ⅲ式に比定される波状口縁の波頂部把手片の拓影図である。頂部に通孔が見られ、外面には隆帯による区画内にベン先文が施文されている。

第734A号土坑 (第182図)

袋状土坑で、覆土中層から比較的多量の土器片が出土している。主体となる遺物が縄文時代中期阿玉台Ⅲ式

で、本跡の時期も該すると思われる。底面に見られる小ピット状の第760 B号土坑は後世の掘り込みである。

第216図4は中期阿玉台式の範疇の浅鉢片の拓影図である。口縁部に連続押捺が見られ、内面は口縁部と胴部の境に段が見られる。

第734 B号土坑 (第182図)

ピット状の土坑で、底面から第216図1が出土しており、時期は縄文時代後期安行I式期である。

第736号土坑 (第183図)

小ピットを3か所有する土坑で、そのうち1か所は中央部に位置している。中央部覆土下層から鹿の小骨片が出土している。覆土から縄文土器片が出土しているが、中期から後期のものが混在しており、時期は特定できない。

第738号土坑 (第183図)

西部覆土中層に貝層が見られ、直下には灰が薄く堆積している。その北側覆土下層からは猪、鹿及び鳥等の骨片が出土している(付章参照)。遺物は中期加曾利EⅡ式～後期加曾利BⅠ式のものが混在しており、時期は特定困難である。

第739号土坑 (第184図)

西部覆土下層から、縄文時代中期加曾利EⅣ式に比定される第217図1が正位の状態出土しており、本跡の当該期と思われる。

第740号土坑 (第184図)

本跡の底面で3か所のピットが確認されている。径16cm、深さ25cmの小ピットがほぼ中央部に位置している。南西壁際のやや大きなピットは後世の掘り込みと思われる。中央部覆土中層から第217図1が正位の状態出土している。2も覆土中からの出土であるが、時間的に古く流れ込みと思われる。また覆土中から猪の小骨片も出土している(付章参照)。時期は、縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後と思われる。

第217図2は縄文土器口縁部片の拓影図である。ベン先状の連続刺突文や沈線に沿う偏平な隆線を口縁部に貼り付け、隙間には条線状の集合沈線が見られる。隆線以下は無文である。中期阿玉台Ⅲ式の範疇の土器である。

第745号土坑 (第184図)

覆土中から少量の遺物が出土している。第217図1、2は出土土器片の拓影図である。1は胴部片で、沈線区画の曲線の磨消帯が施文され、区画外には縄文が施文されている。後期称名寺1式に比定される土器である。2は浅鉢形土器の口縁部片で、口縁部の連続刺突文の下に沈線区画の縄文帯が見られる。後期加曾利B2～3式に比定される土器である。1は覆土下層から、2は南西壁際覆土上層からの出土である。時期は、主体となる遺物から縄文時代後期初頭と考えておきたい。

第755号土坑（第184図）

覆土中から縄文時代の土器片が極少量出土している。第217図1は北西部覆土上層からの出土である。他の遺物は時期が拡散しており、時期は不明である。

第760号土坑（第185図）

本跡は、第207号住居跡の炉を掘り抜いているビット状の土坑で、第218図1の深鉢形土器と2の土製円板が覆土中から出土している。時期は、1が縄文時代後期網取1式並行の土器なので、本跡の時期も該期と思われる。

第762号土坑（第185図）

第218図1は本跡から出土している縄文土器片の拓影図である。胴部片で、微隆起線区画の磨消帯が見られ、区画外は縄文が施文されている。本跡の覆土中層以上からは、猪の歯や骨片が土器に混じり出土している（付章参照）。また、2の球状耳飾りも覆土中から出土している。上層は廃棄遺物が一括投棄されていると思われる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期である。

第763号土坑（第185図）

本跡の北側覆土中層以上から土器片及び獣骨片が出土している（付章参照）。窪地を利用して投棄したものとされる。時期は、第761号、762号土坑との重複関係から、縄文時代中期加曾利EⅣ式期以前である。

第764号土坑（第185図）

平面形は楕円形で、底面にビットを3か所有する。ビットはほぼ一直線に並び、径36～50cmの円形で、深さ69～98cm、壁際のビットが中央のビットに比較しやや深い。時期は、縄文時代中期加曾利EⅢ式期に比定される第218図1が西壁際覆土中から出土しており、該期であると思われる。

第766号土坑（第181図）

本跡の覆土中層から第219図1の底部片や2～4の把手、7の土製円板が出土している。この他多量の縄文土器片に混じって、鹿角、獣骨片及び貝が出土しており、これらの遺物は一括投棄と思われる（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期である。

第219図5、6は縄文土器片の拓影図である。2点とも口縁部片で、加曾利EⅣ式に比定される土器である。単節縄文RL地文で、口縁部及び胴部に微隆起線区画の磨消帯が施されている。

第768号土坑（第185図）

本跡の規模に比較して、覆土中層から下層にかけて多量の縄文土器片と第220図5の磨石が出土している。また、覆土中には小骨片も極少量であるが含まれている。時期は、出土遺物から縄文時代後期加曾利B2式期である。

第219～220図2～4は縄文土器片の拓影図である。2は粗製土器の口縁部片で、胴部に縄文を施文し、口縁部は指頭による押捺を加えた粘土紐が貼り付けられている。3は胴部片で、地文に縄文を施文し、沈線と押捺加飾の粘土紐がやや斜行気味に施文されている。4は鉢形土器の胴部片で、数本の平行な横走沈線を切る「0」

状の沈線が見られる。後期加曾利B 2式に比定される土器である。

第769号土坑（第185図）

覆土上層から中層にかけて多量の縄文土器片が出土しており、一括投棄と思われる。第220図1の台付土器台部、2の把手も覆土中から出土している。また、覆土上層には猪の骨片も含まれている（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代後期福之内式期である。

第773号土坑（第186図）

土層4、5から縄文土器片、第220図1の石錐、猪及び鹿等の獣骨片が出土している（付章参照）。出土遺物は、縄文時代中期から後期にかけてのものが出土しているが、主体となる遺物は中期であり、本跡の時期も該期と考えておきたい。

第775号土坑（第185図）

底面からピットが中央部に1か所（径50-65cm、深さ67cm）、西壁寄りに1か所（径75-80cm、深さ80cm）確認されている。縄文時代中期加曾利EⅡ式に比定される第220図1が西側のピットの上層から出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。

第776号土坑（第186図）

覆土中層から第220図1の有孔銅付土器片と猪の骨片が出土している（付章参照）。出土遺物が極少量で、時期を判断するには困難であるが、1が縄文時代中期加曾利EⅣ式前後と考えられるので、本跡の時期もこの前後の可能性が考えられる。

第777・778・779号土坑（第186図）

3基とも出土遺物は極少量である。第777号土坑からは中期から後期の土器片が、第778号土坑からは中期の土器片、第779号土坑からは中期から後期の土器片が出土している。第220図1の耳飾りは第778号土坑の覆土上層からの出土で、遺構に伴わない可能性が高い。時期を判断する遺物が出土していないため時期不明だが、土層の切り合い関係から、第779号土坑は第777号土坑より新しい。

第781号土坑（第187図）

本跡は、深さ280cmの円筒状の土坑である。覆土中層から集中的に縄文時代晩期の土器が出土している。第221図1-3は同位置から出土しており、さらに約30cm下層から第222図8の注口土器が正位の状態で出土している。他に鹿角、猪、兎、鳥、魚の骨片や貝も多量出土している（付章参照）。深さ160cm前後の覆土中には、投棄と思われる灰が径65cmほどの円形状の範囲で堆積しており、この直上からは40-50cmの厚さで炭化物、小骨片がやや多く出土している。底面からも骨片が出土している。この土坑が廃絶された後は、廃棄遺物の投棄場所的な性格を持ちながら、自然に埋没していったものと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲa式期である。

第222図9-14は縄文土器片の拓影図である。9は浅鉢形土器の胴上部から口縁部にかけての破片で、口唇部に小突起、口縁部と胴部に充填の縄文帯が見られる。10、11は浅形土器の口縁部破片で、口縁部の文様構成は

9と類似しているが、胴上部に見られる縄文帯の沈線区画が、10はやや斜行し、11は下の沈線が曲線を描いている。12、13は粗製土器の口縁部片で、12は口縁部と頸部に粘土紐貼り付けの刻文帯を巡らせ、口縁部刻文帯の下にはやや斜行する条線が施され、内部磨り消しの平行沈線が文様を切断している。13は口縁部に上向き弧状の条線が施されている。14は胴部片で、沈線区画の縄文帯が横あるいはやや斜めに施され、円形の貼瘤で接続している。これらは晩期安行Ⅲb式に比定される土器である。

第788号土坑（第188図）

北壁際覆土中層から第223図1の小形土器が出土している。第790号土坑との重複関係からみると本跡の方が新しく、縄文時代中期加曾利EⅢ式期以降の土坑であり、しかも出土遺物も中期加曾利EⅢ～Ⅳ式のものが多いので、1は流れ込みと思われる。

第789号土坑（第188図）

底面から5か所のビットが確認されている。北側のビットは深さが24cmで楕円形、西側のビットは深さが32cmで円形、南側のビットは大形で深さが53cmである。また、中央に2か所のビットがあるが、1か所は深さ25cm、もう1か所は深さが72cmである。覆土上層から中層にかけて多量の土器が出土しており、一括投棄と思われる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期である。

第223図2～8は縄文土器片の拓影図で、8を除きすべて中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。2～5は地文に単節縄文が施され、2は口縁部磨り消し、胴上部に波状平行沈線が施文されている。3は口縁部沈線区画で、胴部にも沈線区画の磨消帯が垂下されている。4は沈線、隆線で区画文及び渦巻文を描き、口縁部文様帯を構成している。5は口縁部に楕円形及び長方形の区画文を施し、胴部には沈線区画の磨消帯が垂下されている。6は熱糸文が地文で施され、口縁部に2段の列点文、胴上部に波状平行沈線を横走させ、区画内は磨り消されている。7は胴部片で、熱糸文が地文に施され、沈線による区画文が描かれ、区画間は磨り消されている。8は中期加曾利EⅠ式に比定される土器の口縁部片で、沈線を沿わせた隆線で口縁部文様帯を構成している。

第790号土坑（第188図）

本跡の西側部分は第788号土坑に掘り込まれている。西側にビット状の掘り込みが2か所確認されている。覆土中から縄文土器片、石皿に混じり獣骨の小片が出土している（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ～Ⅳ式期前後と思われる。

第223図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は波状口縁で、口縁部無文帯、胴部との境に微隆起線が施され、舌状の突起が付されている。微隆起線以下は単節縄文が施されている。中期加曾利EⅣ式の範疇と思われる。2は胴部片で、地文の単節縄文を沈線区画の磨消帯が切断している。中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。

第791・792・793号土坑（第188・189図）

3基の出土遺物の主体を占める時期は、第791号土坑が中期加曾利EⅢ式期、第792号土坑が中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期、第793号土坑が中期加曾利EⅢ式期以降で後期も混入している。また、791、793号土坑からは獣骨片も出土している（付章参照）。しかし、いずれの土坑も遺物の出土量が少量で、時期を特定するまでは至ら

ない。土層の切り合いから、第792号土坑は第791号土坑より新しい。

第794号土坑（第189図）

北東壁寄りと南東壁寄りの底面からピットが2か所確認されている。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅡ式主体の土器片が出土している。また、西部覆土中層から第224図1の浮子が出土している。

第795号土坑（第189図）

本跡の南部底面近くからオスの猪の頭部が出土している（付章参照）。覆土中層から下層にかけて、縄文時代中期加曾利EⅢ～Ⅳ式にかけての遺物が少量出土している。

第796号土坑（第189図）

本跡の全面、覆土上層から下層にかけて縄文土器片と鹿、猪等の獣骨片が出土している（付章参照）。第224図1、2は覆土中層及び底面から出土している。遺物は破片が多く、一括投棄と思われる。時期は、出土遺物から縄文時代後期掘之内式期である。

第224図5は縄文土器片の拓影図である。波状を呈する口縁部片で、外面には単節縄文RⅠが粗く施文されている。後期掘之内式に比定される土器である。

第797号土坑（第189図）

覆土中から縄文土器片が出土しているが、縄文時代中期から後期のものが混在している。土器片に混じり、鹿の歯片が出土している（付章参照）。

第801号土坑（第190図）

袋状土坑で、底面から2か所の小ピットが確認されている。覆土中及び底面から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式にかけての土器が出土しており、本跡の該期と思われる。縄文土器に混じって、覆土中から狸、鹿及び鳥の骨片も出土している（付章参照）。

第807号土坑（第191図）

楕円形の土坑で、底面からピットが3か所確認されている。中央のピットは径22cmほどで、深さ60cm、南壁際と北西壁際のピットは、径は中央のピットよりも大形だが、深さは25～35cmと浅い。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式前後の土器片が少量出土しており、時期も前後の可能性が考えられる。土器片に混じり、猪の歯も出土している。

第808号土坑（第189図）

覆土中から第225図1の小形土器と2の波状口縁部片の2点が出土しているが、他に出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

第810号土坑（第191図）

本跡の底面から、径45～55cm、深さ24～38cmのピットが2か所確認されている。遺物は、覆土中から縄文時

代中期加曾利EⅡ式の範疇の遺物が出土しており、本跡の時期もこの前後と思われる。土器片に混じり、鹿、猪の骨片が出土している（付章参照）。

第814号土坑（第191図）

覆土中から、縄文時代中期加曾利EⅡ～Ⅲ式の土器片が出土している。東部覆土上層から、獣骨片が出土している。

第817号土坑（第192図）

袋状土坑で、第195号住居跡の床下から確認されている。中央部やや北側の底面からピットが確認されている。時期は、覆土中から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式の遺物が出土しており、遺構の形態からも該期と思われる。

第225図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部隆帯区画内に爪形文、ベン先文、鋸歯状沈線及び横走沈線が施文され、隆帯上には縄文が施文されている。2も口縁部付近の破片と思われる、爪形文を施した隆帯が見られる。いずれも中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式にかけての土器である。

第820・821号土坑（第182図）

第820号土坑覆土中から縄文時代中期の遺物が極少量出土しているが、時期は特定できない。また、第821号土坑は袋状土坑で、北部底面から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式に比定される第225図1が正位の状態で出土しており、遺構の形態からも該期と思われる。第820、821号土坑は中央に第734A号土坑を挟んでいるが、新旧関係は不明である。

第822号土坑（第192図）

第197号住居跡の床を掘り込んでいる小土坑で、底面から第225図2が口縁部を上にして斜位の状態で、並んで1の壺形土器が完形で横位の状態で出土している。これらの遺物は時期的に隔たりがあるが、土坑内に置かれたのは同時期と思われる。他に遺物は出土していないことから、本跡の時期は2の縄文時代後期安行Ⅱ式期が該期と思われる。

第823号土坑（第192図）

上面は長径1.16m、短径1.01mの不整楕円形だが、底径は62～70cmのやや楕円形で、深さは129cmである。底面から第226図1が、他に覆土中から縄文時代中期の遺物が極少量出土している。

第824号土坑（第192図）

第182号住居跡の床を掘り抜いているピット状の土坑で、覆土中から第226図1の浅鉢形土器が1点出土しているだけである。1が縄文時代後期安行Ⅰ式に比定されることから、本跡の時期と思われる。

第825号土坑（第192図）

径1.15m、深さ135cmの円筒状の土坑で、覆土中から縄文土器片に混じり、小型犬の下顎及び猪の骨片が出土している（付章参照）。土器は、縄文時代後期称名寺2～堀之内Ⅰ式並行のものが出土しており、本跡の該

期と思われる。

第226図1～4は縄文土器片の拓影図である。いずれも口縁部片で、1は僅かに波状を呈し、波頂部内・外面に刺突文が施され、胴上部に連続刺突を加えた隆線を巡らせ口縁部と胴部を分離し、中央に沈線を加飾した楕円形の隆線で波頂部と胴部を結んでいる。2、3は波状口縁の波頂部に通孔を有する突起が付され、沈線及び刺突文で文様を構成している。2には列点文が見られる。4も波状口縁で、連続刺突文加飾の隆線が「十」字状に口縁部下で交差し、口縁部は無文帯、胴部は縄文が地文に施されている。いずれの土器も後期竈取式の影響が強い。

第826号土坑 (第184図)

袋状土坑で、底面及び覆土下層から遺物が出土している。第226図1は南西壁際底面から、2～4は北西部底面から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ式期である。

第226図2～4は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部文様帯が爪形文を沿わせた隆帯で構成され、小波状沈線も見られる。3は波状口縁の波頂部で、隆帯の区画内に爪形文が施されている。4は胴部片で、横走する隆帯以下は半載竹管による平行沈線が縦方向に充填されている。

第827号土坑 (第192図)

円形の土坑で、底面及び覆土中から縄文土器が出土している。底面の西部にピットが見られるが、第186号住居跡に伴うものである。時期は、出土遺物から縄文時代後期堀之内2式期前後である。

第828号土坑 (第192図)

深さ84cmのピット状の土坑で、底面から第227図1が台裾部を上にした状態で出土しており、他は細片が極少量出土している。時期は、出土遺物から縄文時代後期安行Ⅰ式期である。

第830号土坑 (第192図)

本跡は、第192号住居跡の床下から確認されている。覆土中から縄文土器片が出土しており、第227図1も覆土中層から出土している。遺物の時期は、縄文時代中期加曾利EⅢ式期～後期称名寺式期のものが混在しており、本跡の時期もこの範囲と思われるが特定は困難である。

第227図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部文様帯を沈線と隆線の区画文で構成し、区画内は単節縄文が施され、胴部は地文の単節縄文を沈線区画の磨消帯が切っている。中期加曾利EⅢ式に比定される土器である。3は地文の単節縄文の上に微隆起線区画の磨消帯で曲線的文様が施されている。

第834号土坑 (第190図)

底面にピットを4か所有する。中央部に位置するピットは径25cmの円形で、深さ30cm。壁際のピットは長径55～83cm、短径36～62cmの楕円形で、深さは、北側が81cm、東側が60cm、南西側が24cmである。覆土中から縄文土器片が出土しており、第227図2、3は南西部覆土下層から出土している。1は时期的に古く、流れ込みと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅢ式期前後と思われる。

第227図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は前期浮島Ⅱ～Ⅲ式の範疇の土器片で、口唇部に半載竹管による三角刺突文が施され、外面に波状貝殻文が施されている。2、3は中期加曾利EⅢ式に比定される土器

片で、2は口縁部に沈線及び隆線による渦巻文、胴部は沈線区画の磨消帯が垂下している。3は胴部片で、地文の単筋縄文RLが沈線区画の磨消帯に切られている。

第838号土坑（第190図）

規模に比較して多量の遺物が覆土中から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と考えておきたい。

第228図1～2は縄文土器片の拓影図で、2点とも口縁部片である。1は数本単位の条線が胴部を垂下し、2は沈線で文様が描かれている。後期前葉段階の土器と思われる。

第845号土坑（第190図）

円筒状の土坑で、深さ124cm。第202号住居跡の床を掘り抜いている。覆土中から縄文土器片及び獣骨片1点が出土している。主体となる遺物は縄文時代後期安行Ⅰ式期で、本跡の該期と思われる。

第228図1～4は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。1は口縁部に縄文帯が施され、沈線以下は横方向の条線を切断する内部縄文施文の月状文が見られる。晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。2～4は後期安行Ⅰ式に比定される土器で、2は口縁部と頸部に押捺を加えた粘土紐を貼り付け、器面には右下がりの斜行条線が施文されている。3は沈線区画の隆起帯縄文が多段に施され、縄文帯間を磨り消し、口縁部と2段目の縄文帯を結ぶ帯が貼り付けられている。4は口縁部と胴部に刻文帯が2段に構成され、刻文帯間には矢羽状の細沈線が充填されている。2段目刻文帯には貼瘤が見られる。

第847号土坑（第190図）

覆土中から縄文土器片と小骨片が出土している（付章参照）。出土遺物は極少量で、縄文時代中期から後期にかけてのものが混在しているため、時期は特定困難である。

第852号土坑（第193図）

袋状土坑で、底面のやや南側に径30cm、深さ10cmの円形ピットが確認されている。覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ～加曾利EⅠ式期にかけてと思われる。

第229図5～6は縄文土器片の拓影図である。5は波状口縁の波頂部片で、外面に縦、横の沈線で地文の縄文の上に直線的な文様が描かれている。波頂部内面に見られる隆帯が、波頂部から垂下する際にねじりを加えて外面に出てくるとと思われる。中期加曾利EⅠ式の古手の段階と思われる。6も波状口縁で、波頂部外面に曲線的な文様を隆帯で描き、隆帯に沿って爪形文が施されている。中期阿玉台Ⅳ式の範疇と思われる。

第854号土坑（第193図）

深さ120cmの円筒状の土坑で、壁は僅かに外傾する。縄文土器片に混じて鹿等の獣骨片が覆土中から出土している（付章参照）。遺物は、後期加曾利B式期から晩期安行Ⅲa式期にかけてのものが混在しており、時期は縄文時代後期の範疇と考えて置きたい。

第230図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は晩期安行Ⅲa式に比定される土器で、口縁部沈線以下のやや下向き弧状の条線が、月状文及び斜行平行沈線に切られている。2は後期加曾利BⅠ式に比定される鉢形土器で、口縁部内面に沈線、外面は押捺加飾の粘土紐が貼り付けられ、胴部には地文の縄文を切る4本単位の

細い斜行平行沈線が施文されている。

第859号土坑（第194図）

上面は径1.80～1.88mの円形で、深さ30cmほどの所で平坦面が出現し、またはは垂直に掘り込まれ、途中でオーバーハングして底面に至る。出土遺物も、第230図1の中期の土器と一緒に3の後期の土器も出土している。1は覆土下層からの出土である。本跡は、やや袋状の深い土坑の上に、径1.80～1.88m、深さ30cmほどの後世の遺構が構築されたと思われる。出土遺物から、やや袋状の古い土坑は縄文時代中期加曾利EⅠ式期で、上の後世と思われる遺構はそれ以後と思われる。

第230図3は縄文土器片の拓影図である。浅鉢形土器の口縁部片で、数本単位の沈線で、口縁部は直線的、胴部は曲線的な文様が描かれている。

第871号土坑（第195図）

中央部底面近くから小骨片が出土している（付章参照）。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅠ式期を主体とする遺物が極少量出土している。

第875号土坑（第195図）

本跡の底面からビットが2か所確認されており、1か所はほぼ中央に、他の1か所は北部に位置している。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅠ～EⅡ式を主体とする遺物が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第881号土坑（第195図）

ビット状の土坑で、覆土中から縄文土器片に混じて小骨片が出土している（付章参照）。第230図1、2は本跡出土の縄文土器片の拓影図である。1は後期安行Ⅰ式に比定される粗製土器で、口縁部に爪形の刻文帯が2段施され、縦方向の条線が施文されている。2は後期加曾利BⅠ式に比定される土器で、入り組み状の区画文内部に縄文が施文されている。その他、後期堀之内式期～安行式期の遺物が混在しており、時期は縄文時代後期と考えておきたい。

第886号土坑（第196図）

底面にビット状の掘り込みが見られる。覆土中から極少量の縄文土器片に混じり、猪、鹿の骨片が出土している（付章参照）。出土遺物の時期は、縄文時代中期加曾利EⅣ式期～後期安行式期までのものが混在しており、量的にも少なく時期の特定は難しい。

第231図2、3は縄文土器片の拓影図である。2は口縁部上端と直下に刻みを施した突起を有し、器面には細い沈線で文様が描かれている。3は粗製土器の口縁部片で、斜行条線が施文され、口縁部以下沈線区画の刻文帯が2段に施されている。2点とも後期安行Ⅰ式に比定される土器である。

第900号土坑 (第194図)

第231図1は縄文土器片の拓影図である。胴上部から口縁部にかけての破片で、胴部に細い沈線帯で文様が描かれている。縄文時代後期期之内式の範疇の土器と思われる。

第938号土坑 (第196図)

ほぼ中央部に径25cmの円形で、深さ54cmのピットが確認されている。北側にもやや大形のピット2か所が確認されている。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅣ式期前後である。

第231図1は縄文土器片の拓影図である。口縁部は無文帯で、胴部との境の微隆起線以下には縄文が施文されている。中期加曾利EⅣ式に比定される土器である。

第943号土坑 (第196図)

楕円形の土坑で、中央部やや西寄り、土層1の最下層から土層2の直上にかけて土器がまとまって出土しており、一括投棄と思われる。時期は、出土遺物から縄文時代後期安行Ⅱ式期である。

第231図4は縄文土器片の拓影図である。口縁部は隆起帯縄文で、口唇部に舌状の突起を有する。胴上部には沈線区画の刻文帯を2段巡らせ、要所にブタ鼻状貼瘤、胴部下半は僅かに斜行する条線が施文されている。後期安行Ⅱ式に比定される土器である。

第946号土坑 (第196図)

楕円形の土坑で、覆土中層から縄文土器片が出土している。第231図1の底部片は西部覆土中層から横位の状態で出土している。時期は、主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ～Ⅱ式期である。

第947号土坑 (第197図)

覆土中から中期加曾利E式期～後期安行式期までの土器片及び猪の骨片と歯が出土している(付章参照)。主体となる遺物は後期の土器であるが、第949、950号土坑との重複で後期安行式期の土器が流れ込んでいる可能性が考えられるため、時期判断は困難である。縄文時代後期中業と考えておきたい。

第231図1～3は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。1、3は後期加曾利B2式に比定される土器で、押捺を加えた粘土紐が貼り付けられ、1は2段構成、口唇部に小突起も見られる。いずれも縄文地文である。2は後期安行Ⅰ式に比定される土器で、口縁部に巡る粘土紐貼り付けの刻文帯以下は横方向の条線が施文されている。

第949号土坑 (第197図)

深さ237cmの円筒状の土坑で、底面から猪の頭部と第232図1の深鉢形土器が破碎された状態で、また6の底部片も出土している。他の遺物も覆土中層から下層にかけて出土しており、土層2、7、8及び11には小骨片を含んでいる(付章参照)。土坑本来の機能終了後廃絶され、廃棄遺物の投棄場地的性格を持ちながら埋没していったものと思われる。後期安行Ⅰ式期の土器も混じっているが、第950号土坑と隣接しているための流れ込みと思われる。時期は、出土遺物から晩期安行Ⅲa式期である。

第233図9～12は縄文土器片の拓影図である。9は胴部片で、沈線区画の縄文帯以下に斜行条線が粗く施文されている。10も胴部片で、沈線区画の縄文帯に刺突を3個加えた貼瘤が見られる。11は中央の刺突状の円形

文を中心に三叉文が取り巻くように彫刻され、部分的に縄文が施文されている。これらは晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。12は後期安行Ⅰ式に比定される土器で、沈線区画の隆起帯縄文が3段施され、縄文帯間は磨り消されている。

第950号土坑（第197図）

深さ161cmの円筒状の土坑で、覆土中から後期～晩期にかけての土器と獣骨片が1点出土している。第233図1は覆土上層から出土している。晩期の土器は第949号土坑と、後期中葉の土器は第947号土坑との関連が考えられ、本跡の時期は、主体となる遺物から縄文時代後期安行Ⅱ式期前後と思われる。

第233図2～8は縄文土器片の拓影図である。2、3は後期安行Ⅱ式の粗製土器で、2は口縁部と胴上部に粘土紐貼り付けの隆起帯刻文を巡らせ、上部は下向き弧状の条線、下部は斜行条線が施文されている。3は沈線区画の三角刻文帯を上下に2段巡らせ、上部には下向き弧状の条線を月状文が切断しており、安行Ⅲa式の手法が見られる。4は晩期安行式の範疇の土器と思われ、ブク鼻状粘瘤が要所に付けられ、縄文帯が口縁部以下に施され、隙間は沈線区画で磨り消されている。5は3段の隆起帯縄文を粘瘤が結んでいる。後期安行Ⅰ式に比定される土器である。6、7は後期加曾利B式の範疇の土器で、6は外面に沈線区画の縄文帯、7は外面に縄文施文で、2点とも内面は磨きが施されている。8は後期堀之内式に比定される土器の口縁部片で、口唇部上端に沈線が施され、刺突を加えた小突起を有する。胴部は縄文地文で、櫛歯状施文具による直線的あるいは波状の沈線が口縁部から垂下している。

第951号土坑（第197図）

西側から北側の壁際にかけてピットが3か所見られる。第1065号土坑との境のピットは後世のものである。覆土中から遺物が出土しており、第233図1は中央部やや北側の覆土上層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～加曾利EⅠ式期前後と思われる。

第233図2は中期勝坂Ⅱ式に比定される胴部片で、縦方向の直線や「コ」の字を入り組ませたような文様を沈線で描き、区画内は部分的に爪形文が施文されている。

第952号土坑（第197図）

円形のピットで、規模に比較し多量の土器片が出土している。時期は、中期から後期の遺物が混在して出土しているが、第234図1が底面から出土していることや、主体を占める土器から縄文時代後期中葉から後葉の範疇と思われる。

第234図2～5は縄文土器片の拓影図である。2は波状口縁で、口縁部は指頭によるナデで無文、胴部には単節縄文が施文されている。後期加曾利B式の範疇と思われる。3も口縁部片で、沈線区画の隆起帯縄文が口縁部以下に2段施されている。後期安行Ⅰ式前後と思われる。5は胴部片で、「J」字状の区画文が見られ、区画内磨り消し、区画外は縄文が施文され、後期称名寺Ⅰ式に比定される土器である。4も胴部片で、縄文地文で両側磨り消しの微隆起線で文様が描かれている。中期加曾利EⅢ～Ⅳ式の範疇と思われる。

第954号土坑（第197図）

袋状土坑で、底面から3か所の小ピットが確認されている。時期は、遺構の形態及び覆土中の出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～加曾利EⅠ式期にかけてと思われる。

第956号土坑（第198図）

ピットが5か所底面から確認されている。中央のピットは径43cmの円形で、深さ57cm、本跡に伴うと思われるが、他のピットは後世の掘り込みである。第234図1が南西部底面から出土しており、本跡の時期は縄文時代中期加曾利EⅡ式期である。

第957号土坑（第198図）

深さ164cmの円筒状の土坑で、覆土中から遺物が極少量出土している。すべて覆土上層からの出土で、中期から後期の土器が混在しており、時期は不明である。

第235図1～3は縄文土器片の拓影図である。1は波状口縁部片で、胴部無文、口唇部に沈線が施され、波頂部付近で鈎の手状に曲線が描かれている。2は中期阿玉台I b式に比定される土器で、断面三角形の隆帯で口縁部に区画を設け、区画内に結節沈線文が施文され、ボタン状の貼り付けも見られる。3は中期勝坂Ⅱ式並行と思われる胴部片で、沈線に沿わせた連続爪形文で区画を施し、区画に沿って半截竹管による半円弧状の刺突文が見られる。地文に縄文が施文されている。

第960号土坑（第198図）

袋状土坑で、西壁際底面から第235図1の深鉢形土器が逆位の状態で出土している。他に覆土中層から下層にかけて縄文土器片が出土しており、3は南西部覆土中層からの出土である。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期である。

第236図4は縄文土器片の拓影図である。波状を呈する口縁部片で、隆帯による区画に沿って結節沈線文が2列施されている。中期阿玉台Ⅲ式の範疇の土器である。

第1044号土坑（第199図）

不定形の土坑で、覆土中から縄文土器片、土器の把手片や土製円板が出土し、これらに混じり獣骨片も出土している（付章参照）。後期の遺物が主体を占めるが、大きく後期加曾利B式期と後期安行式期に大別され、遺構の形態からも2基の重複の可能性が考えられる。

第236図3～5は縄文土器片の拓影図である。3は口縁部片で、沈線区画の隆起帯縄文が口縁部以下に2段施され、下部にはやや斜行する条線が施されている。4は胴部片で、縄文地文の上に並行沈線が斜格子状に施文されている。5も胴部片で、粘土紐貼り付けの刻文帯の上は条線文を切断する沈線区画の「J」状の磨唐帯が見られ、刻文帯以下は条線文が施文されている。3、5は後期安行式、4は後期加曾利B式に比定される土器である。

第1045号土坑（第198図）

袋状土坑で、底面に深さ10cmほどの浅いピットを有する。覆土中から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期～加曾利EⅠ式期の土器片が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第1046号土坑（第199図）

底面から2か所のピットが確認されている。覆土中から縄文時代中期中峠式期～加曾利EⅠ式期の土器片が出土している。第236図1の底部片は南東部覆土中層からの出土である。

第236図4、5は縄文土器口縁部片の拓影図である。4は口縁部に隆帯が巡らされ、以下は波状文、連続「コ」字状文、渦巻文が施文されている。中期中群式に比定される土器である。5は縄文地文で、隆帯で口縁部文様帯に文様を施文している。中期加曾利EⅠ式に比定される土器である。

第1047号土坑（第200図）

ピットが底面から4か所確認されている。中央のピットは長径53cm、短径46cmの楕円形で、深さ50cmである。壁面を回るピットは長径30～70cmの楕円形で、深さは22～62cmと規模にばらつきが見られる。覆土中から縄文土器片が出土しているが、中期加曾利EⅠ式期から後期のものが混在しており、量的には中期の遺物がやや多めだが時期の特定は困難である。

第237図2～5は縄文土器片の拓影図で、いずれも口縁部片である。3は角状突起を有する波状口縁部片で、突起下に通孔が見られ、口縁部に沿って縄文が見られる。後期安行Ⅰ式に比定される土器である。4は後期掘之内式に比定されると思われる胴部片で、隆帯上及び沈線区画内に刻みが施されている。2は中期加曾利EⅠ式に比定される口縁部片で、沈線に沿わせた隆帯で区画文や渦巻文が描かれている。5は中期加曾利EⅢ式に比定される土器で、複筋縄文LRLの地文を切って沈線区画の磨消帯が垂下している。

第1050号土坑（第199図）

覆土中から土器片が出土しており、第237図1は覆土中層からの出土である。量的に後期安行式期の土器が主体を占めるので、本跡の当該期と思われる。

第237図3、4は縄文土器片の拓影図である。いずれも後期安行式に比定される粗製土器の口縁部片で、3は口縁部と頸部に刻文帯を2段施し、斜行条線文が施文されている。4は口縁部に押捺を加えた粘土紐貼り付けで、以下は緩やかな斜行条線文が施文されている。

第1051号土坑（第200図）

袋状土坑で、覆土中から縄文土器片が出土している。第238図1は中央部やや東寄りの覆土中層から出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期前後である。

第238図2は縄文土器胴部片の拓影図である。凸凹の隆帯を斜めに貼り付け、隆帯より上は縦沈線を充填し、隆帯以下は無文である。中期阿玉台Ⅲ式の範疇と思われる。

第1052号土坑（第199図）

第238図1は覆土中から出土した縄文土器片の拓影図である。口唇部上端に舌状の突起を有する口縁部片で、口縁部は縄文帯で横走沈線区画、胴部には「X」状の沈線が施され、磨り消し部分と充填縄文が交互に配されている。磨り消し部分には沈線の交差部分を通過する細かく蛇行する沈線が垂下している。晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。他には、縄文土器の細片が極少量出土しているだけで、断定はできないが、時期は縄文時代晩期前葉と考えておきたい。

第1056号土坑（第202図）

深さ243cmの円筒状の土坑で、覆土上層から下層にかけて遺物が出土している。多量の縄文土器片に混じり、猪の下顎骨、肩甲骨、脊椎や鹿の骨片及び魚骨も出土し、覆土下層（レベル20.6m前後10cmほど）には混土貝層が見られる（付章参照）。土坑廃絶後、廃棄遺物の投棄場所的性格を持ちながら埋没していったものと思われる。時期は、出土遺物から縄文時代晩期安行Ⅲa式期である。

第239図3～7は縄文土器片の拓影図である。3、4は口縁部片で、波状口縁波頂部突起下に縦長貼瘤、胴部には三又文が彫刻され、口縁部は縄文帯、胴部は磨り消し部分と縄文施文部分が交互に配されている。5も波状口縁で、波底部に縦長貼瘤を付し、対応する胴部にもブタ鼻状貼瘤が付されている。口縁部縄文帯の下に磨り消し部分をおいて、2段構成の微隆起線刻文の間は縄文施文、ブタ鼻状貼瘤から派生する沈線が縄文を切断している。これらは晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。6は胴部片で、上下の隆起帯刻文の下段にブタ鼻状貼瘤が見られ、下部は縄文が施文されている。後期安行Ⅱ式に比定される土器である。7は後期加曾利B2式に比定される口縁部片で、口縁部外面は無文帯、内面に沈線が廻り沈線上に円形刺突文が見られる。外面は口縁部下の横走2本沈線以下は下向き弧状の沈線が施され、区面外は縄文が施文されている。

第1059号土坑（第203図）

袋状土坑で、底面に2か所のピットを有する。覆土中から縄文時代中期中葉の土器が出土しており、遺構の形態からも該期と思われる。

第239図2は縄文土器口縁部片の拓影図である。口縁部文様帯に「コ」字状文や結節沈線文が施され、胴部との境に施された刻文帯以下は縄文が施文されている。中期中幹式に比定される土器である。

第1060号土坑（第203図）

第240図1、2は本跡の覆土中から出土した縄文土器片の拓影図である。1は口縁部片で、内部に刻文を施した沈線が2段巡らされている。2は胴部片で、横走沈線と鋸歯状沈線が交互に施文されている。縄文時代中期中葉の土器と思われる。

第1061号土坑（第203図）

袋状土坑で、縄文土器が少量出土している。第240図1は中央部やや西寄りの底面近くから横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態と出土遺物から縄文時代中期中幹式期である。

第1062号土坑（第203図）

円形の土坑で、第241図1と2の他は土器片が3点出土しているだけである。時期的に隔たりがあり、新しい2の縄文時代晩期前葉という可能性が考えられるが、1の深鉢形土器は覆土下層から出土しており、時期の特定は困難である。

第1063号土坑（第203図）

上面は不整形だが、底面は長楕円形の袋状土坑で、覆土中から縄文土器に混じり第241図4の石棒が出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期前後である。

第241図2は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、撚糸文が地文に施され、半截竹管による横走平行沈線

に沿い、半円弧状の刺突文が施されている。中期勝坂Ⅱ式に比定される土器である。

第1065号土坑（第204図）

底面中央部から深さ63cmの楕円形ピットが確認されている。塵灰を掘り込んでいるピットも見られるが、後世の掘り込みと思われる。覆土中から後期の土器が出土しており、第242図4は西部覆土下層から出土している。また、中央部覆土下層から魚骨も出土している（付章参照）。時期は、主体となる遺物から縄文時代後期安行Ⅰ式期前後と思われる。

第242図4～6は縄文土器片の拓影図である。4、6は後期安行Ⅰ式に比定される土器である。4は口縁部片で、隆起帯縄文を口縁部以下に3段施し、口唇部の小突起以下に貼瘤を付し縄文帯が接続されている。6は粗製土器の胴部片で、縦の条線文が頸部に巡る三角刻文帯に切られている。5は加曾利B3式に比定される土器と思われる。口唇部の刻文以下胴部は斜行沈線が施されている。

第1066号土坑（第204図）

深さ137cmの円筒状の土坑で、土器片に混じり、貝殻及び猪等の獣骨片が覆土中から出土しており、鹿角の角嶽も出土している（付章参照）。土器は後期安行Ⅰ式期～晩期安行Ⅲb式期のものが混在しているが、縄文時代晩期安行Ⅲa式期前後が本跡の時期と思われる。

第243図5～8は縄文土器片の拓影図である。5、7は後期安行Ⅰ式に比定される土器である。5は粗製土器の口縁部片で、口縁部に巡る三角刻文帯以下は斜行条線が施され、横走沈線により文様が切断されている。7は胴部片で、くびれ部に沈線区画の縄文帯を施し、磨消部分を挟んで上部は下向き弧線、下部は上向き弧線が描かれ、区画内に縄文が施文されている。6は口縁部片で、口縁部上端と外面に刻みを施した突起が設けられ、外面の突起間には楕円形区画の磨り消し、区画文は沈線に沿った縄文帯で構成している。8は沈線区画の磨消帯を挟んで縄文が施文され、3単位の刺突を持つ貼瘤が上下1組で付されている。2点とも晩期安行Ⅲa式に比定される土器である。

第1067A・1067B号土坑（第204図）

第1067A号土坑は袋状土坑で、底面から3か所のピットが確認されている。覆土中から出土している極少量の縄文土器片に混じり、第243図1の浮子出土している。時期を判断する遺物は出土していないが、遺構の形態から、時期は縄文時代中期と思われる。

第1067A号土坑の南側で、ピット状の第1067B号土坑が確認されている。縄文時代晩期安行Ⅲa式の第243図1が覆土中から出土している。

第1069号土坑（第205図）

ピットが北壁寄りの底面から4か所確認されている。出土遺物は、縄文時代中期から晩期までの土器が混在しているが、晩期の土器は第244図4の1点だけで、主体は中期加曾利EⅠ式期前後と後期堀之内式期である。第243図1は東部覆土上層からの出土で、時期判断の根拠としては弱い。縄文時代後期堀之内式期を本跡の該期と考えておきたい。

第244図5は縄文土器片の拓影図で、中期加曾利EⅠ式の範疇と思われる。隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に縦沈線を施文し、胴部には曲線的文様が沈線で描かれている。

第1080号土坑（第200図）

3か所のピットが底面から確認されている。東壁際に1か所、中央部を挟んで南北に対峙するように2か所位置している。深さは12～19cmである。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ式期である。

第245図3、4は縄文土器片の拓影図である。3は波状口縁波頂部片で、波頂部下に渦巻文を施し、口縁部文様帯を刺突状の沈線で区画し、内部に縦の単沈線が充填されている。頸部は無文で、波頂部の渦巻文から頸部に沈線が垂下し、下部で曲線が描かれている。4は胴下部の破片で、熱糸文を地文にし、2本沈線が垂下している。いずれも中期加曾利EⅠ式に比定される土器である。

第1085号土坑（第206図）

中央部にピットを1か所所有する。覆土中から中期主体の土器片に混じり、鹿角製のヘラが出土している（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代中期後半と思われる。

第1090号土坑（第206図）

袋状土坑で、覆土中から縄文土器に混じり、鹿、猪の骨片が出土している（付章参照）。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期にかけてである。

第245図4～7は縄文土器片の拓影図である。4は口縁部文様帯を隆帯で区画し、区画内は隆帯と沈線によって文様が構成され、胴部は単節縄文が施文されている。5は鉢形土器の口縁部片と思われ、口縁部内面に稜が見られる。口縁部外面の隆帯は欠損しているが、胴部は単節縄文RL地文で細い4本の平行沈線が垂下している。6は胴部片で、縄文を地文にし、隆帯による区画に沿って爪形文が施されている。7は口縁部に隆帯を貼り付けて肥厚させ、以下は平行沈線で文様が描かれている。地文に縄文が施文されている。8は口唇部上端が押捺により凸凹に作出されている。いずれも中期阿玉台Ⅳ式前後の土器と思われる。

第1091号土坑（第207図）

深さ44cmの小土坑で、第1109号土坑を掘り込んでいる。覆土中から第246図1の異形台付土器、3の耳飾りの破片及び4の石鏃に混じり、猪の歯が出土しているが、他は極少量の土器片が出土しているだけである（付章参照）。時期は、出土遺物から縄文時代後期安行Ⅱ式期前後と思われる。

第246図2は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で、上に爪形文、下に三角刻文の刻文帯を2段巡らせ、口縁部下の沈線以下は下向き連弧文を沈線で描き、区画内に縄文が施文されている。後期安行Ⅰ式に比定される土器である。

第1092号土坑（第206図）

袋状土坑で、覆土中層から下層にかけて遺物が出土している。第246図1は北東部覆土下層と西部底面から、第247図4は北東部覆土下層から横位の状態で出土している。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期である。

第247図5～7は縄文土器片の拓影図である。いずれも中期阿玉台Ⅳ式に比定される土器の口縁部である。5は地文の単節縄文が羽状に施文されており、外反する口縁部下に3本の沈線が見られ、下段は小波状を描く。胴上部にも波状を描くと思われる沈線が施文されている。6は無文で、胴上部に押捺を加えた凸凹の隆帯が貼り付けられ、隆帯と口唇部の間に櫛歯状の沈線が施文されている。7は単節縄文LR部分が部分的に縦の羽状構成

をとり施文されている。

第1099号土坑（第207図）

複数の土坑が重複しているため、出土遺物も縄文時代中期から後期までのものが混在している。第248図1は南部覆土中層から出土している。時期の判断は難しいが、縄文時代後期と考えておきたい。

第1104号土坑（第201図）

北壁際周囲に数か所のピットが見られるが、性格は不明である。覆土中から縄文時代中期中葉の遺物が少量出土している。

第1108号土坑（第201図）

深さ17cmのピットが西壁寄りの底面から確認されている。覆土上層から中層にかけて極少量の遺物が出土している。第248図1は東壁際覆土上層からの出土である。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ式期である。第248図1、2は縄文土器片の拓影図である。1は胴部片で、地文に縄文が施されている。上部に隆線を巡らせ、以下は4本の平行沈線と蛇行沈線を垂下している。2は縄文地文で、隆線によるクランク文が口縁部文様帯として施文されている。

第1109号土坑（第207図）

袋状土坑で、東壁際からピットが確認されている。西側で第1091号土坑に掘り込まれ、東側で円筒状の深さ98cmの第1123号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。東部床面から石が数点出土しているが、本跡の出土遺物か第1123号土坑の出土遺物かは不明である。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中時式期前後と思われる。第1123号土坑の出土遺物もほぼ同時期であり、該期と思われる。

第1110号土坑（第208図）

ピットが3か所底面から確認されている。覆土中から縄文土器片に混じり第249図2の土偶も出土しているが流れ込みと思われる。縄文時代中期加曾利E式期の遺物が出土しており、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第249図1は縄文土器片の拓影図である。波状口縁波頂部で、口唇部上端に交互刺突による連続「コ」字状文が見られ、胴部は単節縄文RⅠが施文されている。中期中時式に比定される土器である。

第1111号土坑（第207図）

覆土中から土器片に混じり獣骨片が出土している（付章参照）。中期から後期の土器が混在しているため、時期の特定は困難だが、縄文時代後期と考えておきたい。

第249図2は縄文土器片の拓影図である。波状口縁で、口縁部内面に沈線が施され、口縁部外面磨き、要所で屈曲する沈線区画の磨消帯を帯状に施し、区画外は縄文が施されている。後期加曾利BⅡ式に比定される土器である。

第1112号土坑（第207図）

本跡の覆土中から極少量の縄文時代中期中葉の土器片と第249図1の磨石が出土している。

第1114号土坑（第205図）

出土遺物は極少量で、覆土上層からの出土が多く、詳細は不明である。

第1117号土坑（第202図）

袋状土坑であるが、周囲の土坑に掘り込まれており形状が部分的に不明である。覆土中層から下層にかけて縄文土器片が出土している。第250図2、3は西部底面、1は東部覆土中層からの出土である。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期中葉である。

第250図4は縄文土器片の拓影図である。胴部片で、刻文を加えた隆帯に沿って半截竹管による平行沈線が施され、隆帯間には半截竹管による鋸歯状文が垂下している。中期阿玉台Ⅲ式の範疇と思われる。

第1124号土坑（第208図）

袋状土坑で、覆土中層から遺物が出土している。第251図2はほぼ中央部の覆土中層、1はやや北側の覆土中層から出土している。この他に猪の骨片も覆土中から出土している（付章参照）。時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文時代中期阿玉台Ⅳ式期である。

第1128号土坑（第208図）

本跡は、第238号住居跡の床を掘り抜いている楕円形の土坑で、北部に深さ16cmの小ピットが見られる。覆土中から遺物が少量出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期にかけてと思われる。

第251図2は縄文土器片の拓影図で、波状口縁の波頂部片である。波頂部から胴部にかけて微隆起線によるモチーフが描かれ、隙間には縄文が見られる。

第1130号土坑（第208図）

袋状土坑で、ほぼ中央部底面から径38cm、深さ39cmの円形のピットが確認されている。北西壁際にも見られるが本跡に伴うかは疑問である。覆土中から縄文時代中期中鉢式期～加曾利EⅠ式期にかけての土器が出土しており、本跡の該期と思われる。

第252図5～10は縄文土器片の拓影図である。5は波状口縁の波頂部で、口縁部に連続「コ」字状文と隆帯上の刻みが見られる。以下無文で、頸部には平行沈線が横走されている。6は同類の波底部片で、隆帯上に押捺が2か所加えられている。中期中鉢式に比定される土器である。7～10は中期加曾利EⅠ式に比定される土器の口縁部片である。7は通孔を有する突起が設けられ、沈線に沿った隆帯で口縁部文様帯が構成されている。地文に縄文が施されている。8も縄文地文で、中央に沈線を加えた隆帯で文様が描かれている。9も縄文地文で、口唇部外面に沈線を施し、隆帯による口縁部文様帯の区画文が構成されている。10も施文方法は9と似ており、口縁部文様帯に曲線文、波状文が見られる。

第1131号土坑（第208図）

深さ119cmの円筒状の土坑で、第1130号土坑との重複関係は不明だが、本跡の方が若干新しい遺物が出土している。時期は、縄文時代中期加曾利EⅠ式期と考えておきたい。

第252図1, 2は縄文土器片の拓影図である。1は口縁部沈線区画で連続刺突文が2段構成、胴部は鬚糸文が地文で施されている。中期加曾利EⅡ～Ⅲ式の範疇と思われる。2は口唇部が外側に突出し、以下地文の縄文が鋸歯状沈線で切断されている。中期加曾利EⅠ式に比定される土器と思われる。

第1136号土坑 (第202図)

第1072, 1117号土坑との重複で、北側部分から東側部分にかけて不明な所が部分的にある。第253図1が西部覆土下層から横位の状態出土しており、時期は、縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後かと思われる。

第1139号土坑 (第209図)

本跡の北側部分から東側部分にかけては他の土坑との切り合いで形状が不明な部分がある。南部底面から2か所のピットが確認されている。覆土上層から下層にかけて遺物が出土しており、獣骨片も混じっている(付章参照)。第253図1は北部覆土上層から、2は北東部覆土下層からいずれも横位の状態出土している。時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉である。

第1141号土坑 (第201図)

ほぼ円形の土坑で、掘り込みも32cmと浅い。覆土中層から縄文土器が出土しており、第254図1は南東部覆土下層からの出土である。遺物の時期は、縄文時代中期加曾利EⅡ～Ⅲ式期のものが主体を占め、本跡の時期もこの範疇と思われる。

第1143・1144・1145号土坑 (第209・210図)

3基の重複関係は、第1143号土坑が最も古く、次に第1144号土坑で、第1145号土坑が最も新しい。第1143号土坑は浅い3か所のピットを有し、第254図1が横位の状態南部覆土中層から出土している。縄文時代中期中葉の時期と思われる。

第1144号土坑は、中央から深さ55cmのピットが確認されている。第254図1は中央のピットの上部、覆土下層から出土している。遺物が時期的に混在しているが、縄文時代後期加曾利B式期と考えておきたい。

第1145号土坑は3基の中で最も新しく、主体となる遺物から縄文時代後期安行式期の可能性が考えられる。

第1146号土坑 (第210図)

袋状土坑で、ピットが1か所底面から確認されている。時期判断の遺物は出土していないが、遺構の形態から縄文時代中期のものと思われる。第254図1はナイフ形石器で、流れ込みである。

第1151号土坑 (第205図)

第1113, 1114号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。中央部の底面からピットが2か所確認されている。西壁際にもピットが2か所あるが本跡に伴うかどうかは疑わしい。覆土上層から中層にかけて遺物が出土しており、第254図1は南東壁際覆土上層からの出土である。時期は、出土遺物から縄文時代後期壱之内式期と思われる。

第1153号土坑（第210図）

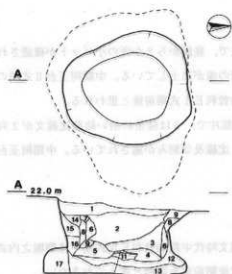
本跡は、北側部分を第1157号土坑に掘り込まれている。袋状土坑で、底面から2か所の小ピットが確認されている。覆土中層から遺物が出土しており、縄文土器片に混じり猪の歯が出土している。中期阿玉台Ⅱ式期の遺物も出土しているが、時期は主体となる遺物から縄文時代中期加曾利EⅠ式期前後と思われる。

第255図3、4は縄文土器片の拓影図である。いずれも波状口縁部片で、3は隆帯に沿った結節沈線文が2列施されている。4は刻みを施した隆帯による区画内に、結節沈線、沈線及び刻みが施されている。中期阿玉台Ⅱ式の範疇と思われる。

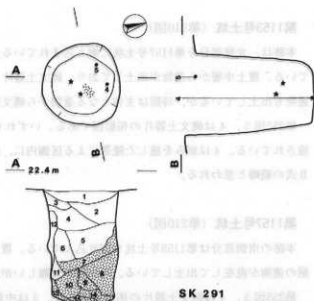
第1157号土坑（第210図）

本跡の南側部分は第1153号土坑を掘り込んでいる。覆土中から縄文時代中期加曾利EⅣ式期～後期堀之内式期の遺物が混在して出土している。時期判断は難しいが、縄文時代後期前葉を該期と考えておきたい。

第255図3、4は縄文土器片の拓影図である。3は中期加曾利EⅣ式に比定される口縁部片で、口縁部無文帯の下に微隆起線が巡り、舌状の突起が見られる。胴部は微隆起線区画の磨消帯が施され、区画外は縄文が施されている。4は後期堀之内式に比定される浅鉢形土器の口縁部片で、口縁部に小突起を有する。外面は無文で、口縁部内面に沈線区画の刻文帯が施されている。



SK 253



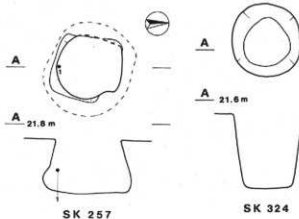
SK 291

第253号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化物・ローム中ブロック少量、焼土中ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量、炭化物極少量
- 5 暗褐色 焼土
- 6 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ソフトローム少量、ローム中量極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 12 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 13 褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 14 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 15 明褐色 ソフトローム上多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 16 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック極少量
- 17 褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量

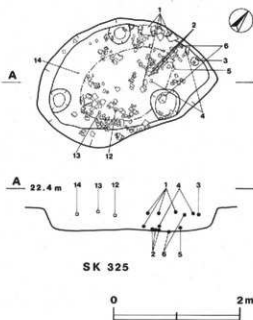
第291号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック中量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、小骨片含む
- 3 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 4 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量、ローム中量極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ソフトローム上少量、小骨片・貝殻少量含む
- 6 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子極少量、小骨片含む
- 7 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量、焼土粒子・焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量、骨片・貝殻少量含む
- 8 黒褐色 炭化物・炭化粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量、貝殻多量
- 9 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子少量、焼土粒子極少量、貝殻少量含む
- 10 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量、貝殻中量、小骨片含む
- 11 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック中量、貝殻少量含む
- 12 褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量、焼土小ブロック極少量
- 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化物中量、貝殻少量含む
- 14 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物・炭化粒子中量、焼土粒子極少量、貝殻少量含む
- 15 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量、ソフトローム上少量、貝殻少量含む

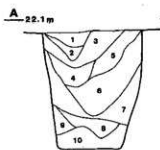
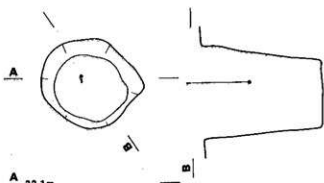


SK 257

SK 324



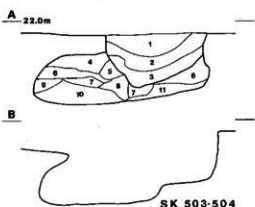
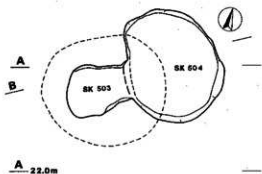
SK 325



SK 294

第294号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、小骨片少量含む
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量、ローム中ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物極少量
- 10 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量



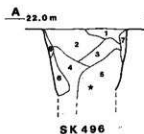
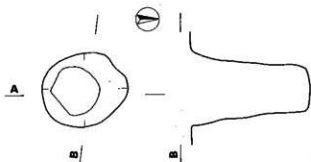
SK 503-504

第503号土坑 土層解説

- 4 褐色 ローム粒子多量 (天杉原産土層)
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量

第504号土坑 土層解説

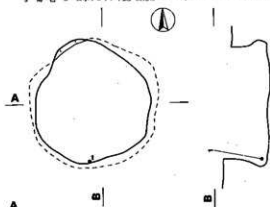
- 1 暗褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量



SK 496

第496号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 8 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量

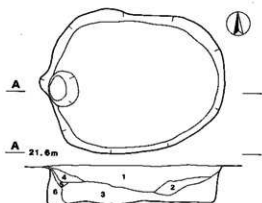


SK 716

第716号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

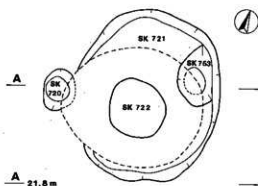




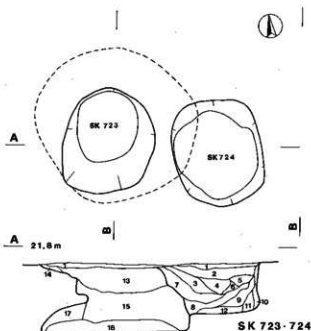
SK 717

第717号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 720・721・722・753

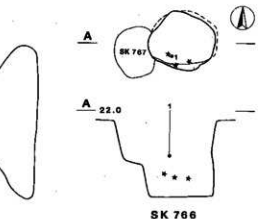


第723号土坑 土層解説

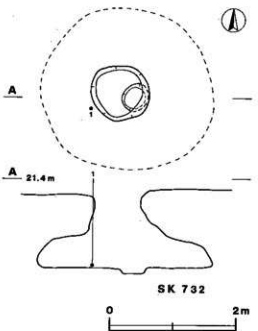
- 13 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 黒褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量、ローム粒子極少量
- 15 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 17 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量

第724号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量

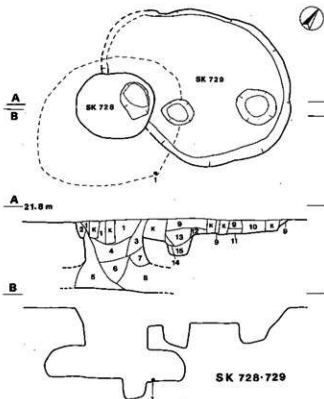


SK 766



SK 732

第181図 第717・720・721・722・723・724・732・753・766号土坑実測図

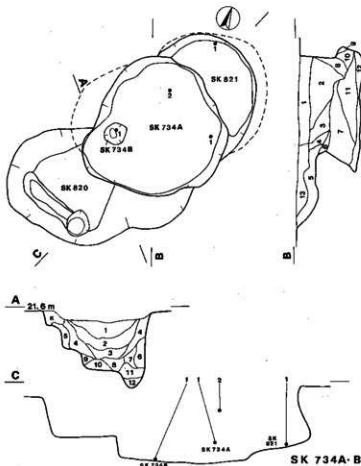


第728号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第729号土坑 土層解説

- 9 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 14 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 15 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子少量



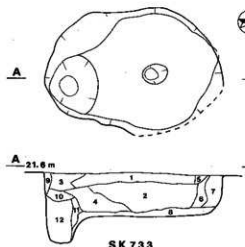
第820号土坑 土層解説

- 1 黄褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 黄褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化物極少量
- 7 褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量

第734号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
- 4 黄褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 13 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

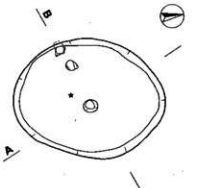
第182図 第728・729・734A・734B・820・821号土坑実測図



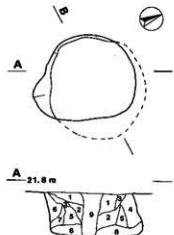
SK 733

第733号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 9 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量



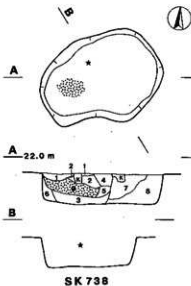
SK 736



SK 735

第735号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



SK 738

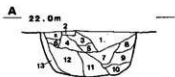
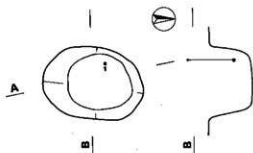
第738号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 9 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、貝片少量含む

第736号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量

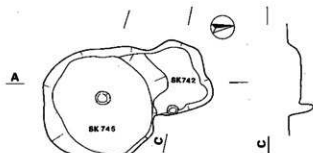




SK 739

第739号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 12 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量



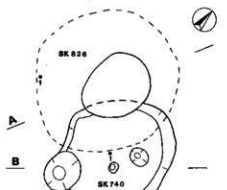
SK 742・745

第742号土坑 土層解説

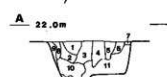
- 1 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量

第745号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量



SK 740・826



SK 755

第755号土坑 土層解説

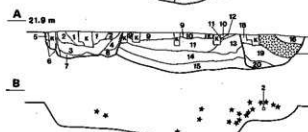
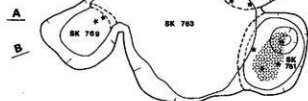
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物極少量、焼土小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子少量、炭化物少量、焼土粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量



第184図 第739・740・742・745・755・826号土坑実測図



SK 760



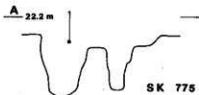
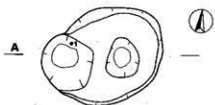
SK 761・762・763・769

- SK 761号土坑 土層解説
 16 暗褐色 炭化物・炭化灰子少量, 貝片中層含む
 17 黒褐色 炭化灰子中量, ローム粒子少量, 貝片少量含む
 18 暗褐色 炭化灰子・ローム粒子少量
 19 黒褐色 炭化灰子・ローム粒子少量
 20 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化灰子少量

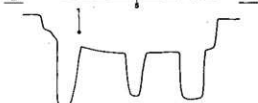
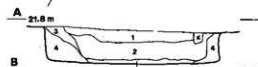
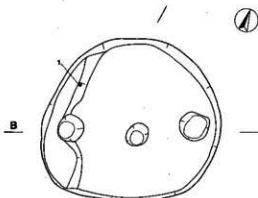
- SK 762号土坑 土層解説
 9 暗褐色 炭化灰子・ローム粒子少量
 10 黒褐色 炭化灰子少量・炭化物・ローム小ブロック少量
 11 暗褐色 炭化灰子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック少量
 12 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化灰子極少量
 13 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 14 暗褐色 炭化灰子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
 15 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化灰子少量

SK 769号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化灰子・ローム粒子少量, ローム中ブロック極少量, 小骨片少量含む
 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
 3 暗褐色 炭化灰子・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
 4 暗褐色 炭化灰子・ローム粒子少量, 小骨片少量含む
 5 暗褐色 炭化灰子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化灰子極少量
 7 暗褐色 炭化灰子・ローム粒子少量
 8 暗褐色 炭化灰子・ローム粒子少量



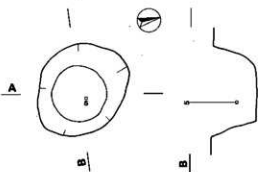
SK 775



SK 764

SK 764号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
 2 暗褐色 炭化物・炭化灰子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化灰子・ローム中ブロック少量
 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化灰子・ローム小ブロック少量



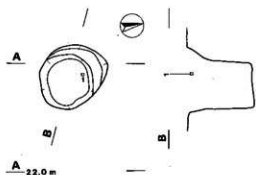
SK 768

SK 768号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化小ブロック極少量, 小骨片極少量含む
 2 暗褐色 炭化物・炭化灰子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 3 暗褐色 炭化灰子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
 4 暗褐色 炭化灰子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量, 小骨片極少量含む
 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, 炭化灰子極少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 8 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量

0 2m

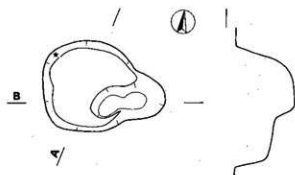
第185図 第760・761・762・763・764・768・769・775号土坑実測図



SK 773

第773号土坑 土層解説

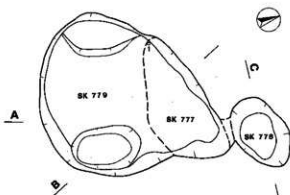
- 1 黒褐色 焼土粒下・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、少量小ブロック極少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、小骨片極少量含む
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量



SK 776

第776号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量



SK 777-778-779

第777号土坑 土層解説

- 13 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化物少量
- 16 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 17 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 18 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック少量

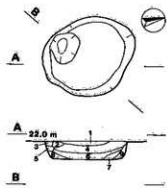
第778号土坑 土層解説

- 19 黒褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック少量
- 20 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 21 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 22 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 23 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化物極少量
- 24 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 25 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量

第779号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 10 暗褐色 炭化物少量、ローム中ブロック極少量
- 11 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量

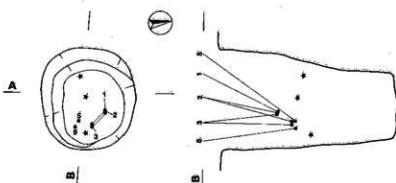
第186図 第773・776・777・778・779号土坑実測図



SK 780

第780号土坑 土層解説

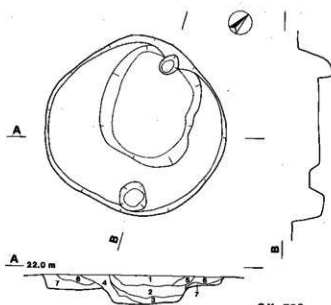
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒中量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量



第781号土坑 土層解説

- 1 深褐色 炭化粒中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、小骨片極少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 深褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 深褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量、ローム小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、小骨片極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量

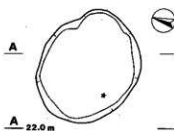
SK 781



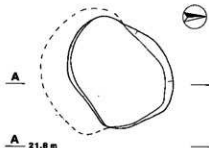
SK 783

第783号土坑 土層解説

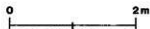
- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒中量、炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量



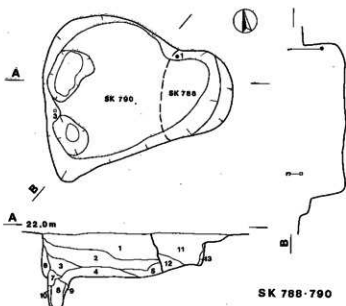
SK 786



SK 787



第187図 第780・781・783・786・787号土坑実測図



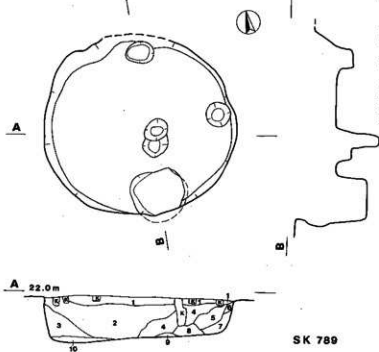
SK 788・790

第788号土坑 土層解説

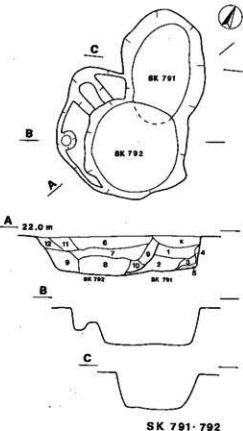
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 小骨片微量含む
 12 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
 13 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

第790号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量
 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量
 6 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 8 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 9 褐色 ローム粒子多量, 多量粒子微量
 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量



SK 789



SK 791・792

第791号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック少量
 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化物微量
 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量

第792号土坑 土層解説

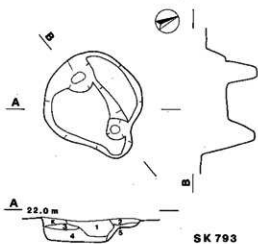
- 6 暗褐色 ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム大ブロック微量
 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム中ブロック少量
 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 炭化物微量
 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
 10 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 11 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物微量
 12 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量

第789号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 4 褐色 ローム粒子少量
 5 褐色 ローム粒子中量
 6 暗褐色 ローム粒子少量
 7 褐色 ローム小ブロック多量
 8 褐色 ローム粒子中量
 9 褐色 ローム粒子中量
 10 褐色 ローム粒子多量



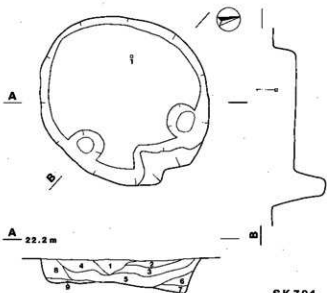
第188図 第788・789・790・791・792号土坑実測図



SK 793

第793号土坑 土層解説

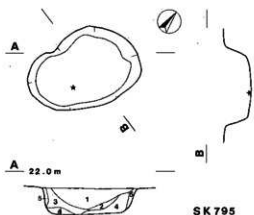
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土中ブロック、ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム大ブロック、ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子多量、炭化粒子少量



SK 794

第794号土坑 土層解説

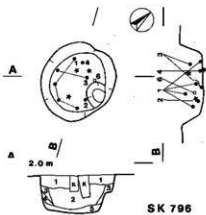
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物極少量、小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム中ブロック、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物極少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量



SK 795

第795号土坑 土層解説

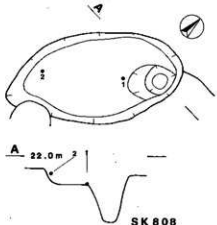
- 1 暗褐色 炭化物、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量



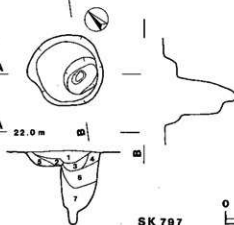
SK 796

第796号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 5 赤褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物少量



SK 808



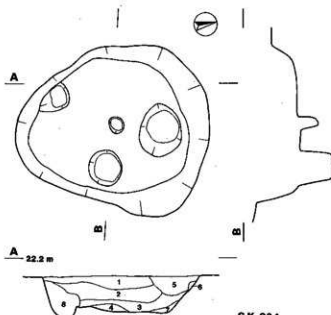
SK 797

第797号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量



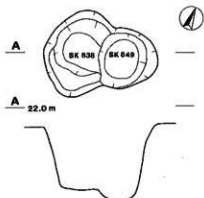
第189図 第793・794・795・796・797・808号土坑実測図



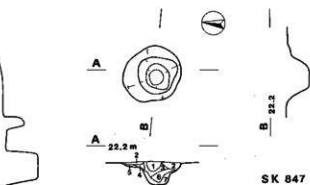
SK 834

第834号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム中ブロック少量, 炭化極少量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック, 炭化物・ローム小ブロック少量



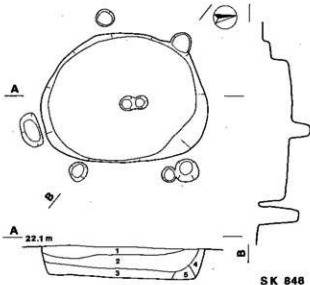
SK 838-849



SK 847

第847号土坑 土層解説

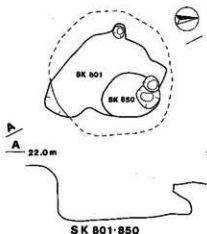
- 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量



SK 848

第848号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック極少量



SK 801-850

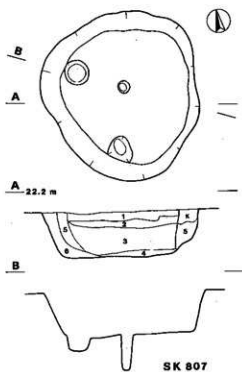


SK 845

第845号土坑 土層解説

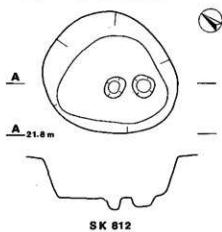
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量, 小骨片少量含む
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・焼土小ブロック・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 小骨片少量含む
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量



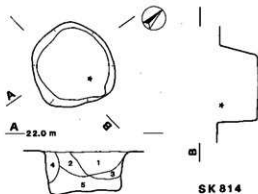


第807号土坑 土層解説

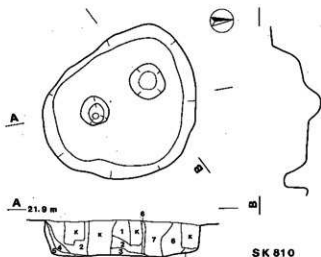
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量



SK 812



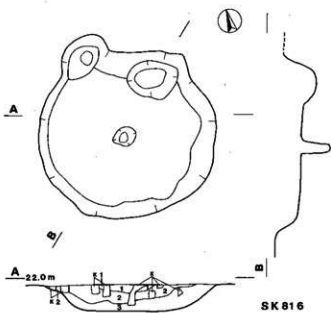
SK 814



SK 810

第810号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化物極少量



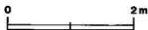
SK 816

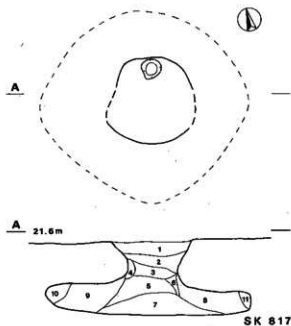
第816号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量

第814号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量

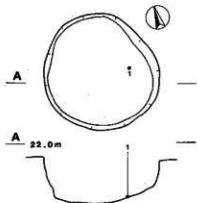




SK 817

第817号土坑 土層解説

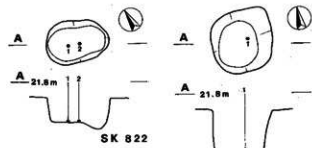
- 1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量、炭化物極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化物・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム大ブロック極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極少量



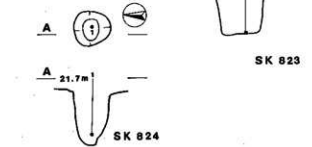
SK 827

第827号土坑 土層解説

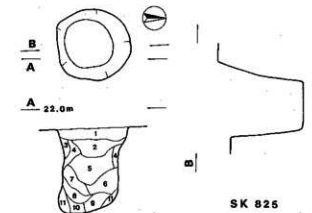
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 5 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量



SK 822



SK 823



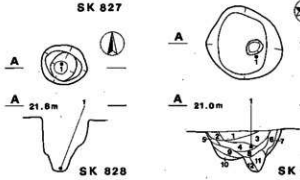
SK 824

第824号土坑 土層解説

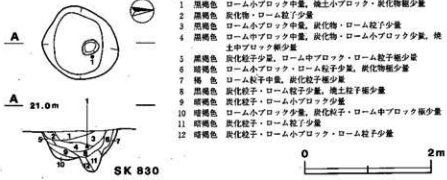
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 5 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量

第825号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化物・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 8 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



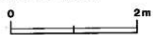
SK 828



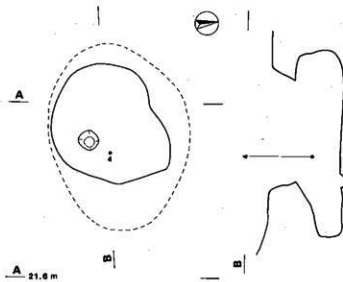
SK 830

第830号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化物・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック極少量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 8 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 11 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



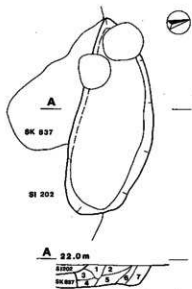
第192図 第817・822・823・824・825・827・828・830号土坑実測図



SK 852

第852号土坑 土層解説

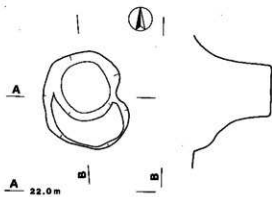
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック極少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量



SK 853

第853号土坑 土層解説

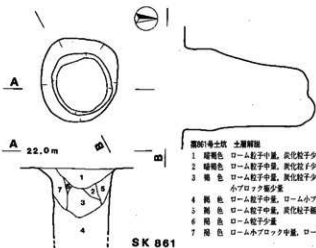
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、ローム大ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化物、炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量



SK 854

第854号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
- 2 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量、小骨片少量含む
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物極少量、小骨片少量含む
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

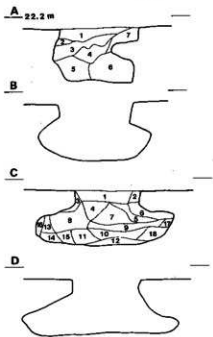
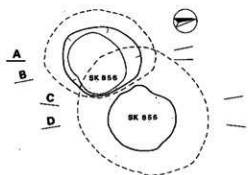


SK 851

第851号土坑 土層解説

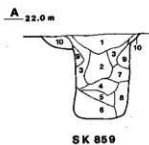
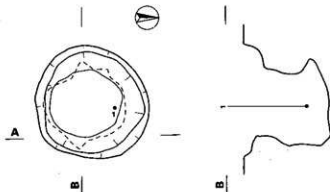
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、炭化物・ローム小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

第193図 第852・853・854・861号土坑実測図



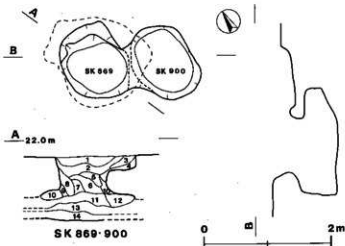
- 第855号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 3 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
 - 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量

- 第859号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 - 2 に近い暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子極少量
 - 3 に近い暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 4 明褐色 ローム小ブロック多量
 - 5 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
 - 6 明褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量
 - 8 明褐色 ローム中ブロック中量
 - 9 に近い暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子極少量
 - 10 暗褐色 ローム粒子中量
 - 11 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 12 に近い暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 13 暗褐色 ローム小ブロック中量
 - 14 暗褐色 ローム小ブロック極少量

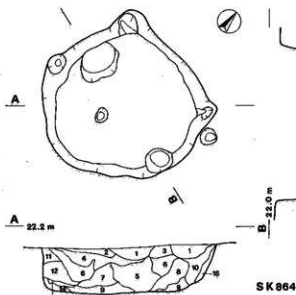


- 第859号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子極少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック極少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子多量
 - 9 暗褐色 ローム中ブロック少量
 - 10 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量

- 第856号土坑 土層解説**
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量、ローム中ブロック極少量
 - 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、ローム大ブロック極少量
 - 7 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
 - 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
 - 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック極少量
 - 10 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
 - 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 13 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中ブロック極少量
 - 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 - 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 16 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 17 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
 - 18 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量



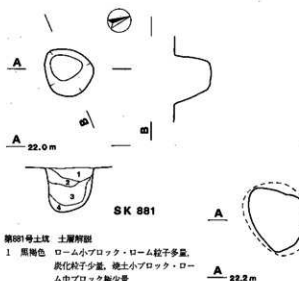
第194図 第855・856・859・869・900号土坑実測図



SK 864

第864号土坑 土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極少量
- 2 暗褐色 炭化粒子多量, 炭化物・ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 炭化物少量
- 5 黄 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 黄 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 黄 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 9 黄 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極少量
- 10 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, 炭化粒子中量
- 11 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 黄 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

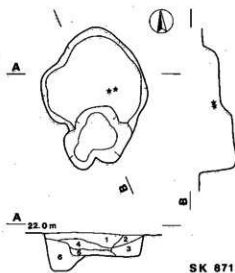


SK 881

第881号土坑 土層解説

- 1 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子・炭化物少量, 焼土粒子極少量
- 4 黄 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

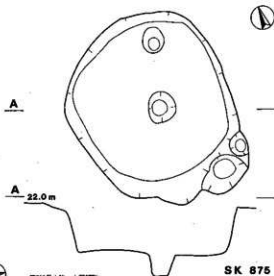
SK 883



SK 871

第871号土坑 土層解説

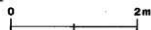
- 1 暗 色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子極少量
- 2 暗 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 に近い暗色 ローム中ブロック中量
- 4 明 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子極少量
- 5 に近い暗色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 明 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量

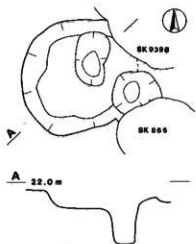


SK 875

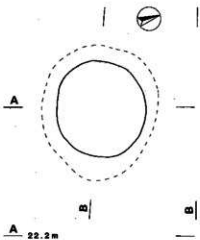
第875号土坑 土層解説

- 1 暗 色 ローム小ブロック多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 暗 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 5 暗 色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子極少量
- 6 暗 色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子極少量
- 7 暗 色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 に近い暗色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子極少量
- 9 明 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ソフトローム中量, 炭化粒子極少量





SK 938

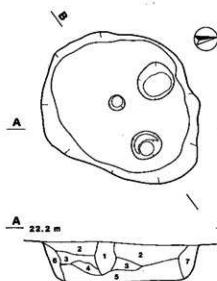


第935号土坑 土層解説

- 1 土に近い黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量



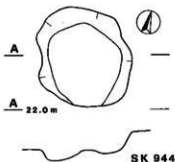
SK 935



SK 938

第938号土坑 土層解説

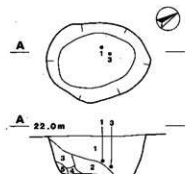
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子少量、焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒・ローム大ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック少量、炭化粒子少量
- 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量



SK 944

第944号土坑 土層解説

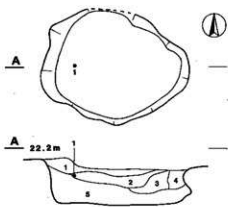
- 1 明褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 明褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、炭化物少量、炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量



SK 943

第943号土坑 土層解説

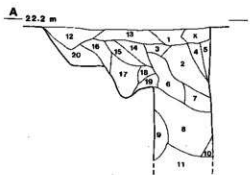
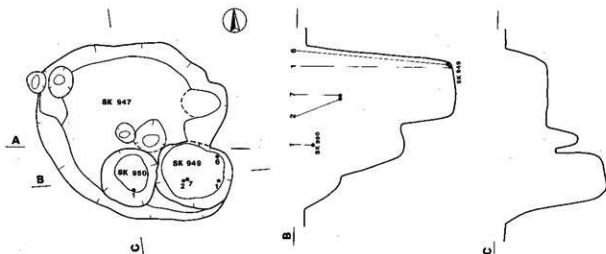
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量



SK 946



第196図 第886・935・938・943・944・946号土坑実測図



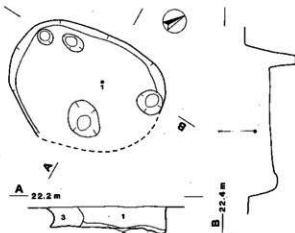
第947号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化物、炭化粒子少量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物、炭化粒子中量、焼土粒子、ローム中ブロック少量、小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 炭化物、炭化粒子、ローム小ブロック、ローム粒子中量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子少量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子中量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量、小骨片極少量含む
- 8 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量、小骨片極少量含む
- 9 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック、焼土粒子少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化物少量
- 11 暗褐色 炭化物、炭化粒子、ローム小ブロック、ローム粒子多量

SK 947-949-950

第950号土坑 土層解説

- 12 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、炭化物、炭化粒子少量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子中量、焼土小ブロック、焼土粒子少量
- 14 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物、炭化粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化物、炭化粒子、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック極少量
- 16 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック、焼土粒子極少量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 18 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 19 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、炭化物、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
- 20 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量



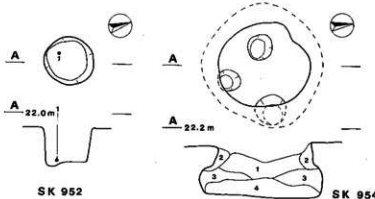
SK 951

第951号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、焼土小ブロック、炭化粒子、炭化粒子、ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック、ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量、小骨片極少量含む

第954号土坑 土層解説

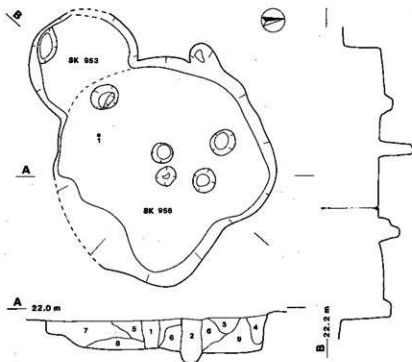
- 1 暗褐色 焼土小ブロック、炭化物、炭化粒子、ローム小ブロック、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子、ローム中ブロック、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子、ローム中ブロック少量



SK 952

SK 954

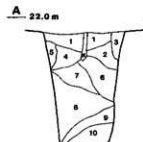
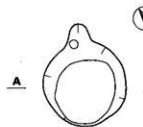
第197図 第947・949・950・951・952・954号土坑実測図



SK 953-956

第956号土坑 土層解説

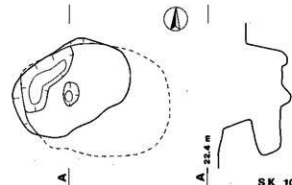
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック、ローム粒子中量、焼土粒子中量、焼土粒子・粘土小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量



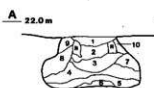
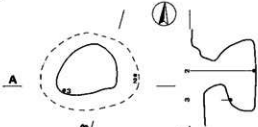
SK 957

第957号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量、土層9層目に炭がレンズ状に混入、炭に炭化物含む
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子極少量



SK 1045

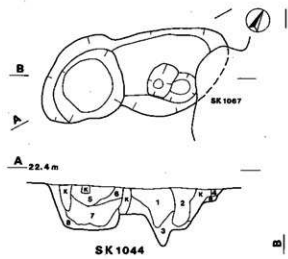


SK 960

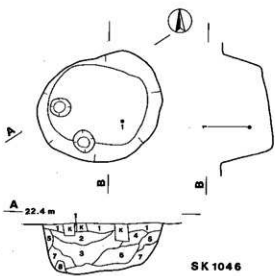
第960号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子・焼土粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子・焼土粒子極少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量

第198図 第953・956・957・960・1045号土坑実測図

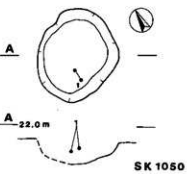


SK 1044



SK 1046

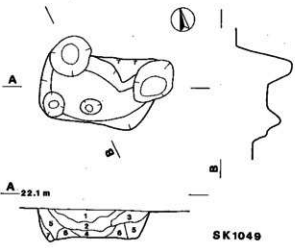
- 第1046号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
 - 2 暗褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
 - 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 5 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子極少量
 - 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量
 - 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量



SK 1050

第1044号土坑 土層解説

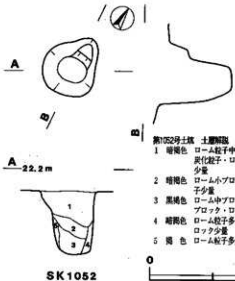
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量、ローム中ブロック極少量、貝片少量含む
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子極少量
- 8 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量



SK 1049

第1049号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量

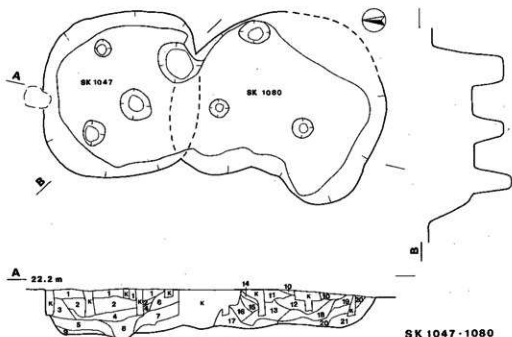


SK 1052

第1052号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第199図 第1044・1046・1049・1050・1052号土坑実測図



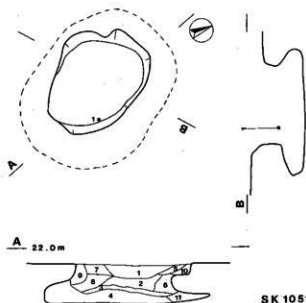
SK 1047-1080

第1047号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化物極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, 小骨片極少量含む
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化物極少量

第1080号土坑 土層解説

- 10 黒褐色 黒土粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック極少量
- 11 黒褐色 黒土粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物極少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物極少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化物少量
- 15 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック少量
- 16 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 17 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子極少量
- 18 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量
- 19 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極少量
- 20 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 21 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量



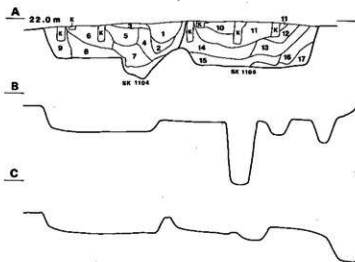
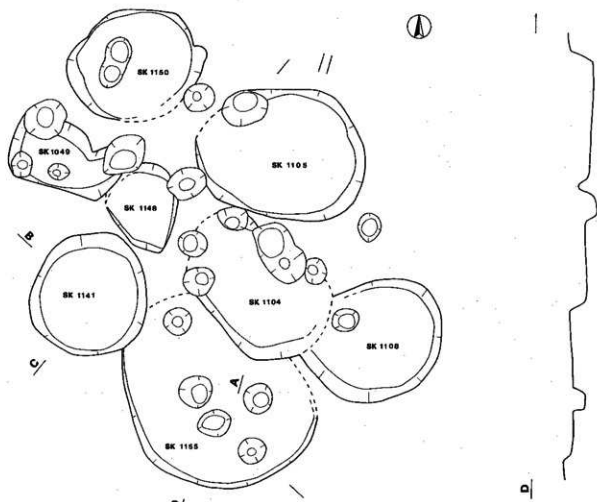
SK 1051

第1051号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子極少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極少量



第200図 第1047・1051・1080号土坑実測図



第1104号土坑 土層解説

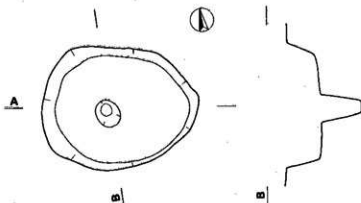
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量

第1105号土坑 土層解説

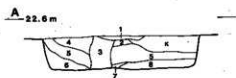
- 10 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物極少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 13 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 16 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 17 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第201図 第1049・1104・1105・1108・1141・1148・1150・1155号土坑実測図

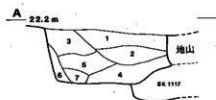
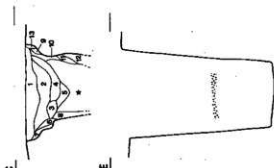
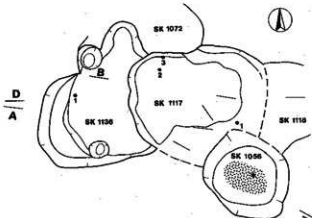


- 第1054号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子・焼土粒子極少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子極少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 5 褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 6 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量
 - 8 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量



SK 1054

- 第1117号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量
 - 4 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



- 第1136号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
 - 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
 - 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 4 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量
 - 5 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 7 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、ローム粒子極少量



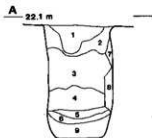
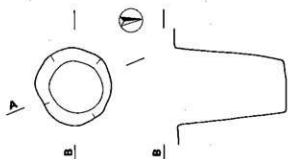
- 第1056号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
 - 2 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
 - 3 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量
 - 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 - 5 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子極少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
 - 8 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 9 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、小骨片少量含む
 - 10 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
 - 11 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極少量
 - 12 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量



SK 1056・1117・1136



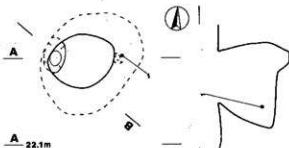
第202図 第1054・1056・1117・1136号土坑実測図



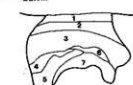
SK 1058

第1058号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 2 暗色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒少量
- 5 暗暗褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子中量、焼土粒子・粒土少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 7 濃い褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 8 暗色 ローム小ブロック多量、焼土小ブロック・炭化粒少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量



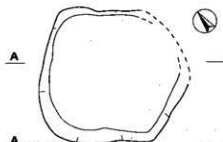
A 22.1m



SK 1059

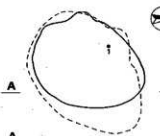
第1059号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック少量
- 5 暗色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒・炭化粒少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック少量
- 7 暗色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック少量



A 22.0m

SK 1060

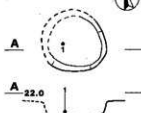


A 22.1m

SK 1061

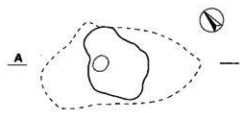
第1061号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 3 暗色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量



A 22.0m

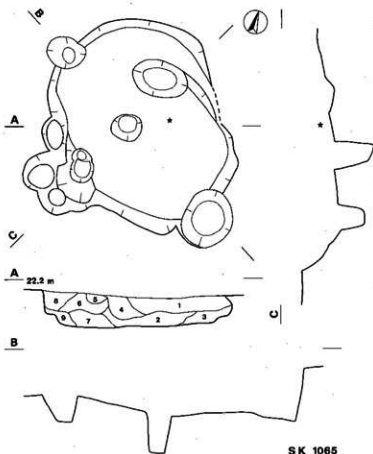
SK 1062



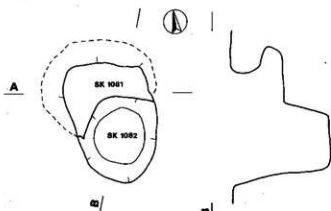
A 22.0m

SK 1063

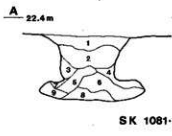




SK 1065



SK 1081-1082

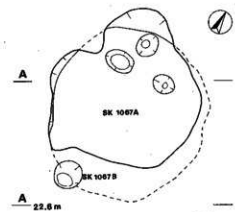


第1081号土坑 土層解明

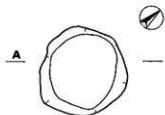
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 2 新暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量

第1065号土坑 土層解明

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、小骨片少量含む
- 5 暗褐色 褐色土粒子少量多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量

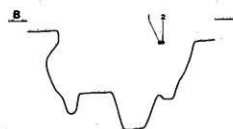
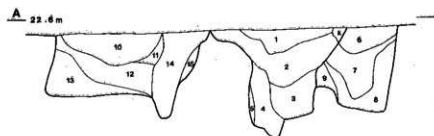
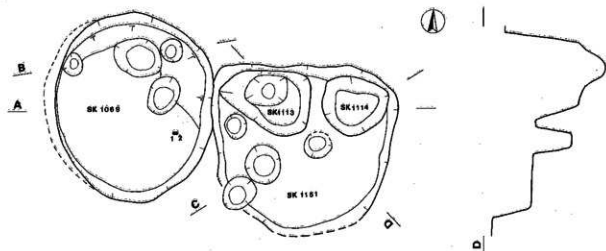


SK 1067A-B



SK 1066





第1069号土坑 土層解説

- 10 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 12 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 13 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量、小骨片極少量存在
- 15 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量

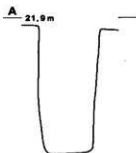
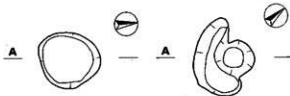
SK 1069-1113-1114-1151

第1113号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

第1114号土坑 土層解説

- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化物極少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、炭化粒子極少量
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量

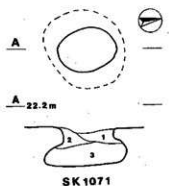


SK 1093

SK 1094

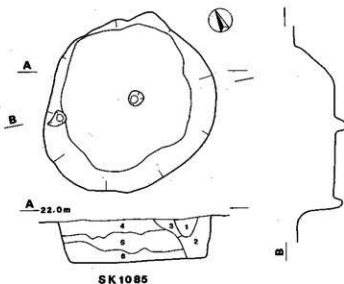


第205図 第1069・1093・1094・1113・1114・1151号土坑実測図



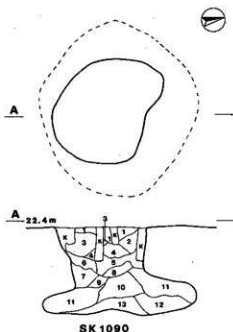
第1071号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量



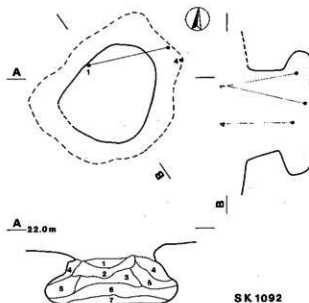
第1085号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック少量、小骨片極少量含む
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土灰子・炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、炭化粒子極少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極少量



第1090号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、小骨片極少量含む
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物極少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック中量、炭化粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

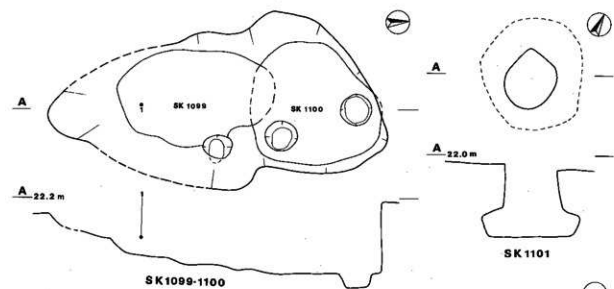


第1092号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック極少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子極少量
- 7 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

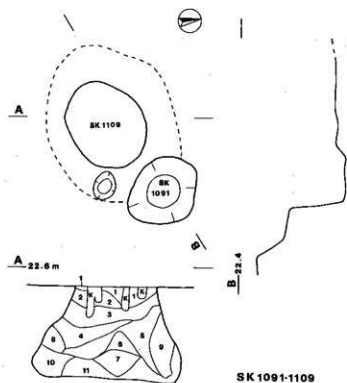


第206図 第1071・1085・1090・1092号土坑実測図

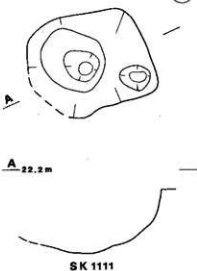


SK 1099-1100

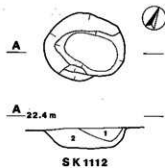
SK 1101



SK 1091-1109



SK 1111



SK 1112

第109号土坑 土層解説

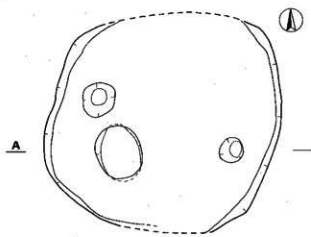
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極少量

第112号土坑 土層解説

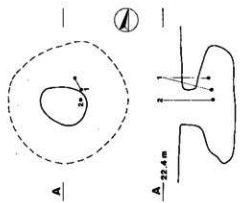
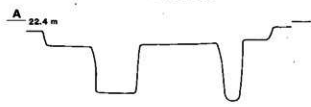
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量



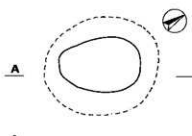
第207図 第1091・1099・1100・1101・1109・1111・1112号土坑実測図



SK 1110

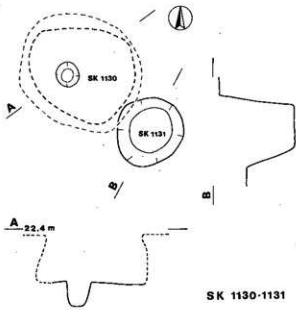


SK 1124

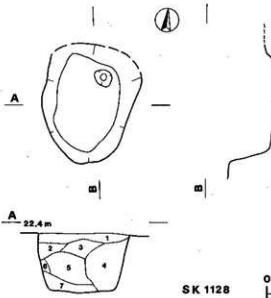


SK 1138

- 第1138号土坑 土層解説
- 1 褐色 ローム大ブロック多量、ローム小ブロック、ローム粒子中量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック、炭化粒子少量、ローム中ブロック少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量
 - 5 褐色 ローム粒子中量
 - 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 7 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
 - 8 褐色 ローム小ブロック、ローム粒子中量、炭化粒子、ローム中ブロック少量
 - 9 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック、炭化粒子少量
 - 10 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
 - 11 褐色 ローム小ブロック、ローム粒子少量
 - 12 褐色 褐色 ローム大ブロック、ローム中ブロック、ローム粒子中量

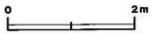


SK 1130-1131

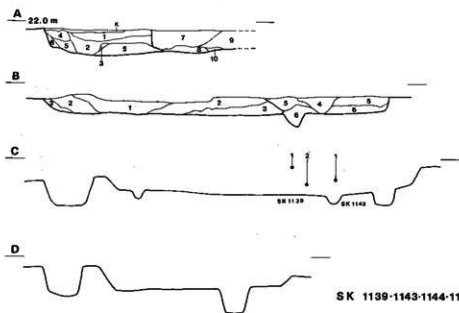
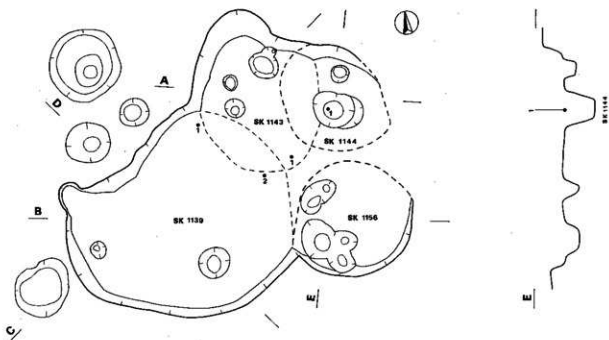


SK 1128

- 第1128号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量
 - 2 暗褐色 炭化粒子、ローム大ブロック、ローム小ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子、ローム中ブロック少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土小ブロック少量
 - 5 暗褐色 焼土粒子、炭化粒子、ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 7 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量



第208図 第1110・1124・1128・1130・1131・1138号土坑実測図



SK 1139・1143・1144・1156

第1139号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化物極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子極少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第1143号土坑 土層解説

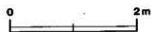
- 1 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子極少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化物極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量

第1144号土坑 土層解説

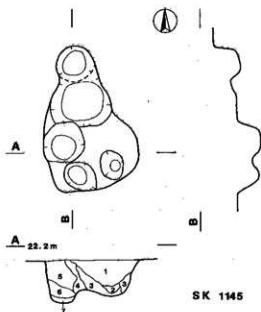
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第1156号土坑 土層解説

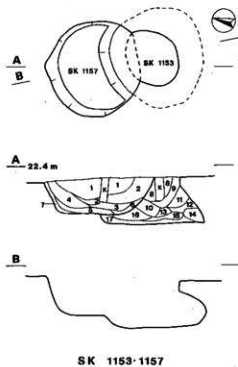
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック極少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物極少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量



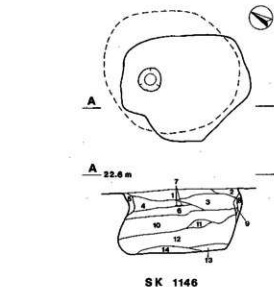
第209図 第1139・1143・1144・1156号土坑実測図



- 第1145号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム中アブロック中量、焼土小ブロック・炭化物少量
 - 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 4 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量
 - 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
 - 6 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量



SK 1153・1157



SK 1146

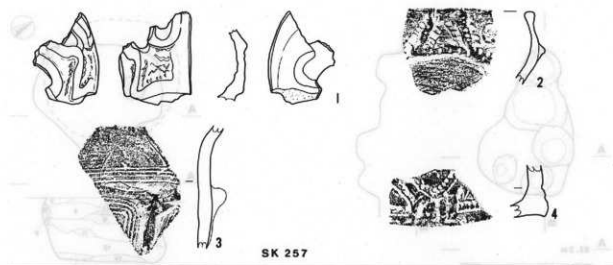
- 第1146号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
 - 2 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
 - 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック極少量
 - 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
 - 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 炭化物、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
 - 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム中ブロック少量
 - 9 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
 - 10 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 11 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
 - 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物・ローム中ブロック少量、焼土小ブロック極少量
 - 13 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
 - 14 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

- 第1145号土坑 土層解説
- 8 暗褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 9 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
 - 10 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
 - 11 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 - 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 13 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
 - 14 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
 - 15 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
 - 16 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物極少量
 - 17 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量

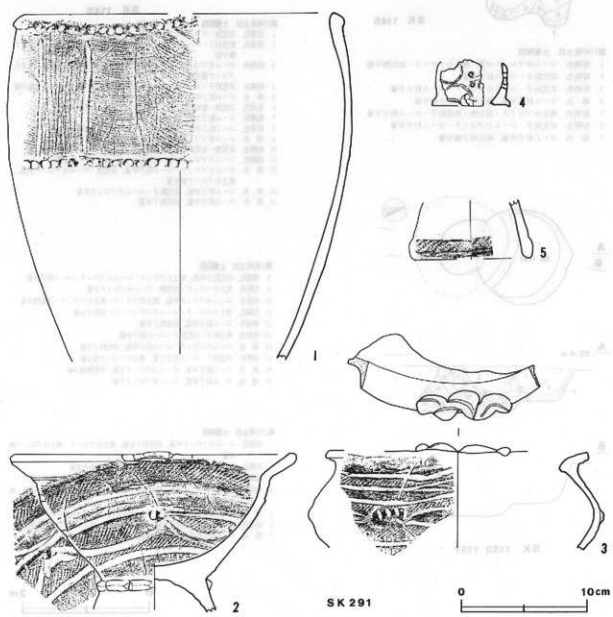
- 第1157号土坑 土層解説
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック極少量
 - 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
 - 3 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物極少量
 - 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック極少量
 - 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 - 6 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック極少量
 - 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極少量



第210図 第1145・1146・1153・1157号土坑実測図



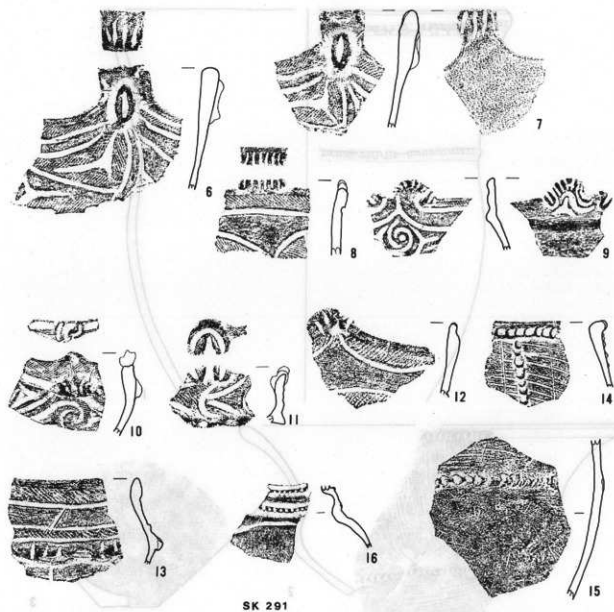
SK 257



SK 291

0 10cm

第211图 第257・291(1)号土坑出土遗物实测・拓影图

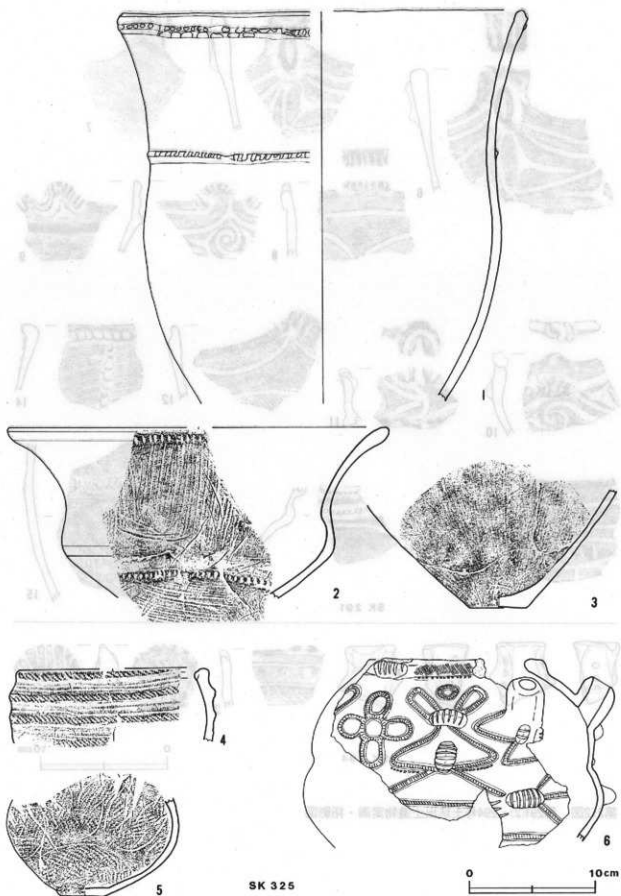


第212図 第291(2)・294号土坑出土遺物実測・拓影図

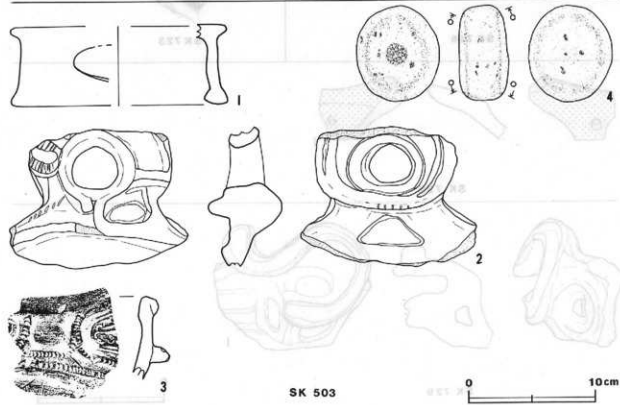
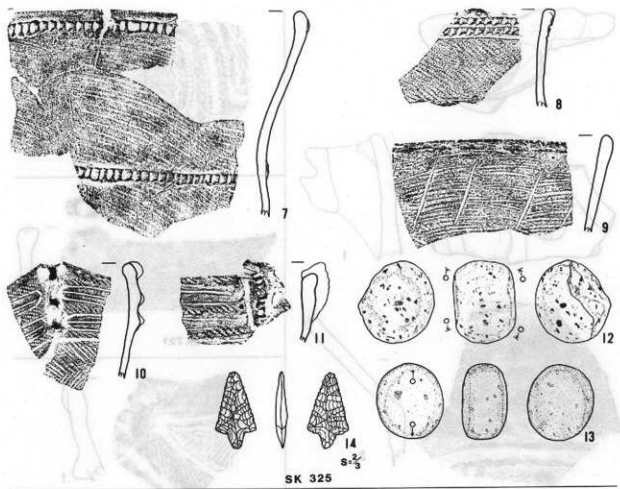


0 10cm

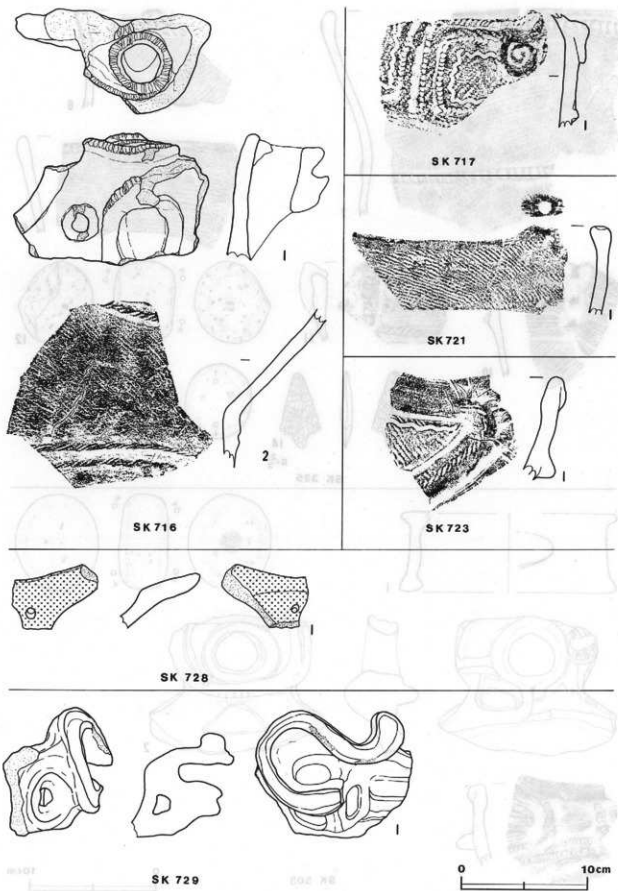
図解部 - 実測部 出土土坑 291(2) 294 図解部



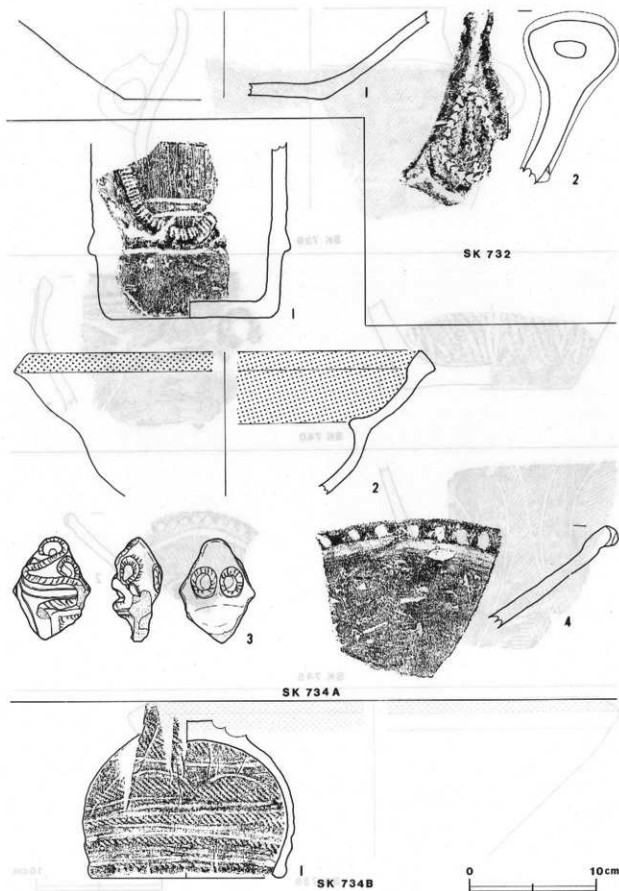
第213图 第325(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



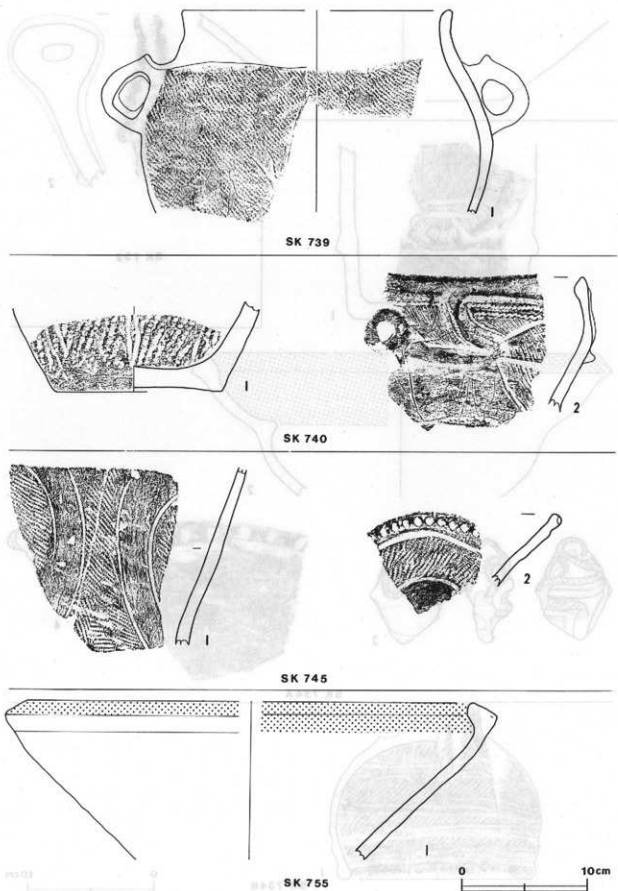
第214图 第325(2)·503号土坑出土遗物实测·拓影图



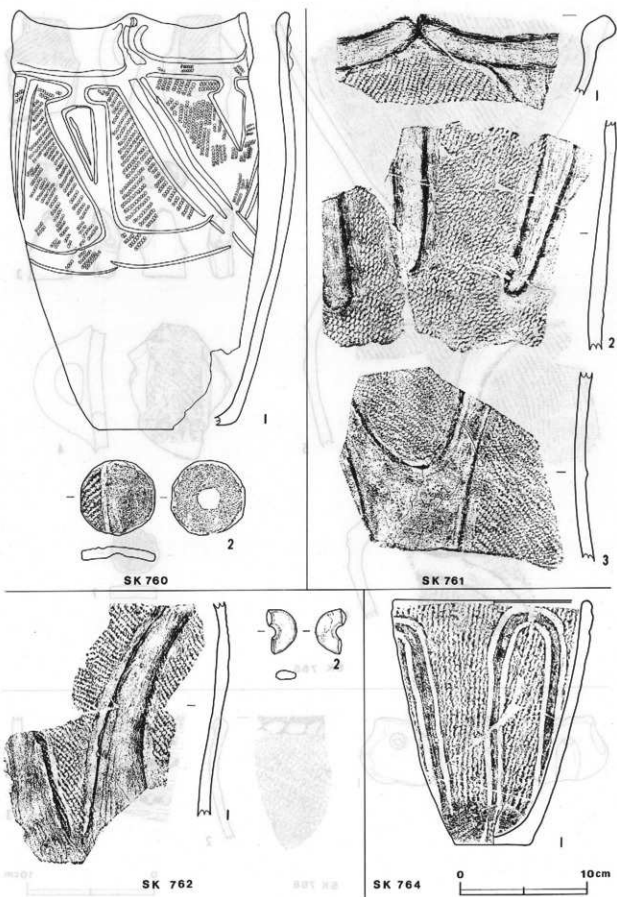
第215图 第716·717·721·723·728·729号土坑出土遗物实测·拓影图



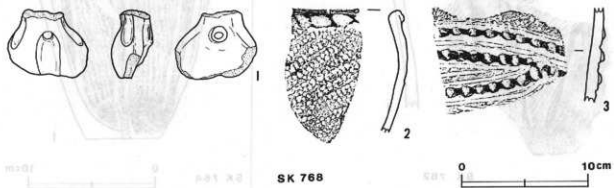
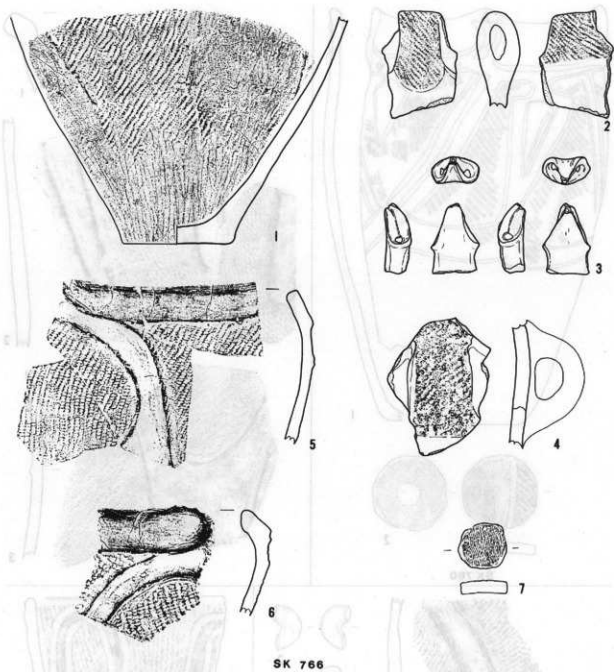
第216图 第732·734A·734B号土坑出土遺物実測・拓影图



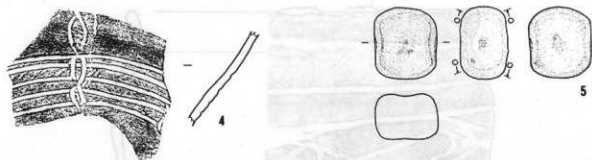
第217図 第739・740・745・755号土坑出土遺物実測・拓影図



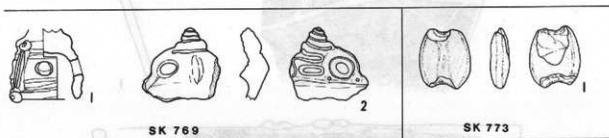
第218图 第760·761·762·764号土坑出土文物实测·拓影图



第219図 第766・768(1)号土坑出土遺物実測・拓影図

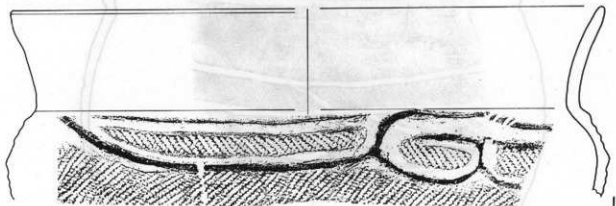


SK 768

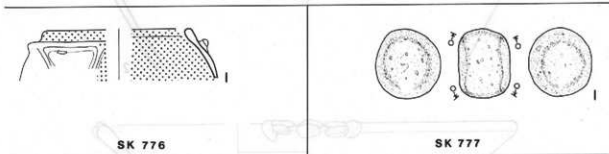


SK 769

SK 773



SK 775

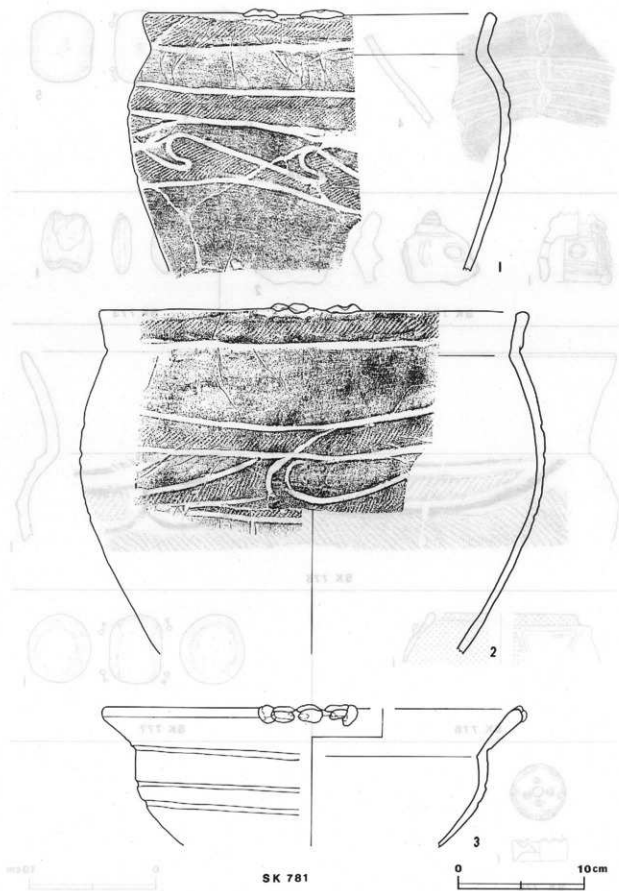


SK 776

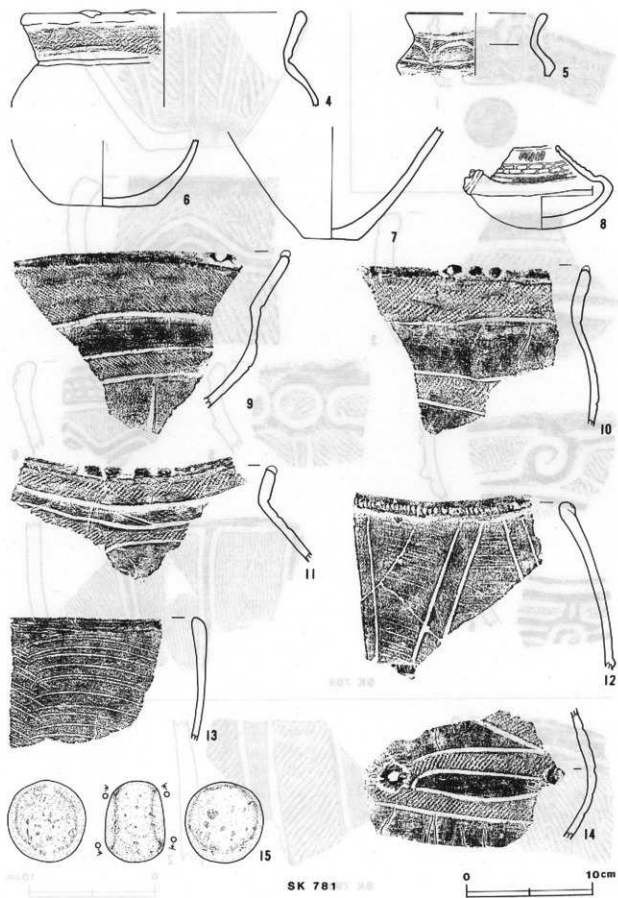
SK 777



SK 778



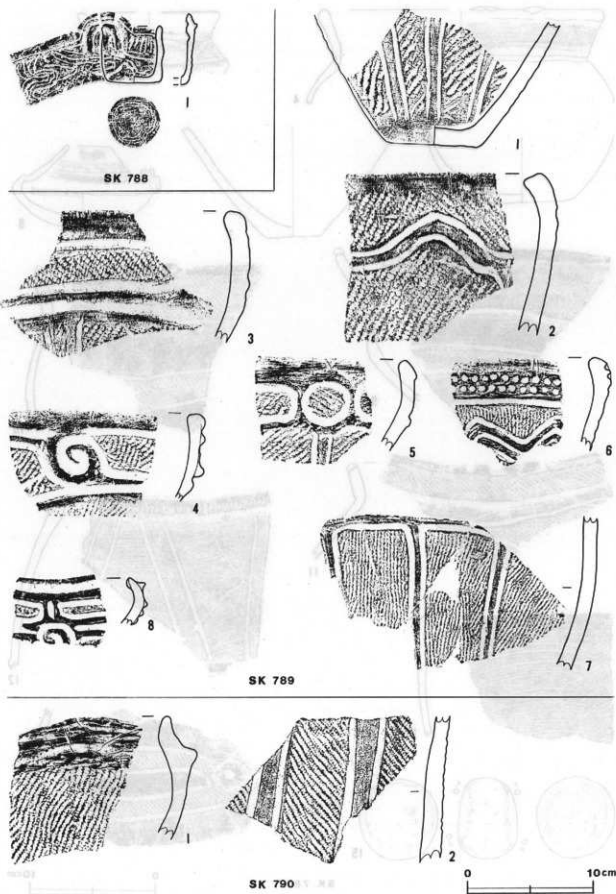
第221图 第781号土坑出土遗物实测·拓影图(1)



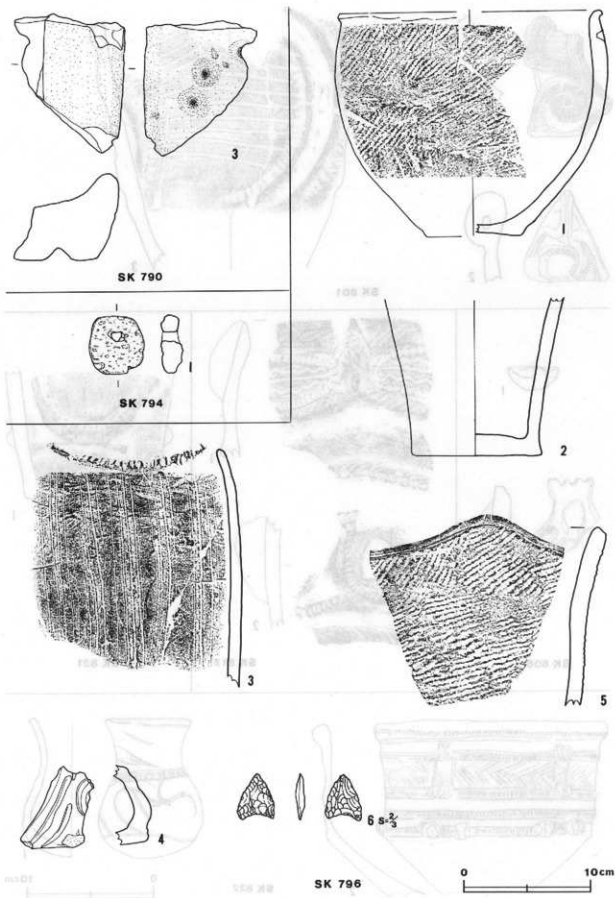
第222图 第781号土坑出土文物实测·拓影图(2)

SK 781

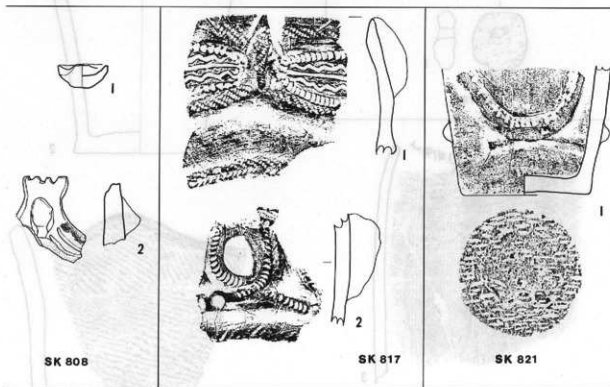
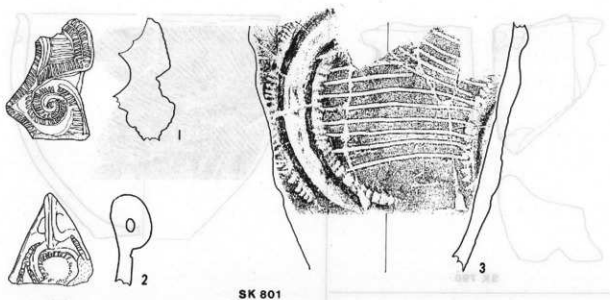
0 10cm



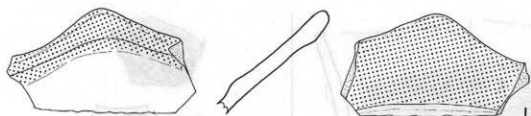
第223图 第788·789·790(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



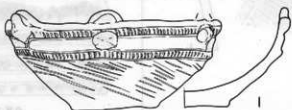
第224図 第790(2)・794・796号土坑出土遺物実測・拓影



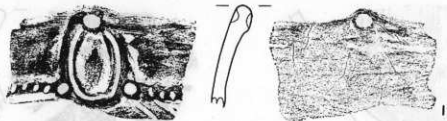
第225图 第801·808·817·821·822号土坑出土文物实测·拓影图



SK 823



SK 824

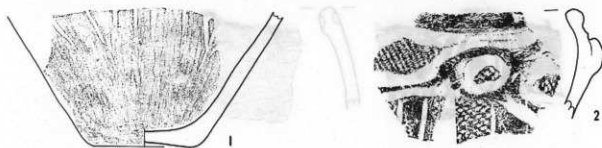
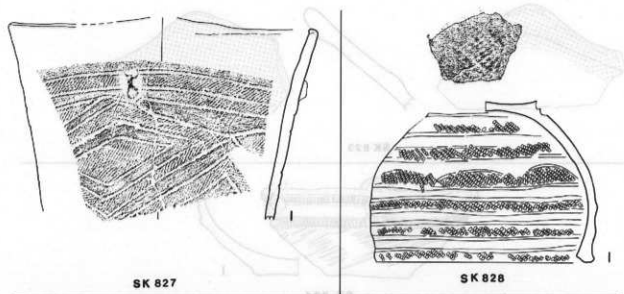


SK 825

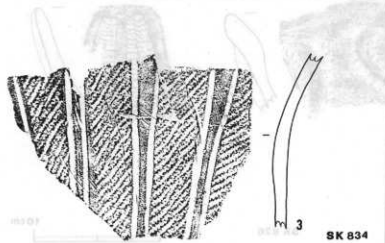


SK 826

第226图 第823·824·825·826号土坑出土遗物实测·拓影图

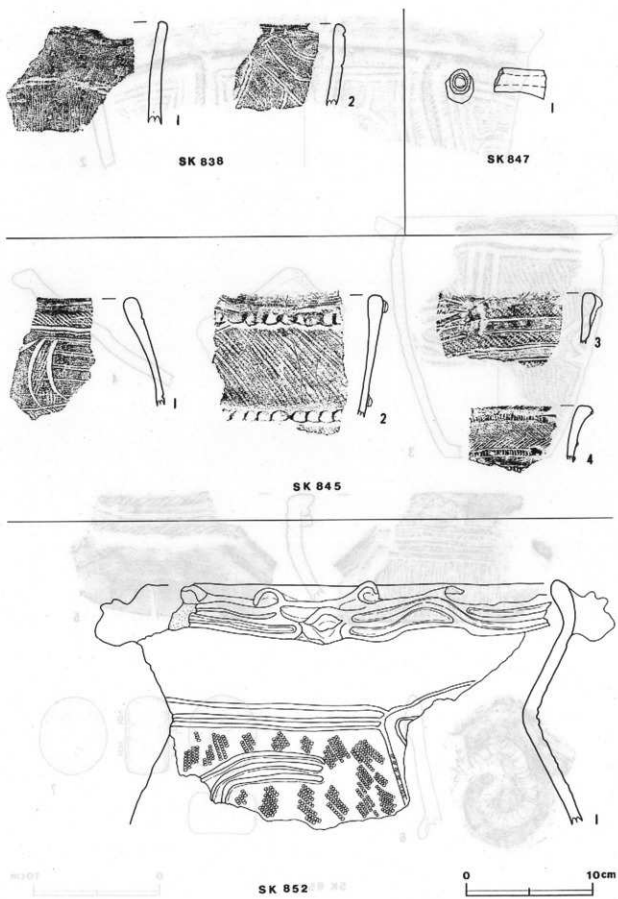


SK 830

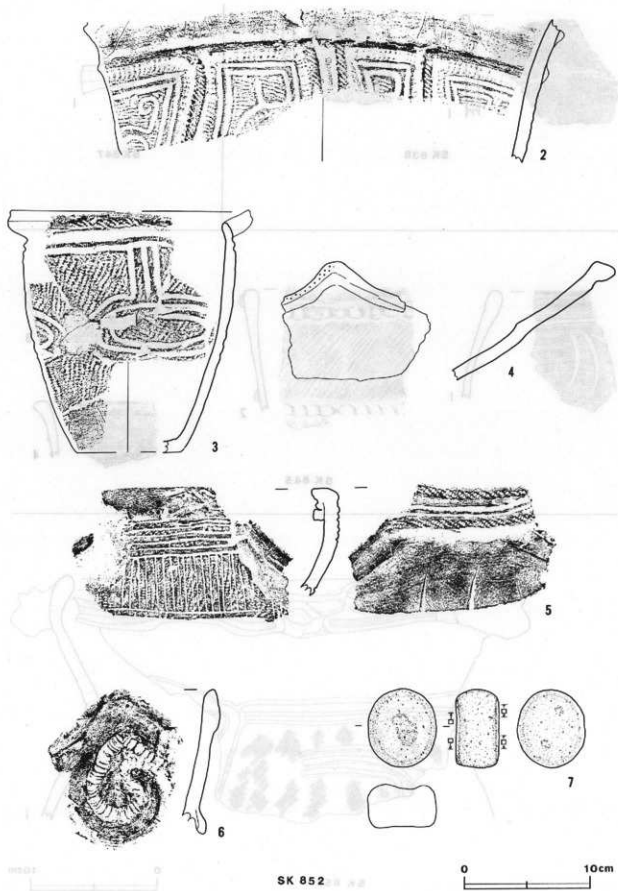


0 10cm

第227图 第827·828·830·834号土坑出土遗物实测·拓影图



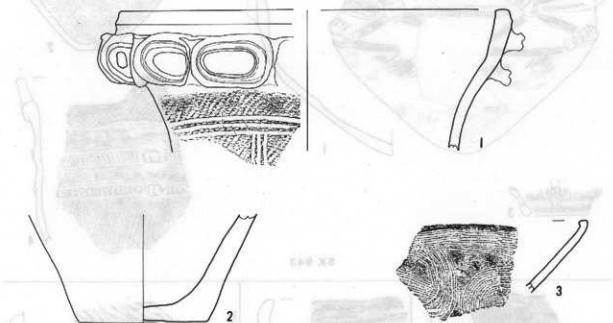
第228图 第838・845・847・852(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



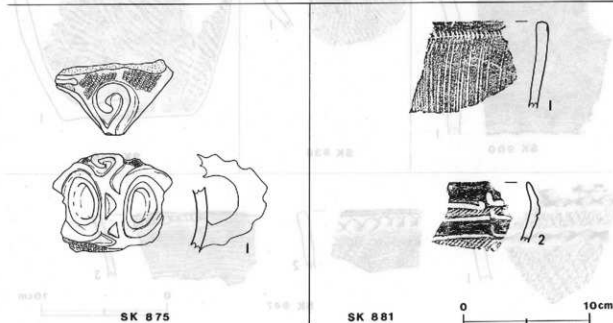
第229图 第852号土坑出土遺物実測・拓影图(2)



SK 854



SK 859

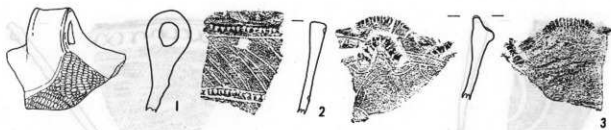


SK 875

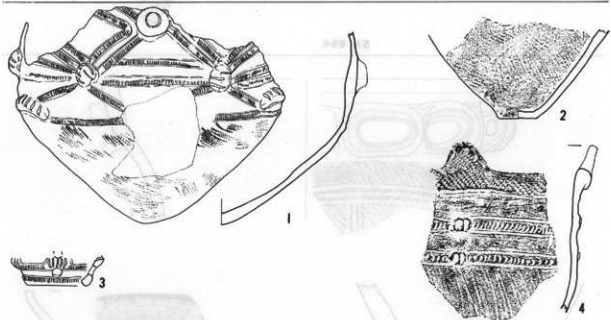
SK 881

0 10cm

第230图 第854・859・875・881号土坑出土遺物実測・拓影图



SK 886



SK 943



SK 900



SK 938



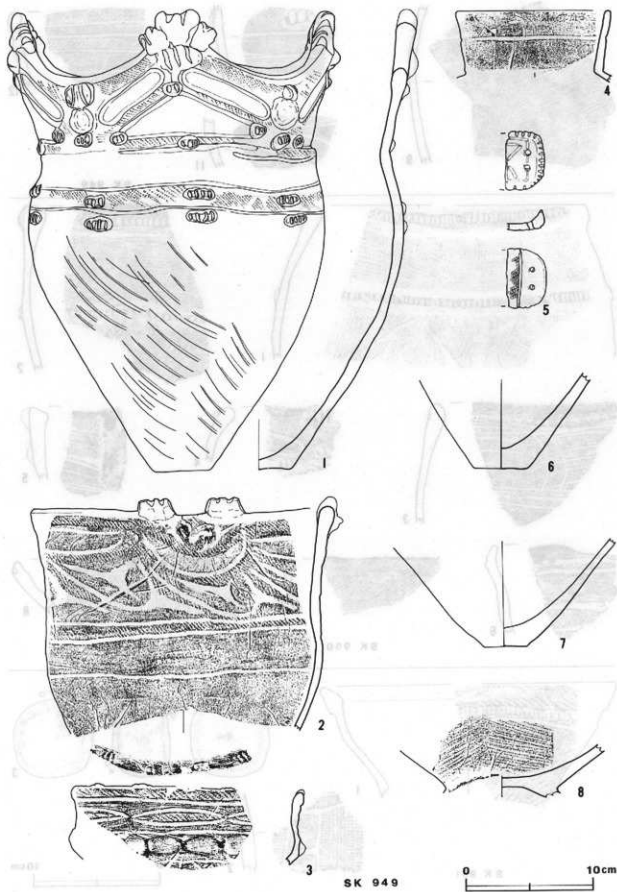
SK 946



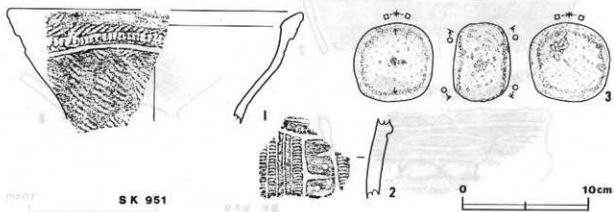
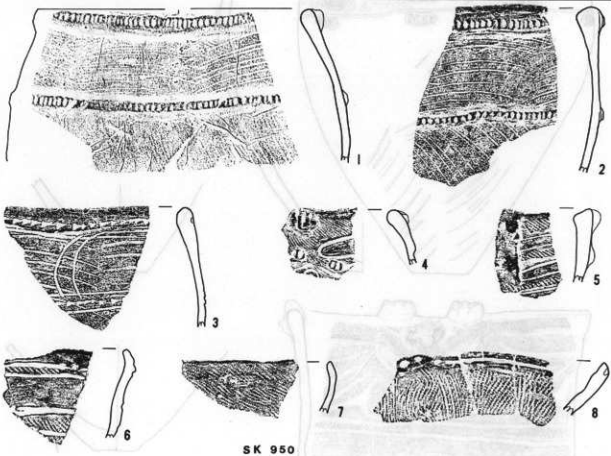
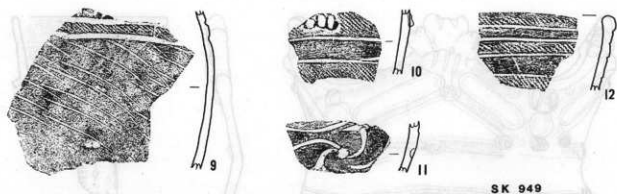
SK 947

0 10cm

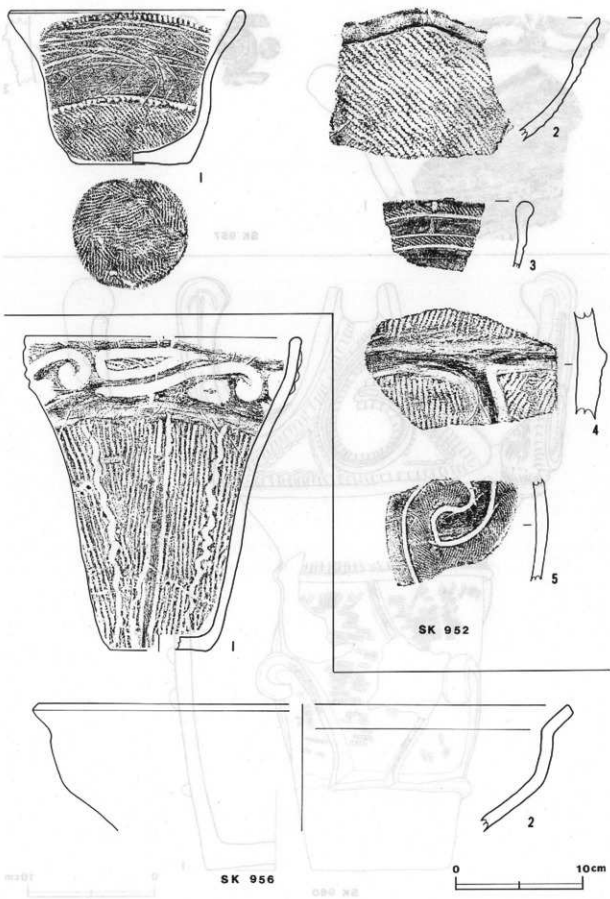
第231图 第886·900·938·943·946·947号土坑出土遺物实测·拓影图



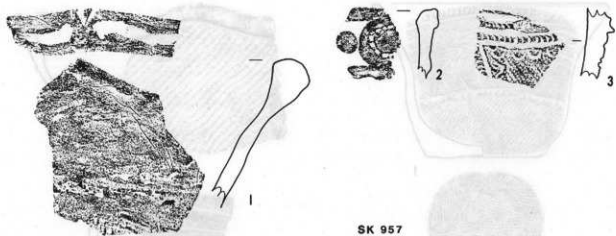
第232图 第949号土坑出土文物实测·拓影图(1)



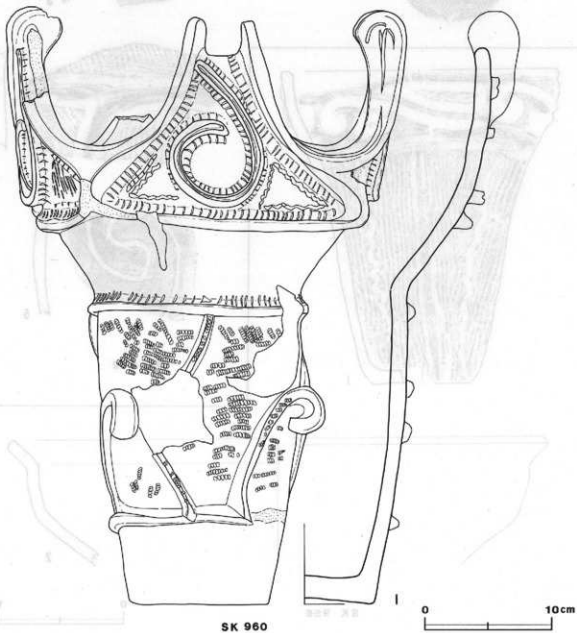
第233图 第949(2)·950·951号土坑出土文物实测·拓影图



第234图 第952·956号土坑出土文物实测·拓影图

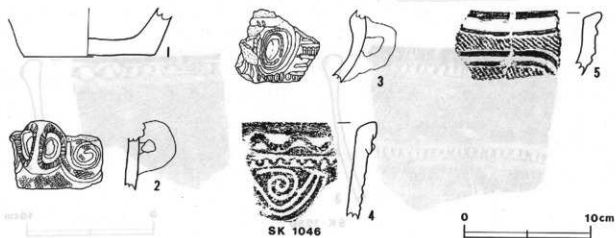
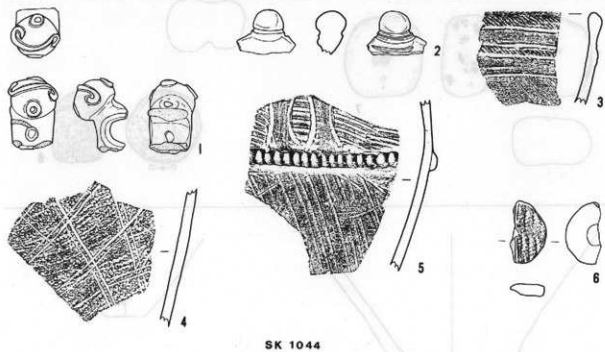
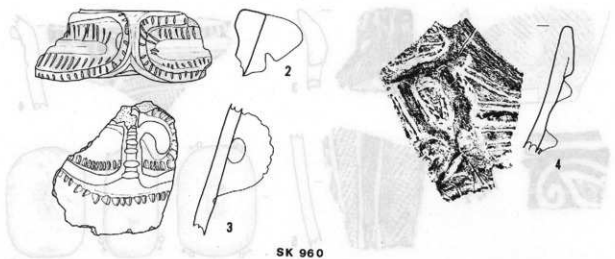


SK 957

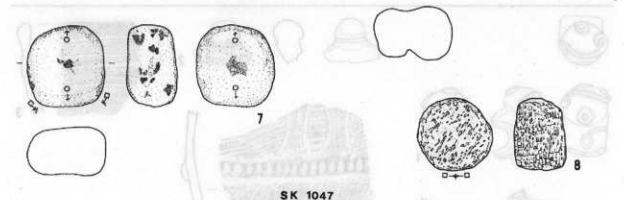
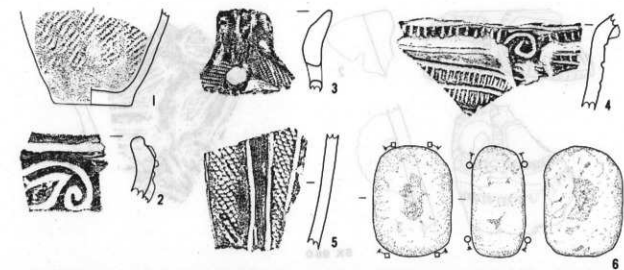


SK 960

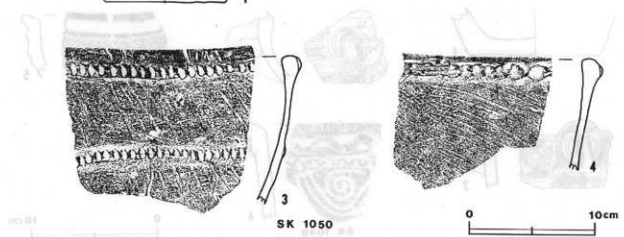
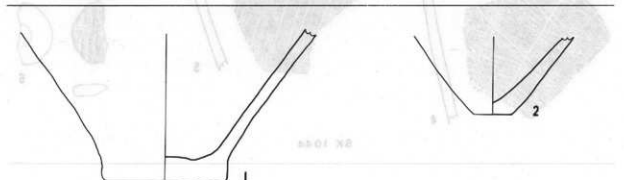
第235图 第957・960(1)号土坑出土遗物实测・拓影图



第236图 第960(2)·1044·1046号土坑出土文物实测·拓影图



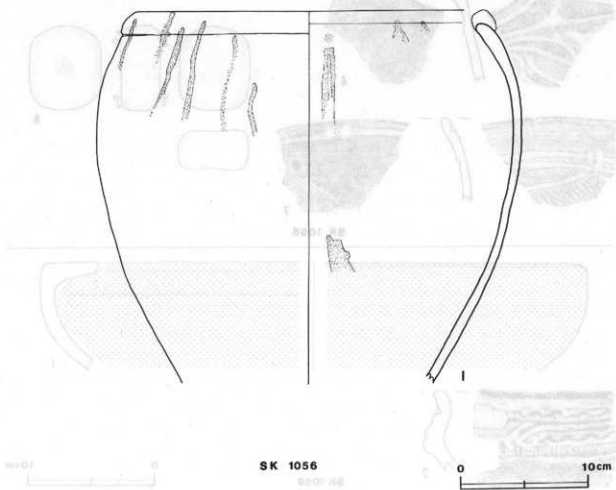
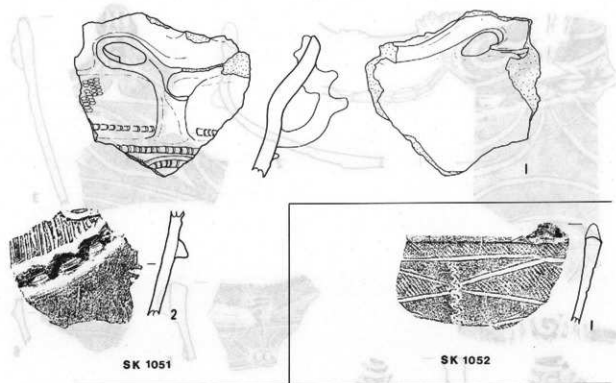
SK 1047



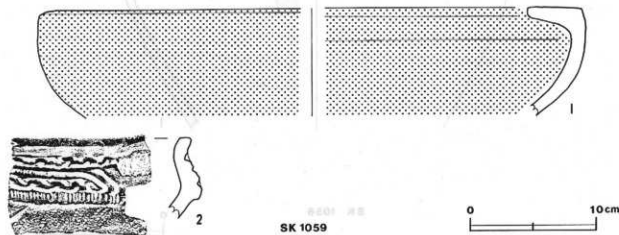
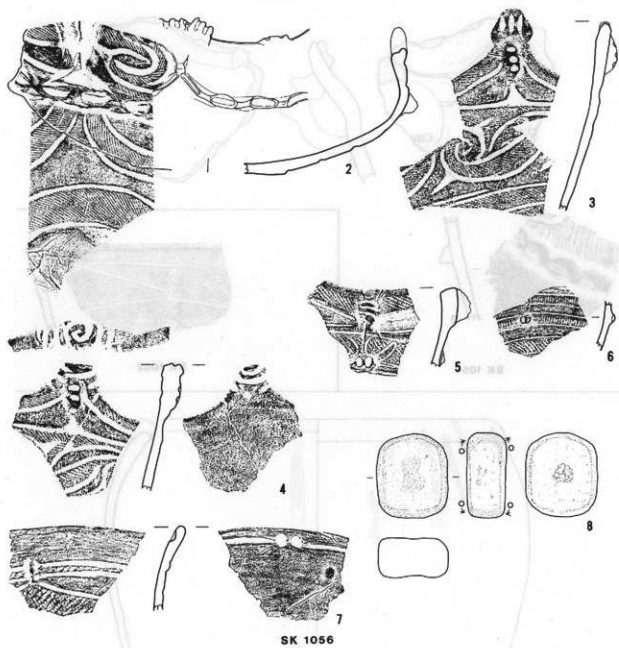
SK 1050

0 10cm

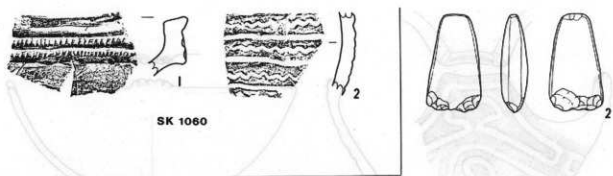
第237图 第1047·1050号土坑出土遗物实测·拓影图



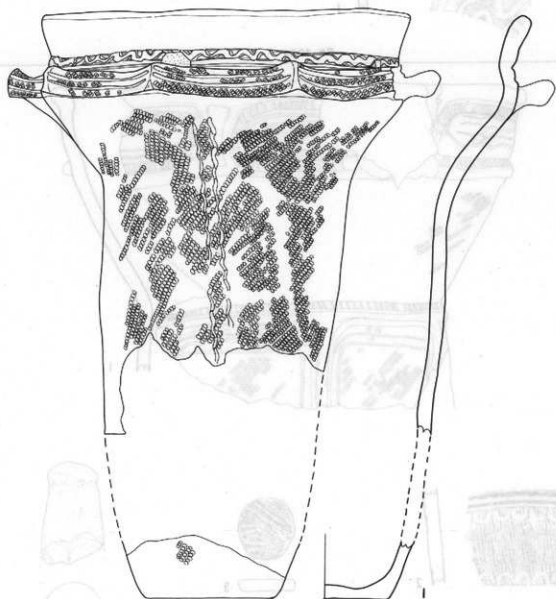
第238图 第1051・1052・1056(1)号土坑出土遗物实测・拓影图



第239图 第1056(2)・1059号土坑出土遺物実測・拓影图



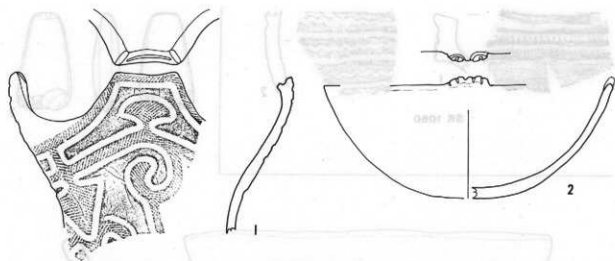
SK 1060



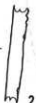
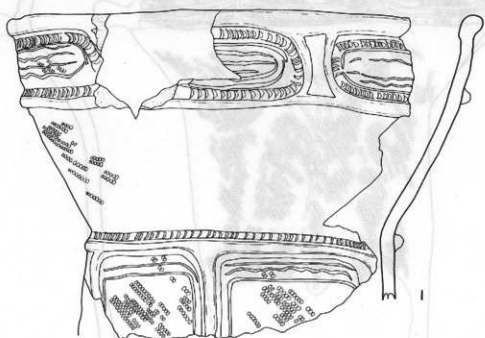
SK 1061

0 10cm

第240图 第1060·1061号土坑出土遗物实测·拓影图



SK 1062



2



3



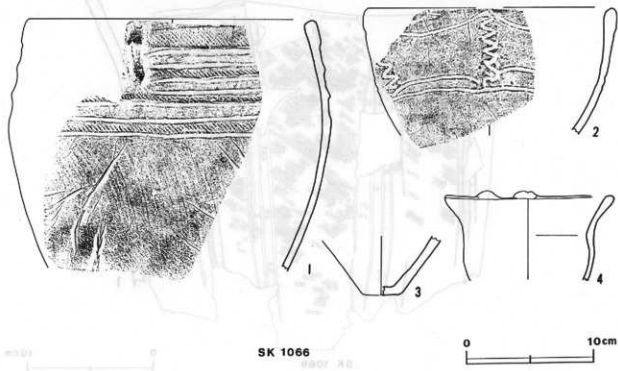
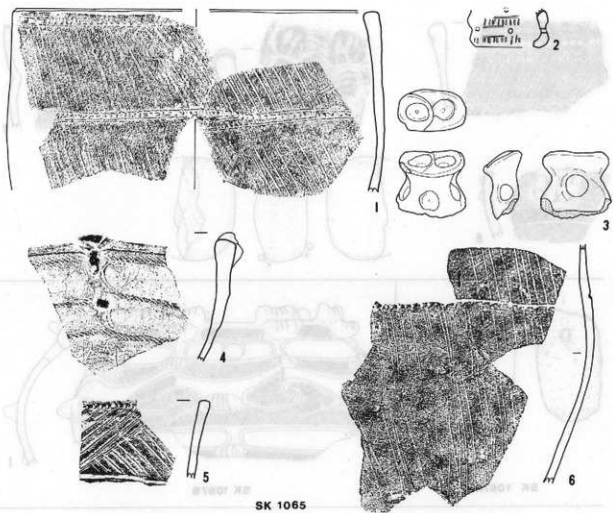
4



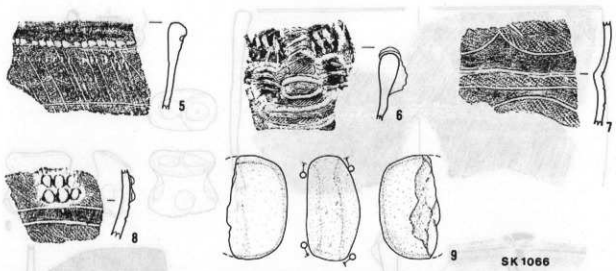
0 10cm

SK 1063

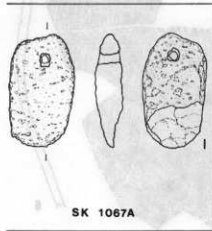
第241图 第1062・1063号土坑出土遺物実測・拓影图



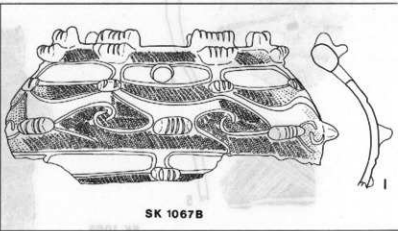
第242图 第1065・1066(1)号土坑出土遗物实测·拓影图 (6001 - 61301 - A1301 - 126601等) 3235



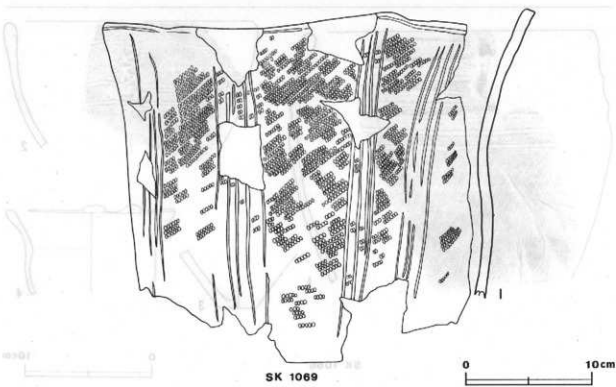
SK 1066



SK 1067A



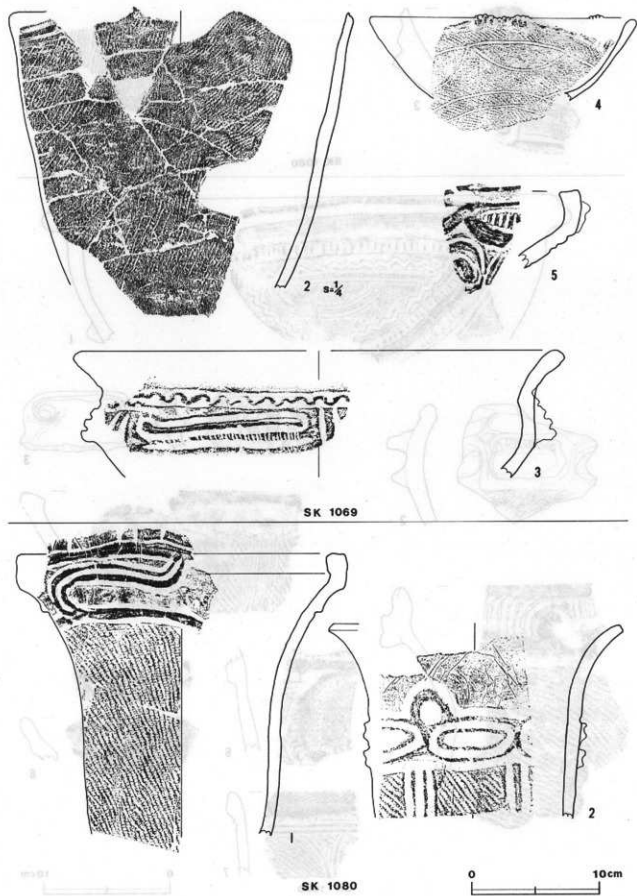
SK 1067B



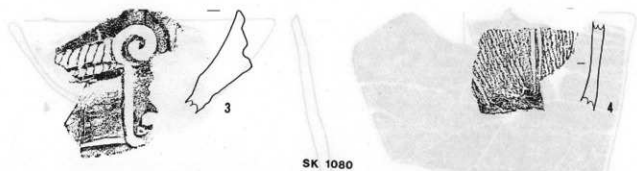
SK 1069

0 10cm

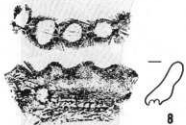
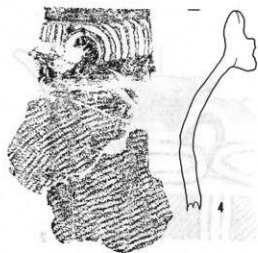
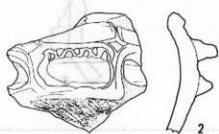
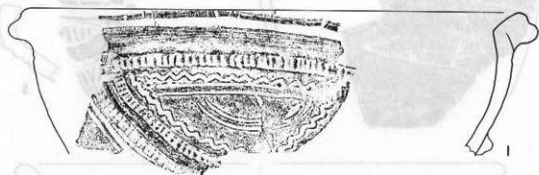
第243图 第1066(2)·1067A·1067B·1069(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



第244图 第1069(2)·1080(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



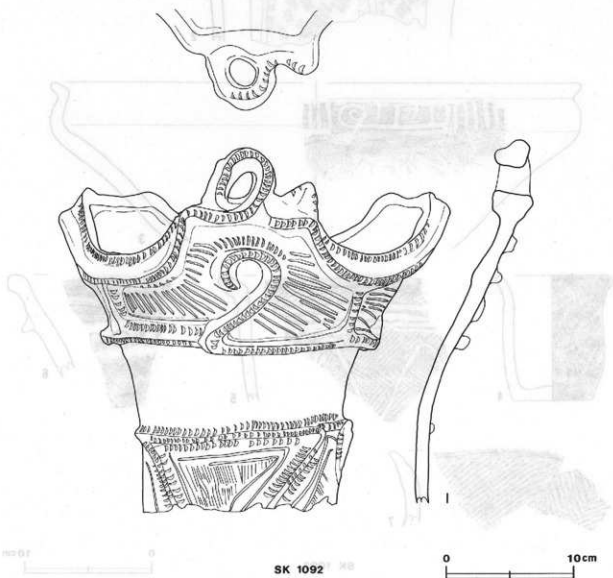
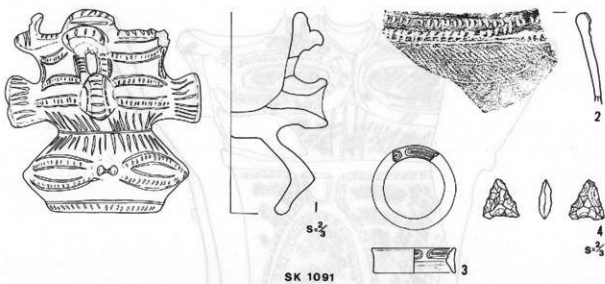
SK 1080



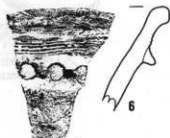
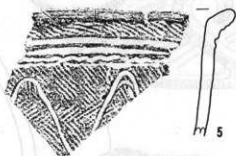
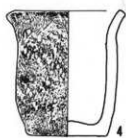
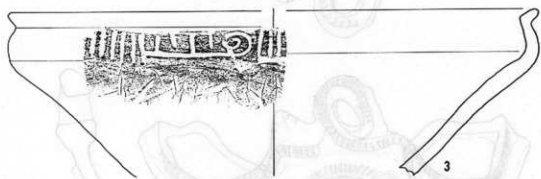
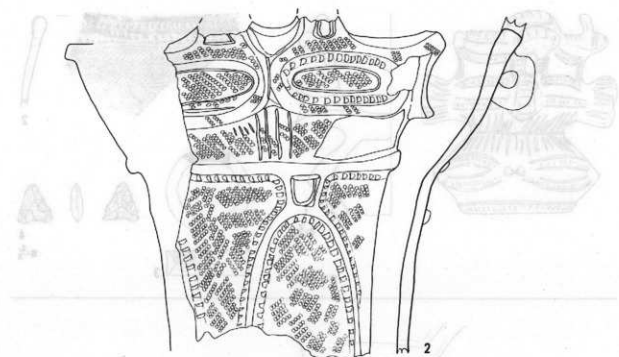
SK 1090

0 10cm

第245图 第1080(2)·1090号土坑出土文物实测·拓影图



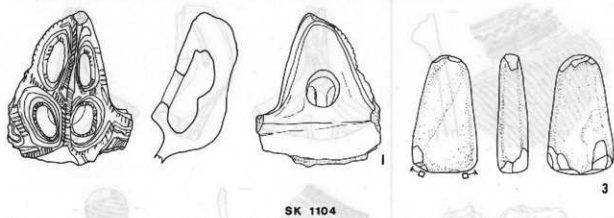
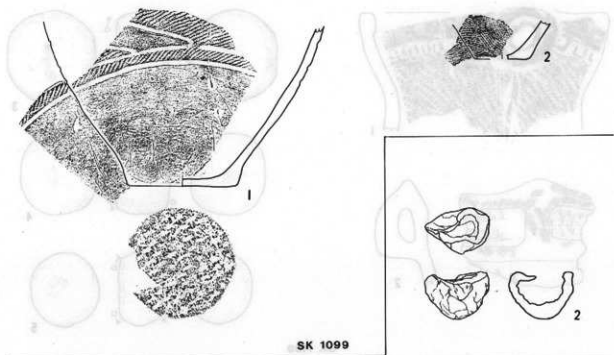
第246图 第1091・1092(1)号土坑出土遺物実測・拓影图



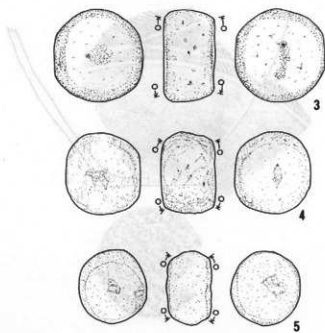
SK 1092



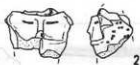
第247图 第1092(2)号土坑出土遺物実測・拓影图 图例・服装纹样出土及土器(5901・1901等) 图04C篇



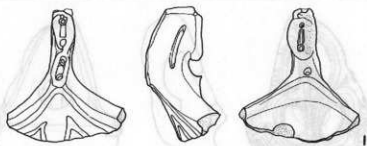
第248図 第1099・1104・1108号土坑出土遺物実測・拓影図



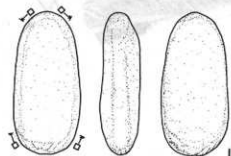
SK 1109



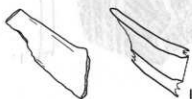
SK 1110



SK 1111



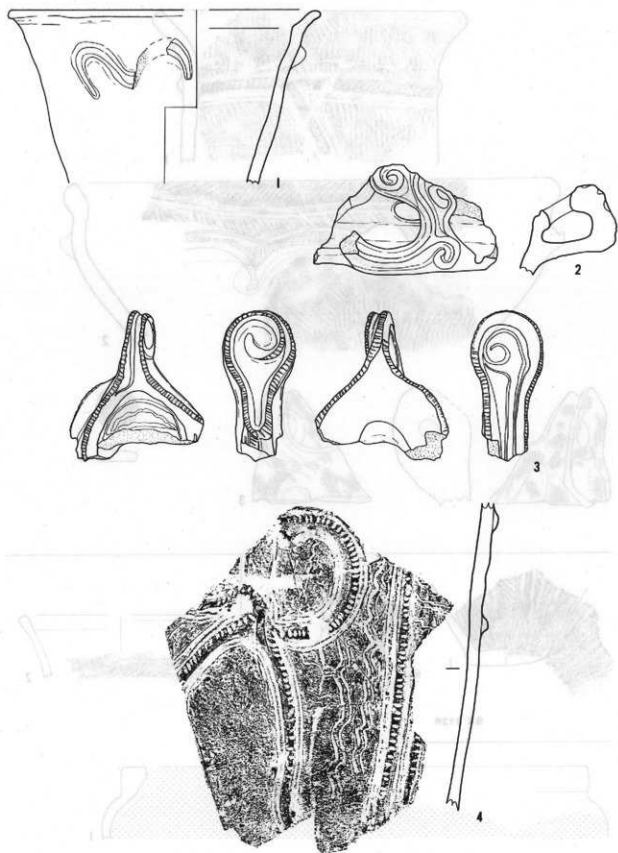
SK 1112



SK 1114

0 10cm

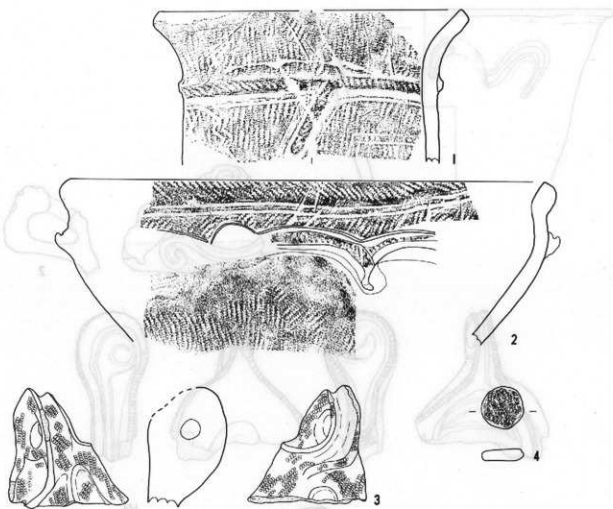
第249图 第1109・1110・1111・1112・1114号土坑出土文物实测・拓影图



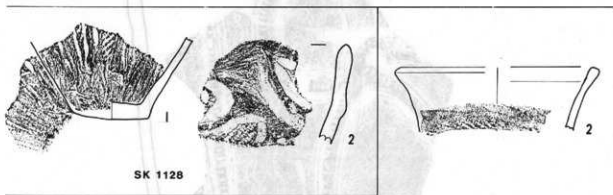
SK 1117



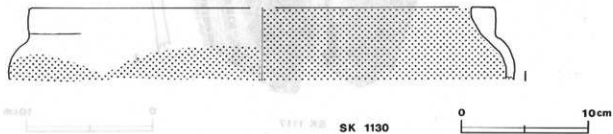
第250图 第1117号土坑出土文物实测·拓影图·高家岭土坑出土物(8811·8811·8811系) 图250



SK 1124

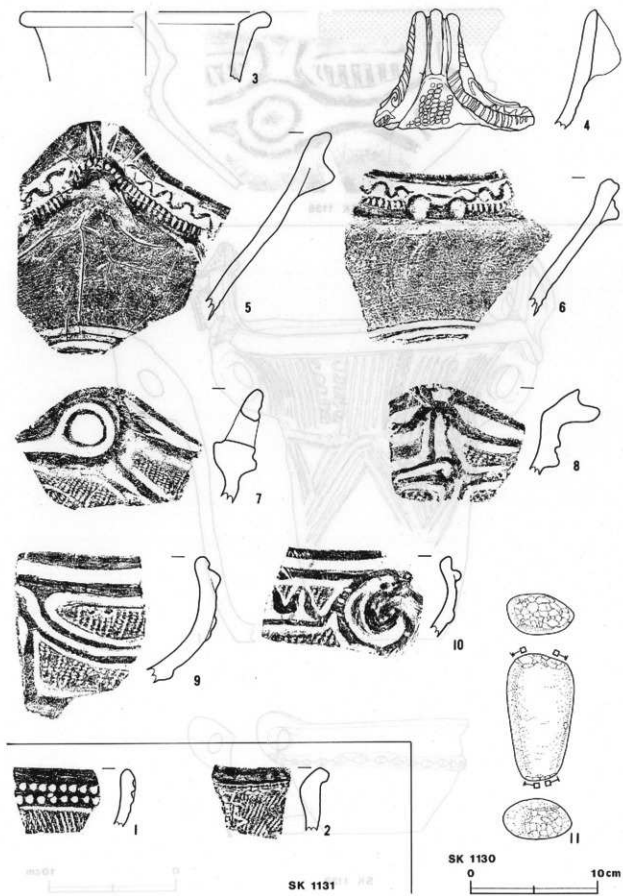


SK 1128

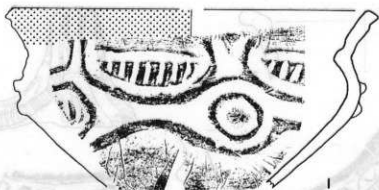


SK 1130

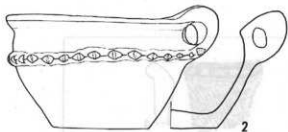
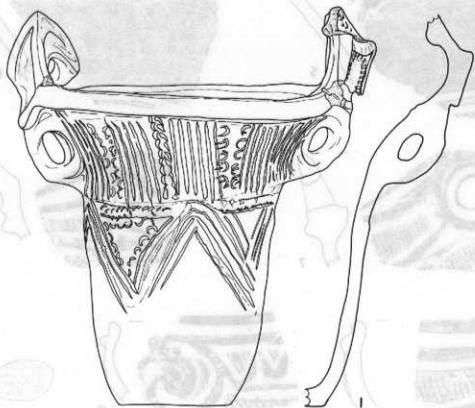
第251图 第1124·1128·1130(1)号土坑出土遗物实测·拓影图



第252图 第1130(2)·1131号土坑出土遗物实测·拓影图 · 高家岭新土洞土坑(11)·泥质陶 图版252



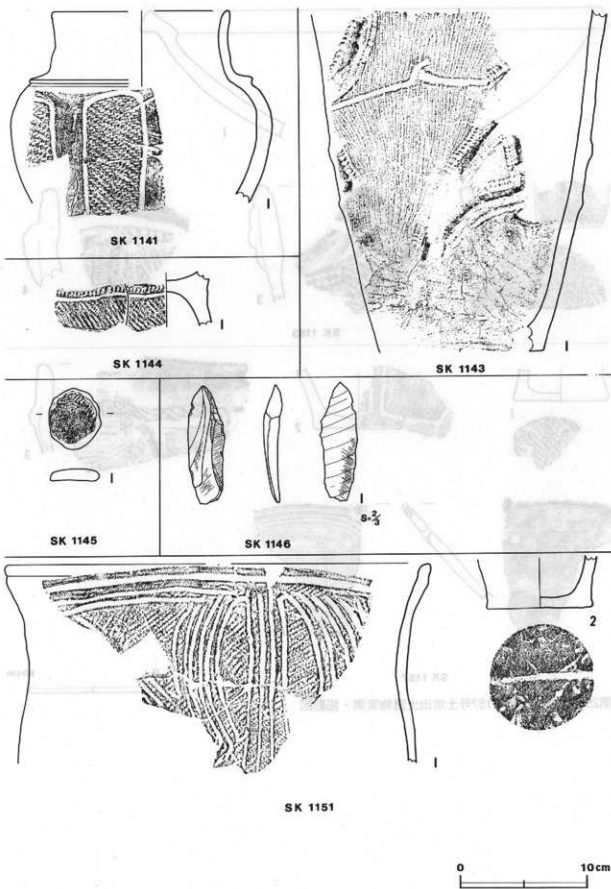
SK 1136



SK 1139



第253图 第1136·1139号土坑出土遗物实测·拓影图 城家岭出土陶土器1817·20211部 05252部



第254图 第1141・1143・1144・1145・1146・1151号土坑出土遺物実測・拓影図

土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第211図 1	把 手 縄文土器	長さ(7.4) 幅(5.8)	漆林形土器の把手片。内部が中空で、外面が織織で取り付けた円形あるいは楕円形の孔を3単位以上有し、隆線による区画内には割突による連続爪形文、沈線による山形文が施されている。	砂粒・パミス 赤褐色 普通	P179 5% SK-257 覆土 (勝成Ⅱ)
第211図 1	漆林形土器 縄文土器	A(24.6) B(27.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は縦やか内彎しながら口縁部に至る。口縁部は肥厚面に隆線を貼り付け、頸部による押捺が加えられている。胴部上位に棒状道具による割突を加えた隆線を貼り付け、胴部文様帯と下位の胴部文帯に分離している。胴部文様帯には下向き弧線状の条線が施され、内部磨り出しのやや幅広い平行沈線によって文様が加えられている。下位無文帯には、縦方向の磨きが強されている。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色 普通	P181 30% SK-291 覆土 (安行Ⅱ)
2	台付 鉢 縄文土器	A 22.8 B(12.6) D(2.6)	台部欠損。胴部は内彎しなが立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部には粘土貼り付けの扁平な突起が1単位だけられている。横走沈線により、口縁部1文様帯と胴部2文様帯に分けられ、1文様帯には半屈縄文RⅡが施文されている。胴部2文様帯は上向きの連続弧線文が沈線と連続して描かれ、連続部には円形の割突を加えた瘤を貼り付け、隙間には縄文が施文されている。台部との接合部には粘土紐の隆線を貼り付け、押圧がえられている。	砂粒・長石・スコリア 明赤褐色 普通	P185 65% SK-291 底面 (安行Ⅱb)
3	底形土器 縄文土器	A(20.5) B(7.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部は無文で、浅い沈線が口縁部下に施されている。口縁部内側に粘土貼り付けの突起を有し、突起内側には弧線状の沈線が加えられている。胴部は沈線縄文帯を2段に返らせ、下段には縦列の突起を施した横長の瘤が貼り付けられている。瘤を頂点として、扁平な三角形を描くように沈線が施され、区画内には縄文が施文されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア 赤褐色 普通	P183 10% SK-291 覆土上層 (安行Ⅱb)
4	手縁土器か 縄文土器	A(5.4) B(3.5)	口縁部片。口縁部には筋目を施した突起を有し、突起下には2単位の穿孔が施され、上向き、下向きの弧線が胴部に施されている。	砂粒 灰褐色 普通	P184 20% SK-291 覆土 (晩期)
5	台付土器 縄文土器	D(4.6) E(9.8)	台座片。断面「八」字状で、胴部は数段帯縄文が施されている。	長石・石英 灰褐色 普通	P182 5% SK-291 覆土
第212図 1	把 手 縄文土器	長さ(5.0) 幅(5.3)	口縁部把手。頂部には円形の凹みに加えられ、側面には連続の円形割突が縦方向に施されている。把手内・外面は、指環ナデによる連続強線状で整形されている。	砂粒・長石・パミス 灰褐色 普通	P186 5% SK-294 覆土 (加曾利ⅡB小)
第213図 1	漆林形土器 縄文土器	A(31.6) B(31.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は縦やか内彎し、胴部でくびれ、口縁部は僅かに外反する。口縁部と胴部に粘土貼り付けの隆線が返られ、胴部文様帯と胴部文帯帯に分離されている。隆線には指環による押捺が加えられている。胴部文様帯には左下がり斜行条線、胴部文様帯には縦方向の条線が施文されている。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P187 30% SK-325 覆土 (安行Ⅰ)
2	鉢形土器 縄文土器	A(30.2) B(15.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾し、内彎した後外反して口縁部に至る。口縁部は肥厚し、口縁部及び胴部に連続弧文が施され、胴部文様帯と胴部文帯帯に分けられている。胴部文様帯には縦方向の条線、胴部文帯帯には縦方向の条線が施文されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P188 20% SK-325 覆土 (安行Ⅰ)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(9.3) C 4.6	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。外面に縦方向の磨きが施されている。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P189 30% SK-325 覆土 (安行Ⅰ)
4	鉢形土器 縄文土器	A(15.4) B(5.8)	口縁部片。口縁部は内彎し、肥厚する。口縁部以下に連続弧縄文を数段施し、縄文帯間は磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P190 10% SK-325 底面 (安行Ⅰ)
5	鉢形土器 縄文土器	B(7.8) C 3.9	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は内彎する。胴部上位に上向き、下向き入り組み弧線文を施し、区画内には半屈縄文が施されている。胴部下に沈線を通らし、以下底部まで半屈縄文RⅡが充填され、底部磨り出しが施されている。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P191 40% SK-325 覆土 (曾古小)
6	注口土器 縄文土器	A(13.6) B(14.5)	瓶形で、胴部から口縁部にかけての破片。口縁部は肥厚し、上端が平坦に作出されている。口縁部外面に縄文帯を施し、直下に連続刻文帯が施され、数本の筋目を加えた横長突起が加えられている。注口部は縦く丸みを帯び、胴部上位に右斜め上方に向けて付けられ、基部直下に筋目を加えた突起が2単位加えられている。胴部文様帯は沈線を沿わせた縦い縦帯刻文帯で、三角形や花卉を連想させるモチーフを描き、隙間に筋目を加えた突起が加飾されている。隙間は丁寧な磨きが施されている。	長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P192 20% SK-325 覆土 (安行Ⅱ)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第214図 1	器台形土器 縄文土器	A(17.1) B 6.4 C(17.1)	台部片。胴部は直立して台部に至る。台部は平直で、胴部より突出して作られ、胴部中央には楕円形の孔が施されている。胴部は肥厚し、孔及び胴部は張りされている。内・外側ナデ整形されている。	砂粒・長石・ スコリア 浅黄褐色 普通	P194 SK-503 覆土 (加曾利E)	20%
	把手 縄文土器	長さ(11.0) 幅(14.1)	口縁部把手片。中央に孔を有する大形の把手で、隆線で内・外面に文様が施され、部分的に隆線の上に彫りが施されている。隆線には沈線による楕円形や円形、連続的突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P305 SK-503 覆土 (中村)	5%
第215図 1	把手 縄文土器	長さ(10.4) 幅(15.4)	口縁部口縁部頂部の把手片。波頭部頂部付近に、胴部からせり上がり上下に貫通する孔を持つ環状把手が付けられている。孔胴部は彫りを入れた隆線で加飾され、孔から派生する磨消帯を挟むように把手面から胴部に隆帯が垂下されている。波頭部下位には隆帯間帯磨消帯を挟んで、外面を隆帯で縁取りした孔が穿たれ、波状の口縁も薄い隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・雲母 ふい・赤褐色 普通	P195 SK-716 覆土下層 (加曾利E)	5%
	鉢形土器 縄文土器	B(5.1)	口縁部片。胴部から口縁部は外傾し、胴部と口縁部の境目内に段が見られる。内面は丁寧な磨きで整形し、内・外面赤彩されている。土器焼成後、孔が穿たれている。	砂粒・長石・ スコリア ふい・赤褐色 普通	P196 SK-728 覆土	5%
第216図 1	把手 縄文土器	長さ(10.1) 幅(8.2)	口縁部把手片。横「S」字状の環状把手で、把手頂部は指環による扁平な太い沈線が施されている。外面を高い把手の胴部は胴部から派生する隆帯と環状につなぎ、立体的な文様が描かれている。	砂粒・雲母 ふい・褐色 普通	P197 SK-729 覆土 (大木8A)	5%
	浅鉢形土器 縄文土器	B(7.0) C(16.0)	底部から胴部下にかけての破片。削り出しにより底部外側にやや厚みを持つ底部で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデにより整形されている。	砂粒・雲母・ スコリア ふい・赤褐色 普通	P198 SK-732 底面 (阿玉台)	10%
第216図 2	深鉢形土器 縄文土器	B(14.0) C 14.0	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は直立気味に立ち上がる。底部から3cm上に隆線が走り、胴部から垂下する「U」字状の隆線が描かれる。胴部隆線の区画内には縦方向の条線を施し、下位で2本の横沈線に切断されている。隆線に沿って角押文が加飾されている。	石英・長石・雲母 明赤褐色 普通	P200 SK-734-A 覆土 (阿玉台目)	15%
	浅鉢形土器 縄文土器	A(31.0) B(11.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内傾しながら外傾し、胴部で僅かにくびれ口縁部に至る。口縁部上端は偏平に作出され、内面には口縁部下および胴部に段が付けられている。内・外面丁寧な磨きを施し、口縁部上端及び内面口縁部から僅まで赤彩されている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア 褐色 普通	P201 SK-734-A 覆土 (阿玉台目)	20%
第217図 3	把手 縄文土器	長さ 8.1 幅 6.1	中空の把手片。沈線に沿った隆帯で縁取られた孔を内面に2単位、外面に1単位有し、隆帯が彫られている。外面は、頂部から曲線を描いて総行する爪形文を施した隆帯が貼り付けられている。隆帯に沿って、半軸柱管状の施文具による平行沈線文が加えられている。	砂粒 ふい・褐色 普通	P203 SK-734-A 覆土 (備後E)	5%
	台付土器 縄文土器	D(12.5) E 15.0	球形の台部で、胴部欠損。3文様帯からなり、台部上位に走る横波沈線で区画された1文様帯には単純縄文Rしが施されている。2文様帯は横波沈線と下向きに凸線が台部中央に描き、区画内には縄文が充填されている。台部下位には胴部を含め3段の沈線に沿った隆帯磨消帯を施し、3文様帯が構成されている。	砂粒・長石・石英・ スコリア 褐色 普通	P202 SK-734-B 底面 (実行I)	60%
第217図 1	鉢形土器 縄文土器	A(21.5) B(16.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内傾した後、やや外反し口縁部に至る。口縁部と胴部の境目には指環による微隆線を描かせ、無文の口縁部と胴部文様帯が分離されている。口縁部下には環状把手が付けられ、胴部には単純縄文Rしが単位回転で施文されている。	砂粒・長石 ふい・褐色 普通	P204 SK-738 覆土 (加曾利EIV)	20%
	深鉢形土器 縄文土器	B(7.2) C(13.2)	底部から胴部下にかけての破片。削り出しによる上げ底の底部で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部に単純縄文Rしを単位回転で施文し、縦の狭い垂下する平行沈線によって文様が分離されている。底部から3.5cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石 ふい・褐色 普通	P205 SK-740 覆土 (加曾利E I)	15%
第217図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(38.8) B(12.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して開き、口縁部下で僅かなくびれ外傾し、口縁部は内側に折れ曲がる。口縁部上端は幅広で偏平に作出され、内面に段が施される。内・外面磨きが施され、口縁部上端及び内面は赤彩されている。	砂粒・雲母 ふい・黄褐色 普通	P206 SK-755 覆土 (加曾利E I)	20%
	深鉢形土器 縄文土器	A 19.7 B 30.7 C(8.3)	平底で、胴部はやや内傾しながら立ち上がる。4単位の波状口縁部で、口縁部下に沈線に沿った隆帯を貼り付け、口縁部文様帯と胴部文様帯に分離される。波頭部下には「C」字状の輪柱を貼り付け、上下の割突文を結ぶように中央に沈線が施されている。胴部文様帯は、1-3単位位の沈線で、「S」字状、「V」字状のモチーフを描き、沈線間は磨り消し、広い区画内は単純縄文Rしが単位回転で施文されている。胴部下は磨り消されている。	砂粒・雲母 ふい・褐色 普通	P207 SK-760 覆土 (採取1)	80%
第218図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 15.7 B 19.5 C 6.0	平底で、胴部はやや外傾して直線的に立ち上がる。胴部外面に、単純の輪柱を楕円状で縦方向に施し、「U」状の沈線間帯磨消帯に文様が分離されている。底部から3cmほどは磨り消しが施されている。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P208 SK-764 覆土 (加曾利EIV)	60%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第219図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(18.4) C 8.5	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部外面に、単筋縄文R Lを縦位回転で施し、垂下する隆起縁線が描かれている。幅広の隆起縁線及び底部から8cm前後が磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色 普通	F209 SK-766 覆土 (加曾利E IV)
2	把 手 縄文土器	長さ(8.4) 幅(5.9)	口縁部の横状把手片。外面に単筋縄文R Lが施文されている。	砂粒・長石 浅黄褐色 普通	F210 SK-766 覆土 (加曾利E IV)
3	把 手 縄文土器	長さ(10.9) 幅(8.1)	胴上部の横状把手片。外面に縄文が施文されているが、摩耗が著しい。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	F211 SK-766 覆土 (加曾利E IV)
4	把 手 手 縄文土器	長さ(5.4) 幅(3.8)	深鉢形土器等に付く把手片。先端が僅かに欠損している。鈍の胴部が想定される。	砂粒 浅黄褐色 普通	F212 SK-766 覆土 (加曾利E IV 小)
第219図 1	把 手 縄文土器	長さ(5.4) 幅(6.4)	上部は欠損している。下部に最大径を持つ球状で、孔が穿たれている。外面中央にやや大形が深い、側面に小形で浅い押圧が加えられている。内・外面磨きが施されている。	砂粒・長石・スコリア 灰赤色 普通	F213 SK-768 覆土 (後編)
第220図 1	白付土器 縄文土器	D(5.6) E 5.6	胴部外傾。胴部は円形で、僅かに内彎しながら立ち上がり、接合部はやや丸みを帯びた方形となる。台上部と胴部の外面に隆線を持ち、上下に分けられた円形刺突文を中央に沈線に伴う隆線で結び、台部外面が4単位に分線されている。それぞれの区画は、中央の穿孔を挟むように上下に2本の沈線が描かれている。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	F214 SK-769 覆土 (堀之内)
2	把 手 縄文土器	長さ(5.8) 幅(6.1)	口縁部把手片。落手で横に丸みを持った把手で、中央上部に山形の突起が付け加えられる。突起にはとろ状の沈線が施されている。外面中央に、縦長で鼻状の瘤が加えられ、横には孔が穿たれている。把手内面下部端に刺突。孔周囲に沈線。突起下には沈線による種円状の文様が描かれている。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	F215 SK-769 覆土 (堀之内)
第220図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(47.0) B(15.2)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、反外して口縁部に至る。口縁部は磨り消しの無文帯で、胴上部には浅い沈線に沿った隆線で溝帯あるいは長橋形の円状文を描き、区画内は単筋縄文R Lが横位回転で施文されている。以下胴部には、縄文が縦位回転で施文されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	F216 SK-775 覆土 (加曾利E IV)
第220図 1	有孔頸付土器 縄文土器	A(11.7) B(4.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至り、口縁部は肥厚する。口縁部下に孔を穿った蹄状の隆線が走り、胴部の下りる隆線が縦線されている。内・外面とも赤彩されている。	砂粒 暗赤褐色 普通	F217 SK-776 覆土 (加曾利E IV)
第221図 1	菱形土器 縄文土器	A(28.2) B(21.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、胴部で直立気味に外傾して口縁部に至る。頸部に沈線を巡らせ、口縁部文様帯と胴部文様帯に分線し、口縁部に小突起を有し、口縁部外面に単筋縄文R Lが施文され、口縁部文様帯が構成されている。胴部中央には3本の横走沈線が描かれ、上区画には縄文施文。幅広の下区画には縦長の横「S」字状文を連続して描き、下部に縄文が施文されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	F218 SK-781 覆土 (安行直 b)
2	菱形土器 縄文土器	A(33.6) B(27.7)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は直立気味に立ち上がる。頸部に沈線を巡らせ、口縁部文様帯と胴部文様帯に分線し、口唇部に小突起、口縁部外面上下に無文帯を残し、中に単筋縄文R Lが施文され、口縁部文様帯が構成されている。胴部中央には、3本の横走沈線が描かれ、上区画には縄文施文、やや幅広の下区画には沈線でやや形の崩れた月状文を描き、部分的に縄文が施文されている。	砂粒・長石・スコリア・黒雲母 にぶい褐色 普通	F219 SK-781 覆土 (安行直 b)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(33.6) B(11.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は外傾する。口唇部に数個の粘土粒貼り付けの突起を有し、頸部、胴部に横走沈線が施されている。内・外面とも研磨されている。	砂粒・長石 赤褐色 普通	F220 SK-781 覆土 (安行直 b)
第222図 4	菱形土器 縄文土器	A(22.6) B(7.6)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は外傾する。頸部を高く沈線で、口縁部と胴部に分線される。口縁部上下の無文帯に挟まれ、中に縄文施文。口唇部に形の崩れた小突起が貼り付けられている。胴部外面は磨きが施されている。	砂粒・黒雲母・スコリア 褐色 普通	F221 SK-781 覆土 (安行直 b)
5	鉢形土器 縄文土器	A(11.2) B(5.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部で内彎し、胴部で外傾して口縁部に至る。口縁部は無文帯、頸部、胴部に横走沈線を施し、上下の刺突を結ぶ縦状で区画された内部に下向き弧線が描かれている。区画内上部には、部分的に縄文が施文されている。内・外面縦方向の磨きが施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	F222 SK-781 覆土 (加曾利E 2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
6	深鉢形土器	B (5.4)	底面から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は内彎しなから外彎する。内面ナデ、外面削りて整形されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア 褐色 普通	P223 SK-781 覆土 (安行)
	縄文土器	C 8.4			
7	深鉢形土器	B (9.0)	底面から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外彎して開く。内面に深の付着が見られる。	砂粒・長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P224 SK-781 覆土 (安行)
	縄文土器	C 4.3			
8	注口土器	A 3.6	注口部欠損。丸底で、胴部は内彎しなから開き、強く反曲して内傾し、口縁部に至る。口縁部を洗い沈線が線取りし、以下胴部上半に主文様帯が展開される。文様帯の上下に沈線縞縄文を施し、更に3段の沈線を備えている。上2段には、刺突によりレンガ積み状の文様が描かれている。注口蓋部は、作りは粗雑だが、粘土紐巻き付けによる装飾が施されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	P225 SK-781 覆土 (大溝BC)
	縄文土器	B 6.6			
	縄文土器	C 2.4			
第223図	小形土器	A 4.5	平底で、胴部は直立気味に立ち上がる。口縁部に山形の把手が1単位付けられ、両側の文様が把手下に連続して描かれている。口縁部下に沈線を高らし、胴部には直線、曲線、山形文等のモチーフが沈線若不規則に施されている。	砂粒・雲母・長石 黒色 普通	P228 SK-786 覆土 (中期)
	縄文土器	B 4.7			
	縄文土器	C 4.5			
第223図	深鉢形土器	B (10.2)	底面から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴部外面に半環縄文Rしを縦位帯で施されている。垂下する幅の狭い沈線区間の濃淡に文様が分断されている。底面から3cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア 灰褐色 普通	P229 SK-789 覆土 (加曾利EⅡ)
	縄文土器	C 7.3			
第224図	鉢形土器	A (20.8)	上げ底で、胴部は内彎して口縁部に至る。口縁部外面には頸部による隆起帯が描られる。胴上半には半環縄文Rが施されている。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P230 SK-796 底面 (堀之内1)
	縄文土器	B 17.9			
	縄文土器	C (7.5)			
2	深鉢形土器	B (12.5)	底面から胴下部にかけての破片。中央に厚みを増す平底で、胴部は僅かに外傾して直線的に立ち上がる。胴下部は縦方向の書きが施されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P232 SK-796 覆土 (堀之内1)
	縄文土器	C 10.3			
3	深鉢形土器	B (18.0)	隅丸のやや方形の深鉢で、胴部はやや内傾して口縁部に至る。口縁部上端は直線的に描かれ、胴部には4本単位の洗い沈線が縦方向に施されている。	砂粒・長石 灰赤褐色 普通	P231 SK-796 底面 (堀之内1)
	縄文土器	C 7.3			
4	把手か 縄文土器	長さ7.5 幅 5.9	口縁部把手片。横状を呈すると思われ、内・外面に沈線で曲線あるいは直線的なモチーフが描かれている。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P233 SK-796 覆土
	縄文土器	C 7.3			
第225図	深鉢形土器	B (20.0)	外傾する胴部。胴部には鳥文を沿わせた隆起帯で直線的な文様を施し、区画内には横沈線、斜行沈線、連続刺突のベン先文が描かれている。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P234 SK-801 底面 (阿玉台Ⅱ)
	把手	長さ(9.8) 幅(7.0)			
	縄文土器	C 7.3			
1	把手	長さ(7.4) 幅(6.6)	口縁部把手片。把手外面を縁取るように連続系形文を施した隆起帯を巡らせ、内部には短沈線と爪形文を加えた渦巻帯が描かれている。側面には環状部分を縁取るように中央に沈線を伴う隆起帯を施し、隙間には半環竹管による浮線文が描かれている。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P235 SK-801 覆土 (阿玉台Ⅳ)
	縄文土器	C 7.3			
2	把手	長さ(7.4) 幅(6.6)	波状口縁の把手片。頂部に環状の突起が付けられ、把手外面には凹形及び口縁部を巡ると思われる隆起帯が貼り付けられている。隆起帯に沿って連続刺突のベン先文が描かれている。	砂粒・長石・雲母・スコリア・雲母 灰黄褐色 普通	P236 SK-801 覆土 (阿玉台Ⅳ)
	縄文土器	C 7.3			
第225図	小形土器	A 4.0	平底の小形碗形土器。平底で、胴部は内彎しなから立ち上がる。内・外面に指痕による整形痕が残されている。	砂粒	P238
	縄文土器	B 1.9			
	縄文土器	C 1.5			
2	把手	長さ(6.8) 幅(5.5)	波状口縁頂部の突起片。頂部には鋭形を施した角状突起が付けられ、直下に大形の粘着が付けられている。弧状の口縁部の肥厚部には頂部から発生する環状刺突文が施され、以下に口縁部に沿って弧状に張く沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P239 SK-808 覆土 (安行Ⅱ)
	縄文土器	C 1.5			
第225図	深鉢形土器	B (10.3)	底面から胴部にかけての破片。上げ底気味の底面、胴部はやや外傾して直線的に立ち上がる。胴部に描かれた「U」状の隆起帯が胴下部を直線的に走る隆起帯と連続し、区画内には連続に沿って角形し文が施されている。底部に刺突痕が見られる。	砂粒・雲母・長石・スコリア 褐色 普通	P199 SK-822 底面 (阿玉台Ⅲ)
	縄文土器	C 10.2			
第225図	壺形土器	A 6.8	小形で丸底。胴部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ外反して口縁部に至る。口縁部直下に洗い沈線を高らし、刺突の頸部無文帯を挟んで胴部文様帯が構成されている。胴部文様帯には頸部直下に走る沈線区間の連続刺突文と底部を走る沈線の区画内に沈線で直線的なモチーフが描かれている。頸部無文帯及び底部は書きが施され、胴部は巻きと整形痕を残す区画が交互に配されている。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P241 SK-822 底面 (加曾利B3)
	縄文土器	B 11.1			

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
2	台付外 縄文土器	A 18.6 B (13.8)	台部欠損。胴部は外傾した直立の立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、外面に沈線に沿った隆起帯筋文が施されている。口縁部以下には、磨消帯を挟んで沈線に沿った隆起帯筋文が4段施され、細線の1、2段にはブク鼻状突起が等間隔で5単位付けられ、帯を結ぶ縦沈線が1、2段間に充満された矢羽状沈線を切断している。4段目には1、2段と対応する位置に2個1組のブク鼻状突起が付けられている。胴部下半はやや向上の弧線状条線が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	F242 SX-822 底面 (安行Ⅱ)	40%
第226図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (8.3)	口縁部片。浅状口縁で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は肥厚し口縁部外面及び頸部内面に稜が施されている。内・外面とも赤色されている。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	F243 SX-823 底面 (中期)	5%
第226図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 17.3 B 6.9 C 6.7	やや突出気味の平底。胴部はやや内傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。口縁部上端に山形の突起が6単位貼り付けられ、口縁部外面と胴部上位に隆起帯筋文が2段並らされている。短文帯間は沈線で区画された書消帯で、口縁部と踵の突起と対応して口縁部筋文帯と磨消帯の境にも突起が加えられている。胴部中央から底端までは右下りの斜行条線が施文されている。	雲母・長石・砂粒 灰褐色 普通	F244 SX-824 覆土 (安行Ⅰ)	90%
第226図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (7.6) C 6.9	底部から胴部にかけての破片。上げ底で、胴部は僅かに内傾しながら立ち上がる。外面は筋文で、輪襷状及び縦線状変形稜が残されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	F245 SX-826 底面 (中期)	20%
第227図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (24.4) B (16.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部から直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。僅かに沈線を見せる口縁で、口唇部内面に筋文による作出稜が見られる。内面及び口縁部外面に帯が施されている。胴上部に沈線間縄文帯を並らせ、以下沈線による変形のモチーフが描かれ、区画内は磨消帯と縄文文帯が交互に見られる。胴上部には小突起が縦方向に貼り付けられている。	砂粒 にぶい褐色 普通	F246 SX-827 底面 (庵之2)	20%
第227図 1	台付土器 縄文土器	D 17.0 E 12.9	半球状の台部で、上部欠損。胴部は肥厚する。上部との接合部から胴部まで縄文帯が6段施され、縄文帯間は磨り消されている。上位3段は沈線区画。4段以下は沈線区画の隆起帯で、単線縄文Rしが縦位帯筋で充満されている。3段目の縄文帯だけは横直沈線と下向き筋文帯で区画されているが、他は直線的である。上部との接合部に筋文帯が残されている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア にぶい赤褐色 普通	F247 SX-828 底面 (安行Ⅰ)	50%
第227図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (10.8) C 9.0	底部から胴下部にかけての破片。上げ底で、胴部は外傾して深く。胴部外面に沈線が描かれているが、底部から8mmほどまでは帯が施されている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア 浅黄褐色 普通	F248 SX-830 覆土 (地名寺2か)	15%
第228図 1	注口土器 縄文土器	長さ(4.2)	注口部片。基部外径2.2cm、内径0.9cm、先端部外径1.9cm、内径0.9cm、基部からやや反り気味に先端部に至る。外面磨きが施されている。	長石・砂粒 褐色 普通	F251 SX-847 覆土 (後期小)	5%
第228図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (32.8) B (19.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴上部は内傾し、頸部で垂直して外傾した後内傾して口縁部に至る。口縁部外面に幅広い隆起帯を並らせ、隆起帯上に溝色あるいは小波状の隆起帯を貼り付けている。胴部無文帯を挟んで、胴部には横走あるいはクラクタ条のモチーフが3本1組の縦線帯で描かれ、隙間に単線縄文Rしが施文されている。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	F252 SX-852 覆土 (太木8)	20%
第229図 2	深鉢形土器 縄文土器	B (11.5)	外傾する胴部片。胴部上位に2本の隆起帯を並らせ、隆起帯間は磨り消されている。隆起帯以下、横位帯の単線縄文Rしを施文とし、表面に縄文を施した垂下する隆起帯で胴部を区画し、区画内は隆起帯に沿ってキヤケツ文、さらに内側に平截竹管による平行沈線が施されている。内面には沈線より直線と曲線を組み合わせたモチーフが施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	F253 SX-852 覆土 (藤原Ⅱ)	10%
3	深鉢形土器 縄文土器	A (18.8) B 19.2 C (8.0)	胴部はやや内傾しながら立ち上がり、口縁部は肥厚し、短く外傾する。縦位帯の単線縄文Rしが施文として施されている。口縁部下に沈線帯を並らせ、口縁部帯を消し、部分的に縄文が見られる。胴部には3本1組の沈線帯で、垂下したのも種円形を置く文様が施されている。胴部は磨り消されている。	石灰・雲母・長石 にぶい褐色 普通	F254 SX-852 覆土 (太木8)	30%
4	浅鉢形土器 縄文土器	B (9.4)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内傾し、内面に稜が施される。浅状口縁で、口縁部上端は僅かに作出し赤帯が施され、外面には稜が見られる。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	F255 SX-852 覆土 (中期)	5%
第230図 1	深鉢形土器 縄文土器	A (21.6) B (11.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部上端は扁平に作出され、上下に高る隆起帯からせり上がることで作出された横位帯の横状把手が連続し、口縁部文帯帯が構成されている。隆起帯の表面には沈線が施されている。胴部は縦位帯の単線縄文Rしを施文とし、その上に3本単位の沈線が施文されている。	砂粒・長石 暗赤褐色 普通	F256 SX-859 覆土 (太木8)	10%

四版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
2	深鉢形土器 縄文土器	B(8.6) C(10.2)	底部から胴下部にかけての破片。僅かに上げ底で、胴部は外傾して開く。無文である。	砂粒・雲母・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P257 SK-859 覆土 (中期)
第230図 1	把手 縄文土器	長さ(8.0) 幅(9.4)	円孔の把手片。上下の隆帯がせり上がることにより條状に作出され、円孔は隆帯で縁取られている。頂部で溝を有する隆帯が、蛇行しながら把手下部に垂下されている。把手接合部に縄文土器が見られる。	石英・長石・バミス 灰褐色 普通	P258 SK-875 覆土 (加曾利E I)
第231図 1	把手 縄文土器	長さ(8.1) 幅(9.4)	口縁部把手片。波状を呈する口縁部の塊状把手で、指環による微隆起縁が把手接合部から口縁部を巡っている。口縁部は磨り消しの無文帯。胴部には単筋縄文Rしが施文されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P259 SK-886 覆土 (加曾利E IV)
第231図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(17.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。平底に近い小形丸底で、胴部は外傾して開いた後直で気味に立ち上がる。胴部内面中位に腰を有する。胴部は隆起縦刻文帯と磨り消しを主とする上部文様帯と充填縄文を主とする下部文様帯に分離されている。上部文様帯は斜行あるいは横走する沈線区面の隆起帯縄文が上段、中斷、下段の胎面と連続され、側面には磨り消しが施されている。産は上段が沈線を加えた凹形、中段は横刻みを加えた縦長、下段は横刻みを加えた縦長で構成されている。下部文様帯は上部文様帯の下部を隔る前文帯に接続する上向き連続文と胴部下位を隔る沈線区面の磨消帯により構成され、単筋縄文Rしが充填されている。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P261 SK-943 覆土 (安行II)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(7.2) C 3.1	底部から口縁部にかけての破片。やや突出気味の底部で、胴部は外傾して開く。胴部外面に単筋縄文Rしが施文され、底部から2-3cmは磨り消されている。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P262 SK-943 覆土 (安行II)
3	異形台付土器 縄文土器	D(2.3) E(4.8)	台部片。胴部から沈線に沿った隆起帯縄文帯を2段に返らせ、隆起帯間は磨り消されている。隆起帯を挟んで上下2か所の円孔が4単位配され、孔上部に縦刻みを施した横長の瘤が陥りつけられている。	石英・長石 黒褐色 普通	P263 SK-943 覆土 (安行II)
第231図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.8) C 10.7	底部から胴下部にかけての破片。中央部に厚みを持つ上げ底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がる。胴部外面に単筋縄文Rしが縦位間断で施文され、部分的に無筋縄文Lの塊状帯状文が縦方向に幅3.5cmで垂下されている。底部から1.5-2cmは磨り消されている。	砂粒 褐色 普通	P264 SK-946 覆土 (加曾利E I)
第232図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 25.6 B 36.6 C 4.6	平底で、胴部は内彎しながら立ち上がり、上位でくびれや外傾して最終的に口縁部に至る。4単位の波状口縁で、口縁部外面に隆起帯縄文が施され、波頂部には刻みを加えた突起、波底部には横長の突起が陥り付けられている。刻みくびれ部に沈線に沿ったやや細い隆起帯縄文を巡らし、波頂部から派生する隆起帯縄文帯と連続させ、長横四角及び三角文帯が作られ、区画内は磨り消されている。隆起帯縄文帯が接続する箇所にはアタ鼻状の瘤が陥り付けられている。くびれ以下の胴部中位には沈線区面の縄文帯が巡り、縦刻みを加えた横長胎面帯が8単位、2段に施されている。胴部中位以下には右下りの粗い条線が施文されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P265 SK-949 底面 (安行III a)
2	深鉢形土器 縄文土器	A(24.0) B(17.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴下部は僅かに内彎しながら立ち上がり、その後やや外反しながら口縁部に至る。口縁部上面に縦刻みを施した角状突起を2個1組で有し、直下に横刻みを持つ瘤が陥り付けられている。口縁部と胴上部に沈線に沿った縄文帯を巡らせ、間には入り組み三叉文が彫刻され、部分的に縄文が施文されている。胴下半は無文で、最大径部分に横走する沈線が施されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 褐色 普通	P266 SK-949 覆土 (安行III a)
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(18.4) B(6.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎した後直曲し、直立気味に口縁部に至る。口縁部上面には縦刻みを施した小突起がつけられ、沈線に沿った縄文帯が口縁部に巡らされている。器底部には上向きに沈線に沿った突起が陥り、へう状に上より前向き込みの凸凹が陥り付けられている。口縁部縄文帯と突起の間には、偏平な下向き、上向き弧線帯を連続させ、区画内には縄文が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P267 SK-949 覆土 (安行III a)
4	注口土器か 縄文土器	A 12.4 B(5.8)	注口土器の口縁部片か。胴部は内彎すると想われ、懸垂し、外傾して口縁部に至る。口縁部中央及び胴部間に沈線を巡らし、沈線間には縦帯文が施文されている。口縁部上端から口縁部中央の沈線までと内面は丁寧な磨り消されている。	長石・砂粒 灰褐色 良好	P268 SK-949 覆土 (大野Bまたは安行III a)
6	深鉢形土器 縄文土器	B(7.5) C 4.3	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデで整形されている。	砂粒・長石・石英 浅黄褐色 普通	P270 SK-949 底面 (安行)

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
7	深鉢形土器 縄文土器	B(8.4) C 3.8	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。内・外面ナデで整形されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P271 SK-949 覆土 (安行)	10%
8	台付鉢 縄文土器	B(4.2)	胴部片。胴下部は外傾して開く。内面ナデが施され、外面には接合部を囲むように多角形状に糸線が施文されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P272 SK-949 覆土 (安行)	5%
5	手摺形土器 縄文土器	長さ(3.1) 幅(4.5)	手摺形土器の柄部片か。表面には長方形の区画文が沈線で施され、内面にも短沈線で直線の文様が描かれている。胴部近辺に円孔が2か所沈線上に穿たれている。前面には連続的の刺突が並り、基部は直立気味に短く立ち上がっている。裏面は短軸に沈線を通し、縄文が施文されている。	長石・砂粒 褐色 普通	P269 SK-949 覆土 (安行B)	5%
第233図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(22.6) B(12.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は折り返しにより肥厚し、肥厚面に粘土紐を貼り付けた刺突帯が巡らされている。口縁部には下向き弧線状の糸線、胴部には斜行する糸線が施され、その発端には隆起帯刺突が貼り付けられている。	石英・長石・砂粒 褐色 普通	P273 SK-950 覆土 (安行I)	5%
第233図 1	鉢形土器 縄文土器	A(23.5) B(8.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部は内傾して肥厚する。基部上の縄文を地文とし、口縁部文様帯と胴部文様帯との接点には、沈線を下に沿わせた連続系刺突文を巡らせている。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色 普通	P274 SK-951 覆土 (阿玉台IV)	5%
第234図 1	鉢形土器 縄文土器	A 18.8 B 12.3 C 9.2	口縁部一部欠損。平底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がり、頸部で僅かにくびれ外傾しながら口縁部に至る。口縁部と胴部に刺突帯を巡らし、文様帯が分離される。口縁部文様帯は僅かに絶行する数本の横走沈線を上段に、下段には磨り消しを施し、上段には摩耗が進んでいるが縄文地文の痕跡が見られる。胴部から底部までは単節縄文Rしが見られる。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P275 SK-952 底面 (加曾利B 2-3)	80%
第234図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(31.6) B 24.5 C(7.8)	平底で、胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに内彎する。口縁部と胴部に糸線を巡らせ、口縁部文様帯が構成されている。区画内には沈線を沿わせた隆線で、渦巻文、不整三角形文を施す。隆線には無節の縄文が施文されている。幅の狭い滑溝帯の下に、無節Rの縁状條状底文を縦線に施し、幅の狭い直線的平行沈線、蛇行単沈線を垂下させた胴部文様帯として巡らせている。底部から2cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P276 SK-956 底面 (加曾利B II)	40%
2	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.0) B(10.0)	胴部から口縁部にかけての破片。緩やかな「S」字状を描いて外傾し、口縁部に至る。口縁部上縁は偏平で、内・外面に磨きが施されている。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P278 SK-956 覆土 (加曾利E II)	5%
第235図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 29.2 B 46.7 C 10.8	上げ底で、胴部は僅かに内彎しながらやや外傾して立ち上がり、頸部で外反し内彎気味に口縁部に至る。中央部が凹凹山形の波頂部を4単位有する波状口縁で、波頂部を結ぶ隆帯と口縁部下を巡る隆帯が波頂部で連続し、波頂部下にできる三角形内部には区画に沿うキャピタツ文とキャピタツ文を沿わせて中央に沈線が加えられた隆帯が波頂部から派生して渦状に区画中央に描かれている。隆帯には小波状文、斜行沈線文が施されている。頸部無文帯を除く、胴部上位と下位の隆帯と、下段から昇する2本の隆帯が、区画中央で渦巻に連続する文様が3単位描かれている。上段の隆帯の上にはキャピタツ文が沿い、隆帯及び隆帯の隙間には単節縄文Rしが見られる。	砂粒・スコリア 長石・雲母 にぶい褐色 普通	P279 SK-960 底面 (阿玉台I-IV)	80%
第236図 2	突起 縄文土器	B(6.0) 幅(14.0)	口縁部突起片。連続の飾みを施した上下の隆帯がせり上がり、圓線状の突起が付されている。中央の孔は本貫通。突起上には三叉文が残されている。隆帯の内側には横穴の孔形文が連続して刺突されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P289 SK-960 覆土 (阿玉台IV)	5%
3	把手 縄文土器	B(10.4) 幅(9.8)	横走する隆線が上方にせり上がり、楕圓状の把手を形成する。隆線は上方で曲線を描き、把手外面に横線が施されている。隆線に沿って連続的の刺突文が施されている。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P281 SK-960 覆土 (阿玉台IV)	5%
第236図 1	把手 縄文土器	長さ(5.8) 幅 3.9	球状の突起が付けられた楕圓状の把手。突起頂部には沈線を沿わせた横線の「S」字状の隆線を通し、前面には沈線を沿わせた隆線で横線が施され、突起が2単位設けられている。把手上部にも突起、側面には円孔を穿ち、外面丁寧な磨きで仕上げられている。	砂粒・雲母・長石 褐色 普通	P282 SK-1044 覆土 (加曾利B I)	5%
2	把手 縄文土器	長さ(3.5) 幅(4.7)	球状の把手。口縁部との接合部には沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P283 SK-1044 覆土 (加曾利B I)	5%

図版番号	器 種	寸法値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第236図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(3.8) C(10.3)	底部片。平底で、胴下部は外傾する。内・外面ナデで整形されている。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P283 SE-1046 覆土 (中期中葉)
2	把 手 縄文土器	長さ(5.4) 幅(7.4)	楕状把手片。2本の隆線を貼り合わせて、接合部は幅広。先端は細く作出されている。把手両側面には沈線に沿った連続爪状の凸が円弧を高く、胴部は地文の横位即ち縦横文R Lの上に乗せ沈線が描かれている。	砂粒 明褐色 普通	P285 SE-1046 覆土 (中叶)
3	把 手 縄文土器	長さ(6.7) 幅(5.9)	楕状把手片。楕状把手を取り巻くように沈線。沈線状の連続刺突文が施され、胴部にも筋目状の連続刺突文。沈線が描かれている。	石英・長石・雲母・スコリア ぶい褐色 普通	P286 SE-1046 覆土 (中叶)
第237図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(7.8) C 6.3	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部外面に単純縄文R Lを施文し、底部から3cmほどは磨り消されている。	砂粒・長石・雲母・スコリア ぶい褐色 普通	P287 SE-1047 覆土 (加曾野E I)
第238図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.2) C 10.9	底部から胴部にかけての破片。平底で、中央に厚みを持つ。胴部は外傾して深く、内面横ナデ、外面縦方向のナデが施されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 褐色 普通	P288 SE-1050 覆土 (後期初頭小)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(6.2) C 2.9	底部から胴下部にかけての破片。小形の平底で、胴部は外傾して深く、内面ナデ、外面縦方向の磨きが施されている。	砂粒・長石・スコリア 灰赤色 普通	P289 SE-1050 覆土 (安行)
第238図 1	把 手 縄文土器	長さ(4.1) 幅(11.0)	深鉢形土器口縁部把手片。上・下段の隆線を楕状の把手が連結し、把手上端からは内面横長の「S」字状を強くと思われる隆帯で、孔を有する突起が取り付けられている。下段の隆線及び胴部隆線に沿って連続角脚文が施されている。	石英・長石・雲母 普通	P290 SE-1051 覆土 (阿玉台目一取)
第238図 1	甕形土器 縄文土器	A 29.7 B(29.6)	胴部から口縁部にかけての破片。内摩して口縁部に至る。口縁部は肥厚し、折り返されている。内面ナデ、外面削り後ナデで整形され、口縁部から胴部にかけての内・外面に意匠的な彫の跡のこぼれ痕が直着している。	砂粒・長石・スコリア ぶい褐色 普通	P292 SE-1056 覆土 (安行B #)
第239図 2	浅鉢形土器 縄文土器	A(29.7) B 12.3 C(12.0)	平底で、胴部は外傾して開く。頸部で短直して口縁部に至る。波状口縁で、波頂部に縦刻みを施した突起。波頂部には上端が扁平で入り組み状沈線をした小突起を有し、口縁部上端に施された沈線と結ばれている。口縁部には縄文帯、頸部には削り出しにより凸凹をつけた突起を連続したような突起を波状口縁に対応して設け、区画内には入り組み三叉文を描き、部分的に縄文が施文されている。波頂部下には小突起が貼り付けられ、突起が連結されている。突起下には狭状上向き沈線縄文帯、無文帯を挟んで沈線縄文帯が底面を取り囲むように施文されている。口縁部内面及び外面無文部に磨きが施されている。	砂粒 黒褐色 普通	P293 SE-1056 覆土 (安行B #)
第239図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.6) B(8.6)	胴上部から口縁部にかけての破片。内摩して立ち上がり、口縁部は内側に凹曲して、上端は幅広で扁平に作出されている。内・外面横方向の磨きが施され、赤彩されている。	砂粒・長石・スコリア 浅褐色色 普通	P294 SE-1059 覆土 (中期中葉)
第240図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 28.4 B(46.2) C 8.0	胴部下位欠損。平底で、胴部はやや外傾して立ち上がり、胴部で外反した後短く内摩し、口縁部は直線的に僅かに開く。口縁部無文。直下に連続刺突による「コ」の字文が施されている。削り込みによる突起を8単位有する凸凹の突起を胴部上位に巡らせ、突起外面には平行沈線が突起部分を結んで施文されている。単純縄文R Lが突起側面は横位面転で、胴部は縦位面転で施文され、胴部には2本1組の連続角脚文が4単位垂下している。	長石・長石・雲母 褐色 普通	P296 SE-1061 覆土 (中叶)
第241図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(22.6) B(12.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴上部で緩やかに内摩しながら口縁部に至る。波状口縁で、口縁部は内傾さず、波頂部は台形状で、口縁部内面に沈線が施されている。口縁部の形状に近い沈線が施され、口縁部外面には縄文帯が施文されている。胴部には沈線で「J」字文、スベード状文、銀舌の意匠等の文様が描かれ、区画内は単純縄文R Lを充填、区外面は磨り消されている。	砂粒・スコリア ぶい褐色 普通	P295 SE-1062 底面 (新名寺1)
2	鉢形土器 縄文土器	A(23.0) B 9.6 C(5.0)	碗状で、内摩しながら口縁部に至る。口縁部に磨みを有する小突起が付けられ、内面ナデ、外面縦方向の削りで整形されている。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P296 SE-1062 覆土 (安行B #)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考	
第241図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(37.6) B(25.6)	胴上縁から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、胴部で外傾して口縁部に至る。口唇部外面とその下に高られた隆帯で口縁部文様帯を区画し、上下の隆帯は「J」状の曲線で連結され、幅広い楕円形の区画内には隆帯に沿う連続爪形文、内部に蛇行沈線が描かれている。胴部は地文の縄文を磨り消して無文帯としているが、部分的に縄文が残されている。胴部文様帯はキャピラ文と直下に横走る隆帯で胴部と分離し、直線的に垂下する隆帯が連続している。区画内は隆帯に沿って2〜3本の沈線が地文の縄文の上に施文されている。	石灰・長石・雲母 に灰い赤褐色 普通	F297 SK-1063 覆土 (何玉台Ⅱ)	20%
第242図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(29.0) B(14.3)	胴上縁から口縁部にかけての破片。直立気味に口縁部に至る。口縁部は肥厚し、外面に高られた沈線上に連続刻文が施されている。口縁部から胴部には右下がりに斜行する粗い条線が施され、部分的に磨り消されている。胴部には沈線開始文帯が走り、文様が分断されている。	砂粒・スコリア 褐色 普通	F298 SK-1065 Ⅱ内 (安行Ⅰ)	10%
2	高形台付土器 縄文土器	D(5.2) E(3.0)	台部片。胴部から2段の沈線開始文帯が走り、磨消帯には穿孔が施されている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 褐色色 普通	F299 SK-1065 覆土 (安行Ⅰ)	5%
3	把 手 縄文土器	長さ(5.3) 幅(5.5)	口縁部把手片。丸みを持った器台形の把手で、上位にくびれが見られる。断面に2か所、外面と内・外面に1か所1対づつの円形凹みが施され、磨きで磨消されている。	砂粒・雲母 に灰い褐色 普通	F300 SK-1065 覆土 (加藤町B1)	5%
第242図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(22.0) B(19.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部は折り返しによる作出で肥厚し、沈線に沿った隆帯帯縄文帯を口縁部以下4段に高らされている。1段と2段、2段と3段は縦長送り歯により、部分的に連結されている。	砂粒・長石 灰褐色 普通	F301 SK-1066 覆土 (安行Ⅰ)	10%
2	鉢 形 土 器 縄 文 土 器	A(14.7) B(10.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、口縁部下に緩やかな上向き弧状の沈線が施文されている。胴中に横走沈線を施し、直上に口縁部弧状沈線に対応する下向き弧状沈線が描かれ、上下の弧状沈線の連結部は縦帯状沈線で結ばれている。	砂粒・雲母・ スコリア 黒褐色 普通	F302 SK-1066 覆土 (安行Ⅱb)	20%
3	深鉢形土器 縄文土器	A(4.7) B(3.0)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。外面は縦方向の磨きが施されている。	砂粒 褐色 普通	F303 SK-1066 覆土 (安行)	5%
4	小形広口壺 縄文土器	A(13.5) B(7.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、胴部でくびれ、口縁部は外傾する。口縁部上縁に瘤状突起を2個1組で有し、内面横方向の磨き、外面横方向のナデが施されている。	砂粒・雲母・長石 に灰い褐色 普通	F304 SK-1066 覆土 (安行Ⅱa)	15%
第243図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 16.4 B(12.4)	胴部中位以下大径。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚し、肥厚部に縄文帯が施されている。上と外に突出する縦刻みを施した横長の突起が対で8単位、口縁部上縁及び外面に貼り付けられ、口縁部以下で対になる位置に孔が2か所穿たれている。口縁部以下沈線区画で楕円形、内部磨り消しの枠状文、その下に沈線区画で上向き弧状の縄文帯が口縁部突起部に対応して8単位施され、縄文帯は3か所の縦刻みを施した粘面で連結されている。口縁部と同様の突起が、口縁部突起の中間の位置に対応して胴上位の最大径部に貼り付けられ、突起から派生する入り込み状縄文が突起間を結び、早期縄文が際限に施文されているが、突起の上は部分的に磨り消されている。以下口縁部下の文様帯と同様、沈線区画の長楕円形の磨消帯、縄文帯と文様帯が展開され、最大径部の粘面に対応する位置に粘面が加えられている。	長石・砂粒 に灰い赤褐色 普通	F305 SK-1067Ⅱ 覆土 (安行Ⅱa)	30%
第243図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(34.4) B(27.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は僅かに内彎しながら立ち上がり、胴部でくびれ、反折して口縁部に至る。口縁部は僅かに液状を呈し、口唇部外面に沈線が高らされている。胴本1組の沈線が口縁部から胴部に直線的に施文され、胴部に施された縄文を切断している。沈線の断面への食い込みは浅い。	石灰・長石・雲母・ スコリア に灰い褐色 普通	F306 SK-1069 覆土 (堀之内Ⅰ)	30%
第244図 2	深鉢形土器 縄文土器	A(36.0) B(30.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外傾き状で、直下に半軟竹管による沈線が高らされている。胴部外面には縄文が施文されている部分と幅広い島状体縄文が施されている部分が見られる。	砂粒・スコリア 褐色 普通	F307 SK-1069 覆土上層 (堀之内Ⅰ)	30%

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
3	浅鉢形土器	A (37.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、胴部で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部無文で、頸部には幅広い沈線内に連続状粒土粒貼り付け後、交互斜角による連続「コ」字状文が施されている。胴部から肩部の幅で突帯を高めし、縦の平行沈線で区画された内部に横長楕円形の沈線あるいは横沈線を描き、部分的に連続爪形文が施されている。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P308 SE-1069 覆土層 (中層)
	縄文土器	B (10.0)			
4	鉢形土器	A (21.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部が内彎する筒状で、口縁部が僅かに肥厚する。口縁部上端に2個1組の小突起を施し、突起及び突起間には刻みが加えられている。口縁部下に短沈線、胴下位に平行沈線を巡らせ、短沈線の下に上向き弧線、平行沈線の下に下向き弧線を描き、区画内を塗り潰し、他は口縁部から胴部に単筋縄文L及び光線が施されている。	砂粒・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P309 SE-1060 覆土 (安行Ⅲb)
	縄文土器	B (6.8)			
第244図	深鉢形土器	A (26.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、胴部で外反し、口縁部は短く直立する。口縁部は前角状に作出され、内側に縁が施される。沈線を沿わせた隆帯を上下に巡らせて口縁部と隆帯を区画し、上下の隆帯はクラク状の沈線を沿わせた平行隆帯で結ばれ、隆帯は塗り潰されている。胴部は単筋縄文L及び施文されている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P315 SE-1080 覆土 (加賀野Ⅰ)
	縄文土器	B (22.4)			
2	深鉢形土器	A (23.4)	胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反してラッパ状に開く。口縁部外縁は帯り滑しの無文で、胴部には上下に沈線を描いた二重隆帯による長楕円形を連続して描き、口縁部と胴部の文様帯が分離されている。楕円形の接点には口縁部に突出する半円状の隆帯が施されている部分もある。胴部には縦長楕円の単筋縄文Lを描き、3本1組の平行沈線を垂下し、文様が分離されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P316 SE-1080 覆土 (大木8a)
	縄文土器	B (15.5)			
第245図	深鉢形土器	A (42.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して口縁部に至り、口縁部内縁は内前角状で縁が施されている。口縁部外縁に隆帯が高く、上向き弧状の隆帯が連続した枠内に沿うキョウピラ文、鋸歯状沈線、手袋竹箆による平行沈線文が枠に対応して施文されている。	砂粒 赤褐色 普通	P318 SE-1090 覆土 (阿玉台Ⅲ)
	縄文土器	B (11.4)			
2	深鉢形土器	B (9.5)	口縁部。口縁部は内彎する。口縁部下に深上2段の隆帯を、楕円形が連続するように横状に縦の隆帯で接続している。上段の隆帯には連続刺突が施され、口縁部との間には縦長楕円の長方形や菱形のモチーフが描かれている。胴部文様は摩滅が著しく詳細不明である。	砂粒・長石 褐色 普通	P319 SE-1090 覆土 (大木8a)
	縄文土器	B (9.5)			
3	把手	長さ(4.8)	流状口縁波頂部の台形状把手片。波頂部両面に孔を有し、内・外面沈線を伴う隆帯で縁取りが連続されている。頂部より下がる隆帯によって表出された枠内には、隆帯に沿ったキョウピラ文が施されている。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P320 SE-1090 覆土 (阿玉台Ⅲ)
	縄文土器	幅(9.1)			
第246図	真形台付土器	A (5.8)	台部は「く」の字状で、胴部はやや外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部上端には連続前文が高く、上端及び外側に形を施した横長の突起が2個1組で4単位貼り付けられている。胴部中央には刻みを施した中やでラッパ状の突起と横刻みを施した円形の突起が2単位ずつ交互に口縁部突起に対応して貼り付けられている。上下の突起間には縦長の孔が穿たれ、上下左右の突起は僅かに弧状を呈する沈線区画の短文帯で連続されている。台部と胴部の境には沈線が通り、沈線から台部、胴部に縦方向の沈線が派生している。台部中央には横長でやや弧状の沈線区画の短文帯を楕円状に4単位施し、胴部の突起に対応するアブ鼻状突起で連続されている。胴部にも沈線を沿わせた短文帯が施されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P321 SE-1091 覆土 (安行Ⅱ)
	縄文土器	B 8.0 D 4.2 E 3.2			
第246図	深鉢形土器	A 37.5	胴下から底部にかけて欠損。胴部は直立気味に立ち上がり、胴部で外傾して口縁部に至る。口縁部は山形の波頂部を3単位有する波状口縁で、1か所の外面に連続爪形文を加えた環状の突起が付けられている。口唇部には外前角状の隆帯が高く、隆帯中央に沈線が加えられ、沈線の両側には連続爪形文が加飾されている。口唇部と口唇部下位に高る隆帯で口縁部文様帯が区画され、内部に下段の隆帯から派生する曲線が隆帯で、胴部には斜行沈線が施文されている。隆帯上には連続爪形文、部分的に連続爪形文や沈線が隆帯に沿ってそれぞれ輪かきされている。胴部は無文である。胴部は上位に連続爪形文が施され、以下に連続爪形文を加えた三角形の区画を描き、区画に沿って連続爪形文、平行沈線を施し、内部に縦の細沈線が充填されている。区画外も同様の文様が施されている。	石英・長石・雲母・スコリア 褐色 普通	P322 SE-1092 底面 (阿玉台Ⅳ)
	縄文土器	B (25.8)			

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考	
第247図 2	深鉢形土器 縄文土器	A(30.0) B(25.5)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は直立気味に立ち上がり、胴部で外傾した後僅かに内彎しながら口縁部に至る。口縁はやや平、口唇部上端には3単位突起を有するものとと思われる。突起の形状は文様のため不明である。口縁部は外側に沈線、内側に幅広の角帯文と沈線に沿った楕円形の杵状文を2個1組で3単位施文していると思われる。杵状文の連結部分は、胴部の隆帯がせり上がりことで襷状になり、突起下に位置している。胴部には上に沈線、下に角帯文を沿せた隆帯を巡らせ、以下胴部には角帯文を沿せた隆帯で楕円形のモチーフが描かれている。口縁部隆帯及び胴部全体に単筋縄文R Lが施文されている。	石英・長石・雲母 暗褐色 普通	F324 SK-1092 覆土 (阿玉台内)	20%
3	浅鉢形土器 縄文土器	A(42.0) B(13.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して開き、胴部で屈曲し、口縁部は短く外反し、内側が状に作出されている。口縁部下を高める沈線と胴部の間に縦方向の結節沈線、縦、横及び湾状の沈線が描かれている。内・外面磨きで整形されている。	砂粒・スコリア に薄い褐色 普通	F325 SK-1092 覆土 (中期中葉)	20%
4	深鉢形土器 縄文土器	A 8.3 B 10.1 C 6.0	小形の深鉢形土器。平底で中央部に厚みを持ち、胴部は直立気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。単筋縄文R Lが横位屈曲で施文され、底部から2〜3mmは無文となっている。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 褐色 普通	F326 SK-1092 覆土 (阿玉台内-N)	100%
第248図 1	鉢形土器 縄文土器	B(13.8) C 8.8	底部から胴部にかけての破片。突出気味の平底で、胴部は僅かに内彎しながら外傾して開く。胴上には沈線で区画された内部に単筋縄文R Lが充填され、胴部内面及び外周区画外は縦方向の磨きが施されている。底部に削代痕が残されている。	長石・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	F327 SK-1099 覆土 (加曾利B 2)	30%
2	鉢形土器 縄文土器	B(3.0) C(4.2)	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して立ち上がり、胴部外側に単筋縄文R Lが施文されている。	砂粒・雲母 褐色 普通	F328 SK-1099 覆土 (加曾利B 2)	5%
第248図 1	把手 縄文土器	長さ(12.3) 幅(10.3)	口縁部把手片。三角錐状の立体的な中空把手で、把手内面に1か所、側面に上下2か所まで1対の孔が穿たれている。側面の孔は隆帯上刻文帯、縦線及び隆帯上刻文帯の三重の線取りが施され、外面の隆帯上にも連続の刻みが施されている。把手内面には輪郭に沿った沈線が施されている。	雲母・長石 に薄い褐色 普通	F329 SK-1104 覆土 (中幹)	5%
2	平捏土器 縄文土器	長さ3.7 幅 5.1 厚さ3.6	粗雑な作りの手捏土器で、用途は不明である。	砂粒・雲母・ スコリア 褐色 普通	F330 SK-1104 覆土	100%
第249図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(19.6) B(9.6)	胴上部分から口縁部にかけての破片。胴部で外反した後口縁部に至る。口縁部内面に粘土を貼り付け、上端を扁平に、内・外面磨き滑して作出されている。口縁部磨り滑し無文帯の直下に高らせた幅広の沈線周りに小形の「U」字状粘土線を連続して貼り付け、側突を加えることで文様が強調されている。口縁部から胴上には中央に沈線を高らせたドーナツ状の円形突起を、口縁部上端には円形突起を挟むように突起が加えられている。胴部には屈位屈曲の単筋縄文R Lが施文されている。	砂粒・スコリア 赤色 普通	F331 SK-1109 覆土 (中幹)	5%
2	深鉢形土器 縄文土器	長さ(8.5) 幅(10.7)	口縁部片。湾状口縁で、口縁部に高める上下の隆帯を結ぶ楕状把手を有し、隆帯及び把手外面には縄文が施文されている。隆帯間には楕状把手を挟んで隆帯上爪形の交互刺突文と円形の交互刺突文が2段施されている。	石英・長石・雲母・ 砂粒 に薄い褐色 普通	F332 SK-1109 覆土 (中幹)	5%
第249図 1	把手 縄文土器	長さ(10.5) 幅(9.6)	口縁部把手片。湾状口縁部頂部把手片で、側面の最大厚み部分は5.0mmである。把手内面及び頂部に1か所ずつ、外面に2か所、刺突凹沈線を加えた長楕円形の突起を有し、側面にも刺突凹沈線が1か所ずつ加えられている。口縁部湾状部内面には刺突、外面には口縁部に対応する山形の沈線が施文されている。	砂粒・長石・ スコリア 淡黄褐色 普通	F333 SK-1111 覆土 (毎名寺2)	5%
第249図 1	注口土器 縄文土器	長さ(8.7) 幅(3.5)	注口部片。胴部に約30度の角度で上向きに付くものと思われる。基部外径8.8cm、内径1.8cmで、外面ナデが施されている。	砂粒・雲母・ スコリア に薄い褐色 普通	F334 SK-1114 覆土 (後期)	5%
第250図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(24.8) B(13.8)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、外反気味に口縁部に至る。口縁部は頸部による作出で突出し、内面は頸部に稜が付けられている。胴部外面は縦方向の磨きが施され、胴部上位に半円形の隆帯が2重連続で貼り付けられている。内面に磨きが付着している。	砂粒・長石・ スコリア 淡黄褐色 普通	F335 SK-1117 覆土 (阿玉台内・ 加曾利E 1)	10%
2	深鉢形土器 縄文土器	長さ(7.0) 幅(14.6)	口縁部片。口縁部を高める上下の隆帯を、楕状の把手で連結している。把手外面には沈線に沿った隆帯で末端が渦巻のモチーフを描く曲線が施されている。上下の隆帯には楕円形の孔が加えられている。	石英・長石・雲母・ 砂粒 褐色 やや不良	F336 SK-1117 表面 (大木8)	5%

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
3	把手 縄文土器	長さ(11.3) 幅(10.6)	波状口縁の波頂部把手片。波頂部に円形の把手を縦方向に取り付け、連続的文を施した隆帯が、把手周囲及び口縁部上端両側に施されている。一方の把手側面に隆帯間に突縁が連続して流線、もう一方には口縁部に流れる筋目を施した溝帯隆帯が施されている。隆帯で区画された波頂部外面には流線と下向き半月状のモチーフ、さらに内部に弧を描く山形流線文が施されている。	砂灰・雲母 ぶい黄褐色 普通	P337 SK-1117 Ⅱ 底面 (阿玉台V)	5%
第251図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.3)	胴上部。胴部は直立し、頸部から外反する。肩位回転の単線縄文Rしが地文として施されている。頸部に隆帯と斜行する隆帯の区画に沿って半軌竹管による平行流線が描かれ、内部にも縦方向の隆帯状あるいは流線が平行流線で見かけられる。	砂灰・雲母・長石 褐色 普通	P342 SK-1124 Ⅱ 腹土 (阿玉台V)	15%
2	浅鉢形土器 縄文土器	A(37.7) B(12.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁部外面は横切回転の単線縄文Rしが施され、直下に半軌竹管による平行流線文が施されている。肩部にやや下向きの弧状の隆帯を連続して貼り付け、せり上がりにより連結部は突出して表出されている。突帯に沿って直上に平行流線文が走り、胴部には縦位回転の単線縄文Rしが施されている。	砂灰・雲母・長石 褐色 普通	P341 SK-1124 Ⅱ 腹土 (阿玉台V)	15%
3	把手 縄文土器	長さ(9.5) 幅(9.4)	波状口縁波頂部の把手片。頂部に付く環状の把手で、縄文土器の隆帯が把手から胴部に派生している。把手中央に指環による流線が施されている。	石英・長石・雲母 ぶい褐色 普通	P343 SK-1124 Ⅱ 腹土 (阿玉台V)	5%
第251図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(6.5) C 6.0	底部から胴下部にかけての破片。やや丸みを持つ底部で、胴部は外傾して開く。胴部に単線縄文Rしが縦位回転で施され、流線間帯が胴下部まで垂下し、底部から3-4cmは磨り削られている。	砂灰・スコリア ぶい褐色 普通	P344 SK-1128 Ⅱ 腹土 (加曾利EⅡ)	5%
第251図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(37.0) B(5.7)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴上部は内彎して口縁部に至り、口縁部は短く直立する。口縁部は肥厚し、断面角状で上端は平坦に作出されている。内・外面赤彩されている。	長石・雲母 ぶい赤褐色 普通	P345 SK-1130 Ⅱ 腹土 (加曾利EⅠ)	5%
2	深鉢形土器 縄文土器	A(16.3) B(5.1)	胴上部から口縁部にかけての破片。やや丸みを持ち外傾して口縁部に至る。口縁部は横切り流し裏が内面に残り、上端は外角状に作出されている。内面磨りナデ、内面口縁部無文で、胴部に単線縄文Rしが縦位回転で施されている。	砂灰・雲母・長石 灰褐色 普通	P346 SK-1130 Ⅱ 腹土 (加曾利EⅠ)	5%
第252図 3	深鉢形土器 縄文土器	A(20.0) B(5.5)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり、口縁部は外側に突出する。口縁部指環によるナデ、胴部内面横ナデ、外面縦方向のナデで整形されている。	砂灰・雲母・長石・ スコリア ぶい赤褐色 普通	P347 SK-1130 Ⅱ 腹土 (加曾利EⅠ)	5%
4	把手 縄文土器	長さ(9.4) 幅(12.8)	波状口縁の波頂部把手片。山形の把手で、外面に3本の隆帯を貼り付け、両側の隆帯には口縁部隆帯に続いて、短流線、溝帯文、連続流線形文等が施されている。隆帯で区画された三角形内には単線縄文Rしが縦位回転で施されている。	石英・長石・雲母 ぶい褐色 普通	P348 SK-1130 Ⅱ 腹土 (加曾利EⅠ)	5%
第253図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(28.0) B(14.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、頸部でぐけられ、口縁部は短く外傾する。口縁部上端は平坦で、外側が表に出され、内面頸部直上に太く幅平な流線が施されている。胴部には横やかな流線を描く隆帯を上下対称に描き、幅広い区画内に隆帯による円形のモチーフが描かれている。上段の隆帯は幅広い部分で口縁部下から派生する隆帯と接続し、頸部と肩部の間にできた区画内には流線に沿って流線、内部に縦位の短流線が施されている。口縁部外面は赤彩されている。	長石・雲母・ スコリア ぶい赤褐色 普通	P350 SK-1136 Ⅱ 腹土 (加曾利EⅠ)	20%
第253図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(24.0) B(31.5) C 8.4	平底で、胴部はやや外傾して立ち上がり、頸部から外反気味に口縁部に至る。口縁部は突出して作出され、内面磨り流線に流線が施されている。形状の異なる把手を2単位有し、両方とも口縁部下は環状、口縁部から上は片方は孔を有する立体的な把手、もう一方は外面に隆帯と連続爪形文、「C」字状爪形文で文様を施した把手が付けられている。胴部に段差を有し、上下2つの文様帯に分離される。1文様帯は半軌竹管による平行流線文と縦2列の「C」字状爪形文を交互に施文している。2文様帯は偏平な竹管による流線状の連続刺突文、半軌竹管による平行流線文を合わせた隆帯。「C」字状爪形文で逆三角形の文様を構成し、4単位配している。2文様帯以下は無文である。	砂灰・長石・ スコリア 明赤褐色 普通	P351 SK-1139 Ⅱ 腹土 (藤原I)	90%
2	鉢形土器 縄文土器	A 16.0 B 9.8 C 9.0	平底で、胴部は外傾して開いた後内彎し、口縁部は短く外反する。胴部に隆帯を加えた隆帯が高り、口縁部と隆帯がせり上がって上下を結ぶ楕円状把手が1単位付けられている。外面は無文で、内面が整形されている。	砂灰・雲母・長石・ スコリア ぶい褐色 普通	P352 SK-1139 Ⅱ 腹土 (藤原I)	100%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第254図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(14.2) B(15.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内側して立ち上がり、頸部から外反気味に直立して口縁部に至る。口縁部から肩部にかけては磨り消しの無文帯で、胴部から肩部にかけて張り出すように作出されている。肩部を高く沈線以下に胴部文様帯が展開され、沈線で「〇」状のモチーフが描かれ、区画内に複数縄文L形が施文され、区画外は磨り消されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	F355 SK-1141 覆土 (大木9)
第254図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(27.4) C(13.4)	底部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に外傾して立ち上がる。胴部外面はキョウビク文を沿わせた隆線と直線を組み合わせた区画文を描き、区画外には斜め方向の条線が施されている。胴部中位に朱線文を切断する沈線が施されている。底部から8-10cmは磨り消され、文様は施されていない。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	F356 SK-1143 覆土 (阿玉台目)
第254図 1	台付土器 縄文土器	B(4.9) E(3.0)	台身片。断面が台形で、胴部と台部の接合部に沈線周縁文帯を巡らせ、台部外面には単節縄文Rしが充満されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	F357 SK-1144 覆土 (加勢利B3)
第254図 1	深鉢形土器 縄文土器	A(33.8) B(15.9)	胴上から口縁部にかけての破片。胴部でくびれた後、反折して口縁部に至る。口縁部直下に沈線が施され、沈線以下に胴部文様帯が展開される。胴部に単節縄文L形を地文として施した後、沈線で区画文、直線文が施されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	F359 SK-1151 覆土 (堀之内1)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(4.1)	底部から胴下部にかけての破片。やや突出気味の平底で、胴下部は直立気味に立ち上がる。外面横書き、底部中央に土器作成時の痕跡と思われる沈線が残されている。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	F360 SK-1151 覆土 (堀之内か)
第255図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A(36.0) B(10.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部はやや内傾しながら外傾して立ち上がり、口縁部は突出する。口縁部は外傾気味で、平坦に作出され、内面に縦帯と胴部の境に段差が設けられている。内・外面横ナゲで整えられている。	砂粒・長石 灰褐色 普通	F361 SK-1153 覆土 (加勢利E1か)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(3.8) C(10.4)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴下部はやや外傾して立ち上がる。底部に網代表が残されている。	砂粒・長石・雲母・ 石英 明赤褐色 普通	F362 SK-1153 覆土 (堀之内中)
第255図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(2.3) C(7.6)	底部から胴下部にかけての破片。底部は平底で突出しており、胴下部は内傾気味に立ち上がる。胴下部外面は磨きが残され、底部に刺状文帯が残されている。	砂粒・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	F363 SK-1157 覆土 (堀之内)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(4.9) C(7.0)	底部から胴下部にかけての破片。底部はやや上げ底で突出気味。胴下部は外傾する。胴下部まで沈線による区画文が描かれ、枠内磨り消し、枠外単節縄文L形が充満されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	F364 SK-1157 覆土 (株名寺2)

土坑出土土製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現 存 率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大径	最大幅	厚 度				
第218図2	土製円板	5.8	6.0	0.8	35.4	100	表面に単節縄文Rし及び渦形帯施文 裏面に朱貫通孔	DP49 SK-760 覆土
第219図7	土製円板	3.8	3.7	1.0	19.1	100	表面に波状条線 裏面横書き	DP51 SK-766 覆土
第220図1	耳 飾り	4.4	—	1.8	24.4	100	平滑半環形で、孔径は20.8cm。表面に、孔を取り巻くように縦刻みを施した歯を4単位貼り付け、外側に6.2個1組の突起が6単位貼り付けられている。	DP52 SK-778 覆土 跡長石コア7-75 同焼 普通 (後期後葉)
第233図5	土製円板	4.9	(2.8)	0.9	(13.8)	50	表面に単節縄文Rし 表・裏面に朱貫通孔	DP57 SK-1044 覆土
第241図3	土製円板	4.9	4.5	1.0	27.2	100	表面に単節縄文Rし	DP58 SK-1063 覆土
第246図3	耳 飾り	(6.6)	(5.8)	2.0	(7.0)	20	有文内傾環形。表面に沈線による長橋門形の区画内に横位沈線を施した単位文が3-4単位描かれると思われる。表面及び背面は磨きが残されている。	DP60 SK-1091 覆土 跡・長石 明赤褐色 普通 (後期前葉)
第249図2	土 圓	(4.0)	(5.4)	(3.6)	(46.1)	15	頸部片。眉と鼻は連絡し、鼻孔が施され、目は沈線で表現されている。頬下及び眉頂部に段差を有し、頬上から後頭部にかけて刺状文が施されている。	DP61 SK-1110 覆土 跡・長石 明赤褐色 普通 (後期中葉-後葉)
第249図3	土製円板	3.3	3.4	0.9	11.7	100	表面に単節縄文Rし	DP62 SK-1111 覆土
第251図4	土製円板	3.4	3.3	0.9	11.7	100	無文	DP63 SK-1121 覆土
第254図1	土製円板	4.8	4.1	1.1	22.1	100	無文	DP64 SK-1145 覆土

土坑出土石器観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第214図12	磨 石	6.6	6.0	4.9	(254.2)	安 山 岩	Q89 一部欠損 SK-325 覆土
13	磨 石	5.9	5.2	3.5	149.5	安 山 岩	Q90 磨石兼用 SK-325 覆土
14	石 鏃	3.0	1.6	0.5	0.5	頁 岩	Q91 平基有基鏃 SK-325 覆土
第214図4	磨 石	7.6	6.6	3.9	315.0	安 山 岩	Q92 磨石兼用 両面に僅かな凹み SK-503 覆土
第218図1	球状耳飾り	3.5	(2.4)	0.7	(7.2)	粘 板 岩	Q132 欠損品 SK-762 覆土
第220図5	磨 石	5.8	4.9	3.8	182.6	安 山 岩	Q93 磨石兼用 両面及び側面に凹み SK-768 覆土
第220図1	石 鏃	4.8	4.0	1.6	47.0	砂 岩	Q95 SK-773 覆土
第220図1	磨 石	5.6	5.1	4.0	181.0	安 山 岩	Q96 磨石兼用 SK-777 覆土
第222図15	磨 石	6.5	6.2	4.8	279.1	安 山 岩	Q97 SK-781 覆土
第224図3	石 鏃	(11.0)	(8.7)	(7.1)	(380.1)	安 山 岩	Q98 凹石兼用(底面) 内面保付着 SK-790 覆土
第224図1	浮 子	4.6	4.4	1.5	4.3	軽 石	Q99 有孔 SK-794 覆土
第224図6	石 鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	チャート	Q100 凹基無基鏃 SK-796 覆土
第228図7	磨 石	6.1	5.5	3.4	146.9	安 山 岩	Q102 両面に凹み SK-852 覆土
第233図3	磨 石	6.3	6.3	4.5	271.1	安 山 岩	Q106 磨石兼用 SK-951 覆土
第237図6	磨 石	8.7	6.2	4.3	366.7	安 山 岩	Q107 磨石・凹石兼用 SK-1047 覆土
7	磨 石	6.5	6.2	3.9	276.3	安 山 岩	Q108 両面に凹み SK-1047 覆土
8	磨 石	5.8	6.0	4.2	127.9	安 山 岩	Q109 SK-1047 覆土
第239図8	磨 石	6.7	5.6	3.2	215.9	安 山 岩	Q110 磨石兼用 両面に凹み SK-1056 覆土
第240図2	磨製石斧	(7.8)	4.4	5.2	(119.2)	緑泥片岩	Q111 定角式 刃部欠損 SK-1061 覆土
第241図4	石 棒	(8.1)	(5.0)	(4.5)	(260.9)	緑泥片岩	Q112 有眼 SK-1063 覆土
第243図9	磨 石	8.4	(4.8)	4.2	(198.2)	安 山 岩	Q113 被熱及び保付着 2/3欠損 SK-1066 覆土
第243図1	浮 子	8.0	5.3	2.2	(23.9)	軽 石	Q114 有孔 一部欠損 SK-1067A 覆土
第244図4	石 鏃	1.6	1.4	0.5	0.9	チャート	Q121 平基無基鏃 SK-1091 覆土
第248図3	磨 石	9.4	5.2	2.3	183.6	泥 岩	Q123 磨製石斧の刃部 欠損品の再利用小 SK-1104 覆土
第249図3	磨 石	7.4	4.2	4.2	364.8	安 山 岩	Q124 磨石兼用 表・裏面に僅かな凹み SK-1109 覆土
4	磨 石	6.5	6.0	4.5	248.4	安 山 岩	Q125 磨石兼用 表・裏面に僅かな凹み SK-1109 覆土
5	磨 石	6.0	5.5	3.5	206.6	安 山 岩	Q126 表・裏面に凹み SK-1109 覆土
第249図1	磨 石	11.4	5.4	3.2	286.3	砂 岩	Q127 SK-1112 覆土
第252図11	磨 石	10.0	5.3	3.3	280.2	砂 岩	Q130 SK-1130 覆土
第254図1	ナイフ形石	4.7	1.5	0.7	2.8	黒 曜 石	Q131 SK-1146 覆土上層

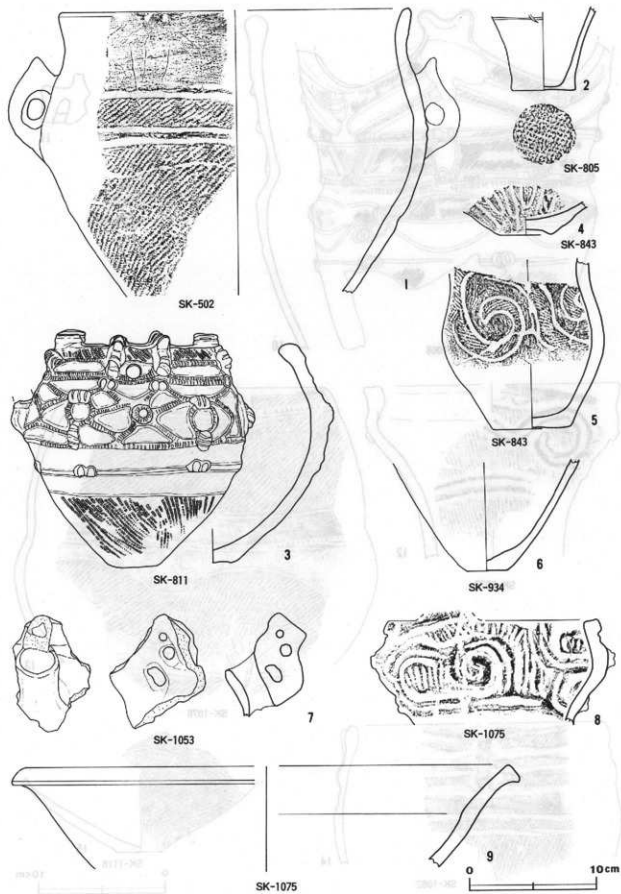
④ その他の土坑

ここでは、遺構平面図を掲載しなかった土坑の出土遺物についての実測図、拓影図の掲載及び解説を記述する。

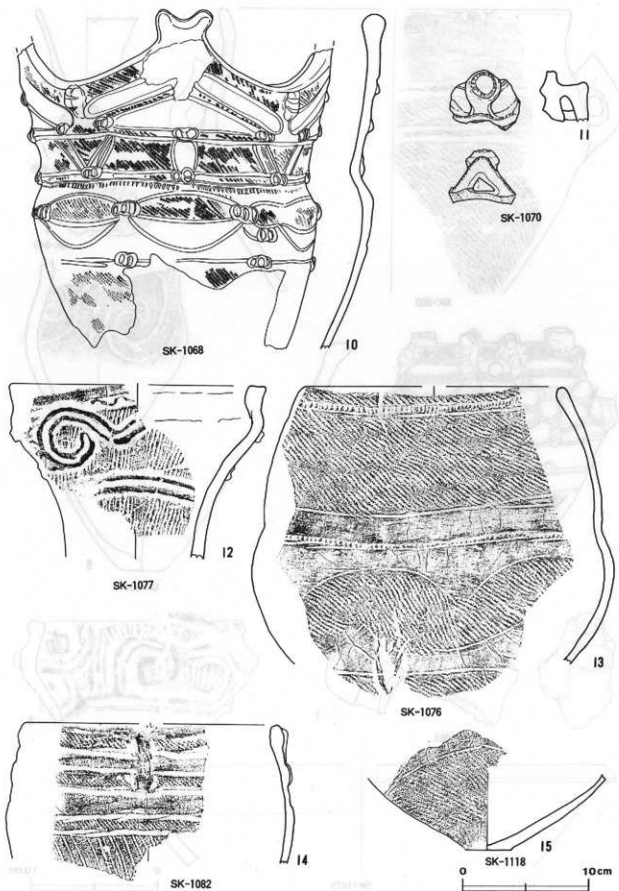
第261～264図1～56は遺構平面図を掲載しなかった土坑から出土した縄文土器片の拓影図である。

17, 20, 21, 26, 56は中期阿玉台Ⅲ～Ⅳ式にかけての土器である。17, 20は浅鉢形土器の口縁部片で、外面無文である。17は口縁部内面に隆帯による区画的文様が見られ、赤彩されている。20は口縁部と胴部の内面境に段が見られる。21は燃糸文、56は単節縄文が施され、26は隆線による区画内に爪形文と鋸歯状沈線が施されている。55は中期勝坂Ⅱ式の影響が見られる口縁部片で、半截竹管による平行沈線が施され、隆帯上に幅広い爪形文が見られ、円形の小突起が口唇部に付けられている。4, 13, 30, 51, 53は中期加曾利EⅠ式に比定される土器の口縁部片で、4は短沈線、13, 53は渦巻文が口縁部文様帯に描かれ、51には舌状の突起が付けられている。30は口唇部上端に沈線が見られ、沈線を沿わせた隆線で口縁部文様帯が構成されている。34は口縁部区画文の中に渦巻文が見られ、中期加曾利EⅡ式の範疇と思われる。6, 29, 35は燃糸文が地文の胴部片で、6は横方向に施文、35は3本の平行沈線が垂下し、29には斜行する平行沈線と補修孔が見られる。35は中期加曾利EⅡ式、29は中期加曾利EⅡ～Ⅲ式にかけてと思われる。2, 10, 11, 12, 28, 33は中期加曾利EⅢ式に比定される土器で、28は把手、10, 33は口縁部片で、他は胴部片である。2, 10, 11, 12は磨り消しを伴う隆起線により区画文が描かれ、区画内は縄文が施文されている。28は突起頂部に渦巻文、外面に刺突文が見られる。33は胴部に沈線区画の磨消帯が施されている。39は大木8b～9式の影響が見られる胴部片で、地文の縄文の上に渦巻文や縦横に走る沈線が描かれている。14, 18, 19は微隆起線区画の磨消帯が見られ、中期加曾利EⅣ式に比定される土器である。16は口縁部無文帯下に隆起線と舌状突起が見られ、胴部には条線が施文されており、後期初頭の段階と思われる。1は沈線で区画文が描かれているが、外面摩滅が著しく詳細は不明である。後期称名寺式の範疇と思われる。52, 54も後期称名寺式の土器片で、54は沈線区画外に縄文が施文され、52は区画内に列点文が描かれ、前者は1式、後者は2式に比定される。3は胴部に縄文が施文され、22は口縁部に横「8」字状の突起が付され、突起下から沈線が胴部に施文されている。いずれも後期前葉の範疇と思われる。9, 15, 32, 37, 41, 47は後期堀之内式に比定される土器で、9, 32は胴部片、他はすべて口縁部片である。9は地文の縄文上に斜行沈線が直線的に描かれている。32も縄文地文で、半截竹管による平行沈線が横状把手の下は曲線を描いてから胴部に垂下している。41は口唇部下に横走沈線、胴部は区画文及び区画内も直線的沈線で構成されている。15は口唇部沈線上に刻みを有する突起、胴部は縄文地文が沈線区画の直線的磨消帯に分断されている。37は波状口縁で、波頂部の刺突文以下蛇行沈線が胴部に垂下し、磨消部分と縄文施文部分に分かれている。47は口縁部に横走沈線を分断する刺突文が見られ、胴部は地文の縄文を直線的な区画文が切り、区画間は短沈線が縦に連続で施されている。5, 7, 24, 25, 27, 46は後期加曾利B式に比定される土器で、7は胴部片、他は口縁部片である。7は胴中位にくびれを持ち、くびれ部に沈線区画の刻文帯の上は下向き、下は上向き弧線が描かれ、弧線内は縄文が施文されている。5, 46は口唇部上端に刻文が施され、5は偏平な突起が貼り付けられている。24は平行沈線を切る入り組み状の曲線が見られる。25は波状口縁の鉢形土器で、口縁部刻文帯以下に縄文が施文され、27は口唇部上端に沈線が施され、以下刺突を加えた粘土紐が口縁部から垂下し、横の粘土紐と連結している。隙間には沈線で曲線的な文様が描かれ、区画外に縄文が施文されている。8, 31, 42, 43, 45, 48, 49は後期安行Ⅰ式に比定される土器である。8, 31, 43は粗製土器の口縁部片で、8は刻み状の刻文帯、31は粘土紐貼り付けの刻文帯が2段、43は沈線区画の縄文帯が2段見られる。

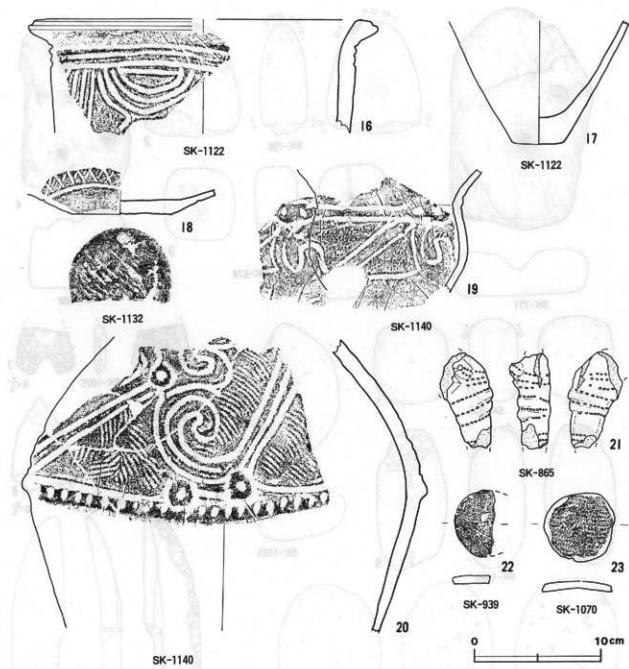
42, 45, 48は口縁部以下に多段の隆起帯縄文が施されている土器で、42は沈線区画で3段、胴部下半は縦の条線が施文されている。45は口縁部が幅広く、波状口縁の下に孔が穿たれ、縄文帯は貼瘤で接続されている。48は縄文帯に沿って刻文が施され、胴部には上向き弧線の区画内に縄文が施文されている。49は口縁部が外反し、口唇部外面に刻文が施され、以下は縦の条線が施文されている。50は後期安行Ⅱ式に比定される土器で、口唇部に縦長貼瘤で、口縁部は縄文帯、胴部は隆起帯刻文が要所でブタ鼻状貼瘤で接続されている。44は後期安行Ⅱ式～晚期安行Ⅲ a 式にかけての土器と思われ、横の条線を切る蛇行沈線が見られる。38は後期安行Ⅱ式～晚期安行Ⅲ a 式の範疇の土器で、口縁部に帯縄文が施文され、沈線以下は僅かに斜行すると思われる沈線が施され、上位には縄文が施文されている。23, 38は晚期安行Ⅲ b 式の範疇と思われる。23は浅鉢形土器で、口唇部に小突起、口縁部文様帯に弧線文、胴部下半に平行沈線が施され、部分的に縄文が施文されている。38は口唇部上端に小突起が付され、以下縦、斜め及び曲線的な文様が沈線で描かれ、縄文施文部分と磨り消し部分が見られる。40は大洞 B 式の影響が見られる波状を呈する口縁部片で、ほぼ垂直に立ち上がる。縄文帯間の磨り消し部に三叉文が施文されている。



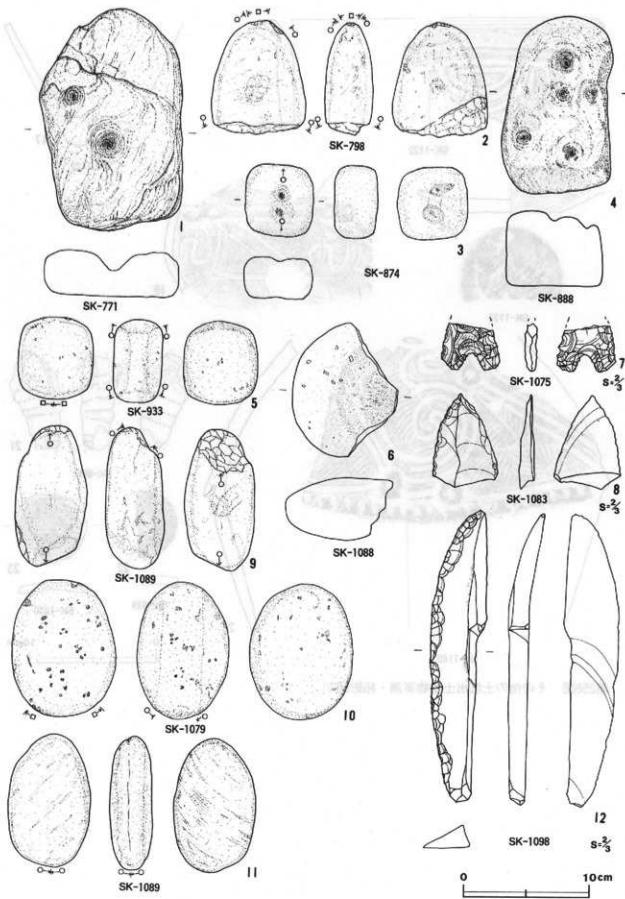
第256図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(1)



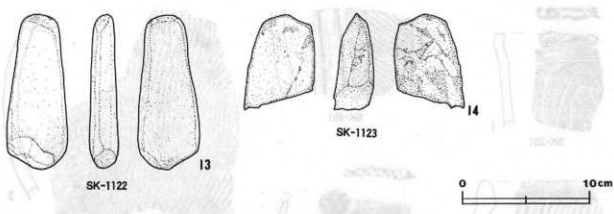
第257図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(2)



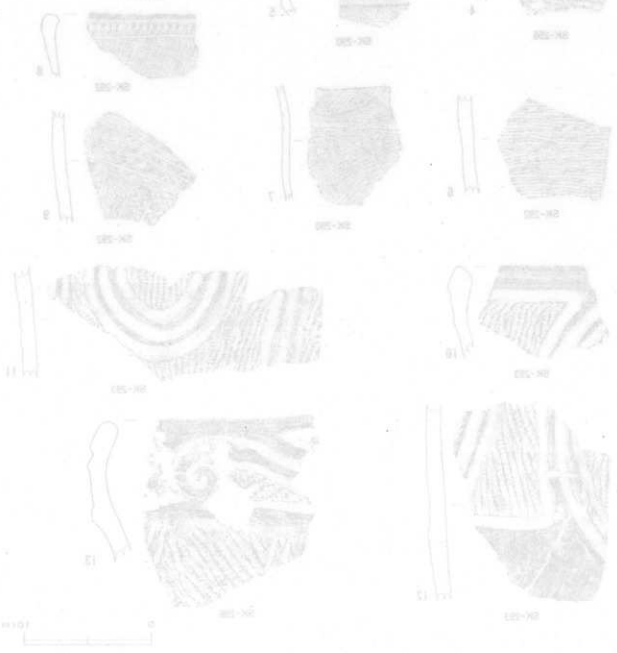
第258図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(3)



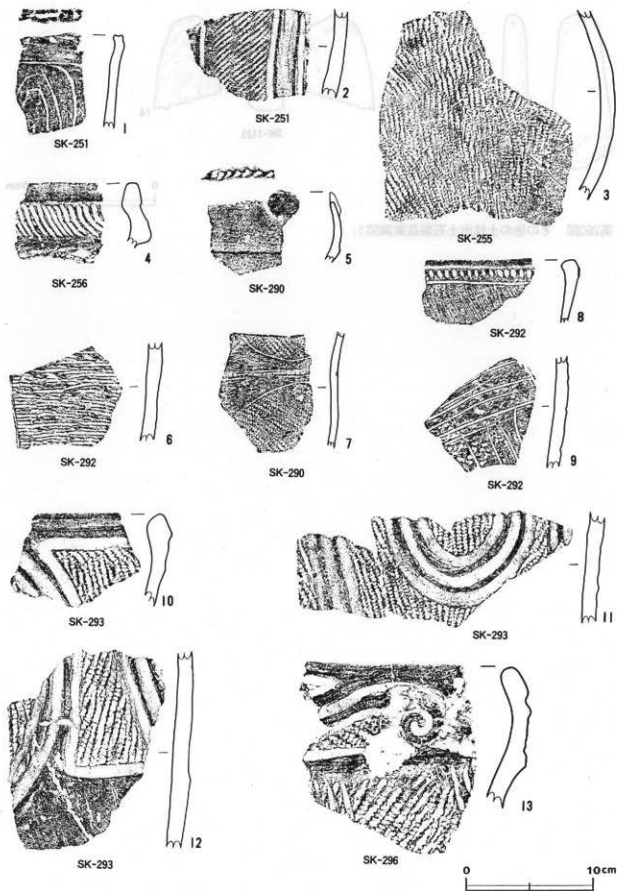
第259図 その他の土坑出土石製品実測図(4)



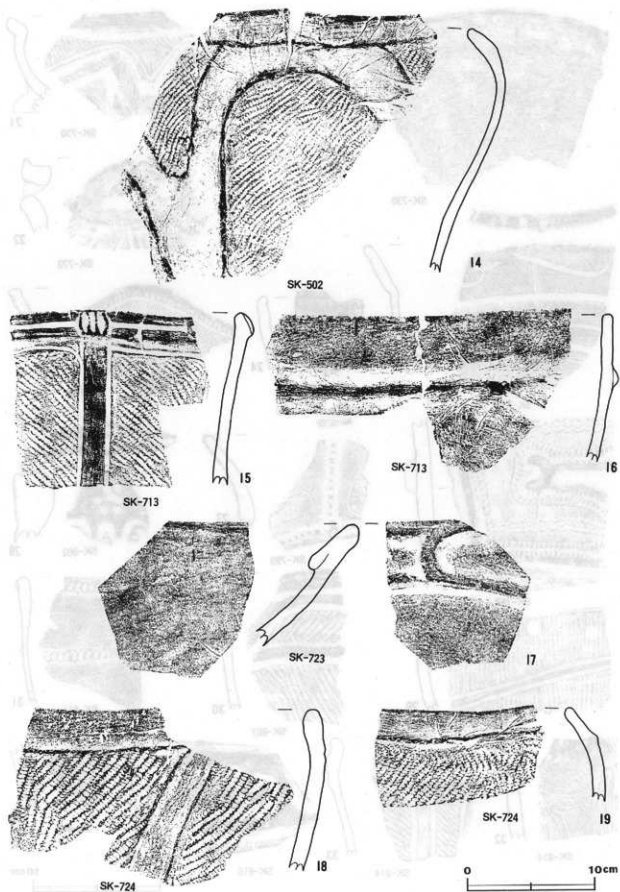
第260図 その他の土坑出土石製品実測図(5)



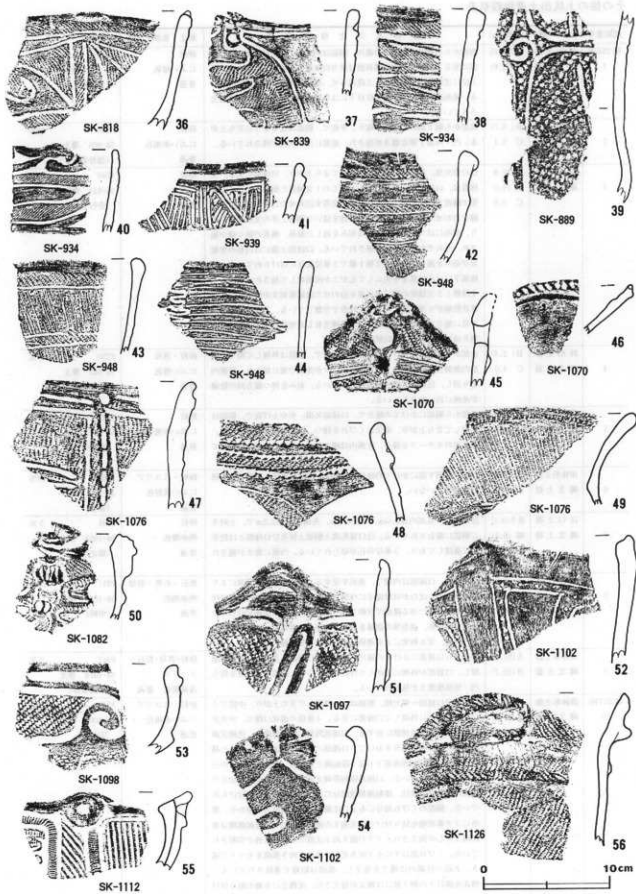
4国集誌・美濃村出土石製品実測図(5)



第261図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図(6)



第262図 その他の土坑遺物実測・拓影図(7)



第264図 その他の土坑出土遺物実測・拓影図9)

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	鉢形土器	A (28.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、僅かに外反して口縁部に至る。内面及び口縁部外面は横方向の帯で整形されている。胴上位に沈線に伴う隆起線を2段送り、横状把手で上下が結ばれている。隆起線区画内及び胴中位以下には単線縄文R Lが縦位回転で施文されている。	砂粒	P193 30% SK-502 覆土 (加曾野E IV)
	縄文土器	B (22.6)		にぶい褐色 普通	
2	深鉢形土器	B (6.7)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は反るよう立ち上がり。内・外面丁寧な磨きが施され、底部には新代灰が残されている。	砂粒	P237 10% SK-905 覆土 (加曾野B 1)
	縄文土器	C 5.1		にぶい赤褐色 普通	
3	注口土器	A 12.8	注口部欠損。鉢形で、胴部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。文様帯は、口縁部から胴部上半にかけての1文様帯と胴部下半の2文様帯で構成されている。1文様帯は刷文帯を合わせた口縁部縄文帯と沈線帯を合わせた細い隆起帯基文で文様を描いた胴部上半の文様帯からなり、要所にはフタ形状あるいは折みを施した縦長、横長の帯が施され、それぞれの文様が連続されている。口縁部上縁には円形の突起及び折みを施した突起が2個1組で2単位交互に付けられている。口縁部下には注口部を中央にして片が2か所相対して施されている。1文様帯と2文様帯の間には沈線帯を合わせた隆起帯刷文が横走し、フタ形状突起が6単位加えられ、文様帯を分離している。2文様帯は胴部下位に施された横走沈線以下に単線縄文R Lが充填され、1文様帯の磨り消し手法主体とは対照的である。	砂粒	P240 95% SK-811 覆土 (安行E)
	縄文土器	B 19.0		黒褐色	
	縄文土器	C 3.8		普通	
4	鉢形土器	B (2.4)	底部から胴下部にかけての破片。上げ底で、胴部は外傾して開く。胴部内面磨き、外面「U」字状のモチーフが沈線で密に描かれ、区画内磨り消し、区画外に縄文が施文されている。折みを持つ縦方向の隆起が沈線に沿って施されている。	砂粒・雲母	P250 5% SK-843 覆土 (後期加須)
	縄文土器	C 4.0		にぶい褐色 普通	
5	深鉢形土器	B (13.5)	底部から胴部にかけての破片で、口縁部欠損。やや上げ底で、胴部は内彎して立ち上がり、中位にくれを持つ。胴部外面に沈線で「U」の字状のモチーフを描き、区画内は縄文施文、区画外は磨り消されている。	砂粒	P249 30% SK-843 覆土 (転名寺1)
	縄文土器	C 6.2		にぶい赤褐色 普通	
6	深鉢形土器	B (8.7)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。文様は施されていない。	砂粒・スコリア	P260 10% SK-934 覆土 (安行)
	縄文土器	C 3.2		にぶい黄褐色 普通	
7	注口土器	長さ(9.1)	注口部片。基部内径2.0cm、外径2.7cm、先端部内径2.3cmで、上向きに胴部に接合されている。注口部先端と胴上位及び口縁部とは把手上に接続しており、3単位の孔が穿たれている。内面に磨きが施されている。	砂粒	P291 5% SK-1053 覆土 (那之内1)
	縄文土器	幅(6.1)		明赤褐色 普通	
8	深鉢形土器	A 16.6	口縁部片。口縁部は内彎し、液状を呈する。口縁部上縁は頸部より中心が僅かに沈むがほぼ水平に作出されている。口縁部文様帯は口縁部隆起帯と胴部に高る隆起帯で区画され、区画内に中心に沈線を合わせた縦帯で楕円形、渦巻等の曲線を描き、隙間には縦あるいは横の短沈線、磨り消し、交互斜突による連続「コ」字状文様を施している。	長石・石英・雲母	P311 20% SK-1075 覆土 (中峠)
	縄文土器	B (8.9)		普通	
9	浅鉢形土器	A (52.8)	胴部から口縁部にかけての破片。外傾して口縁部に至る。口縁部は肥厚し、口唇部が外傾に突出して作出されている。胴部内面に袋を持ち、内・外面磨きが施されている。	砂粒・雲母・長石・スコリア	P312 5% SK-1075 覆土 (中期中葉)
	縄文土器	B (10.7)		黄褐色 普通	
第257図 10	深鉢形土器	A (25.6)	底部及び口縁部一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり、中位でくびれた後僅かに外傾して口縁部に至る。4単位の液状口縁で、中央が凹む角状突起を液流部に有する。口縁部外面に隆起帯縄文、沈線区画の長楕円形の磨消部分において、口縁部に平行する沈線帯を合わせた縄文施文の隆起線が液流部下を隔る隆起線と接続し、内部磨り消しの三角文様が作られている。口縁部隆起帯縄文液流部には横折みを加えた縦長の胎輪が4単位、隆起線液流部分にはフタ形状の胎輪が付けられている。胴部のくびれ部分にも上に沈線、下に連続縦文を合わせ、要所にフタ形状帯を貼り付けた縄文施文の隆起線が回り、隆起線間には単線縄文R Lが施文され、上下の帯を結ぶ沈線によって文様が切割られている。くびれ部以下にも下向き及び2本の上向き弧線をセットで描き、上段の区画内は縄文を施文し、弧線は胎輪で連続されている。横走沈線以下の胴下部には縄文が施文され、沈線上にも磨り消し付けられている。	砂粒・スコリア	P323 50% SK-1068 覆土 (安行E)
	縄文土器	B (27.2)		にぶい赤褐色 普通	

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
11	把 手 縄文土器	長さ(4.8) 幅(5.6)	口縁部把手片。浅状口縁で、口縁部下に施された縁線が両側からせり上がり、口縁部と縁状に連続している。縁線がせり上がる際、三角形の空間が把手下に残され、把手外面上部には刻文を施した円形縁線を貼り付けた突起が付けられている。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	F310 5% SX-1070 覆土 (堀之内か)
12	深鉢形土器 縄文土器	A(20.4) B(13.9)	胴部から口縁部にかけての破片。口縁部は内彎する。折り返しにより口縁部は肥厚し、上端が扁平に作出されている。口縁部は交互斜突による連続「コ」字状文。胴部は中心に沈線を加えた隆帯をそれぞれ返らせ、区画内に曲線のモチーフの隆帯を貼り付け、口縁部文様帯が構成されている。地文として縦方向の無節縄文Rの縁状体痕文が施文されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	F314 10% SX-1077 覆土 (中沖+加曾利E1)
13	甕形土器 縄文土器	A(20.6) B(22.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎し、中位でくびれた後、内傾して口縁部に至る。胴部のくびれ部に沈線間刻文を返らせ、文様帯が分離される。上位の1文様帯は、口縁部に幅の狭い縄文帯と沈線間刻文帯を返らせ、以下沈線まで縄文が充填される。2文様帯は上向き、下向きに入り組み連続縦線文を描き、区画内に縄文を充填し、磨消帯を挟んで沈線以下は縄文が充填されている。	長石・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	F313 25% SX-1076 底面 (曾谷)
14	深鉢形土器 縄文土器	A(20.0) B(11.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部は折り返しにより肥厚し、沈線を含む隆帯帯縄文が口縁部以下に3段返らされている。口縁部と2段目が縦長距離で結ばれ、縄文帯間は磨り消されている。胴部には右下がりに斜行するやや太めの条線が粗い間隔で施文されている。	長石・雲母 明赤褐色 普通	F317 10% SX-1082 覆土 (安行1)
15	深鉢形土器 縄文土器	B(6.1) B 3.6	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴部下位に返る沈線の上には磨消帯を挟んで上向き弧線が描かれ、弧線内には縄文が施文されている。沈線以下には単節縄文Rが充填され、底部から2-3cmは磨消帯が施されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	F338 20% SX-1118 覆土 (後期後遺)
第258図	深鉢形土器 縄文土器	A(27.8) B(9.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。胴部は直立し、口縁部は短く外反する。口縁部外面は隆帯貼り付けで肥厚し、やや扁平な上縁には貼り付け部分に沈線が施される。口縁部下に3本の平行沈線を返らせ、沈線あるいは弧状の平行沈線を連結して胴部文様帯が構成されている。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	F339 5% SX-1122 覆土 (加曾利E1)
17	深鉢形土器 縄文土器	B(10.0) C 4.0	底部から胴下部にかけての破片。縁から先内彎して底面で、胴部は外傾して開く。内・外面ナア整形が施されている。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	F340 20% SX-1122 覆土 (中期中遺)
18	浅鉢形土器 縄文土器	B(1.8) C 7.8	底部片。平底で、胴部は外傾して開く。胴下部の横走沈線の上は斜行沈線。下は磨きが施されている。底部に網状表が見られる。	長石・雲母 褐色 普通	F349 10% SX-1132 覆土 (加曾利B2-3)
19	深鉢形土器 縄文土器	B(9.8)	小形の深鉢形土器の胴部片。胴部は内彎して上位でくびれ、外反しながら立ち上がる。くびれ部に沈線に沿って隆帯を返らせ、円形刺突を2か所加えた横長の浮文が裏面に貼り付けられている。縁線以下には沈線で直線と曲線を組み合わせて文様を描き、区画内に列点文が施され、他は磨り消されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	F354 20% SX-1140 覆土 (地名寺2)
20	深鉢形土器 縄文土器	B(23.0)	胴部中位の破片。内彎し、胴部が膨る器形で、最大径部分に円形刺突を連続させた縁線を貼り付け、胴部上位文様帯と下位無文帯が分離されている。上位の文様帯には複数の平行沈線で重層的あるいは曲線的、渦巻等の文様が描かれ、裏面に刺突を加えた円形浮文貼り付け、隙間に単節縄文Rが施されている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	F353 10% SX-1140 覆土 (網取1)

その他の土坑出土土器製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			重 量 (g)	現 存 率 (%)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
第258図21	土 甕	(7.6)	(4.2)	(3.4)	(75.8)	15	土甕の左胴部。内観中位に隆帯を2本施し、胴部からも胸部中央に向かい隆帯が施されている。胸部の隆帯には連続斜突文が沿い、肩及び背面にも連続斜突文が施されている。	DP55 SX-865 覆土 砂粒・長石・石英 赤褐色 普通 (後期中遺-後遺)
22	土 製 円 板	5.3	(3.2)	0.7	(15.1)	50	表面に整形痕	DP56 SX-939 覆土
23	土 製 円 板	5.4	5.6	0.8	24.4	100	表面に単節縄文裏面丁寧な磨消	DP59 SX-1070 覆土

その他の土坑出土石製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第259図1	凹 石	(17.5)	(11.5)	(2.5)	(1062.1)	新 母 片 岩	Q94 欠損品 SK-771 覆土
2	磨 石	(9.0)	7.5	3.8	(366.3)	安 山 岩	Q101 礫石兼用 両面に凹み SK-798 覆土
3	磨 石	5.8	5.4	3.2	188.6	安 山 岩	Q103 両面に凹み SK-874 覆土
4	凹 石	14.3	8.6	5.9	1169.0	砂 岩	Q104 SK-888 覆土
5	磨 石	6.6	6.0	3.8	241.6	安 山 岩	Q105 礫石兼用 SK-933 覆土
6	石 皿	(10.7)	(8.3)	5.0	(415.8)	安 山 岩	Q118 欠損品 SK-1068 覆土
7	石 鏝	(1.8)	2.3	0.5	(2.1)	黒 曜 石	Q115 凹面無蓋縁 先端部欠損 SK-1075 覆土
8	不定形石器	3.6	2.6	0.6	3.9	チャート	Q117 SK-1083 底面
9	磨 石	11.2	5.7	4.8	(436.2)	安 山 岩	Q119 礫石兼用 一部欠損 SK-1080 覆土
10	磨 石	10.8	8.1	7.2	723.5	安 山 岩	Q116 礫石兼用 SK-1079 覆土
11	磨 石	10.6	6.5	3.5	356.7	安 山 岩	Q120 SK-1089 覆土
12	彫 彫 か	11.6	(2.2)	0.9	(22.6)	頁 岩	Q122 欠損品 SK-1098 覆土上層
第260図13	磨製石斧	12.3	4.9	2.5	175.6	凝 灰 岩	Q128 刃部欠損後二次加工 SK-1122 覆土
14	磨製石斧	(7.5)	5.5	3.1	(183.4)	蛇 紋 岩	Q129 完典式 欠損品 SK-1123 覆土

前田村遺跡D区土坑一覽表

土坑 番号	位置	規模(概) 方向	平面形	長短×面積 (m)	深さ	壁面	底面	出土	分類	時期	出土遺物	備 考	
250	C15b	3-30°-E	楕円形	1.39 × 1.14	22	縦斜	平直	自然	21a1	加賀朝日瓦Ⅰ-B	縄文土器	3K-251→本跡、3E-255不明	
251	C15b	3-43°-E	不規則円形	1.53 × 1.33	37	縦斜	平直	自然	21a1	加賀朝日瓦Ⅰ-赤瓦	縄文土器	本跡→3E-256	
252	C15c	3-20°-E	楕円形	2.12 × 1.85	120	内傾	平直	自然	22a10	(中層)		31-95→本跡、袋状、底径2.47 × 2.45	
254	C15b	3-44°-E	楕円形	1.26 × 1.05	44	縦斜	平直	人為	21a1	加賀朝日瓦Ⅰ-E	縄文土器		
255	C15b	3-1°-E	円形	1.05 × 0.97	105	外傾	平直	自然	A12a3	堀之内小	縄文土器	本跡→31-96	
256	C15a	3-45°-E	不定形	1.10 × 0.98	10	縦斜	平直	自然	21a1	加賀朝日瓦Ⅰ	縄文土器	3E-251→本跡、3E250不明	
257	C15b	3-30°-E	不定形	1.32 × 1.18	86	内傾	平直	自然	22f42	阿玉台瓦Ⅰ	縄文土器	31-95→本跡、袋状、底径2.33 × 1.22	
259	C15b	3-50°-E	楕円形	1.14 × 1.03	38	縦斜	平直	自然	21c1			本跡→31-98	
260	C15a	3-85°-E	楕円形	1.21 × 0.89	42	縦斜	平直	自然	21a1	後期鎌倉	縄文土器	本跡→31-101	
261	C15g	3-45°-E	円形	1.55 × 1.31	197	垂直	平直	自然	A15a4	安行瓦Ⅰ-III	縄文土器、鉄骨、貝	本跡→31-100、円筒状	
262	C15b	3-31°-E	不定形	3.55 × 2.02	65	縦斜	平直	自然	21c12	堀之内Ⅰ-安行	縄文土器	本跡→31-95	
263	C15a	3-90°-E	不定形	2.15 × 1.25	38	外傾	凸凹	自然	22a14	加賀朝日瓦	縄文土器	本跡→31-97、31-98不明	
264	B15b	3-11°-E	楕円形	1.66 × 1.42	153	垂直	平直	自然	22a14	朝陽橋-朝陽館	縄文土器	本跡→31-104、3E-296、円筒状	
265	B15e	3-81°-E	楕円形	0.90 × 0.80	63	垂直	凸凹	自然	22a42			本跡→31-104	
266	B15e	3-18°-E	不規則円形	1.23 × 1.23	53	垂直	平直	人為	22a42	加賀朝日瓦	縄文土器	3E-294→本跡→31-104	
267	C15d	3-47°-E	不規則円形	1.70 × 1.30	55	垂直	凸凹	自然	22a42	加賀朝日瓦	縄文土器	31-98→本跡、3E-749不明	
269	C15b	3-75°-E	楕円形	1.03 × 0.85	38	縦斜	圓状	自然	21a1			円筒状	
274	C15a	3-35°-E	楕円形	1.29 × 1.12	123	外傾	平直	自然	22a13			円筒状	
275	C15g	3-45°-E	楕円形	2.50 × 1.30	62	外傾	平直	5	22c12	安行Ⅰ-E	縄文土器、磨石、石鏡、鉄骨	31-107不明	
305	C16e	3-75°-E	不定形	1.89 × 1.25	52	外傾	凸凹	自然	22a13	中層-後期	縄文土器		
396	C16e	3-19°-E	楕円形	1.36 × 1.16	192	垂直	平直	自然	22a14	後期鎌倉	縄文土器、鉄骨	円筒状	
392	C16e	3-75°-E	楕円形	1.84 × 1.65	69	垂直	平直	自然	22a42	加賀朝日瓦Ⅰ-B	縄文土器	本跡→31-137	
503	C16e	3-57°-E	楕円形	1.01 × 0.79	114	内傾	平直	自然	22f10	中層中層	縄文土器、磨石	31-137、3E-504→本跡、底径1.98 × 1.76	
504	C16e	3-30°-E	楕円形	1.87 × 1.45	83	外傾	圓状	自然	22c12	加賀朝日瓦前後	縄文土器	本跡→31-137、3E-503	
713	C16f	3-28°-E	楕円形	1.07 × 0.87	83	垂直	平直	自然	22a42	赤瓦帯-堀之内	縄文土器	本跡→31-180	
714	C15d	3-50°-E	楕円形	1.18 × 0.87	27	外傾	平直	自然	22a1			本跡→31-188、196	
716	C15d	3-33°-E	円形	1.96 × 1.88	70	内傾	平直	自然	AN10	阿玉台瓦Ⅰ-加賀朝日瓦Ⅰ	縄文土器	袋状、底径2.13 × 2.05	
717	C15b	3-85°-E	楕円形	2.94 × 2.22	56	外傾	平直	自然	21c12	阿玉台瓦Ⅰ-B	縄文土器、鉄骨	31-189→本跡	
720	C15d	3-15°-E	楕円形	0.68 × 0.50	158	垂直	平直	自然	22a44	中層	縄文土器	本跡→3E-722、3E-721、753不明	
721	C15d	3-95°-E	楕円形	2.75 × 2.31	42	外傾	平直	自然	22c1	堀之内Ⅰ	縄文土器	本跡→3E-722、3E-720、753不明	
722	C16d	3-30°-E	円形	0.95 × 0.83	71	内傾	平直	自然	AN43	中層	縄文土器	3E-720、721→本跡、袋状、底径2.15 × 1.83	
723	C15d	3-18°-E	楕円形	1.70 × 1.43	103	内傾	平直	自然	22f15	阿玉台瓦	縄文土器	31-189、3E-724→本跡、袋状、底径2.47 × 2.45	
724	C16d	3-19°-E	楕円形	1.70 × 1.51	85	外傾	平直	自然	22c12	加賀朝日瓦	縄文土器	本跡→31-188、189、3E-723	
725	C15d	3-0°	円形	1.35 × 1.25	44	外傾	平直	自然	A11a1	加賀朝日瓦	縄文土器	本跡→31-188	
726	C15d	3-7°-E	円形	1.23 × 1.14	52	垂直	平直	自然	A11a1	加賀朝日瓦-堀之内	縄文土器	本跡→31-188	
727	C15e	3-7°-E	円形	1.17 × 1.15	41	外傾	平直	自然	A11a1	中層	縄文土器	本跡→31-188	
728	C15e	3-52°-E	楕円形	1.22 × 1.02	112	内傾	凸凹	自然	22f10	阿玉台瓦Ⅰ-加賀朝日瓦Ⅰ	縄文土器	31-197、3E-720不明、袋状、底径2.24 × 2.02	
729	C15e	3-82°-E	楕円形	0.18 × 2.40	25	外傾	凸凹	自然	21c1	加賀朝日瓦Ⅰ-E	縄文土器	31-197、3E-726不明	
730	C15e	3-19°-E	楕円形	2.60 × 2.15	36	外傾	平直	自然	21c1	阿玉台瓦	縄文土器	本跡→31-173	
732	C15a	3-72°-E	円形	0.95 × 0.88	122	内傾	凸凹	自然	1	AN43	阿玉台瓦	縄文土器	袋状、底径2.80 × 2.58
733	C15f	3-13°-E	楕円形	2.81 × 2.03	62	垂直	凸凹	自然	2	22e43	加賀朝日瓦Ⅰ-E	縄文土器	3E-812→本跡
734	C15f	3-32°-E	円形	0.35 × 2.20	102	内傾	平直	自然	AN43	阿玉台瓦	縄文土器、鉄骨	3E-734→本跡、袋状、底径2.14 × 2.14	
734B	C15g	3-30°-E	楕円形	0.40 × 0.35	130		平直		B a1	安行Ⅰ	縄文土器	本跡→3E-734A、B、C→本跡	

土坑 编号	位置	长×宽 (m)	平面形	长×宽 (m)	坑深 (cm)	壁面	坑底	坑口	分期	时期	出土遗物	备注
725	C15f	8-22'-E	不定形	1.02 × 1.37	68	内坡	平底	自然	D12b	【中期】		S1-181 → 本坑, S1-197 不明, 齿状 底座 1.61 × 1.50
726	C15h	8-12'-E	椭圆形	2.40 × 1.87	43	外坡	凸凹	人为	D12c		陶文土器、铜骨	
727	C15g	8-10'-E	不定形	2.45 × 1.32	23	外坡	凸凹	自然	D12c	中期—后期	陶文土器	
728	C15j	8-73'-E	椭圆形	2.00 × 1.46	49	外坡	平底	人为	D12c	加舍利E— 加舍利II	陶文土器、铜骨、贝、灰	本坑→S1-178
729	C15i	8-11'-E	椭圆形	1.50 × 1.18	68	外坡	平底	人为	D12b	加舍利E IV	陶文土器	本坑→S1-178
740	C15k	8-25'-E	椭圆形	2.21 × (1.80)	63	外坡	凸凹	人为	D12c	加舍利E I	陶文土器、铜骨	本坑→SK-626
741	C15l	8-41'-E	不定形	1.80 × 1.27	67	外坡	平底	自然	D12b	加舍利E	陶文土器	本坑→S1-178
742	D15a	8-80'-E	不定形	1.16 × (0.63)	37	外坡	凸凹	自然	D12b	称名寺 I	陶文土器	本坑→SK-745
743	D15a	8-18'-E	椭圆形	1.29 × 1.17	30	外坡	平底	自然	D12b		陶文土器	S1-106 → 本坑
744	C15i	8-72'-E	椭圆形	2.17 × 1.49	15	横坑	凸凹	人为	D12c	中期	陶文土器	
745	D15a	8-34'-E	椭圆形	1.89 × (1.83)	53	外坡	凸凹	自然	D12b	浅层灰坑		SK-742 → 本坑
746	C15e	8-70'-E	不定形	1.03 × 0.78	45	外坡	凸凹	自然	D12b	加舍利E	陶文土器	
747	C15d	8-50'-E	椭圆形	0.89 × 0.79	22	外坡	平底	自然	D12a			S1-108 → 本坑
748	C15e	8-60'-E	椭圆形	1.49 × 1.38	17	外坡	平底	自然	D12b	中期	陶文土器	S1-98 → 本坑
749	C15d	8-17'-E	椭圆形	0.82 × 0.72	16	横坑	平底	自然	D12b			本坑→S1-162
750	C15d	8-41'-E	圆形	1.52 × 1.42	36	外坡	平底	自然	A12b	阿玉台第一层	陶文土器	S1-98 → 本坑
751	C15e	8-19'-E	圆形	1.34 × 1.13	63	外坡	平底	自然	A12b	加舍利E	陶文土器	
752	C15e	8-42'-E	圆形	0.77 × 0.73	17	外坡	平底	自然	A12a	中期	陶文土器	
723	C15e	8-27'-E	不定形	0.91 × 0.68 (63)	外坡	平底			D12a			本坑→SK-722, SK-714+本坑
754	C15i	8-37'-E	椭圆形	2.51 × 2.12	29	外坡	平底	自然	A12c	加舍利E第一层坑	陶文土器	S1-103 → 本坑
753	C15i	8-42'-E	不平整圆形	2.30 × 1.39	65	垂直	凸凹	人为	D12c		陶文土器	S1-103 → 本坑
757	C16f	8-60'-E	不定形	1.60 × 1.16	43	外坡	平底		D12b	发行者a	陶文土器	本坑→S1-207
758	C15e	8-29'-E	圆形	1.18 × 1.13	32	外坡	平底		A12b			本坑→S1-168
759	C15e	8-26'-E	椭圆形	1.40 × 1.07	32	外坡	平底	自然	D12b			本坑→S1-168, 196
760	C16g	8-0'-E	圆形	0.65 × 0.63	42	外坡	碗状		A12a	堀之内 I	陶文土器、土质刀版	本坑→S1-207
761	C15h	8-22'-E	椭圆形	1.36 × (1.04)	35	外坡	凸凹	自然	D12b	加舍利E IV	陶文土器、人骨、铜骨、贝	本坑→SK-763
762	C15h	8-61'-E	椭圆形	1.48 × (1.11)	24	外坡	平底		D12b	加舍利E IV	陶文土器、铁状耳饰、铜骨	本坑→SK-763
763	C15h	8-52'-E	不定形	2.57 × (2.33)	53	外坡	平底	自然	D12c	中期	陶文土器、铜骨	SK-761-762-769 → 本坑
764	C15h	8-36'-E	圆形	(2.83 × 2.73)	56	外坡	凸凹	自然	A12c	加舍利E III	陶文土器	
765	C15h	8-28'-E	椭圆形	2.16 × 1.73	49	外坡	平底	人为	D12c	加舍利E III	陶文土器	
766	C15e	8-72'-E	椭圆形	(1.14 × 0.93)	124	外坡	平底		D12b	加舍利E IV	陶文土器、土质刀版	S1-101, SK-767 → 本坑
767	C15g	8-15'-E	椭圆形	0.82 × (0.54)	69	外坡	平底		D12a	发行者b	陶文土器、胎泥骨、灰	本坑→S1-101, SK-766, 墓室
768	C15j	8-24'-E	椭圆形	1.64 × 1.39	72	外坡	平底	自然	D12c	加舍利E 2	陶文土器、漆壳、铜骨	S1-115 → 本坑
769	C15h	8-62'-E	椭圆形	1.20 × (1.06)	38	外坡	平底	自然	D12b	堀之内 I	陶文土器、铜骨	本坑→SK-763
770	D15h	8-62'-E	椭圆形	2.20 × 1.77	38	横坑	凸凹	自然	D12c	堀之内	陶文土器	
771	C15h	8-30'-E	不定形	(2.80) × 2.06	54	外坡	平底	自然	D12c	堀之内—加舍利E	陶文土器、卵石	S1-101-102 → 本坑, SK-772 不明
772	C15h	8-75'-E	不定形	1.22 × 1.06	103	外坡	平底	自然	D12b	中期	陶文土器	
773	C15i	8-20'-E	椭圆形	1.15 × 0.84	104	外坡	平底	自然	D12b	中期	陶文土器、石质、铜骨	S1-102 → 本坑
774	C15i	8-22'-E	椭圆形	1.03 × 0.94	32	外坡	凸凹	自然	D12b		陶文土器	S1-105 → 本坑
775	C15j	8-55'-E	不平整圆形	1.26 × 1.52	20	外坡	凸凹	自然	D12b	加舍利E III	陶文土器	
776	C15h	8-85'-E	不定形	2.00 × 1.43	63	外坡	凸凹	自然	D12c	加舍利E IV	陶文土器、铜骨	
777	C15j	8-79'-E	不定形	(1.97 × 1.59)	40	外坡	平底	人为	D12b	中期—后期	陶文土器、卵石	本坑→SK-779
778	C15i	8-73'-E	椭圆形	1.34 × 0.81	46	外坡	平底	人为	D12b	中期	陶文土器、耳饰	
779	C15j	8-60'-E	不定形	2.59 × 1.74	77	外坡	平底	自然	D12c	中期—后期	陶文土器	SK-778 → 本坑
780	C15h	8-12'-E	椭圆形	1.50 × 1.20	29	外坡	平底	自然	D12b	中期—后期	陶文土器	S1-101 → 本坑

土坑 番号	位置	長径(北) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (m)	壁面	底面	開口	P	時期	出土遺物	備 考 ※重要関係(新-旧)
781	C15j	9-0°	円形	1.64 × 1.64	280	垂直	平坦	自然	A10a4	安行Ⅱa	縄文土器、獣骨、貝骨	円筒状
782	C15f	9-40°	楕円形	1.70 × 1.42	30	外傾	凸凹	自然	2 B10a	中期-後期	縄文土器	51-187→本跡
783	C15e	9-51°	円形	2.09 × 2.05	43	縦斜	平坦	自然	2 A11c	中期	縄文土器	
784	C15b	9-38°	楕円形	0.92 × 0.81	55	外傾	皿状	人為	3 B10c	中期-後期	縄文土器	
785	C15a	9-75°	不整形円形	0.83 × 0.57	41	外傾	平坦	人為	3 B10c	中期	縄文土器、人骨	墓域小
786	C15g	9-56°	楕円形	1.81 × 1.59	54	外傾	平坦	自然	3 B10c	加賀科Ⅱ I-Ⅱ	縄文土器、土器等類、人骨、獣骨	51-101-187→本跡
787	C15h	9-37°	楕円形	1.84 × 1.42	78	内傾	平坦	自然	3 B10c	中期	縄文土器	袋状、透径2.12×1.82
788	C15a	9-85°	不定形	1.34 × 0.98	68	外傾	平坦	自然	3 B10c	加賀科ⅡⅡ-Ⅳ	縄文土器	本跡→51-790
789	C15i	9-36°	円形	3.12 × 2.94	70	外傾	平坦	自然	5 A11c5	加賀科ⅡⅡ	縄文土器	
790	C15b	9-35°	楕円形	2.80 × (2.00)	70	垂直	平坦	自然	2 B11c3	加賀科ⅡⅡ-Ⅳ	縄文土器、石皿、獣骨	51-788→本跡
791	C15g	9-17°	楕円形	[1.98] × 1.52	58	外傾	平坦	自然	3 B10c	加賀科ⅡⅡ	縄文土器、獣骨	51-101, 51-792→本跡
792	C15g	9-70°	不整形円形	3.42 × (1.50)	50	外傾	平坦	自然	3 B11c5	加賀科ⅡⅡ-Ⅲ	縄文土器	51-101→本跡→51-792
793	C15b	9-85°	不整形円形	1.77 × 1.56	40	外傾	平坦	自然	2 B10a1	加賀科ⅡⅡ-安行	縄文土器、獣骨	
794	C14j	9-53°	不定形	2.93 × 2.58	38	縦斜	平坦	自然	2 D11c1	加賀科ⅡⅡ	縄文土器、刀子	
795	C15i	9-25°	円形	1.90 × 1.89	45	外傾	平坦	自然	A10a1	加賀科ⅡⅡ-Ⅳ	縄文土器、獣骨	本跡→51-178
796	C14j	9-15°	円形	1.22 × 1.15	36	外傾	平坦	自然	A10a1	堀之内	縄文土器、石皿、獣骨	本跡→51-179
797	C14e1	9-40°	円形	1.22 × 1.13	32	縦斜	平坦	自然	1 A11c3	中期-後期	縄文土器、獣骨	
798	C15f	9-57°	不整形円形	2.17 × 1.18	32	外傾	平坦	自然	3 B11c1	中期-後期	縄文土器、磨石	
799	C15f	9-28°	円形	0.78 × 0.74	41	外傾	平坦	自然	A10a1	堀之内	縄文土器	
801	C15g	9-13°	不定形	2.02 × 1.29	80	内傾	平坦	自然	10Vc5	阿玉台Ⅱ-Ⅲ	縄文土器、獣骨	51-100-183, 51-850→本跡、袋状、透径1.85×1.88
802	C15b	9-77°	不整形円形	2.30 × (1.12)	36	外傾	平坦	自然	3 B11c1	加賀科ⅡⅡ	縄文土器	51-99→本跡→51183, 51-803
803	C15f	9-77°	不整形円形	1.68 × (1.14)	17	垂直	平坦	自然	3 B10a1	中期	縄文土器	51-99, 51-802→本跡→51-183
804	B14j	9-27°	楕円形	1.50 × 1.13	54	外傾	平坦	自然	3 B10c	中期-後期	縄文土器	本跡→51-179
805	C15h	9-70°	不整形円形	1.98 × 1.36	45	縦斜	平坦	自然	3 B11a1	加賀科ⅡⅡ	縄文土器	51-190→本跡→51-230A
806	C15d	9-8°	不定形	[2.43] × 1.95	38	外傾	平坦	人為	3 B11c5		縄文土器	51-193→本跡
807	C15j	9-0°	楕円形	2.72 × 2.45	67	外傾	平坦	自然	3 B11c5	加賀科ⅡⅡ I-Ⅱ	縄文土器、獣骨	51-115→本跡→51-189
808	C15i	9-35°	楕円形	2.81 × 1.48	30	外傾	平坦	自然	1 B11c1		縄文土器	51-115→本跡→51-189
809	C15j	9-4°	円形	1.90 × 1.50	94	垂直	平坦	自然	A10a2	加賀科ⅡⅡ	縄文土器	51-191→本跡
810	C15i	9-30°	楕円形	2.52 × 2.32	52	外傾	平坦	自然	2 B11c5	加賀科ⅡⅡ	縄文土器、獣骨	本跡→51-188, 一人骨為埋藏
811	C15f	9-43°	円形	0.72 × 0.68	32	縦斜	平坦	自然	A11a4	安行Ⅱ	縄文土器、獣骨	本跡→51-183
812	C15f	9-34°	円形	2.11 × (1.95)	63	外傾	平坦	自然	2 A11c5	中期後半	縄文土器	本跡→51-733
813	C15b	9-47°	楕円形	1.00 × 0.82	36	外傾	皿状	自然	3 B10a	中期後半	縄文土器	
814	C15i	9-0°	円形	1.45 × 1.42	64	垂直	平坦	自然	A10a2	加賀科ⅡⅡ	縄文土器、獣骨	本跡→51-175
815	C15a	9-0°	円形	2.80 × 2.66	42	外傾	平坦	自然	1 A11c1	加賀科ⅡⅡ	縄文土器	本跡→51-194
817	C15a	9-37°	不整形円形	1.48 × (1.38)	58	内傾	平坦	自然	1 A10a2	阿玉台Ⅱ-Ⅲ	縄文土器	51-190→本跡、袋状、透径3.46×2.88
819	C16e	9-11°	楕円形	1.90 × 1.61	76	垂直	平坦	自然	3 B10b		縄文土器	本跡→51-217
820	C15g	9-80°	不定形	[2.65] × 1.82	63	外傾	凸凹	内装	3 B11c2	中期	縄文土器	51-172→本跡、51-734不明
821	C15f	9-0°	不定形	1.74 × (0.73)	99	内傾	平坦	自然	10Vc2	阿玉台Ⅱ	縄文土器	51-746不明、袋状小
822	C15f	9-63°	楕円形	1.02 × 0.86	44	外傾	平坦	自然	3 B10a1	安行Ⅱ	縄文土器	本跡→51-197
823	C15i	9-41°	不整形円形	1.16 × 1.03	129	外傾	平坦	自然	3 B10a1	中期	縄文土器	51-197不明
824	C15e	9-3°	楕円形	0.60 × 0.56	82	垂直	皿状	自然	3 B10a2	安行Ⅱ	縄文土器	本跡→51-182
825	C16c	9-0°	円形	1.15 × 1.14	155	外傾	平坦	自然	A10a1	堀之内Ⅰ	縄文土器、獣骨	本跡→51-203, 今今円筒状
826	C16b	9-31°	楕円形	1.13 × (0.83)	127	内傾	平坦	自然	3 B10a	阿玉台Ⅱ	縄文土器	51-740→本跡、51-174不明、袋状、透径2.25×2.20
827	C16e1	5-2°	円形	1.88 × 1.78	25	外傾	平坦	自然	1 A11a1	堀之内Ⅱ	縄文土器	本跡→51-186, 51-941-984

工程 序号	位置 方位	形状	长径(轴长) (m)	面积 (m ²)	层数	结构	用途	P	分期	种 类	出 土 遗 物	备 考 重要程度(新-旧)
828	C14a	非-3°-W	不 定 形	0.76 × 0.59	84	垂直	建筑		B 0a2	窑炉 I	绳文土器	本跡→S1-180
829	C13a	非-25°-W	梯 形	0.95 × 0.82	45	外傾	平陆	自然	B 0a1	中期-後期	绳文土器	本跡→S1178
830	C15c	非-37°-E	梯 形	1.19 × 1.17	42	外傾	自然	自然	B 0b1	加賀朝正-後朝正	绳文土器	S1-190→本跡→S1-193
831	C15c	非-60°-E	不整梯四角形	1.66 × 1.47	102	外傾	凸凹		B 0b3	中期	绳文土器	S1-180-190→本跡
832	C16a	非-37°-W	梯 形	2.40 × 1.42	35	外傾	凸凹	自然	B 0c1	加賀朝正	绳文土器	
833	C16a	非-35°-W	梯 形	1.80 × 1.30	64	外傾	凸凹	自然	B 0c2	阿玉台	绳文土器	
834	B12a	非-7°-W	不 定 形	3.13 × 2.64	66	倾斜	平陆	自然	4 D 1c5	加賀朝正	绳文土器	本跡→S1-185
835	B15c	非-50°-E	不 定 形	(2.37) × 1.49	80	外傾	平陆	自然	2 B 0c2	加賀朝正	绳文土器	本跡→S1-185
836	C15a	非-44°-E	梯 形	1.62 × 1.06	15	外傾	倾斜		2 B 0b3	中期-前期	绳文土器	S1-192-193→本跡
837	C16a	D-30E	隅丸長方形	(1.27) × 1.22	26	外傾	平陆	人為	C 0b1	加賀朝正 II	绳文土器、磨状骨	S1-202, S1-853→本跡、遺物小
838	C16c	非-8°-W	梯 形	1.43 × (0.86)	102	垂直	平陆	自然	B 0b3	前期前部	绳文土器	SK-849→本跡→S1-202
839	C16c	非-74°-W	不 定 形	(2.10 × 1.60)	40	外傾	平陆	自然	B 0c1	中期-後期	绳文土器	
840	B15a	非-42°-W	梯 形	2.27 × 1.63	54	外傾	平陆	自然	1 B 0c2	加賀朝正 II	绳文土器	
841	C16a	非-41°-W	梯 形	1.97 × 1.24	32	外傾	凸凹	人為	B 0b1	中期	绳文土器、人骨	S1-186, S1-827→本跡、遺物
842	C16a	非-35°-W	隅丸長方形	(1.46) × 1.05	25	外傾	平陆	人為	C 0b1	中期	绳文土器、磨状骨	S1-186, S1-856→本跡
845	C10c	非-0°-E	四 形	1.09 × 1.07	124	外傾	平陆	人為	A 0b3	安行 I	绳文土器、磨状骨	本跡→S1-202, 本跡
846	B15c	非-35°-W	不整梯四角形	2.15 × 1.41	40	倾斜	平陆	自然	1 B 0c1	中期-後期	绳文土器	
847	B15a	非-42°-W	梯 形	0.97 × 0.84	26	外傾	平陆	人為	B 0a1	中期	绳文土器、磨状骨	
848	B15a	非-0°-E	梯 形	2.60 × 2.08	47	垂直	平陆	自然	2 B 0c1	加賀朝正 II	绳文土器	
849	C16c	非-14°-W	四 形	0.97 × 0.94	121	外傾	建筑	自然				本跡→S1-202, SK-838
850	C16a	非-25°-W	不 定 形	(0.94 × 0.74)	47		平陆		B 0a1	歌骨		S1-190→本跡→S1-185, S1-861
851	C15a	非-54°-E	梯 形	1.61 × 0.86	45	垂直	平陆	人為				
852	C15a	非-80°-W	四 形	2.01 × 1.80	113	内傾	平陆	自然	1 A 0c3	阿玉台-加賀朝正	绳文土器、磨石	S1-175→本跡、建筑、枕、2.08 × 2.25
853	C16a	非-58°-W	[長梯四角形]	(2.25) × 1.26	26	外傾	平陆		B 0c1	中期-後期	绳文土器	
854	C16a	非-12°-W	梯 形	1.58 × 1.06	110	外傾	平陆	自然	B 0b3	加賀朝正-安行 I	绳文土器、磨状骨	本跡→S1-203
855	D15a	非-25°-E	梯 形	1.05 × 0.96	90	内傾	平陆	自然	A 0b3	中期	绳文土器	SK-856不明, 磨状, 磨状, 2.83 × 1.87
856	D15a	非-0°-E	不 定 形	1.24 × 1.07	91	内傾	平陆	自然	A 0b3	[中期]		SK-855不明, 磨状, 磨状, 1.73 × 1.40
867	C15c	非-32°-E	不 定 形	1.68 × 0.96	60	外傾	平陆	人為	2 D 0a2			本跡→S1-180
868	C16c	非-22°-W	[隅丸長方形]	1.85 × (0.89)	58	外傾	平陆	人為	C 0b3	加賀朝正	绳文土器	S1-186→本跡→SK-842
869	C16a	非-55°-E	四 形	1.82 × 1.80	135	垂直	平陆	自然	A 0b3	加賀朝正 I	绳文土器	
861	C16a	非-41°-W	四 形	1.35 × 1.30	210	垂直	平陆	自然	A 0b4		绳文土器	
862	C16a	非-23°-W	梯 形	1.13 × 0.92	74	垂直	平陆	人為	B 0b3			本跡→S1-203
863	C16a	非-25°-W	梯 形	1.43 × 0.92	16	外傾	平陆	人為	B 0b1			
864	C16a	非-50°-E	四 形	0.75 × 2.65	75	垂直	平陆	人為	3 A 0c2	加賀朝正 III	绳文土器	
865	C16c	非-9°-E	梯 形	1.71 × 1.24	20	外傾	建筑		B 0b1	前期中期-後期	绳文土器、土器、磨状骨	
866	C15a	非-13°-W	四 形	1.35 × 1.28	50	外傾	平陆	自然	A 0a2	加賀朝正 III	绳文土器、磨状骨	S1-187→本跡
867	C16c	非-88°-W	梯 形	1.75 × 1.46	33	外傾	平陆		1 B 0b1	加賀朝正 III	绳文土器	本跡→S1-206
868	C16c	非-87°-W	梯 形	0.88 × 0.73	26	外傾	平陆		1 B 0a1	中期	绳文土器	本跡→S1-206
869	C16c	非-44°-W	不整梯四角形	1.30 × 0.98	102	内傾	平陆	自然	B 0b3	阿玉台-加賀朝正	绳文土器	SK-900→本跡
870	C16a	非-27°-W	梯 形	1.74 × 1.32	53	外傾	平陆	自然	B 0b3	中期	绳文土器	S1-189-204→本跡
871	C16a	非-13°-E	不整梯四角形	2.25 × 1.70	28	垂直	凸凹	人為	B 0b1	加賀朝正	绳文土器、磨状骨	S1-188-110-204→本跡
872	C16c	非-11°-W	梯 形	(2.24) × 1.47	72	外傾	平陆	自然	B 0c2			本跡→SK-873
873	C16c	非-25°-W	不 定 形	2.40 × 1.26	74	垂直	平陆	人為	D 0a2			S1-205-SK-872→本跡
874	C15a	非-15°-W	梯 形	2.12 × 1.77	70	倾斜	平陆	自然	1 B 0c2	後期	绳文土器、磨石	本跡→S1-187
875	C16a	非-20°-W	隅丸長方形	(3.00) × 2.56	70	倾斜	平陆	人為	2 C 0c2	加賀朝正 I-II	绳文土器	S1-204→本跡, SK-932不明
876	C16c	非-18°-W	梯 形	1.92 × 1.10	26	外傾	平陆	自然	B 0a1			本跡→S1-205

土坑 番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	長径×短径 (m)	深さ (m)	壁面	底面	覆土	F	分類	時期	出土遺物	備 考 ※遺構図表(第一頁)
877	C16d	8-3°-W	楕円形	(1.42 × 1.51)	31	垂直	平坦	自然	2	BⅡc1	前期	縄文土器	本跡→51-205
878	C16h	8-7°-E	円形	1.43 × 1.38	57	外傾	平坦	人為	AⅡb2				本跡→51-202
880	C16e	8-53°-E	楕円形	1.37 × 1.15					BⅡa	前期	縄文土器	本跡→51-1008	
881	C16f	8-32°-E	円形	0.75 × 0.70	58	外傾	平坦	人為	AⅡb2	前期	縄文土器、鉄器	本跡→51-207	
882	C16e	8-7°-E	円形	1.43 × 1.38	20	垂直	平坦	自然	BⅡb1			本跡→51-1008	
883	C16b	8-10°-E	不定形	1.08 × 0.85	64	内傾	平坦	人為	DⅡb2	(中期)		51-202不明、鉄杖、直径3.15×1.05	
884	C15g	8-22°-E	隅丸長方形	(1.96) × 1.14	74	垂直	凸凹		CⅡb2	加賀野E	縄文土器	51-186、51-437→本跡、51-889不明	
885	C15e	8-85°-E	長楕円形	2.63 × 1.04	25	垂直	平坦	人為	BⅡc1	中期末	縄文土器		
886	C15f	8-0°	円形	(1.85) × 1.80	30	外傾	平坦	自然	AⅡb1	中期末→前期	縄文土器、鉄器		
887	C16h	8-45°-E	楕円形	1.47 × 1.33	84	垂直	皿状	人為	BⅡb2				
888	C15f	8-34°-E	円形	1.15 × (1.11)	67	垂直	平坦	自然	AⅡb2	中期	縄文土器、凸石	本跡→51-889	
889	C15f			(0.95) × 0.60	60		凸凹	自然	a2	中期	縄文土器	51-186、51-888→本跡、51-884不明	
900	C16d	8-0°	楕円形	1.25 × (0.95)	32	垂直	平坦		BⅡb1	堀之内1	縄文土器	本跡→51-205、51-869	
931	C16e		不定形	2.98 × (2.74)	48	外傾	平坦	人為	DⅡc1	加賀野E I - II	縄文土器	51-206→本跡	
932	C16g	8-29°-E	円形	(1.12) × 1.06	52	外傾	平坦	人為	AⅡb2			51-204→本跡、51-875不明	
933	C15e	8-0°	円形	1.24 × 1.23	24	外傾	平坦	自然	AⅡb1	中期→前期	縄文土器、磨石	本跡→51-1058	
934	C16g	8-90°	楕円形	1.55 × 1.15	41	外傾	平坦	自然	BⅡb1	新志寺→加賀野E	縄文土器		
935	C15e	8-90°	楕円形	1.58 × 1.42	70	内傾	平坦	人為	BⅡb2	(中期)		鉄杖、直径3.22×2.15	
936	C16g	8-90°-E	楕円形	1.71 × 1.44	50	外傾	平坦	自然	BⅡb2		縄文土器		
937	C16e	8-50°-E	楕円形	(1.63) × 1.02	35	外傾	平坦	自然	BⅡb1	加賀野E		本跡→51-211	
938	C16f	8-46°-E	楕円形	2.84 × 2.36	60	外傾	平坦	自然	BⅡc2	加賀野EⅡ		51-107→本跡→51-212	
939a	C15f	8-14°-E	楕円形	1.78 × 1.53	57	外傾	平坦	自然	BⅡb2	堀之内1	縄文土器、土陶片		
939b	C15f	8-20°-E	楕円形	(2.85 × 1.78)	36	外傾	凸凹		BⅡc1			51-939a→本跡	
940	C16b	8-3°-E	楕円形	1.58 × 1.40	66	外傾	平坦	自然	BⅡb2			本跡→51-210、51-1161	
942	C16g	8-60°-E	楕円形	2.20 × (1.85)	25	外傾	平坦		BⅡc1			51-199→本跡	
943	C16e	8-27°-E	楕円形	1.58 × 1.25	62	外傾	平坦	人為	BⅡb2	安行Ⅱ	縄文土器	本跡→51-206	
944	C15g	8-34°-E	楕円形	1.77 × 1.53	43	外傾	凸凹		BⅡb1		銅管	本跡→51-187	
946	C16h	8-74°-E	楕円形	2.28 × 1.76	72	外傾	平坦	自然	BⅡc2	加賀野E I - II			
947	C16b	8-60°-E	不定形	2.50 × 1.76	65	外傾	平坦	人為	AⅡc2	後期中部	縄文土器、鉄器	51-949→本跡	
948	C16e	8-14°-E	不定形	(1.43) × 1.00	105	垂直	凸凹	自然	BⅡb3	安行 I - II	縄文土器	円筒状	
949	C16f	8-60°-E	楕円形	1.28 × 1.04	202	垂直	平坦	自然	BⅡb4	安行Ⅱ	縄文土器、鉄器	本跡→51-947-950	
950	C16f	8-15°-E	円形	0.96 × 0.94	183	ほぼ垂直	平坦	人為	AⅡb3	安行Ⅱ	縄文土器、鉄器	51-949→本跡→51-947	
951	C16f	8-55°-E	楕円形	2.50 × (1.80)	81	外傾	平坦	自然	BⅡc2	阿比治→加賀野E	縄文土器、磨石、鉄器、貝	51-1060→本跡	
952	C16f	8-35°-E	円形	0.80 × 0.75	109	垂直	平坦		AⅡb3	後期中部→後期	縄文土器		
953	C16h	8-14°-E	楕円形	1.80 × (1.13)	67	垂直	平坦	自然	BⅡb2	加賀野E	縄文土器、人骨	51-107→本跡、51-956不明、磨石小	
954	C16e	8-47°-E	楕円形	1.96 × 1.70	86	内傾	平坦	自然	BⅡc2	阿比治→加賀野E	縄文土器	51-200、51-950→本跡、鉄杖、直径3.04×1.80	
955	C16eⅡ	8-35°-E	不定形	(2.00) × (1.80)	62	外傾	平坦	自然	CⅡc2			本跡→51-200、51-954	
956	C16h	8-74°-E	不定形	3.60 × 3.50	62	外傾	平坦	自然	CⅡc2	加賀野EⅡ	縄文土器	51-107→本跡、51-953-1072不明	
957	C16f	8-43°-E	円形	1.35 × 1.32	184	垂直	平坦	人為	AⅡb4			本跡→51-199、円筒状	
958	C16f	8-30°-E	楕円形	2.08 × 1.75	53	垂直	平坦	自然	BⅡc2	中期	縄文土器		
959	C16c	8-7°-E	円形	1.45 × 1.33	20	外傾	平坦	自然	AⅡb1			51-211不明	
960	C16eⅡ	8-67°-E	楕円形	1.03 × 0.72	72	内傾	平坦	自然	BⅡb2	阿比治Ⅱ-Ⅲ	縄文土器	51-196→本跡、円筒状	
1044	C17f	8-57°-E	不定形	(2.12 × 1.43)	74	外傾	平坦	自然	BⅡc2	加賀野E、安行Ⅱ	縄文土器、土製刀、鉄器	本跡→51-232、51-1067	
1045	C17f	8-59°-E	不定形	1.90 × 1.23	108	内傾	平坦	人為	BⅡb3	阿比治→加賀野E	縄文土器	51-232、51-1044→本跡、鉄杖、直径2.35×2.16	

土壤 番号	位置 方面	形状(輪)	平面形	直径×半径 (cm)	深さ (cm)	壁面	底面	土 P	分期	時期	出土遺物	備 考	
1046	C16a	N-02-E	円形	1.81 × 1.81	80	内傾	平坦	自然	3	A13c	中時-加賀朝正 I	縄文土器	SI-232→本跡
1047	C18a	N-29-E	楕円形	3.00 × (2.65)	75	外傾	平坦	自然	4	B1c3		縄文土器、磨石、燧石	SK-1088不明
1048	B16b	N-3-E	不整形円形	1.31 × 1.30	(40)	外傾	平坦	自然	A13b	中期中		縄文土器	SK-1049不明
1048	N-02-E	不整形円形	2.08 × 1.07	50	外傾	平坦	自然	4	B1c3	中期中		縄文土器、鏡骨	SK-1048不明
1050	C16c	N-42-E	楕円形	1.50 × 1.27	37	垂直	平坦	自然	B13b	前期後行		縄文土器	本跡→SI-212, SK-1051
1051	C16d	N-17-E	楕円形	1.86 × 1.47	84	内傾	平坦	自然	B13c	阿玉台吉→中		縄文土器	SI-212, SK-1050→本跡, 鏡伏 直径2.05×2.06
1052	C16g	N-9-E	楕円形	1.02 × 0.88	115	垂直	平坦	人為	B13b	前期前葉		縄文土器	本跡→SI-130
1053	C16e	N-66-E	楕円形	1.27 × 1.13	56	外傾	平坦		B13b	堀之内		縄文土器	SI-204→本跡
1054	C16j	N-71-E	楕円形	2.44 × 1.96	54	外傾	平坦	自然	1	B1c2	加賀朝正 I	縄文土器	
1055	C18i	N-0	楕円形	1.21 × 1.04	39	外傾	平坦	自然	B13b	加賀朝正 I→		縄文土器	本跡→SI-215
1056	C16i	N-20-E	楕円形	1.58 × 1.23	243	垂直	平坦	一部人為	B13b	安行宮		縄文土器、磨石、鏡骨、魚骨	本跡→SI-215, SK-1117, 円筒状
1057	C16i	N-42-E	円形	1.14 × 1.07	81	外傾	平坦	人為	A13b	加賀朝正 I→		縄文土器	本跡→SI-215, SK-1075不明
1058	C16h	N-20-E	円形	1.22 × 1.15	125	垂直	平坦	人為	A13b			縄文土器	本跡→SI-217, 円筒状
1059	C16e	N-28-E	楕円形	1.10 × 0.88	103	内傾	平坦	自然	B13b	中期中葉		縄文土器	SI-217→本跡, 鏡伏, 直径(1.75×1.42)
1060	C16e	N-44-E	楕円形	2.30 × 2.15	74	垂直	平坦	自然	C13c2	中期中葉		縄文土器	SI-217→本跡
1061	C16e	N-29-E	楕円形	(1.84) × 1.34	100	内傾	平坦	自然	B13b	中時		縄文土器、磨石、燧石	SI-210, SK-940→本跡, 鏡伏, 直径2.19×1.56
1062	C16g	N-0	円形	(1.68 × 1.01)	23	垂直	平坦		A13b1			縄文土器	本跡→SI-207
1063	C16h	N-4-E	不整形円形	1.27 × 0.90	114	内傾	凸凹	自然	B13b	阿玉台吉		縄文土器、土製刀、石鏃	SI219不明, 鏡伏, 直径2.50×1.21
1064	C16e	N-71-E	楕円形	1.50 × 0.68	37	傾斜	平坦		B13c			縄文土器	本跡→SI-217
1065	C18j	N-52-E	不整形円形	3.90 × 3.30	72	傾斜	平坦	自然	B1c3	安行 I		縄文土器、魚骨	本跡→SK-961
1066	C18j	N-4-E	円形	1.50 × 1.36	137	垂直	平坦	自然	A13b	安行宮		縄文土器、磨石、鏡骨、貝	本跡→SI-213, 円筒状
1067a	C17h	N-15-E	楕円形	2.50 × 2.23	100	内傾	平坦	自然	3	B1c3	[中期]	浮子、貝	SI-202, SK-1044-1067b→本跡, 鏡伏 直径2.70×2.42
1067b	C17i	N-0	円形	0.45 × 0.44	143	外傾	平坦		A13c	安行宮		縄文土器	本跡→SK-1067a
1068	C18e	N-26-E	楕円形	2.45 × 1.28	36	外傾	平坦	人為	2	B1c1	安行 II	縄文土器	本跡→SI-208, SK-1092
1069	C17h	N-0	楕円形	3.04 × 2.50	96	外傾	平坦	自然	4	B1c2	堀之内		
1070	C16f	N-65-E	楕円形	(1.50 × 1.30)	94	垂直	平坦	自然	B13b	加賀朝正 I→後期安行		縄文土器	本跡→SI-200, SK-1111不明
1071	C16f	N-29-E	楕円形	0.50 × 0.70	70	内傾	平坦	自然	B13b	[中期]		縄文土器	SI-200→本跡, 鏡伏, 直径1.22×1.05
1072	C16h	N-73-E	楕円形	2.10 × (1.15)	51	垂直	平坦	自然	B13c2	加賀朝正 I		縄文土器	SK-956-1117-1138不明
1073	B16a	N-0	円形	1.16 × 1.10	78	外傾	平坦	人為	A13b	加賀朝正 I→		縄文土器	本跡→SI-216
1074	C18j	N-0	円形	1.26 × 1.23	57	外傾	平坦	人為	A13b			縄文土器	本跡→SI-216
1075	C16j	N-31-E	円形	1.20 × (1.10)	50	垂直	平坦	人為	A13b	加賀朝正		縄文土器、石鏃	本跡→SI-215, SK-1057不明
1076	C16e	N-19-E	不整形円形	(1.60) × 1.16	44	外傾	傾斜	人為	B13b	中期		縄文土器	SI-212→本跡
1077	B16e	N-52-E	楕円形	(1.25 × 0.96)	95	傾斜	起伏	自然	B13c	加賀朝正 I		縄文土器、土製刀、石鏃	本跡→SK-1078
1078	B16e	N-04-E	楕円形	(1.75) × 0.71	54	傾斜	起伏	人為	B13b			縄文土器	SK-1077→本跡
1079	C16i	N-76-E	楕円形	2.14 × 1.85	91	外傾	平坦	自然	2	B1c2		縄文土器、磨石	SI-213→本跡
1080	C16j	N-0	不整形円形	(2.44) × 2.59	40	外傾	平坦	自然	3	B1c2	加賀朝正 I	縄文土器	SI-216→本跡, SK-1047不明
1081	C18j	N-77-E	楕円形	1.35 × (0.55)	83	内傾	平坦	自然	B13b	[中期]		縄文土器	SK-1082→本跡, 鏡伏, 直径1.64×(0.95)
1082	C18j	N-53-E	楕円形	1.45 × 1.15	156	垂直	平坦		B13b	安行 II		縄文土器	本跡→SK-1061, 円筒状
1083	C17g	N-55-E	不整形円形	2.05 × 1.62	52	外傾	平坦		B13c2	加賀朝正 I→		縄文土器、石鏃	SI-233不明
1084	C15i	N-62-E	楕円形	1.76 × 1.40	45	外傾	平坦	人為	B13b	加賀朝正		縄文土器	本跡→SI-250a-230b
1085	C15i	N-11-E	楕円形	2.90 × 2.62	60	外傾	平坦	自然	1	B1c2	中期	縄文土器、鏡骨	本跡→SI-250a-230b
1086	C18h	N-15-E	楕円形	(1.27 × 1.06)	68	外傾	凸凹	自然	B13b			縄文土器	SK-1089-1093→本跡
1089	C18e	N-07-E	楕円形	0.94 × (0.85)	65	外傾	凸凹	人為	B13c2			磨石	SK-1086→本跡→SI-230b

土壤 番号	位置 方位	長横(軸) 方向	平面形	長横×短横 (m)	厚さ (cm)	地質	海抜	覆土	?	分類	時期	出土遺物	備 考 ※遺物目録(新-旧)
1090	C81j	N-90°	楕円形	1.85×(1.39)	115	内傾	平垣	自然		B7b3	阿玉台I-IV	縄文土器、磨石	鉄杖、底径2.84×2.45
1091	C16j	S-21°W	楕円形	1.21×(1.05)	44	外傾	平垣	自然		B7b4	安行II	縄文土器、耳環、石鏃、磨石	本跡→S1-213、S1-1109
1092	C16e	S-31°E	楕円形	1.62×1.25	142	内傾	平垣	自然		B7b3	阿玉台I	縄文土器	S1-208→本跡、鉄杖、底径2.35×1.96
1093	C18a	S-24°E	円形	1.01×0.95	200	垂直	平垣	自然		A7b4			本跡→S1-230a、S1-1098、円筒状
1094	C18a	S-47°W	不整形円形	1.26×0.88	52	外傾	内凹	自然		B7b2		土偶	S1-117→本跡
1095	C18e	S-50°W	不整形円形	1.04×0.80	112	外傾	扇状	自然		B7b3			S1-117→本跡
1096	C17f	S-17°E	楕円形	1.78×1.15	50	外傾	扇状	自然		B7b2	加賀野I	縄文土器	S1-231→本跡
1097	C17g	S-25°W	楕円形	1.75×1.42	53	外傾	平垣	自然		B7b2	加賀野I-作名中	縄文土器	S1-231不明
1098	C17g	S-35°W	長楕円形	3.10×1.82	75	外傾	平垣	自然		B7c2	加賀野I	縄文土器、石石鏃	S1-218→本跡
1099	C18e	S-7°W	不整形円形	2.67×2.40	94	傾斜	凸形	自然		B7c2	後期	縄文土器	本跡→S1-200、S1-11004不明
1100	C18e	S-30°W	楕円形	2.78×(2.05)	114	垂直	平垣	自然		2 B7c2	加賀野I	縄文土器	S1-1094不明
1101	C18i	S-90°	円形	0.97×0.85	115	内傾	平垣	自然		A7b3	(中野)		S1-230→本跡、鉄杖、底径1.81×1.55
1102	C18i	S-0°	円形	0.95×0.95	22	傾斜	凸形	自然		A8a1	作名中	縄文土器	本跡→S1-230
1103	B16a	S-80°W	楕円形	1.63×1.19	94	外傾	凸形	自然		B7b2			
1104	B16r	S-45°W	楕円形	2.63×1.75	34	傾斜	凸形	自然		6 B7c1	中期中葉	縄文土器、磨石、鉄骨	本跡→S1-1105、S1-1106-1155不明
1105	B16r	S-82°W	楕円形	2.74×2.04	35	傾斜	平垣	自然		1 B7c1	加賀野I B-I	縄文土器	S1-1104→本跡
1108	B16r	S-90°	楕円形	2.30×1.94	56	外傾	平垣	自然		1 B7c2	加賀野I	縄文土器	S1-1104不明
1109	C18i	S-70°E	楕円形	1.50×1.15	113	内傾	平垣	人為		B7b3	中野	縄文土器、磨石	S1-1093→本跡、S1-230不明、鉄杖 底径2.64×2.05
1110	B16a	S-45°E	円形	4.02×3.38	24	外傾	平垣	自然		3 B7c1	中野	縄文土器、土偶	
1111	C18f	S-0°	不整形円形	2.18×1.86	101	垂直	扇状	自然		3 B7c3	後期	縄文土器、土器内装、磨石	S1-1070不明
1112	C17f	S-73°E	楕円形	1.30×0.97	78	外傾	平垣	自然		B7b2	中期中葉	縄文土器、磨石	S1-221→本跡
1113	C17h	S-0°	不整形円形	1.45×1.01	100	垂直	凸形	人為		B7b4	後期	縄文土器	本跡→S1-1114、S1-1151不明、円筒状
1114	C17h	S-40°W	不整形円形	1.58×1.03	63	外傾	凸形	人為		B7b2		縄文土器	S1-1112→本跡、S1-1151不明
1115	C17e	S-50°W	円形	1.87×1.38	72	外傾	凸形	自然		A7b2	加賀野I	縄文土器	
1116	C17i	S-58°E	円形	1.16×1.07	37	外傾	平垣	自然		A7b4			本跡→S1-255a
1117	C18a	S-60°W	楕円形	1.87×1.00	114	内傾	平垣	自然		B7b3	中期中葉	縄文土器	S1-1056→本跡、S1-1076-1136不明、 鉄杖、底径2.88×1.96
1118	C18e	S-35°E	円形	1.27×(1.18)	54	垂直	平垣	自然		A7b2	加賀野I	縄文土器	
1119	C17e	S-42°E	楕円形	1.42×1.23	63	傾斜	平垣	自然		B7b2	中野	縄文土器	本跡→S1-234
1120	C17g	S-0°	円形	1.70×1.70	152	外傾	凸形	自然		A7b4	中野	縄文土器	
1121	C17h	S-75°E	楕円形	1.14×0.99	38	外傾	平垣	自然		B7b4			
1122	C17i	S-18°E	楕円形	2.68×2.20	35	外傾	平垣	自然		B7c1	中野	縄文土器、磨石、石鏃	S1-255b不明
1123	C16i	S-0°	楕円形	2.16×(1.82)	58	外傾	平垣	人為		B7c2	中期-後期	縄文土器、磨石、石鏃	本跡→S1-237、S1-1108不明
1124	C17h	S-35°E	円形	1.95×1.80	96	内傾	平垣	自然		A7b2	阿玉台I	縄文土器、土器内装、磨石	S1-218→本跡、鉄杖、底径2.00×1.80
1125	C17j	S-22°E	不整形円形	3.08×(2.50)	27	外傾	平垣	自然		B7c1		縄文土器	本跡→S1-255a、S1-1138
1126	C17i	S-12°E	円形	1.62×1.48	52	外傾	平垣	自然		A7b2	阿玉台I	縄文土器	S1-255a不明
1127	C18f	S-34°E	扇形	1.30×1.21	42	外傾	内凹	自然		B7b1	中野	縄文土器	
1128	C17c	S-3°W	楕円形	2.61×1.50	90	外傾	平垣	自然		B7c2	加賀野I B-I	縄文土器	本跡→S1-238
1130	C17j	S-47°W	楕円形	2.16×(1.82)	77	内傾	平垣	自然		1 B7c2	中野-加賀野I	縄文土器、磨石	S1-1131-1132不明、鉄杖、 底径(2.20×1.92)
1131	B17a	S-25°E	円形	1.11×1.07	119	垂直	平垣	自然		A7b3	加賀野I	縄文土器	S1-1130-1133不明
1132	B17a	S-35°W	楕円形	2.31×1.80	42	外傾	凸形	人為		3 B7c1	中期中葉	縄文土器	S1-1130-1133不明
1133	B17a	S-43°E	楕円形	3.26×(2.47)	94	外傾	内凹	自然		1 B7c2	加賀野I	縄文土器	S1-1131-1132-1133不明
1134	C17h	S-49°E	不整形円形	2.23×2.08	70	外傾	平垣	人為		3 B7c2	加賀野I	縄文土器	本跡→S1-223
1135	C17d	S-36°E	楕円形	1.51×1.14	44	外傾	平垣	自然		B7b4	中野	縄文土器	本跡→S1-234

地域 番号	位置 方 向	形状(輪)	平面形	長径×短径 (m)	径D (cm)	壁高	海内	遺土	P	分類	時 期	出 土 遺 物	備 考 ※遺物関係 (新→旧)
1136	C16a	N-48°-E	楕 円 形	0.80×1.49	96	垂直	凸凹	自然	3	BⅡc	加賀朝正 I	縄文土器	SK-1072-1117不明
1137	D17a	N-66°-W	楕 円 形	1.83×1.53	64	外傾	凸凹	自然	5	BⅡb			SK-1133不明
1138	C17a	N-34°-E	楕 円 形	1.30×0.87	71	内傾	平坦	自然	3	BⅡb			SK-1125→本館, 形状, 直径1.47×1.53
1139	D16a	N-90°	不整形円形	3.50×3.24	34	垂直	平坦	自然	2	BⅡd	中期中葉	縄文土器, 鉄器	SK-1143不明
1140	C17c	N-38°-W	不 定 形	2.15×1.53	63	外傾	平坦	自然	3	BⅡc	加賀朝正-若名寺	縄文土器	本館→SI-234
1141	D16c	N-0°	円 形	1.91×1.88	32	垂直	平坦	自然	1	AⅡb	加賀朝正 II-III	縄文土器	
1142	C17b	N-48°-E	楕 円 形	1.70×1.35	106	外傾	平坦	自然	3	BⅡb	中期	縄文土器	SI-234→本館
1143	D16a	N-14°-W	楕 円 形	12.96×1.94	43	外傾	平坦	自然	4	BⅡc1	中期中葉	縄文土器	SK-1144→本館, SK-1139不明
1144	D16a	N-37°-W	不整形円形	1.94×1.54	31	外傾	凸凹	自然	2	BⅡb1	加賀朝正	縄文土器	SK-1145→本館→SK-1143
1145	D16a	N-7°-W	不整形円形	2.32×1.46	30	垂直	凸凹	自然	5	BⅡc1	後期安行	縄文土器, 土製内瓶	本館→SK-1144
1146	C16a	N-41°-W	不整形円形	2.03×1.72	102	内傾	平坦	自然	3	BⅡc3	(中期)	ナイフ形石器	SI-219-223→本館, 形状, 直径2.13×1.95
1147	C16a	N-47°-W	楕 円 形	1.16×0.82	62	外傾	平坦	人為	3	BⅡb2			本館→SI-208
1148	C17c	N-50°-W	楕 円 形	1.97×0.84	35	外傾	平坦	人為	3	BⅡb1	加賀朝正 I		SI-236→本館, 埋没土器
1149	C17d	N-49°-W	不 定 形	2.10×1.38	56	外傾	平坦		1	BⅡc2			本館→SI-234
1150	D16a	N-63°-E	楕 円 形	2.07×(1.66)	34	外傾	平坦	人為	2	BⅡc1	中期	縄文土器	
1151	C17h	N-80°-W	楕 円 形	2.80×(3.24)	60	垂直	凸凹		3	BⅡc2	堀之内	縄文土器	SK-1135-1134不明
1152	C17h	N-40°-W	楕 円 形	0.80×0.70	103	垂直	平底		3	BⅡa3			
1153	C16a	N-44°-E	楕 円 形	1.00×(0.90)	74	内傾	平坦	自然	2	BⅡb2	加賀朝正 I	縄文土器	SK-1157→本館, 形状, 直径1.60×1.43
1154	C16a	N-40°-W	楕 円 形	1.51×1.24	75	垂直	平坦	自然	3	BⅡb			本館→SI-213
1155	D16c	N-35°-W	楕 円 形	(2.32×2.70)	21	垂直	平坦		5	BⅡc1	中期	縄文土器	
1156	D16a	N-73°-E	楕 円 形	2.05×(1.84)	17	垂直	平坦	自然	5	BⅡc1	中期	縄文土器	
1157	C16a	N-54°-E	円 形	1.52×(1.53)	52	垂直	平坦	自然	4	BⅡc2	後期前葉	縄文土器	本館→SK-1157

(5) 遺構外出土遺物

D区からは、直接遺構に伴わない土器、土製品、石器、石製品、鉄器及び古銭が出土している。ここでは、それらについて実測図（第265～285図）及び観察表、一覧表で一括して報告する。

第265～270図1～75は遺構外出土遺物の実測図である。1～38、69～75については観察表に記述し、観察表に記述しなかった注口土器片、把手、蓋についてここでは簡単に分類しておく。

39～52は注口土器の注口部片である。39は中期加曾利E式並行の注口部片で、複節縄文RLRが一部見られる。40～43は後期堀之内式の注口土器である。40は注口部に「C」字状文と刺突文、41は注口部先端と口縁部突起を接続する把手、42も注口部先端と口縁部を接続する把手が見られる。43は注口部中位に把手が見られる。44は後期加曾利B式の注口部片と思われ、外面は磨きが施されている。45、47は後期の注口部と思われる。46、48～52は後期から晩期安行式の注口土器で、基部下に46は円形文、48、50、52は縦刻み加飾の貼着が付けられ、50は沈線区画の縄文帯と注口部横を巡る突帯が見られる。49は中央に短沈線を連続させた隆帯貼り付けが基部の周囲に見られ、大洞B式の影響と思われる。51は注口部が僅かに反って先端に至る。

53～66は把手及び突起片である。53、54は中期加曾利E I式の中空把手である。55は後期網取式の影響が見られ、2単位の孔を有する変形「8」字状把手である。56は側面に2単位、上面に2単位の孔を有する大形突起状の把手で、後期堀之内式の範疇と思われる。57は後期堀之内2式に比定される注口土器の弦状把手で、沈線及び刺突文で文様が構成されている。58～65は後期加曾利B式に比定される突起及び把手である。58、62、64はつまみ状の把手、59、60は孔を有する環状の把手である。61は口縁部内面突起の文様、63は口縁部外面突起の文様で、いずれも円形文が施されている。65は下部に孔を有するスベード状の把手である。66は晩期純山式の影響が見られる鉢巻き状突起で、突起下に孔が穿たれている。

67、68は後期堀之内式の蓋で、67が径4cm、68が径5cmで、孔が対で穿たれている。67は中央に小円形文、さらに孔を結ぶように円形の平行沈線が施されている。

第276～285図1～169は縄文土器片の拓影図である。

1～66は中期の土器である。1～7は阿玉台式に比定される土器で、いずれも区画的な文様構成を隆帯で施し、内部には結節沈線文、爪形文及び沈線で文様が施されている。5～7は地文として縄文が施文されている。8～10は膳坂式の影響が見られる土器で、8は浅鉢形土器、10は筒形の土器の口縁部である。14は曾利式の影響が見られる浅鉢形土器で、口縁部内面に粘土紐貼り付けの稜が見られ、外面は半截竹管による縦方向の沈線が充填されている。12、13、15、16は中鉢式に比定され、12、15、16は口唇部に連続「コ」字状文が見られる。17～31は加曾利E I式に比定される土器で、17～19、22～26は隆線や沈線で口縁部の文様が構成され、24には三叉文が見られる。20は口唇部上端に部分的な刻み、21は口唇部外面に刻みと沈線効果を出す隆線を上端中央に施している。27～31は胴部片で、27は縄文が、30、31は条線が胴部を直線的に垂下する平行沈線に切られ、31には蛇行沈線も見られる。28は地文の縄文が回転方向を換えて縦の羽状を取り、29は結節縄文が施文されている。32～39、41～45は加曾利E II式に比定される土器である。32は口縁部下の横走する平行沈線に胴部を垂下する平行沈線が連結している。33～39、41は口縁部片で、渦巻文、長方形区画文等が沈線及び隆線で展開されている。42～45は胴部に平行沈線が垂下し、沈線間は磨り消されている。42と44は縄文地文で、42には蛇行沈線も見られ、43、45は条線が地文で施されている。47は胴部に渦巻文及び刺先文が見られ、大木8b式の影響が見られる。40、46、48～61は加曾利E III式に比定される土器で、40、46、48、55は口縁部に列点文と波状あるいは弧状を描く複列の沈線が施文されている。49は口縁部無文で、隆線起線以下は縄文が施文されて

いる。50, 51, 53, 55は沈線で区画文が描かれている。52は外面に縄文が施文され、54は口縁部に施された連続円形文以下は沈線が垂下している。57-61は胴部片で、57, 58, 60, 61は直線的に垂下する沈線区画の磨消帯が施されている。59は胴部隆帯文が見られる。62-66は加曾利EⅣ式に比定される土器で、62は口縁部無文帯下の隆線に舌状の突起が付けられ、以下は縄文が施文されている。後期初頭にかけての土器である。63は口縁部は無文帯で、微隆起線以下は縄文が施文されている。64-66は口縁部及び胴部に微隆起線区画の磨消帯が施され、65には双耳状の突起、66にも突起が付けられている。

67-131, 133, 134は後期の土器である。67-69は網取式の影響が見られ、波状口縁の波頂部に刺突文及び沈線で白線のあるいは直線的な文様が施されている。70-77は堀之内1式に比定される土器で、70, 72-74は穿孔及び刺突文が口縁部に見られる。71も口縁部に孔が穿たれていると思われ、胴部を垂下する隆線に刻みが施されている。75-77は文様が沈線で施され、77は地文に縄文が施文されている。78-84は堀之内2式に比定される土器である。78, 79には刺突を加えた隆線が見られる。80-82, 86は地文に縄文を施し、80, 81, 86は直線的な沈線で文様が描かれている。83は口縁部内面に短沈線、上端に小突起及び外面に沈線区画の縄文帯が見られ、84も波頂部に突起、外面に刺突文を施した隆線が施されている。85は口縁部下の隆線に粗い刻みが加えられ、以下は斜行あるいは縦方向の沈線が複列で施されている。89は堀之内2式+加曾利B1式にかけての土器で、地文の縄文を複列の横走沈線が切断している。87-96, 98は加曾利B1式に比定される土器である。87は口縁部と胴下部の複列沈線を同様の斜行沈線が結び、区画内に縄文が施文されている。88, 90, 91, 93-95, 98は地文に縄文が施され、押捺を加えた粘土紐が88, 90, 93, 94, 98に、88, 93には斜行沈線が施され、98には横方向の沈線も見られる。95は指頭による微隆起線が口縁部外面に施され、口唇部上端には沈線も見られる。加曾利B2式に近い時期と思われる。91は口唇部上端に押捺を加えた突起と口縁部に横長の連続刻文が施されている。92, 96は沈線区画の縄文帯が施され、92は内面に縄文帯、94は縄文帯を結ぶやや弧を描く沈線が見られる。97, 99-108は加曾利B2式に比定される土器である。97, 99, 100は外面に粗い縄文が施され、97は口縁部に粘土紐貼り付けの刻文帯と胴部に下向き弧線、100は口縁部に押捺を加えた粘土紐が施されている。101-108は横走沈線を主体として文様が構成され、縄文施文部以外は内・外面とも磨きが施されている。103の口唇部上端には小突起、104, 105の外面には刺突を加えた小突起と文様帯を切る短い区画文が見られる。106には胴部上向き連弧文が施されている。109-111は加曾利B3式に比定される土器で、109, 110は口縁部に、111は胴部に刻文帯が施され、110には刻文帯を挟んで下向き及び上向きの弧線が施されている。112-115は曾谷式に比定される土器である。112, 114は三角刻文帯、113は帯縄文と上向き弧線文、115には小突起が施されている。116は口縁部に帯縄文が施され、以下3段の刻文帯と縦長貼瘤が見られ、曾谷-安行Ⅰ式にかけての土器と思われる。117-125は安行Ⅰ式に比定される土器である。117-119, 124には隆起帯縄文、120, 122には隆起帯刻文、125には沈線区画の縄文帯が施されている。117-119, 120, 125には貼瘤が付され、125は縄文帯が「」状の沈線に切られている。124は縄文帯に沿った刻文が施され、胴部には上向き弧線が施文されている。121, 123は粗製土器で、器面に条線が施され、121は口縁部と頸部に刻文帯が横走されている。126-131, 133, 134は安行Ⅱ式に比定される土器である。126, 127は縄文帯が口縁部以下多段施され、隙間の沈線区画の磨消部は小突起で接続されている。128は2段の刻文帯を結ぶ区画内縄文施文の斜行平行沈線が見られる。129-131, 133は縄文帯あるいは刻文帯上にブタ鼻状貼瘤が付されている。134は波状口縁の波頂部片で、刻みを施した頂部の突起以下にも刻みを加えた縦長貼瘤とブタ鼻状貼瘤が見られる。

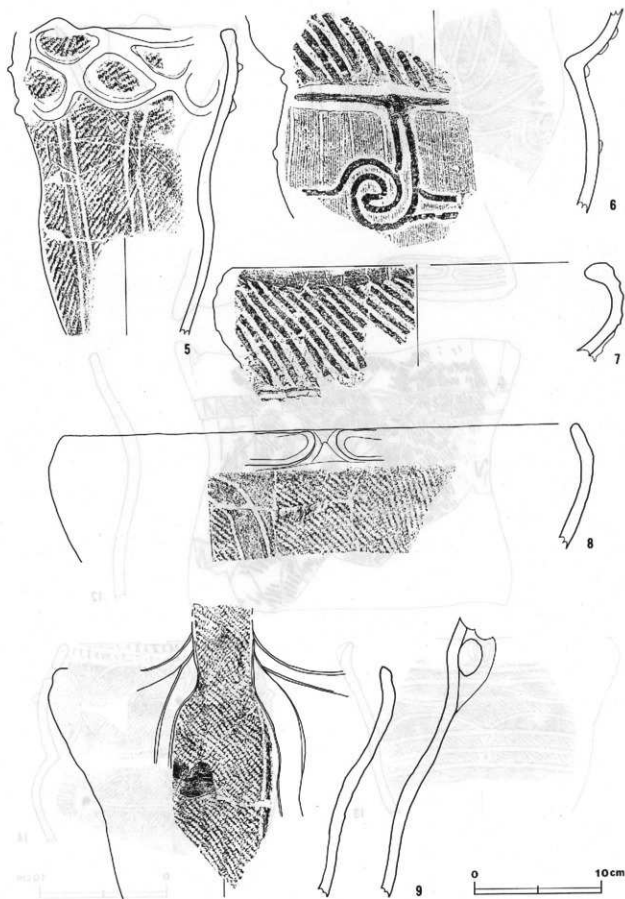
132, 135-139は後期安行Ⅱ式-晩期安行Ⅲa式にかけての土器である。132, 136, 137は粗製土器で、月状文が見られる。135, 138は多段の縄文帯が小突起で結ばれ、小突起間には刺突状の短沈線が施されている。139

は口唇部上端に刻みを加えた突起が見られ、胴部に刻文帯が施されている。

140～169は晩期の土器である。140～150は安行Ⅲa式に比定される土器である。140～142, 144は波状口縁の波頂部片で、頂部の突起及び胴部の貼瘤に刻みが施されている。143は口唇部に扁平な突起, 145, 146は沈線区画内に縄文が施文されている。147は壺形土器の口縁部で、沈線による文様が描かれ、隙間は部分的に縄文が施文されている。148には円形文, 149には入り組み文及び三又文が見られる。150は粗製土器で、下向き弧状の条線が施文されている。151～167は安行Ⅲb式に比定される土器で、159, 161はⅢc式に近い段階である。151, 152, 159波状口縁の波頂部で、頂部に角状の突起, 以下に縦長の貼瘤が付されている。153は粗製土器で、やや下向き弧状の条線を平行沈線に切断され, 154は口唇部突起下にブク鼻状貼瘤, 155は「く」の字状に外傾する口縁部で、入り組み状の曲線が見られる。156は沈線区画内に細密沈線が充填され, 157は直線的な沈線で文様が描かれ、縄文施文部と磨消部区画を交互に配し、縦の沈線区画内は刺突文が施されている。158は短沈線が連続的に横走され、入り組みの弧線文が見られる。160は曲線の文様が描かれ、部分的に縄文が施文されている。161は口縁部に鋸歯状の突起が付けられ、胴部は浅い横走沈線が施され、隙間は矢羽状の条線が充填されている。162～167は姥山式の影響が見られる土器で、162には細密沈線と入り組み的な曲線が, 163, 164の波状口縁部片にも入り組み的な曲線が施文されている。165～167は口縁部に小突起が付され, 165, 167には列点文が見られる。168, 169は大洞式の影響が見られる土器で、168は口縁部が外反し、口唇部に小突起が付され、胴上部に施された複列の横走沈線以下は縄文が施文されている。169は胴上部に羊歯状文, 下部に列点文が見られる。168はB式, 169はBC式並行と思われる。

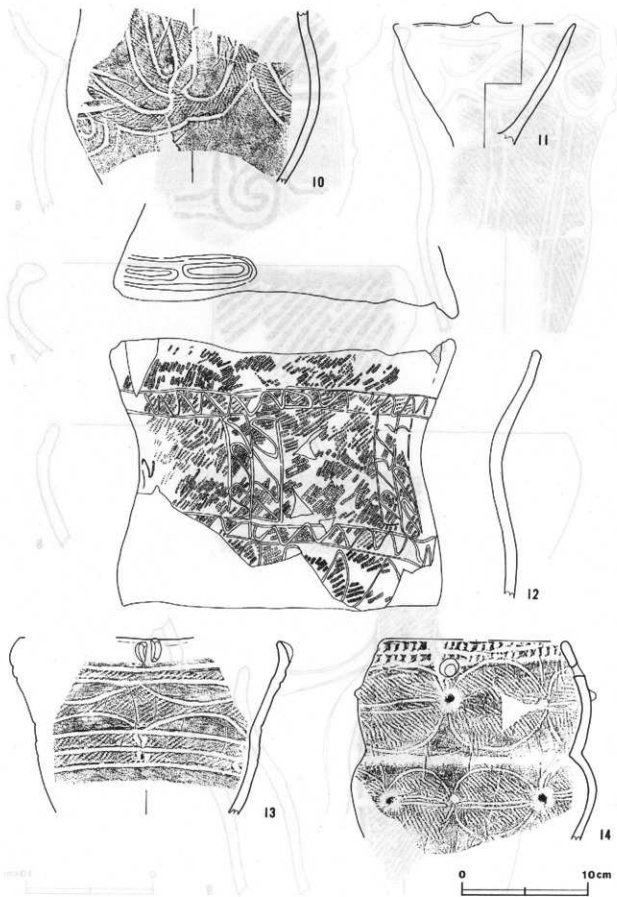


第265図 遺構外出土遺物実測・拓影図(1)



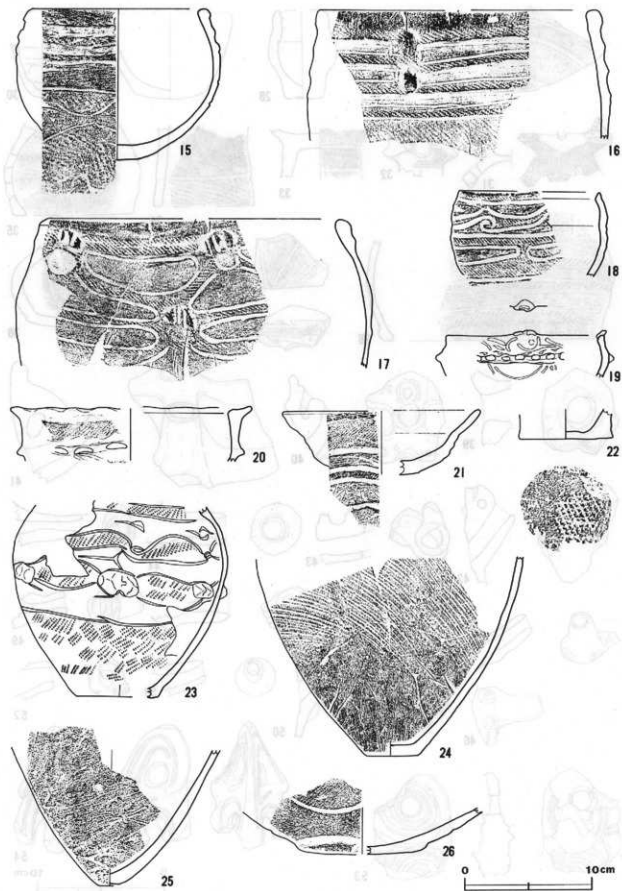
第266图 遺構外出土遺物実測・拓影图(2)

（注）図中の「新石器時代土山内遺物」は、527号の



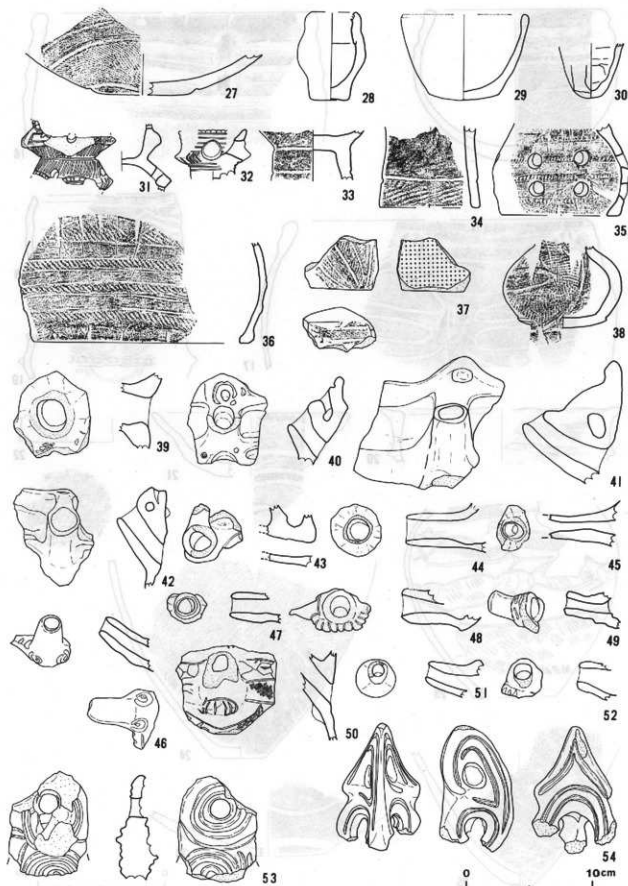
第267圖 遺構外出土遺物実測・拓影図(3)

① 遺構外出土遺物実測・拓影図(3)

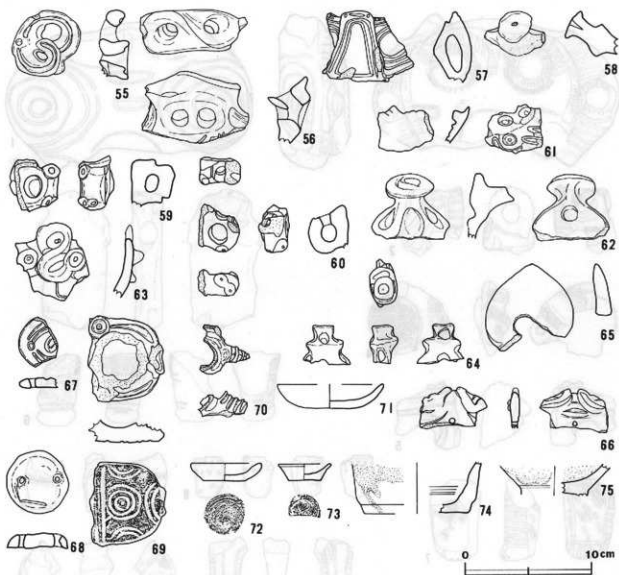


第268图 遺構外出土遺物実測・拓影图(4)

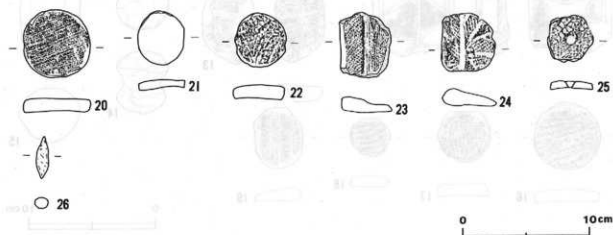
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺



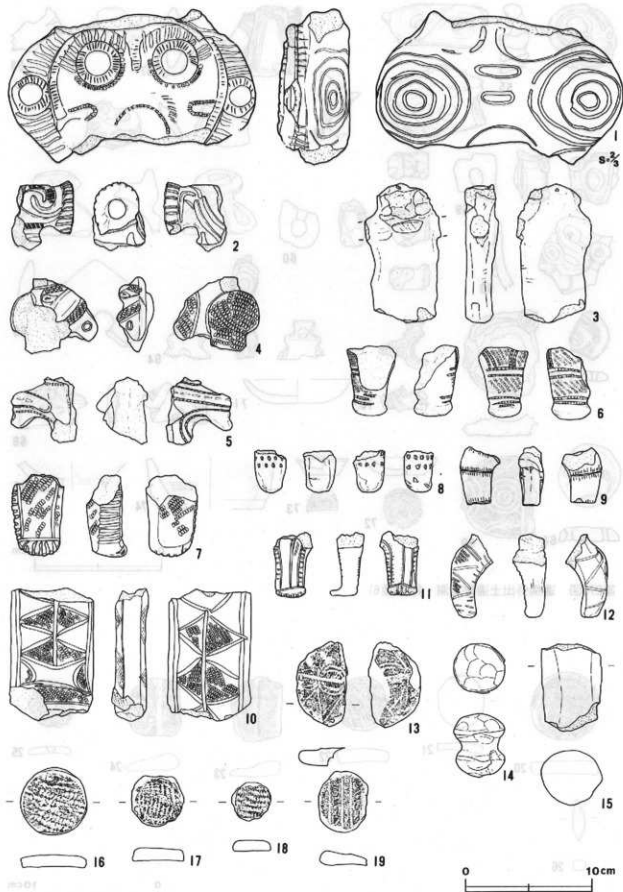
第269圖 遺構外出土遺物実測・拓影(5)



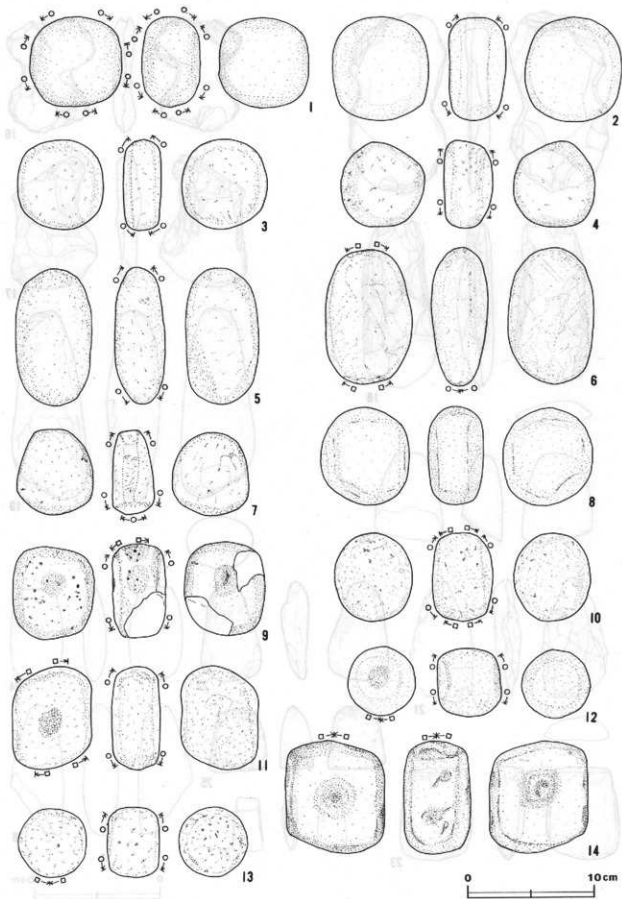
第270図 遺構外出土遺物実測・拓影図(6)



第271図 遺構外出土遺物実測・拓影図(7)

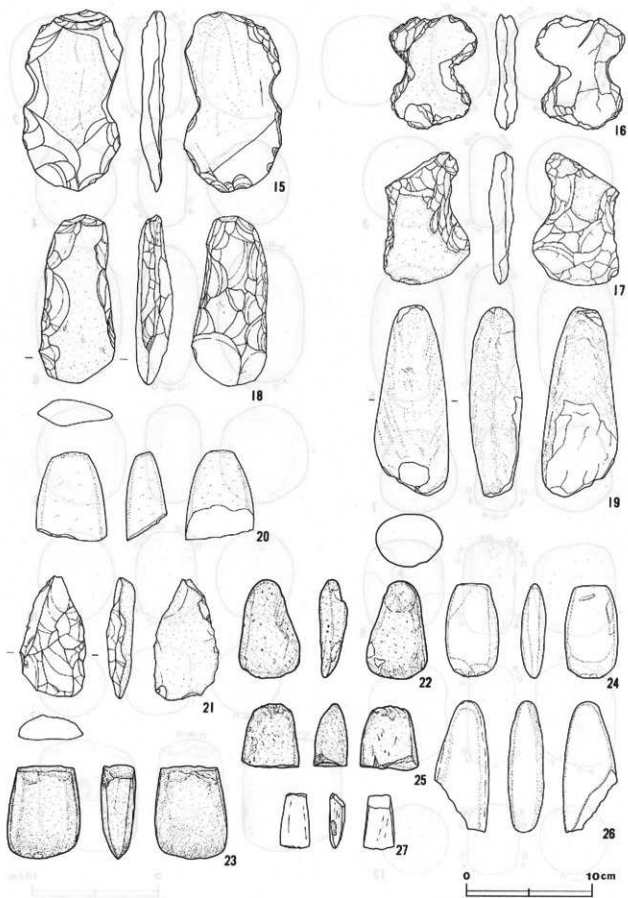


第272図 遺構外出土遺物実測・拓影図(8)

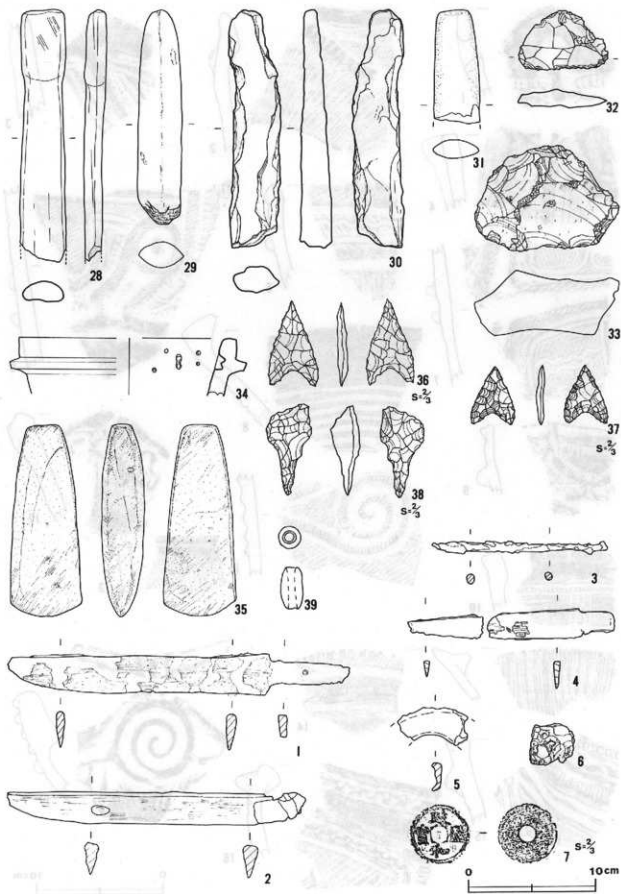


第273図 遺構外出土石製品実測図(9)

中国考古学研究所蔵 石製品実測図

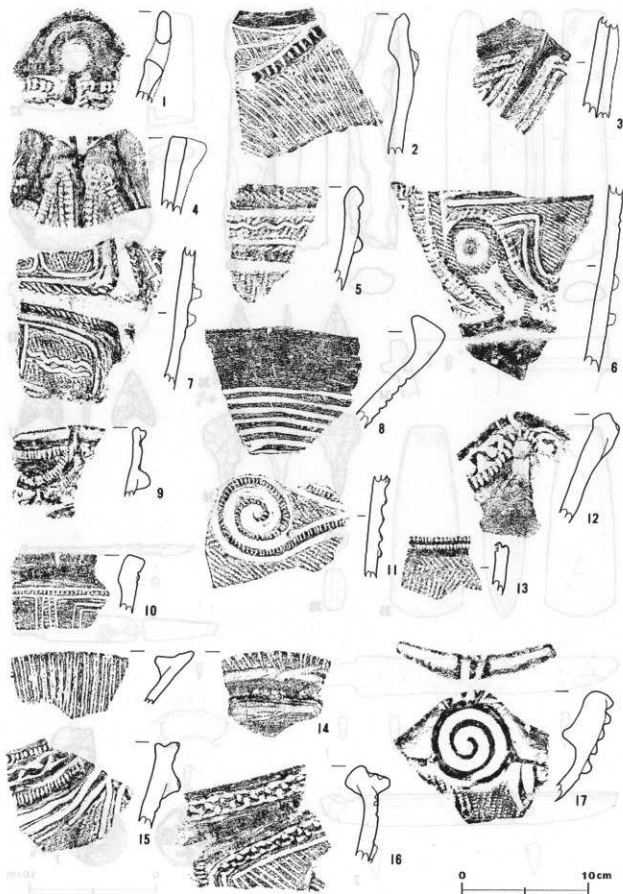


第274图 遺構外出土石製品実測図(10)



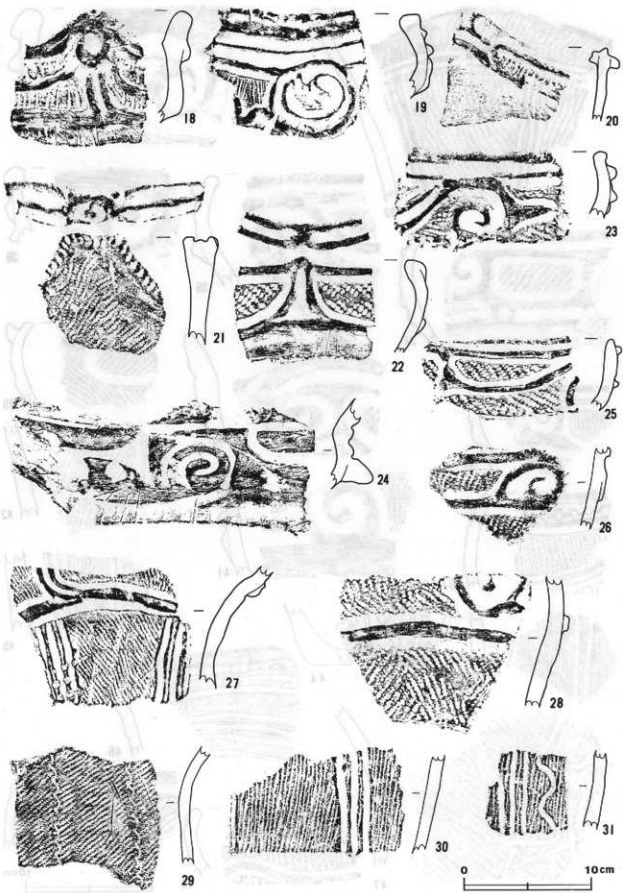
第275图 遺構外出土遺物実測・拓影图(11)

11 2000年10月 - 2001年10月 出土遺物実測・拓影图(11)



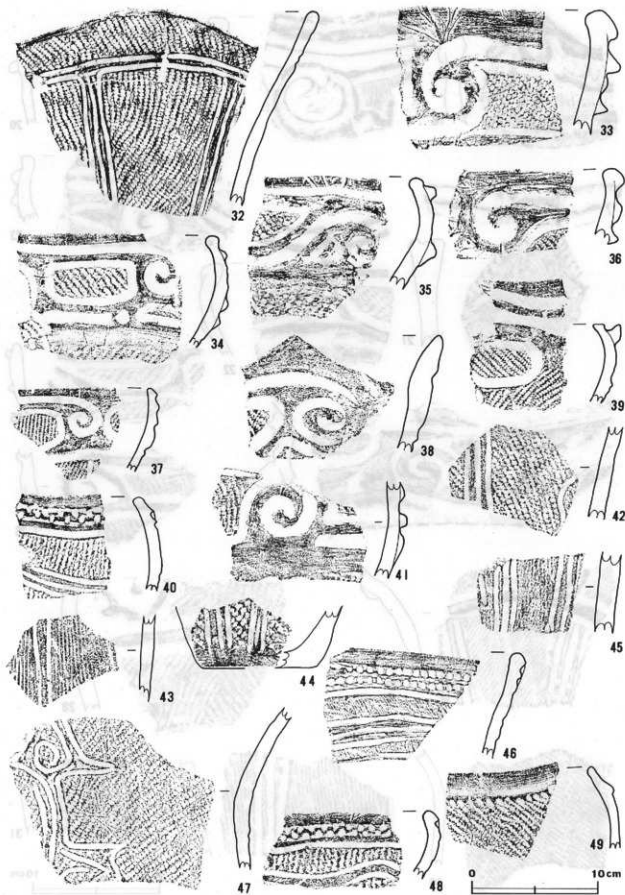
第276図 遺構外出土遺物実測・拓影図(12)

117530採計・実測・拓影・出土位置図

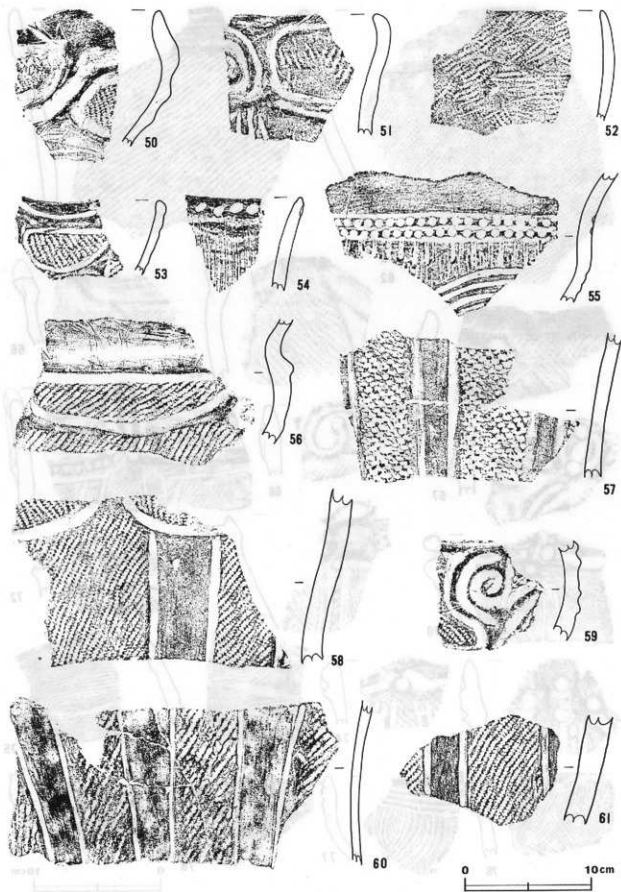


第277图 遺構外出土遺物実測・拓影図(13)

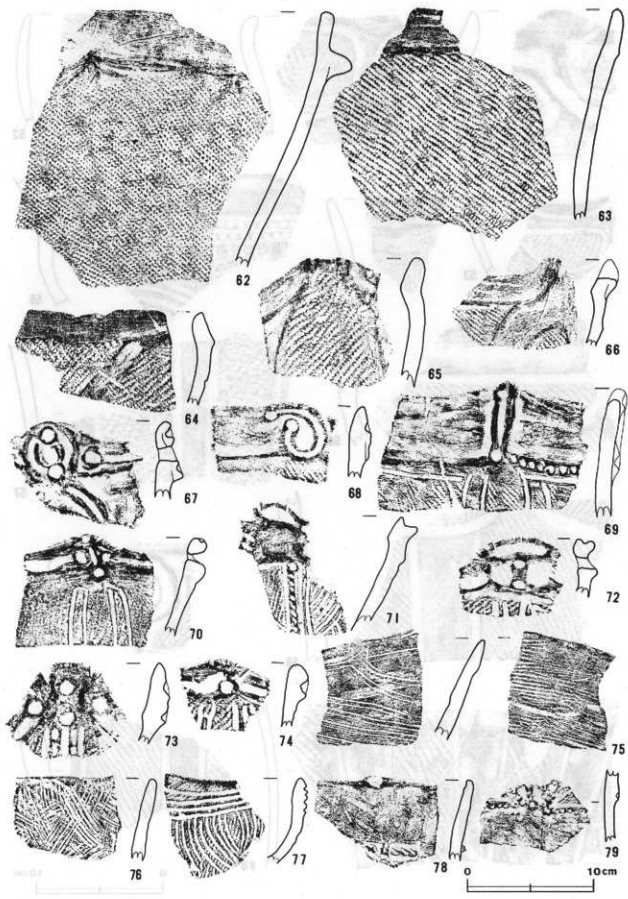
新加坡海山・新加坡海山出土の陶器、漆器、銅器



第278圖 遺構外出土遺物実測・拓影図(14)

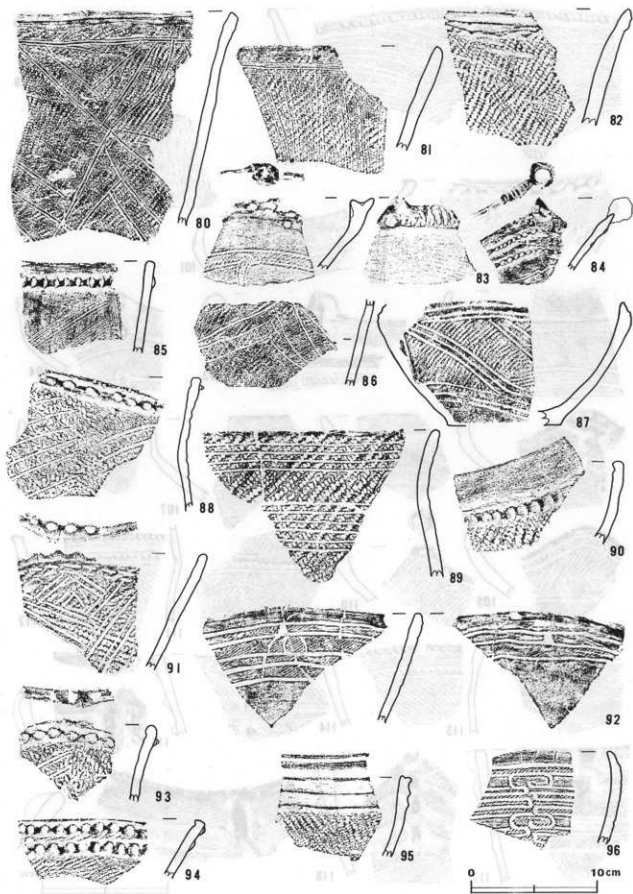


第279圖 遺構外出土遺物實測・拓影圖(15)

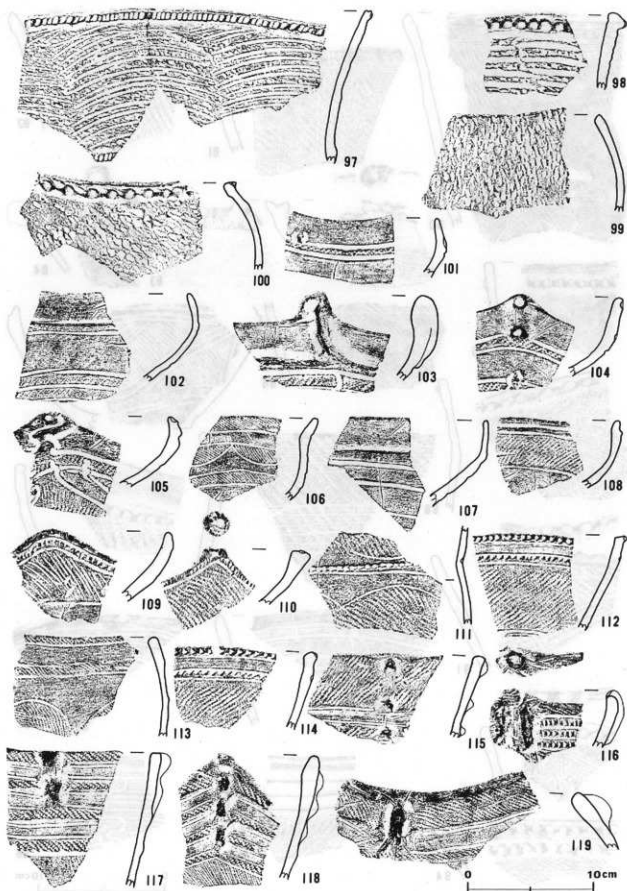


第280图 遺構外出土遺物実測・拓影图(16)

竹器埴土、黄泥埴土出土物群集 図280(16)

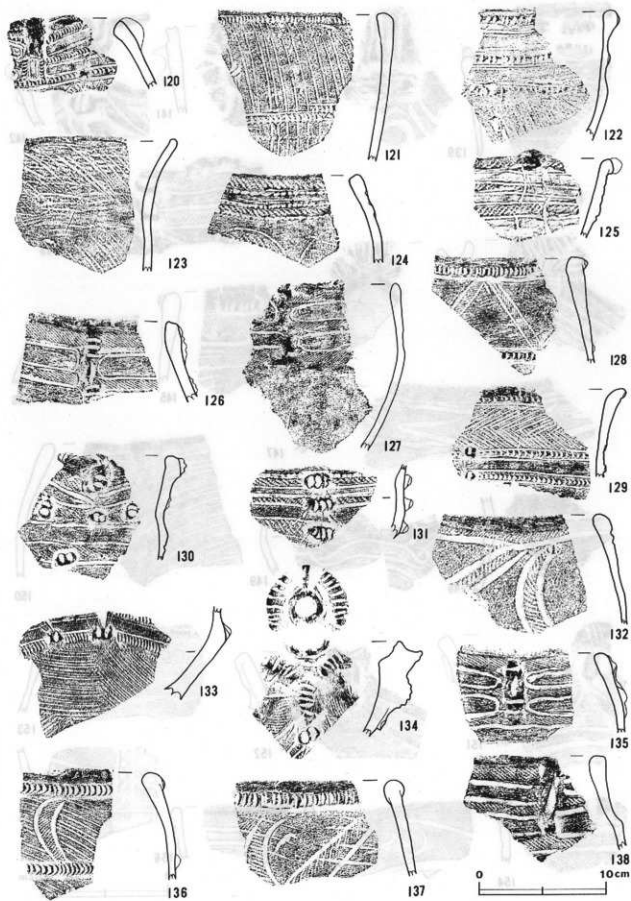


第281图 遺構外出土遺物実測・拓影图(17)

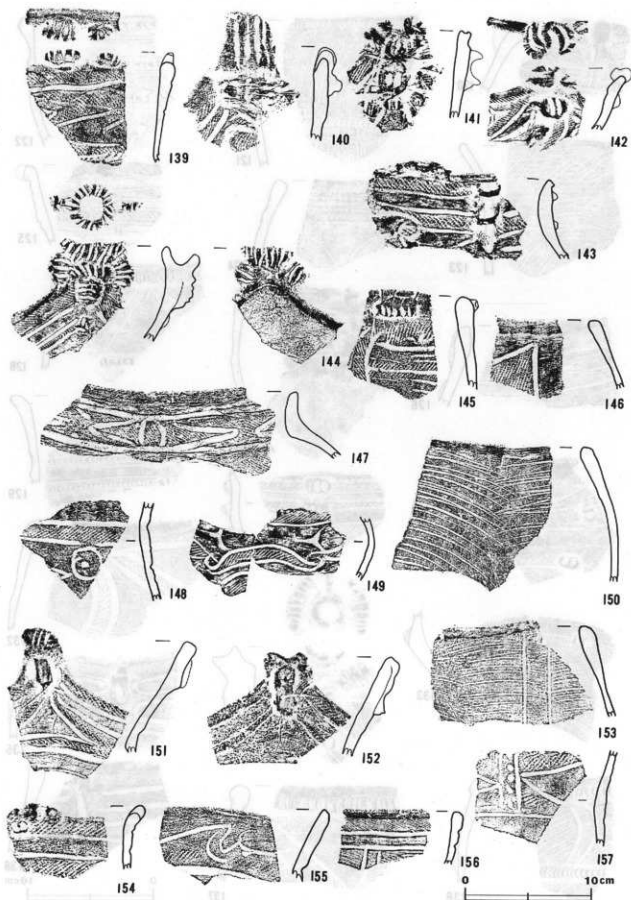


第282图 遺構外出土遺物実測・拓影图(18)

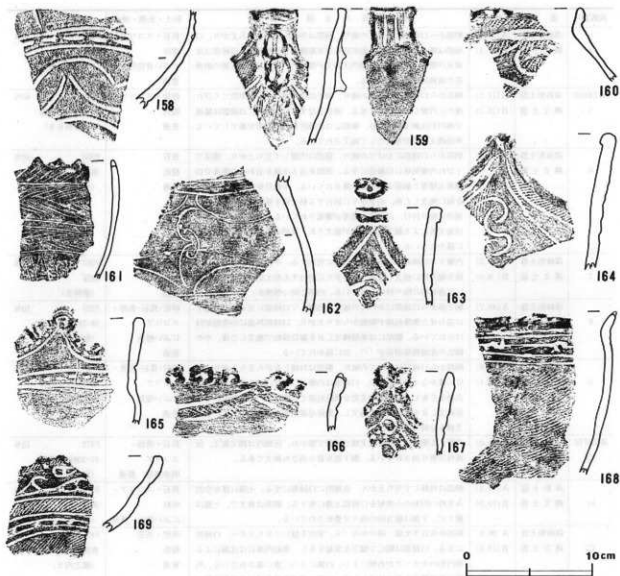
1. 国史院蔵 博多市出土の古銭 図182(第282图)



第283图 遺構外出土遺物実測・拓影图(18)



第284圖 遺構外出土遺物実測・拓影図(20)



第285図 遺構外出土遺物実測・拓影図(2)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第285図 1	深鉢形土器	A (22.0)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、肩部で内傾して口縁部に至る。口縁部と肩部に隆帯が走り、上面が三角形で平坦に作出された橋状把手が隆帯を結んでいる。隆帯の上面、側面及び外面には隆帯の形状に沿う沈線が施されている。隆帯間の区画には縦の沈線が施され、部分的に「U」「∩」状の沈線が対で施されている。胴部は波状彫刻状条線が縦方向に施されている。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P427 30% 表様 (加曾利E 1)
	縄文土器	B (21.6)			
2	深鉢形土器	A (20.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外反して口縁部に至り、口縁部は内彎する。口縁部は、沈線に沿わせた隆帯で長方形区画文が施され、区画内に縦筋縄文L R Lが横位回転で施されている。胴部にも縦位回転の縦筋縄文L R Lが地文として施文され、沈線区画の幅の狭い隆帯が直線あるいは蛇行しながら垂下している。	長石・スコリア にぶい褐色 普通	P370 10% 表様 (加曾利E 2)
	縄文土器	B (17.6)			
3	深鉢形土器	A (37.0)	内彎する口縁部片。沈線に沿わせた隆帯で渦巻文及び長方形区画文が描かれ、口縁部文様帯が構成されている。渦巻文の上に刺突が2単位施され、区画内は横位回転の早期縄文R Lが地文として施されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P372 10% 表様 (加曾利E 2)
	縄文土器	B (19.3)			

図版番号	器種	寸法(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	深鉢形土器 縄文土器	A (26.0) B (22.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾しながら立ち上がり、口縁部は僅かに内彎する。縦位回転の単筋縄文L形施文で、口縁部は波状及び隆線で渦巻文や長橋円形区画文が描かれ、胴部は波状区画の帯滑帯が直線的に垂下している。	長石・スコリア・雲母 灰褐色 赤褐色 普通	F371 表探 (加賀朝E目)
	第266図 深鉢形土器 縄文土器	A (17.5) B (25.3)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾した後胴位でくびれ、僅かに内彎して口縁部に至る。波状を呈する口縁部で、口縁部は隆線で楕円形区画文が描かれ、胴部には波状区画の帯滑帯が垂下している。単筋縄文L Rが施文として施文されている。	砂粒・スコリア 褐色 普通	F369 SI-106付近表探 (加賀朝E目)
6	深鉢形土器 縄文土器	B (16.4)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、胴部でくびれ内彎気味に口縁部に至る。胴部を高く隆線を含む隆線で口縁部文様帯と胴部文様帯が分離されている。手続竹筥による平行波線を縦に施文した後、右下がりに斜行する斜土線が狭い間隔を置いて連続的に貼り付け、口縁部文様帯が構成されている。胴部は施文に構面施文其による縦方向の条線が施文され、後列の高巻隆線文が胴位に描かれている。	長石 褐色 普通	F368 表探 (曾利II)
	7	深鉢形土器 縄文土器	A (29.2) B (8.0)	内彎する口縁部。口唇部は内側に突出する。平織竹筥による平行波線を縦方向に施文した後、右下がりに斜行する斜土線が狭い間隔を置いて連続的に貼り付けられている。F368と同一体か。	砂粒・長石 褐色 普通
8	深鉢形土器 縄文土器	A (40.7) B (9.9)	胴上から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部下に這らせた微隆起線が両端からせり上がり、口縁部外面に小突起が付けられている。胴部には単筋縄文L Rを縦位回転で施文した後、やや傾斜の波状帯滑帯が「U」状に描かれている。	砂粒・長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	F227 SE-787付近表探 (加賀朝E目)
	9	深鉢形土器 縄文土器	A (25.6) B (22.1)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾しながら立ち上がり、中位に急なくびれを持つ。口縁部は内彎し、波状口縁の波頂部には横状把手を有し、口縁部無文帯を微隆起線で区画している。胴部には単筋縄文L Rを横位回転で施文し、微隆起線間帯滑帯を「U」状に描き、文様を分析している。	砂粒・長石・石英・スコリア 灰褐色 普通
10	深鉢形土器 縄文土器	B (15.0)	内彎する胴部。前縁的文様が波状で描かれ、区画内は縄文施文。区画外は磨り消されている。胴下部も磨り消され無文である。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	F373 SI-108付近表探 (称名寺1)
11	鉢形土器 縄文土器	A (14.4) B (10.0)	胴部は外傾して立ち上がり、直線的に口縁部に至る。上端に僅かな凹みを持つ円形の突起を口縁部上端に有する。胴部は無文で、上部は横ナテ、下部は縦方向の縞りで整形されている。	長石・スコリア・砂粒 灰褐色 普通	F374 表探 (堀之内1)
12	深鉢形土器 縄文土器	A 28.6 B (19.6)	胴部中位以下欠損。緩やかな「S」字状を描いて立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は幅広く扁平な突起を有し、突起内面には波線による楕円形のモチーフが外側に1つ、内側に2つ並べに描かれている。外面は単筋縄文L Rを施文した後、内部に波状波線を挟いた平行波線が縦横に描かれている。	砂粒・長石 褐色 普通	F426 表探 (堀之内2)
13	深鉢形土器 縄文土器	A (20.4) B (13.9)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は中位で僅かにくびれた後、外傾して口縁部に至り、口縁部は僅かに内彎する。口縁部は無文で、外面に對になる縦長小突起を有する。口縁部下に波状区画の縄文帯が施され、口縁部と胴部文様帯が分離されている。胴部文様帯が口縁部下の縄文帯と胴部中位に横走された波線区画の2段縄文帯に展開し、下向き、上向き弧状の波線を対応して施文し、区画内に磨り消し、区画外に縄文が施文されている。下の2段縄文帯には口縁部の突起に対応し、「い」字状の剪頭が加えられている。内面及び外面無文帯は丁寧な磨り消しで整形されている。	長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	F376 表探 (加賀朝E目)
14	深鉢形土器 縄文土器	A (14.6) B (16.8)	深鉢形土器の胴部から口縁部にかけての破片。胴部中位にくびれを有し、くびれの上下とも内彎する。口縁部2段、くびれ1段の縄文帯が這らされて、口縁部下に孔が穿たれている。くびれで上下2文様帯に分かれ、2本波線で上下に切断される円形文を小突起で接続する文様を、1文様帯は人形、2文様帯は小形に描き、円形区画内は縄文が施文されている。	長石・雲母・砂粒 灰黄褐色 普通	F380 SI-179付近表探 (曾利)
15	第268図 鉢形土器 縄文土器	A 13.6 B 12.0 C 4.5	胴部と口縁部一部欠損。平底で、胴部は内彎して口縁部に至る。口縁部下3段の隆起帯縄文。胴部中位の横走波線には区画内縄文施文の下向き波線文が接続し、胴下部に施された波線以下底部まで縄文が施文されている。底部に調整帯が残されている。	長石・スコリア・砂粒 灰黄褐色 普通	F384 表探 (安行1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
16	深鉢形土器	A (22.0)	胴上部から口縁部にかけての破片。やや内彎して口縁部に至る。口縁部以下4段の隆起帯が施され、3段までは胎痕で縁飾されている。縄文帯等は沈線区画の磨消帯で、4段以下には斜行条線が施されている。	砂粒・長石・スコリア・雲母 褐色 普通	P382 5% 表採 (安行Ⅰ)
	縄文土器	B (10.5)			
17	深鉢形土器	A (23.0)	胴部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部厚面に縄文帯、以下沈線区画の縄文帯が縦横に施され、縦斜みを有する胎痕で連絡されている。胎痕の下には円形文が見られる。	砂粒・長石・スコリア 褐色 普通	P430 10% SI-204付近表採 (安行Ⅱ)
	縄文土器	B (12.0)			
18	鉢形土器	A (11.0)	胴部から口縁部にかけての破片。内彎して立ち上がり、胴上位で僅かにくびれた後口縁部に至る。くびれ部で上下の文様帯が分離され、1文様帯は口縁部縄文帯下の沈線からくびれ部の沈線間に展開され、下向き弧線、入り組み文を沈線で描き、弧線文と入り組み文間は縄文が施文されている。2文様帯は沈線以下縄文施文、内部に横長帯区画の磨り消し部分が施されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P420 10% 表採 (安行Ⅲ b)
	縄文土器	B (6.6)			
19	浅鉢形土器	A (12.3)	胴上部から口縁部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部に小突起、胴部中央に凸凹の突起を有し、胴部上半には三叉文、下半には平行弧線文が施されている。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P387 10% 表採 (安行Ⅲ a)
	縄文土器	B (3.8)			
20	浅鉢形土器	A (19.0)	口縁部片。僅かに内彎して口縁部に至り、口唇部は外側に突出し、凸凹が付けられている。胴部に凸凹の突起を有し、胴部上半は部分的に縄文が施文されている。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P388 5% 表採 (安行Ⅲ b)
	縄文土器	B (4.2)			
21	浅鉢形土器	A (15.8)	平底で、胴部は内彎気味に外傾して立ち上がり、僅かに屈曲した後外反して直線的に口縁部に至る。屈曲部隆起帯まで口縁部縄文施文、胴下部にも細い沈線区画の縄文帯、底部と胴部の境にも沈線が施されている。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P433 20% SI-115付近表採 (安行Ⅲ b)
	縄文土器	B (5.1) C (5.7)			
22	深鉢形土器	B (2.4)	底部片。平底で突出気味、胴部は直立する。胴下部に磨きが施され、底部に網代痕が残されている。	砂粒・石英・長石 褐色 普通	P133 10% 表採 (後期)
	縄文土器	C 7.4			
23	深鉢形土器	B (15.5)	口縁部欠損。平底で、胴部は内彎しながら立ち上がる。胴部上位に沈線区画の縄文帯。胴部中央には磨消帯が3段、間に弧状沈線区画の縄文帯が2段施文で施文され、上、中段の磨消帯には三叉文、入り組み三叉文が彫刻されている。また上段の縄文帯は連絡帯が僅かに入り組み状。下段の連絡帯には中央を隔り込んだ帯状の突起が施り付けられている。胴下部は沈線以下縄文が施文され、底部から2-3cmは磨り消されている。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P428 50% 表採 (安行Ⅲ a)
	縄文土器	C 6.4			
24	深鉢形土器	B (15.3)	底部から胴部にかけての破片。平底で、胴部は内彎気味に外傾する。胴部には右下がりに斜行する条線が施文され、下部は縦方向の磨きが施されている。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P277 40% SI-956付近表採 (安行Ⅱ)
	縄文土器	C 4.3			
25	深鉢形土器	B (10.8)	底部から胴部にかけての破片。小形の平底で、胴部は外傾して立ち上がる。胴部には左下がりに斜行する条線が施文され、下部は無文である。	砂粒・スコリア・長石 灰褐色 普通	P432 10% SI-206付近表採 (安行Ⅱ)
	縄文土器	C 1.6			
26	浅鉢形土器	B (3.7)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴下半に下向き弧線が施文され、区画内は縄文が施文されている。最下部には横状沈線が施されている。	長石・砂粒・スコリア 褐色 普通	P385 5% 表採 (安行Ⅲ b)
	縄文土器	C (10.0)			
第269図	浅鉢形土器	B (3.3)	底部から胴下部にかけての破片。平底で、胴部は外傾して開く。胴下半に磨消帯を挟んで沈線区画の縄文帯が施されている。	長石・スコリア・雲母・砂粒 にぶい褐色 普通	P386 5% 表採 (安行Ⅲ b)
	縄文土器	C (7.0)			
28	小形深鉢形土器	A (3.5)	胴部から口縁部一部欠損。平底で、胴部は外傾した後内彎して口縁部に至る。外面は無文で、胴部上位縁ナダ、下位縁位ナダで整形されている。	砂粒・長石・スコリア・雲母 褐色 普通	P375 60% 表採
	縄文土器	B 7.0 C 3.0			
29	鉢形土器	A (10.1)	胴部一部欠損。僅かに平底で、胴部はやや内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。内面及び胴上部横ナダで整形されている。内・外面無文である。	砂粒・雲母 褐色 普通	P284 30% 表採
	縄文土器	B 6.9 C 5.6			
30	小形土器	B (4.4)	口縁部欠損。丸底で、胴部は外傾して立ち上がる。内・外面無文で、内面に整形痕が粗く残る。外面は縦位の削り方で整形されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P389 40% 表採
	縄文土器	C (5.3)			
31	異形台付土器	B (5.3)	頸部及び口縁部欠損。台部は外傾した後屈曲して接合部に至り、胴部は外傾して立ち上がる。胴部中央に沈線区画の刻文帯、接合部の上下は縦沈線が施文されている。胴部及び台部の屈曲部に縦網目突起を施り付け、要所に孔が穿たれている。	長石・砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P390 30% 表採 (安行Ⅰ)
	縄文土器	C (5.3)			

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
32	貝形台付土器 縄文土器	A (5.4)	台部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部上端は連続刻みが施されている。胴部下位に割み状の縦沈線を通した突起が有り、突起上下は横走沈線が施されている。胴部中位から上位にかけて約1.5cmほどの孔が4単位穿たれていると思われる。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P383 表採 (安行 I)
		B (3.9)			
33	台付土器 縄文土器	B (4.0)	裾部及び胴部欠損。台部はやや内傾して接合部に至る。台部上位の沈線区画の溝部を挟んで、胴部下位から接合部にかけてと台部下位に縄文が施文されている。	砂粒・スコリア・ 炭母・長石 褐色 普通	P378 表採 (加賀川 B 2-3)
		E (2.4)			
34	台付土器 縄文土器	D (8.0)	台部片。台部は内傾して立ち上がる。台部下位に横走沈線が施され、上位は裾部まで単線縄文及び横位縦線で施文されている。	長石 にぶい褐色 普通	P377 5% 表採 (加賀川 B 2)
		E (6.4)			
35	台付土器 縄文土器	D (7.3)	台部片。台部は内傾して立ち上がる。台部上位から裾部まで4段の割み突起が施され、上下左右4個1組の孔が4単位配されていると思われる。	砂粒・スコリア・ 炭母・長石 普通	P391 10% 表採 (加賀川 I)
		E (9.3)			
36	台付土器 縄文土器	D (8.1)	台部片。台部は内傾して立ち上がる。台部中位に上向き連続弧文が施され、区画内縄文施文。以下隆起帯縄文が裾部肥厚部まで3段に構成されている。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P431 10% 51-98付否表採 (安行 I)
		E (17.0)			
37	鉢形土器 縄文土器	B (4.2)	底部から胴部にかけての破片。角底で、胴部はほぼ垂直に立ち上がる。胴部外周及び底部に沈線区画の縄文帯が磨り消し部分と交互に配され、胴部に横三又文が見られる。内・外面彫りされている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P429 5% 表採 (安行 III a)
		C (5.8)			
38	壺形土器 縄文土器	B (6.4)	口縁部欠損。僅かに丸みを帯びた底縁で、胴部は内傾する。曲線の文様を沈線で描き、縄文施文部分と無文部分を交互に配し、無文部は磨き加えられている。	砂粒・炭母・長石・ 石英 にぶい褐色 普通	P379 70% 表採 (加賀川 B 2)
		C 6.9			
第270図 69	手摺形土器 縄文土器	長さ(6.0)	塊台部破片か、隅丸長方形で、上部端台部は欠損で形状不明。円形の突起が上部に見られる。底面は中央の同心円文を囲むように複数の半円が三方に描かれている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	P403 20% 表採 (安行 III b)
		厚さ(1.8)			
70	異形土器 縄文土器	B (3.9)	胴部から口縁部にかけての破片と思われる。口唇部に刻みを有し、胴部の孔にも刻みが施されている。孔輪には縦刻みを有する胎輪が付られている。	砂粒・長石・炭母 暗灰色 普通	P405 5% 表採 (安行 III a)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 71	土師質土器	A (8.4)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部へうすりによる調整。	砂粒・長石・炭母 褐色 普通	P422 40% 表採
		B 1.9				
72	小皿 土師質土器	A 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部部転糸切り。	砂粒・スコリア・ 長石・炭母 にぶい褐色 普通	P421 100% 表採
		B 1.4				
		C 3.3				
73	紅罎 土器	A 4.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面横ナデ。底部部転糸切り。	砂粒・長石 淡黄色 普通	P424 40% 表採 (近世遺跡)
		B 1.3				
74	水注か 陶器	B (4.0)	底部から体部下位にかけての破片。低い削り出し高台。体部はやや外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面に灰輪。底部にも一線施胎。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P423 10% 表採 (古瀬戸)
		C (8.2)				
75	陶器	B (2.5)	底部片。削り出し高台。体部は内傾気味に外傾して立ち上がる。	体部内面灰輪。外面施胎で、下位無胎。	砂粒 灰青褐色 普通	P425 5% 表採 (近世)

遺構外出土土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考	
		最大長	最大幅	最大厚				
第271図1	土 偶	(6.2)	(9.8)	(2.9)	(148.4)	30	みみずく土偶の胴部。割みを施した隆起帯の輪郭を表現し、ボタン状胎輪で目と耳が、副文で口、頬が、顔沈線で表現、眉が施されている。後頭部同心円文が対で施文されている。	DP66 表採 砂粒・スコリア 褐色 普通 (晩期前葉)
2	土 偶	(5.5)	(4.9)	(4.1)	(56.1)	5	中空土偶の胴部。上層及び内面に入り組む文。三又文を描し、部分的に縄文が施文されている。腕端部はラッパ状に開き、割みが施されている。	DP65 表採 長石・砂粒・にぶい褐色 普通 (晩期前葉)

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大径	最大幅	最大厚				
3	土 偶	(5.8)	(11.1)	(2.7)	(168.3)	70	扁平な板状の土偶で、顔、腕部及び脚部は欠損している。顔頂部が平坦で、頂部から後頭部に小孔が穿たれている。文様は施されていないが、口が唇状に盛り込まれて表現されている。	DP67 表採 砂粒・灰石 普通 (晩期)
4	土 偶	(5.9)	(5.9)	(2.9)	(65.2)	20	山形土偶の右肩部分。前面に粘土貼り付けの目、胸に円形刺突文が見られ、肩部に縄文施文の残存が見られる。背面は肩部に沈線が施され、腕部は縄文施文、背中也沈線区画の突出部に縄文が施文されている。	DP68 表採 スコリア にぶい褐色 普通 (後期中葉)
5	土 偶	(5.2)	(5.3)	(3.9)	(58.6)	10	山形土偶の左肩部。肩が張り、腕部との境には中央に横割み状の刺突を施した隆帯が走り、特に腕部近くは突出する。隆帯あるいは体の縁に沿って小刺突を施した沈線が描かれている。	DP69 表採 砂粒・スコリア 灰褐色 普通 (後期中葉)
6	土 偶	(5.5)	(3.9)	(3.5)	(62.5)	10	左脚部。足は突出気味。膝及び足首に小刺突を加えた沈線を後列直しし、大腿部前面にも彎曲気味の縄文様が施され、膝の沈線に連続している。腹面には縄文が施文されているが、脚部内面及び足は無文である。	DP70 表採 砂粒・灰石 にぶい褐色 普通 (後期中葉)
7	土 偶	(6.5)	(4.5)	(3.2)	(70.1)	10	みみずり土偶の右脚部。つま先は突出する。沈線による長方形の区画文が前面に描かれ、区画内に縄文施文、外側面は横方向、つま先から足裏にかけては縦方向の沈線が刻み状に施されている。背面及び内側面には縦文である。	DP71 表採 砂粒・灰石・スコリア にぶい褐色 普通 (後期後葉)
8	上 偶	(2.5)	(3.2)	(2.6)	(20.2)	5	脚部下位。前面から前面に2段の刺突文が見られるが、背面に文様は施されていない。	DP72 表採 砂粒・スコリア 褐色 普通 (後期)
9	上 偶	(4.7)	(3.2)	(1.9)	(22.3)	5	彎曲する脚部。沈線を挟む上下2段の彫文が脚部上位に見られる。欠損のための詳細は不明だが、脚部下位にも同様の文様が施されていたと思われる。	DP73 表採 砂粒 にぶい褐色 普通 (晩期)
10	土 偶	(10.4)	(6.6)	(2.8)	(220.0)	60	扁平な板状の土偶胴部。胸部以上及び脚部欠損。前後両面には、3本の垂下する平行沈線を挟み沈線がジグザグに施文され、三角形のモチーフが表現されている。区画内は部分的に縄文が施文されている。	DP74 表採 砂粒・灰石・雲母 淡黄色 普通 (晩期前葉)
11	土 偶	(5.0)	(3.0)	(2.6)	(26.9)	10	右脚部。つま先は突出する。前面及び背面に垂下する沈線が3本施され、沈線外側には横割み、つま先にも細かな縦割みが施されている。	DP75 表採 砂粒・灰石 褐色 普通 (晩期前葉か)
12	土 偶	(6.6)	(3.4)	(2.6)	(31.2)	10	彎曲する右脚部。つま先は僅かに突出する。前面及び背面にジグザグに垂下する沈線を施文し、前面は無文部分と縄文施文部分を交互に配している。内縁には横割みが加飾されている。	DP76 表採 砂粒 褐色 普通 (晩期前葉)
13	土 板	(6.8)	(4.0)	(1.5)	(44.3)	30	梯四形を呈すると思われる。直線と曲線を組み合わせた文様を沈線で描いているが、欠損と磨滅のため詳細は不明である。	DP77 表採 砂粒・灰石 にぶい褐色 普通 (晩期前葉)
14	分銅形土製品	5.0	4.1	3.9	73.3	100	土鐘状の土製品 表面に指圧痕	DP78 表採
15	柱状土製品	(6.8)	4.3	4.3	(139.1)	不明	上下 欠損無文で表面の刺突が著しい	DP79 表採
16	土製円板	5.2	5.2	1.2	30.6	100	表面単線縄文L R	DP80 表採
17	土製円板	4.0	4.1	1.1	25.0	100	表面単線縄文L R	DP81 表採
18	土製円板	3.0	3.2	0.9	10.0	100	表面単線縄文L R	DP82 表採
19	土製円板	4.8	4.0	1.2	20.0	100	表面陸起凸縄文間に沈線区画の磨消帯 磨滅が著しい	DP83 表採
第27図20	土製円板	5.4	5.2	1.2	36.6	100	表面無文	DP84 表採
21	土製円板	4.3	3.7	0.8	13.8	100	表・裏両面	DP85 表採
22	土製円板	4.3	4.1	1.1	24.0	100	表面単線縄文を組く施文	DP86 表採
23	土製円板	5.1	4.1	1.4	25.4	100	表面に口縁部隆起帯縄文と磨消帯	DP87 表採
24	土製円板	4.6	4.3	1.4	27.3	100	表面に口縁部隆起帯と胴部縄文 沈線を結ぶボタ鼻状粘帯	DP88 表採
25	穿孔土器片	(3.6)	(3.6)	1.7	(10.3)	不明	中央に貫通孔 表面単線縄文 円板状が縁が未調整	DP89 表採
26	不明土製品	3.3	1.6	0.9	2.1	100	基部及び先端が丸る流線形土製品 用途不明	DP90 表採

遺構外出土古銭観察表

図版番号	器種	計測値		初 鋳 年		出土地点	備 考
		直径(cm)	重量(g)	時 代	年 号		
第27図7	政和通寶	2.4	2.9	北 宋	1111	E17e区表採	M7

遺構外出土石製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第273図1	磨石	2.4	7.2	4.0	413.5	安山岩	Q133 表探
2	磨石	8.3	7.6	4.7	490.5	安山岩	Q134 表探
3	磨石	7.2	7.0	3.1	238.1	安山岩	Q135 表探
4	磨石	6.9	6.5	3.0	276.3	安山岩	Q136 表探
5	磨石	10.8	5.9	3.9	411.1	安山岩	Q137 表探
6	磨石	10.9	6.8	4.6	490.1	安山岩	Q138 磨石兼用 表探
7	磨石	6.1	6.7	3.3	219.3	安山岩	Q139 表探
8	磨石	7.8	6.9	4.5	381.1	安山岩	Q140 表探
9	磨石	7.4	6.4	4.1	(298.9)	安山岩	Q141 磨石兼用 表・裏面に凹み 一部欠損 表探
10	磨石	7.0	5.1	4.9	295.9	安山岩	Q142 磨石兼用 表探
11	磨石	8.3	6.2	3.9	353.4	安山岩	Q143 磨石兼用 表・裏面に凹み 表探
12	磨石	5.5	5.5	5.1	200.9	安山岩	Q144 磨石兼用 表・裏面に凹み 表探
13	磨石	5.6	5.4	4.2	173.4	安山岩	Q145 磨石兼用 表探
14	磨石	8.9	7.6	5.2	380.9	安山岩	Q146 磨石兼用 表面にも2個1寸の凹み 表探
第274図15	打製石斧	14.5	7.7	2.0	256.0	鹿角片石か	Q147 分銅形 表面に凝灰岩付着 表探
16	打製石斧	(9.2)	6.9	1.7	(106.4)	砂 岩	Q148 分銅形 一部欠損 表探
17	打製石斧	(10.4)	6.7	2.0	(121.2)	砂 岩	Q149 分銅形 1/4欠損 表探
18	局部磨製石斧	13.4	5.9	2.9	280.9	砂 岩	Q150 表探
19	磨製石斧	15.0	6.0	4.1	519.4	壳 岩	Q151 乳棒状 刃部欠損後再利用 表探
20	磨製石斧	(7.0)	(5.5)	(3.4)	(203.1)	緑泥片岩	Q152 定角式 刃部欠損基部凝灰石として再利用 表探
21	打製石斧	9.5	5.2	2.2	119.5	砂 岩	Q153 磨石 表探
22	磨製石斧	7.7	4.2	2.2	(97.3)	安山岩	Q154 縁切か 一部欠損 表探
23	磨製石斧	(7.4)	5.7	2.8	(198.1)	凝灰岩	Q155 定角式 基部欠損 表探
24	磨製石斧	7.4	4.3	2.0	87.7	流紋岩	Q156 定角式 一部欠損 表探
25	磨製石斧	(10.4)	4.3	2.3	(168.6)	閃緑岩	Q157 定角式 一部欠損 表探
26	磨製石斧	(5.1)	4.5	2.7	(91.1)	安山岩	Q158 定角式 刃部欠損 表探
27	磨製石斧	(4.3)	2.3	1.5	(18.8)	蛇紋岩	Q159 一部欠損 表探
第275図16	石 剣	(20.1)	(3.6)	1.6	(226.6)	緑泥片岩	Q160 有痕 欠損品 表探
28	石 剣	(17.0)	3.7	1.9	(192.3)	緑泥片岩	Q161 欠損品 表探
29	石 剣	(19.0)	4.2	2.5	(242.0)	緑泥片岩	Q162 欠損品 表探
30	石 剣	(9.2)	3.7	1.4	(98.5)	緑泥片岩	Q162 欠損品 表探
31	磨石	4.8	6.9	1.5	58.3	メノウ	Q165 表探
32	麻石	8.5	11.3	5.2	464.4	黒曜石	Q164 母岩か 表探
34	石 鍋	径(17.2) 高さ(4.5)			(107.8)	滑石	Q166 磨付き 内面に小孔6か所 欠損品 表探
35	磨製石斧	15.0	5.6	3.3	481.9	凝灰岩	Q168 定角式 表探
36	石 鏃	3.4	2.0	0.4	1.7	チャート	Q169 凹基無基線 表探
37	石 鏃	2.3	1.7	0.3	0.9	チャート	Q170 凹基無基線 表探
38	石 鏃	3.6	1.7	1.2	4.6	メノウ	Q171 表探
39	管状石製品	3.3	1.7	—	13.6	滑石	Q32 径0.7cmの穿孔 S1-108付着 表探

遺構外出土鉄製品観察表

図版番号	器 種	計 測 値(cm)			重 量 (g)	現存率 (%)	出 土 地 点	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
第275図1	短 刀	(27.0)	3.4	0.8	(160.2)	90	S1-107付着表探	M1 刀身部先端欠損 木質付着 中基長6.2cm 中基に径0.3cmの目釘穴
2	短 刀	(23.4)	2.8	1.2	(141.5)	80	S1-107付着表探	M2 刀身部先端及び中基欠損 木質付着 中基(2.5)cm
3	不明鉄製品	13.7	0.8	—	13.9	100	表探	M4
4	刀 子	(15.9)	2.4	0.5	(38.9)	80	C16a区表探	M3 刀身部先端及び中基欠損 木質一部付着 中基(2.8)cm
5	不明鉄製品	(5.6)	2.2	0.7	(17.0)	不明	表探	M5
6	鉄 滓	3.3	3.5	—	24.9	100	表探	M6

茨城県教育財団文化財調査報告第116集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2

前田村遺跡C・D・E区
(上巻)

平成9(1997)年3月19日印刷

平成9(1997)年3月25日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 水戸市見和1丁目356番地の2
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社高野高遠印刷
〒310 水戸市東原2-8-1
TEL 029-231-0989